審査意見への対応を記載した書類(第一次)

(目次) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1 <養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性が不明確>

2 <養成する人材像と3ポリシー、教育課程の関係性が不明確>

3 <設置の趣旨・必要性が不明確>

本研究科を設置する必要性として長野県北信地域において医療専門職を養成する大学院が存在しないことを理由として挙げているが、地域内の医療従者へのアンケート調査において進学を勧奨したいという者が3割程度であるなど、具体的な活動分野としているケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野が長野県北信地域の人材ニーズと対応しているか、不明確である。同地域の高齢者ケアの現況も踏まえ、養成する人材像と地域ニーズの対応について具体的に説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・7

4 <アドミッション・ポリシーと入学者選抜の関係性が不明確>

【教育課程等】

5 <基礎となる学部との教育課程の関係が不明確>

基礎となる学部である看護学部・保健科学部の学問分野を統合した研究科を設置するとしているが、一方でケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の3分野に専門科目が分類されており、関係性が不明確である。3分野について、基礎となる学部の学問分野とどのように対応しているのか、明確にすること。(是正事項)・・・・・ 24

6 <授業科目の必修・選択の設定が不適切>

ディプロマ・ポリシー「研究・教育活動による後進を育成する能力」を修得するための授業とされている「保健医療教育論」「保健医療教育実践論」や、ディプロマ・ポリシー「高度専門的職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力」を修得するための授業とされている「英語文献購読」など、ディプロマ・ポリシーに位置付けられている授業科目の必修・選択の設定について、適切に改めること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

7 <授業科目の内容等が不適切>

授業科目の内容等について、以下の例の様に不適切と思われる点が散見されることから、 全体について見直し、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 42

- (1) ディプロマ・ポリシーとして挙げられている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に 関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修とし ているが、同科目の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確である。
- (2)「ケア提供システム演習Ⅱ」など、演習系の科目で研究計画書の作成まで行っている。
- (3)「英語文献講読」について、単に文献を講読するのみでは大学院教育にふさわしい科目 名称とは言えない。
- (4)授業の到達目標について、例えば「医療倫理学」において、「自分の言葉で表現できる」など、大学院教育の到達目標として不適切であると思われる科目が散見される。

8 <授業科目の評価方法が不明確>

授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・ 79

- (1) 学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも 定められていないことから、適切に改めること。
- (2)シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。
 - 「多職種連携論」では評価項目としてグループワーク参加状況が挙げられている。
 - ・「人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)」では、論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされており、特に「新規性」の項目は評価基準として不明確。

9 <修士論文の審査体制が不明確>

審査会の構成において、例えば以下に示されるように不明確な点があるので、全体につい

て見直し、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・ 85
(1) 主査は研究指導教員(担当する研究課題を除く。) とあるが、具体的にどのような者に
充てられるのか、副研究指導教員が充てられる可能性があるのか、など不明確である。
(0) 数字の延知は難について「で・プロー」より、 におりよりやもとだけてしたか

- (2)論文の評価基準について「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する」とあるのみで、具体的にどのような基準で審査を行うのか不明確である。
- (3) 審査員の仮決定後、正式な審査員の決定のタイミングが不明確である。

10 <シラバスの記載方法が不明確>

シラバスの記載内容について、以下の例のように不明確又は不適切と思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。(改善事項)・・・・・・・ 89

- (1) 論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないもの(「人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)」)。
- (2) 授業回数が目途も含め一切の記載がないもの(「保健学特別研究」)。
- (3)到達目標について、「~を理解する」など観察可能な目標が一切記載されていないもの (「ケア提供システム特論」)。
- (4)授業内容が標題のみで具体的に示されておらず、テキストも示されていないもの(「保 健医療マネジメント論」)。
- (5) 授業内容の差異が分からないもの(「保健医療研究法」)。

【教員組織等】

11 <研究指導補助教員数が大学院設置基準を満たしていない>

研究指導補助教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

12 <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員 の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(是正事項)・・・・・・ 112

【名称、その他】

13 <研究上必要な施設・設備が十分に整っているか不明確>

14 審査意見への対応以外の変更

書類の不備の修正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118

(是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1 <養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性が不明確>

養成する人材像の具体的な活動分野としてケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の3分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして1つのみ掲げられており、関係性が不明確であるため、具体的に説明すること。

(対応)

3分野共通のディプロマ・ポリシーとして以下の5点についてのみ掲げていたが、審査意見を考慮し改めて内容を見直したところ、養成する人材像に示している「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、及び「健康コミュニティ分野」との関係性を明確にするため、新たに上記3分野別のディプロマ・ポリシーを設定することとした。また、3分野共通の⑤については各分野との整合を図るため、マネジメントできる能力を発揮する組織について具体的に例示することとした。なお、④については、前後のつながりからより自然な字句になるよう「による」を「により」に修正した。

3分野共通のディプロマ・ポリシー

- ① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
- ② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
- ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
- ④ 研究・教育活動により後進を育成する能力
- ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

ケア提供システム分野については、A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力、A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力、A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力の3つを加えることとした。

人間発達ケア分野については、B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力、B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力、B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力の3つを加えることとした。

健康コミュニティ分野については、C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力、C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力、C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (7ページ)

4 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

新

<u>本研究科の</u>ディプロマ・ポリシーを以下に示す。

- (1) 3分野共通のディプロマ・ポリシー
 - ① 高い倫理観をもって保健医療福祉 分野に関する専門職として取り組む 能力
 - ② 科学的な根拠に基づき専門技能を 発揮できる能力
 - ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
 - ④ 研究・教育活動により後進を育成する能力
 - ⑤ <u>地域の医療・行政・保健福祉組織の</u>マネジメントに参画・参加できる能力
- (2) 分野別ディプロマ・ポリシー
- ア ケア提供システム分野
 - A1 高い倫理観を専門教育や医療現場 における複雑な倫理的課題に取り組 む能力
 - A2 専門教育やケア提供システム分野 において自らが組織に参画し、リーダ ーシップを発揮できる能力
 - A3 専門教育や医療現場において社会 の変革に対応したケア提供システム を考察できる能力
- イ 人間発達ケア分野
 - B1 専門分野の発展のために必要な課

4 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

旧

本研究科では、以下の能力を修得した者に修士(保健学)の学位を授与する。

- ① 高い倫理観をもって保健医療福祉 分野に関する専門職として取り組 む能力
- ② 科学的な根拠に基づき専門技能を 発揮できる能力
- ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
- ④ 研究・教育活動による後進を育成する能力
- ⑤ 医療機関、地域などでの保健医療福祉チームをマネジメントできる能力

題を抽出し、関連する既存の知見を探 求し、論理的に整理できる能力

- B2 専門分野における課題解決のため に適切な方法を実施計画に活かせる 能力
- B3 専門分野の知見収集の成果を教育 及び職業実践に結びつける能力

ウ コミュニティ分野

- <u>C1</u> 地域住民の健康増進、疾病予防、福 <u>社の向上のために、地域の現状を分</u> 析できる能力
- <u>C2</u> 地域のニーズを的確に把握し、理論 <u>と統合して根拠に基づく実践を展開</u> できる能力
- C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づ き必要な施策を衛生行政に反映でき る能力

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 9

新	旧
別紙1 資料9 保健学専攻履修プロセス概	別紙1 資料9 保健学専攻履修プロセス概
念図 新	念図 旧

(是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【大学等の設置の趣旨・必要性】

2 <養成する人材像と3ポリシー、教育課程の関係性が不明確>

養成する人材像の具体的な活動分野として(1)ケア提供システム分野、(2)人間発達ケア分野、(3)健康コミュニティ分野の3分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして1つのみ掲げられており、基礎となる学部の学問分野との関係も明記されていないため、人材像と3ポリシー、教育課程の整合性が不明確である。また、例えば(1)は医療機関及び地域の保健医療チームのマネジメント、(3)は公衆衛生の課題に多職種で協働するチームの核となるなど、その差異が曖昧である。これら不明確な点それぞれについて、具体的に説明すること。

(対応)

審査意見1を考慮して全体を見直し、共通のディプロマ・ポリシーに分野別のディプロマ・ポリシーを加え明確にした。また、後述する審査意見4を考慮して全体を見直し、分野別のアドミッション・ポリシーを明示した。さらに、後述する審査意見6及び審査意見7を考慮して全体を見直し、必修・選択の履修要件の変更、授業科目の内容及びシラバスの修正などによりカリキュラム・ポリシーについても適切な内容とした。これらの見直しによる修正により、人材像と3つのポリシー、教育課程との整合性を明確にした。

ケア提供システム分野については、「医療機関、地域などの保健医療チーム」としていたものを、「主として医療機関におけるチーム」を対象とすることとし、看護師、理学療法士、作業療法士の部門にあってチームマネジメントを行う人材を教育し、ひいてはそれぞれの職場にあって管理職に就く人材を養成することとした。

人間発達ケア分野については、看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの持つ専門性を 高めることにより高度専門職業人として人間発達の様々なステージにおける健康課題につい て実践活動を行うとともに、多職種協働を推進できる人材を養成する。さらにそれぞれの専 門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を自ら行う人材であることも養成の要点とす ることとした。

健康コミュニティ分野については、「公衆衛生の課題に多職種協働チームを編成して取り組む」こととしていたものを、「保健師活動を主として、地域における公衆衛生上の課題に多職種協働チームを編成して取り組む」こととし、チームの中心的役割を担い業務を推進する人材であるとともに、専門性深化のための研究及び行政職務に通暁した人材を養成することとした。

研究者・教員の養成については、上記のいずれかの分野の修得の後に、さらに大学院後期 課程を目指し、それぞれの専門分野の研究職に就く人材並びに保健医療専門職養成機関で教 (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6ページから7ページ)

3 養成する人材像

本研究科において養成する人材像は、基盤とする学部の看護学、理学療法学、作業療法学を統合した学際的視野に基づいて幅広い学識を涵養し、研究能力や高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことにより、高度な専門性や研究能力・教育能力を持ち、組織内、医療チーム内の枠を超えて、組織横断的に活動でき、調整力やマネジメント力を発揮できるような人材、及び専門職医療人を育成できる人材である。

新

具体的な活動分野と人材像は以下を想 定している。

(1) ケア提供システム分野:

主として医療機関における看護師、理学療法士、作業療法士の部門にあってチームマネジメントを行う人材を3ポリシーの内容に従って教育し、ひいてはそれぞれの職場にあって管理職に就く人材を養成する。

(2) 人間発達ケア分野:

看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの持つ専門性を高めることにより高度専門職業人として人間発達の様々なステージにおける健康課題について実践活動を行うとともに、多職種協働を推進できる人材を3ポリシーの内容に従って養成する。さらにそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を自ら行う人材であることも養成の要点とする。

3 養成する人材像

本研究科において養成する人材像は、基盤とする学部の看護学、理学療法学、作業療法学を統合した学際的視野に基づいて幅広い学識を涵養し、研究能力や高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことにより、高度な専門性や研究能力・教育能力を持ち、組織内、医療チーム内の枠を超えて、組織横断的に活動でき、調整力やマネジメント力を発揮できるような人材、及び専門職医療人を育成できる人材である。

旧

具体的な活動分野と人材像は以下を想 定している。

(1) ケア提供システム分野:

医療機関、地域などの保健医療チームのマネジメントを行う人材並びに前記保健医療チームのマネジメントに関する研究を行う人材。

(2) 人間発達ケア分野:

それぞれの持つ専門性を高めて、人間 発達の様々なステージにおける健康課 題についてチームとして参加し、各々の 専門性を発揮した活動を行うとともに、 チームの核となり、多職種協働を推進で きる人材並びに前記の課題についてそ れぞれの専門性の深化、多職種協働チー ムに関連した研究を行う人材。

(3) 健康コミュニティ分野:

公衆衛生の課題に多職種協働チーム を編成して取り組み、各々の専門性を発

(3) 健康コミュニティ分野:

保健師活動を主として、地域における 公衆衛生上の課題に多職種協働チーム を編成して取り組み、チームの中心的役 割を担い業務を推進する人材であると ともに、専門性深化のための研究及び行 政職務に通暁した人材を3ポリシーの 内容に従って養成する。

(4) 研究者・教員の養成:

上記のいずれかの分野の<u>学修・研究過程を通じて、研究職・教育職にとって基礎となる知識・技能を持つ人材を3ポリ</u>シーの内容に従って養成する。

揮した活動を行うとともに、チームの核となり、多職種協働を推進できる人材並びに前記の課題についてそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を行う人材。

(4) 教員養成:

上記のいずれかの分野の研究をおさ め、医療専門職を養成する教育職を目指 す人材。

【大学等の設置の趣旨・必要性】

3 <設置の趣旨・必要性が不明確>

本研究科を設置する必要性として長野県北信地域において医療専門職を養成する大学院が存在しないことを理由として挙げているが、地域内の医療従者へのアンケート調査において進学を勧奨したいという者が3割程度であるなど、具体的な活動分野としているケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野が長野県北信地域の人材ニーズと対応しているか、不明確である。同地域の高齢者ケアの現況も踏まえ、養成する人材像と地域ニーズの対応について具体的に説明すること。

(対応)

県内の医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現状から、設置の必要性を述べていたが、審査意見を考慮し内容を全体的に見直したところ、「前文」において、社会の趨勢と専門職人材の重要性と専門性の分化と統合について記載することとした。

「ア 全国の動向」として、中央教育審議会答申にあるように大学院教育で養成が期待される人材は教育者、研究者、高度専門職業人、知識基盤社会を支える高度で知的素養のある人材な専門性の一層の向上を図るための深い知的学識の涵養する教育を基本としていること、看護系大学院において特定領域の高度専門職業人や保健・医療・福祉に携わる専門職の共同においてマネジメント能力を発揮できる人材の養成を目指していること、職能団体が大学院での教育の重要性を明確にしていることを記載することとした。

「イ 職能団体の専門分化の志向性」として、職能団体の専門資格制度について記載することとした。

「ウ 県内の人口減少・超高齢社会の現況」として、長野県の年齢3区分の人口構成と将来予測、長寿県ではあるが高齢者ケアにおける看護、介護、リハビリテーションサービスのニーズが高いこと、医療専門職業人の養成が求められていることを記載した。

「エ 県内の医療専門職従事者の進学意向」として、学生の確保等の見通しを記載した書類におけるアンケート結果から導き出される進学以降について記載した。

「オ 県内医療施設事業者の大学院教育に対する考え方」として、学生の確保等の見通し を記載した書類における県内の施設管理者に対するアンケート結果により、大学院設置についての意向について記載した。

既述の「※ 長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況」を「カ 長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況」として、北信地方に大学院を設置する意味について記載した。

既述の「※ 大学卒業者の進学状況」を「キ 大学卒業者の進学状況」として、学生の確保等の見通しを記載した書類において分析した学校基本調査の各種データから大学院志願者が存在することを記載した。

「ク 地域ニーズに対応する養成する人材像」として、アからキで記載した内容をまとめ、 高齢者ケアの現況も踏まえ、ケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(5ページから6ページ)

新

(2) 設置の必要性

人口減少・超高齢化が進行する社会におい ・ 地域の保健・医療・福祉の基盤強化、発

て、地域の保健・医療・福祉の基盤強化、発展に取り組み、社会の健康水準の維持・向上に貢献できる専門職人材の育成は重要な課題である。人口減少・超高齢社会となり子供を産み育て、健全な成長・発達を支援する少子化対策、成人の働き方改革、生活習慣病対策、治療と仕事の両立支援、障害者の就労支援、高齢者の健康増進、介護予防、認知症対策、終末期医療など人間発達の諸段階における保健・医療・福祉の課題への取り組みの重要性が増している。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生により、新興感染症などに対する感染症対策の社会の持

続性維持、発展にとっての重要性が再認識さ

れている。

このような時代に、保健・医療・福祉の専門職は学問的専門性の深化・進歩により専門性を分化させ、その責務を果たそうとしている。専門分化した専門性を保健・医療・福祉サービスとして多様なニーズをもつクライアントに提供する際には、専門性を統合することが求められる。すなわち、今日の保健・医療・福祉サービスに関わる専門職には、専門性を高めるという分化と、多職種と連携して専門性を統合したサービスとして提供する能力が求められると考えられる。

理学療法学、作業療法学、看護学の領域に おいて進められている分化による専門性の 追求は、それぞれの職能団体における資格認 定制度の中に具現化されている。 旧

(2) 設置の必要性

本学は、以下のデータに基づいて、大学院 を設置する必要性を判断した。保健系大学 院設置の必要性を判断する際に用いた資料 は「学生の確保の見通し等を記載した書類」 において詳述する。

- ※ 長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況
- ① 長野県は行政的に北信、東信、中信、南信の4地方分けられ、本学が位置する長野県北信地方は、県庁所在地であり、人口規模も県下で最大である。
- ② 北信地方の看護師、理学療法士、作業療 法士の勤務する医療機関は県内で最も 多い。
- ③ 北信地方の病院に従事する看護師は他の県内3地方よりも多い。北信地方の病院に従事する理学療法士、作業療法士数は、他の県内3地方並みである。
- ④ 長野県内の看護系大学は5校あり、北信地方に本学を含め2校(1学年入学定員:156人)、東信地方、中信地方、南信地方に各1校(1学年入学定員:計240人)ある。

看護学に関係する大学院は、東信地方に 佐久大学(1学年入学定員:10人)、中信地 方に信州大学(看護学、検査技術科学、理学・ 作業療法学を含む 14人)、南信地方に長野 県看護大学(1学年入学定:16人)があり、 北信地方には看護系大学院がなく、北信地 方の看護職で大学院への進学希望者は、東 近年、保健・医療・福祉専門職の養成大学 が増えるとともに、専門職の専門性向上をめ ざした大学院教育の必要性が認識され、専門 職の専門性向上の意欲も高まっている。

ア 全国の動向

中央教育審議会答申「新時代の大学院 教育」(平成 17 年9月)では、今後の大 学院教育の基本的な考え方を①大学院教 育の実質化、②国際的な通用性、信頼性の 向上を通じ、世界規模での競争力の強化 を図ることとしている。重要な視点とし て、教育研究機能強化の推進があげられ、 教育の在り方としては、学部段階におけ る教養教育と、これに十分裏打ちされた 専門的素養の上に立ち、専門性の一層の 向上を図るための、深い知的学識を涵養 する教育を行うことが基本とされ、大学 院教育で養成が期待される人材は教育 者、研究者、高度専門職業人、知識基盤社 会を支える高度で知的素養のある人材が 挙げられている。

「大学における看護系人材養成の在り 方に関する検討会最終報告」(平成 23 年 3月11日)では、看護系大学院における 人材養成においては、看護学の学術研究 を通じて社会に貢献できる研究者や教育 者の養成、学士課程では養成困難な,特定 領域の高度専門職業人や、保健、医療、福 祉等に携わる専門職の協働においてマネ ジメント能力を発揮できる人材の養成を 目指すとされている。

日本看護協会、日本理学療法士協会は 大学院教育の推進を文部省あるいは文部 科学省に要望している。日本作業療法士 協会は、専門作業療法士養成制度におい て、効率性と質の保証を図るため、大学院 教育との連携を推進することとしてお 信地方の佐久大学、中信地方の信州大学、南 信地方の長野県看護大学、隣接県である新 潟県上越市の新潟県立看護大学に進学して いる。

リハビリテーションに関係する大学院は、中信地方の信州大学(看護学、検査技術学、理学・作業療法学を含め1学年入学定員14人)に設置されているのみである。

これらのことから、長野県北信地方は県内の3地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多いが、県内の他の3地方にはある医療専門職が学ぶ大学院が、北信地方にはないために、この地方の大学院志望者は、他の地方のまたは隣接県にある大学院に在籍していることが明らかとなった。

※ 大学卒業者の進学状況

後述する学校基本調査等の集計結果からは以下のことが読み取れる。

- ① 長野県の大学卒業者の年平均進学率は 22.9%で、全国の約2倍の進学率を示して いる。
- ② 私立大学大学院における入学志願者の 志願者倍率は年平均1.41倍である。
- ③ 全国の保健系大学院における入学志願者にしめる当該大学卒業者の割合は年平均42.7%、入学者に当該大学卒業者が占める割合は年平均49.2%である。
- ④ 大学院在学者における社会人が占める 割合は年平均 57.1%である。
- ⑤ 本学の前身である長野医療技術専門学校の2期生以降の卒業生は文部科学省の大学院入学資格認定(高度専門士)を受けている。長野保健医療大学卒業生を加えると1,000名を超える。

このことから、長野県北信地方は県内の

り、大学院での作業療法士教育の重要性 を明確に示している。

イ 職能団体の専門資格制度

今日の保健・医療・福祉の専門職には、 科学の進歩、社会の変化により分化によ る学問性の深化、技術の進歩を図り、高め られた専門性を多職種連携チームによる 統合サービスとして提供することが求め られている。理学療法学、作業療法学、看 護学の領域における特定領域の高度専門 職人の育成は、それぞれの職能団体にお ける資格認定制度として推進されてい る。日本看護協会では大学院修士課程に おける専門看護師の育成、大学院修士課 程修了者に一定の実務経験があれば認定 試験の受験資格を与える認定看護管理者 制度を運用している。日本理学療法士協 会では、認定理学療法士、地域包括ケアシ ステムに関する推進リーダー、指定管理 者、日本作業療法士協会では認定作業療 法士の資格認定制度を整備している。多 職種が連携してケアを提供する場面にお いて、大学院修士課程での教育を通じ、論 理的・科学的思考ができる能力が求めら れていることを示している。

ウ 県内の人口減少・超高齢社会の現況

令和2年の長野県人口は203.3万人(0 ~14歳:245千人、15~64歳:1,129千 人、65歳以上:659千人)、高齢化率は 32.4%である。令和27(2045)年には、 人口は161.5万人(0~14歳:157千人、 15~64歳:774千人、65歳以上:673千 人)高齢化41.7%となると予測されている(日本の地域別将来推計人口(平成30 (2018)年推計) -平成27(2015)~ 3地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する 医療機関数、看護大学の入学定員数も多い。 県内の他の3地方にはある医療専門職が学 ぶ大学院が、北信地方にはなく、この地方の 大学院志望者は、他の地方の、または隣接県 にある大学院に在籍している。

このような状況を踏まえ、長野県の大学 卒業者の進学率は全国の約2倍と、大学院 進学志望者の割合が高いこと、全国的に入学定員を超える数の者が大学院に入学を志望していること、さらに、大学院入学者に占める当該大学卒業者が約5割、大学院在学生に占める社会人の割合が約6割であることから、北信地方には、社会人である本学の卒業生を含む大学院進学志望者が潜在しており、社会的背景ならびに専門職団体の要望等を総合的に勘案し、北信地方に大学院を設置する必要性があると考え、本学がその必要性に応えることとした。

57 (2045) 年一 国立社会保障・人口問題研究所)。平成28年の出生数は15,169人、人口千対9.3人(全国順位30位)である(長野県の人口動態統計(平成28年確定数))。

平均寿命は男が81.75歳(全国2位)、 女が87.67歳(全国1位)(平成27年都 道府県別生命表)、健康寿命「日常生活が 自立している期間:介護度2以上の要介 護状態の平均期間」は、男80.7年、女84.9 年(全国1位)と長く(資料24)、「日常 生活に制限のない期間」は男 72.11年(全 国 20 位)、女 74.72 年 (全国 27 位)、「自 分が健康であると自覚している期間」は、 男 72. 25 年 (全国 24位)、女 75. 59年 (全 国 26 位) と短い。(資料 25) 訪問看護ス テーション利用者数は人口千人あたり 18.91人(全国12位)である。(資料26) 長野県は、長寿県で、自立した日常生 活の期間は長く、介護サービスを利用す る期間は短いが、日常生活に制限があっ て不健康と自覚して生活を送っている期 間が長い。訪問看護ステーション利用者 の割合が比較的高いことから、その間の 健康の維持、日常生活制限の軽減は、看 護、介護サービスの利用によりを図られ ており、高齢者ケアにおける看護、介護、 リハビリテーションサービスのニーズは 多く、サービスの向上、充実のためには医 療専門職業人の養成が求められる状況に あると考えられる。

エ 県内の医療専門職従事者の進学意向 長野県内の保健医療機関等に勤務する 医療系専門職ならびに本学に在籍する学 生に行った入学意向等に関するアンケー ト調査では、本学が大学院を設置するこ とは、これからの保健医療福祉の発展と向上に有益と思うかという質問に対して、回答者の92.3%が「非常に有益だと思う」と回答し、71.9%の回答者は自身の将来について「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」、「臨床現場での管理職につきたい」、「教職に就きたい」などの希望を表明していた。その内訳は「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」との回答者が最も多く(63.4%)、ついで「臨床現場での管理職につきたい」(12.8%)、「教職に就きたい」(5.3%)、と「研究職に就きたい」(3.1%)であった。

また、「幅広い知識を修得し、専門性を 高めたい」との回答は20歳、30歳代の看 護師、理学療法士、作業療法士に多く、「臨 床現場での管理職につきたい」は、看護師 では40歳、50歳代に漸増し、理学療法 士、作業療法士は20~40歳代に多い。「教 職に就きたい」は、看護師は30~40歳代 に、理学療法士、作業療法士は20~30歳 代に多く、「研究職に就きたい」は、看護 師は30~40歳代に、理学療法士、作業療 法士は20~30歳代に多かった。

オ 県内医療施設事業者の大学院教育に 対する考え方

県内の施設管理者への調査では、構想 大学院の設置には 92.3%の施設が有益と 回答し、事業所内に大学院に進学する適 当な人材がいる場合、「本人の意思に任せ る」が 66.7%、「積極的に進学を勧めたい」 と「勧めたい」が 33.3%であった。

構想大学院の修了生に関する採用意向 については、「採用したい」及び「採用を 検討したい」という回答が病院等で15施 <u>設、介護老人保健施設で7施設、計22施</u> 設(56.4%)が寄せられた。

以上のエ、オから、長野県内の保健・ 医療・福祉専門職の専門性向上に関する ニーズと関心が高く、施設管理者の職員 の大学院教育についての理解はあり、専 門職、施設管理者ともに大学院教育に期 待を抱いていると考えられる。

- <u>カ</u> 長野県における医療機関、看護師、理 学療法士、作業療法士の勤務状況、教育 環境の現況
 - ① 長野県は行政的に北信、東信、中信、 南信の 4 地方分けられ、本学が位置 する長野県北信地方は、県庁所在地 であり、人口規模も県下で最大であ る。
 - ② 北信地方の看護師、理学療法士、作 業療法士の勤務する医療機関は県内 で最も多い。
 - ③ 北信地方の病院に従事する看護師 は他の県内 3 地方よりも多い。北信 地方の病院に従事する理学療法士、 作業療法士数は、他の県内 3 地方並 みである。
 - ④ 長野県内の看護系大学は5校あり、 北信地方に本学を含め2校(1学年入 学定員:156人)、東信地方、中信地 方、南信地方に各1校(1学年入学定 員:計240人)ある。
 - ⑤ 看護学に関係する大学院は、東信地 方に佐久大学(1 学年入学定員:10 人)、中信地方に信州大学(看護学、 検査技術科学、理学・作業療法学を含 む14人)、南信地方に長野県看護大 学(1 学年入学定:16人)があり、北

信地方には看護系大学院がない。

北信地方の看護職で大学院への進 学希望者は、東信地方の佐久大学、中 信地方の信州大学、南信地方の長野 県看護大学、隣接県である新潟県上 越市の新潟県立看護大学に進学して いる。

⑥ リハビリテーションに関係する大学院は、中信地方の信州大学(看護学、検査技術学、理学・作業療法学を含め1学年入学定員14人)に設置されているのみである。

長野県北信地方は県内の3地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多いが、この地方の大学院志望者は、県内の他地方、または隣接県にある大学院に在籍している。

これらのことから、北信地方に大学院進学志望者がおり、大学院を設置することは、この地方の専門職の能力向上を志望する者に大学院教育の場の整備することを通して、高度専門職人材を育て、医療機関の機能向上、地域社会の保健・医療・福祉の基盤強化に貢献できると考えられる。

キ 大学卒業者の進学状況

後述の学校基本調査等<u>から読み取れる</u> 以下のこと<u>から、長野県内に相当数の大</u> 学院志願者が存在すると考えられる。

- ① 長野県の大学卒業者の年平均進学 率は22.9%で、全国の約2倍の進学 率を示している。
- ② 私立大学大学院における入学志願

者の志願者倍率は年平均 1.41 倍である。

- ③ 全国の保健系大学院における入学 志願者にしめる当該大学卒業者の割 合は年平均42.7%、入学者に当該大 学卒業者が占める割合は年平均 49.2%である。
- ④ 大学院在学者における社会人が占める割合は年平均57.1%である。
- ⑤ 本学の前身である長野医療技術専門学校の2期生以降の卒業生は文部科学省の大学院入学資格認定(高度専門士)を受けている。長野保健医療大学卒業生を加えると1,000名を超える。
- ク 地域ニーズに対応する養成する人材 像

上記アからキまでの記述をまとめる。

- ① 長野県の人口減少、超高齢化は進行しており、出生数は多くない。人間発達の諸段階における保健・医療・福祉ニーズに対応することが重要な課題である。
- ② 長野県は、長寿県で、自立した日常生活の期間は長く、介護サービスを利用する期間は短いが、日常生活に制限をもっても自立した生活を送っている期間が長い。訪問看護ステーション利用者の割合が高いことから、その間の日常生活制限の軽減に、看護、介護サービスが利用されており、高齢者ケアにおける健康増進、看護、介護、リハビリテーションサービスのニーズは多く、サービスの向上、充実のために医療専門職業人の養成が求められると考え

られる。

- ③ 長野県内の大学生、医療専門職従事者の進学意向は高く、「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」、「臨床現場での管理職につきたい」、「教職に就きたい」、と「研究職に就きたい」などの希望が多い。
- ④ 職員の大学院教育についての理解 を示す医療施設事業者は少なくない。
- ⑤ 北信地域は令和2年4月1日現在 の人口が61万人余(全県の30%)で あり県内で最も人口規模が大きい。65歳以上人口も、19万6千人(全 県の30.1%)と最も多い。
- ⑥ 北信地方は看護及びリハビリテー ション専門職数、これらの専門職が 勤務する医療機関数、看護大学の入 学定員数も多い。
- ① 北信地方には県内の他の3地方に はある医療専門職が学ぶ大学院が なく、この地方の大学院志望者は、 県内の他地方の、または隣接県にあ る大学院に在籍している。

このような状況を踏まえると、北信地 方には人間発達の諸段階(こども、成人、 高齢者)における健康増進、保健・医療・ 福祉サービスの充実・発展が求められる 状況にあるといえる。北信地方には、社会 人である本学の卒業生を含む大学院進学 志望者が潜在しているが、受け皿となる 大学院がない。社会的背景ならびに専門 職団体の要望等を総合的に勘案し、北信 地方に大学院を設置する必要性があると 考え、本学がその必要性に応えることと した。

本学の大学院は、看護学、理学療法学、

作業療法学の専門職団体が指向する特定 領域の専門性の深化を図る教育課程を設 けることとし、看護管理者、施設管理者な どケア提供システムの管理に関する課題 を扱うケア提供システム分野、母子看護、 ウィメンズ・ヘルス、成人の生活習慣、健 康増進、高齢者の生活機能、青少年・成人 のスポーツ傷害など人間発達の諸段階に おける健康に関する課題を扱う人間発達 ケア分野、新型コロナウイルス感染症な ど新興感染症への対策、高齢者の健康増 進、介護予防などコミュニティの健康課 題を扱う健康コミュニティ分野を設け た。さらに、これら分化により深化した専 門性をチームとして統合的に地域の健康 課題の解決に活かす高度専門職人材を育 成することを上位目標とし、保健学研究 科のもとに上記3分野を置くこととした。 大学院の基礎となる本学の学問分野 が、理学療法学、作業療法学、看護学であ り、卒業生が医療機関、老人福祉施設等 に就職し活躍している。職能団体からの 大学院設置要望(資料8)及び就業者や在 学生からさらに高度な学問を究めたいと いうアンケート結果も踏まえ、本学の強 みを活かしながらこうした要望に応えて いくことも本学に課された責務であると 考える。 別紙 2 設置の趣旨等を記載した書類 「資料 24 都道府県別・男女別 健康寿命・ 平均寿命の比較」のとおり 別紙 3 設置の趣旨等を記載した書類 「資料 25 健康状況等の都道府県比較」の

とおり

別紙 4	_
設置の趣旨等を記載した書類	
「資料 26 平成 29 年 介護サービス利用者	
数」のとおり	

【大学等の設置の趣旨・必要性】

4 <アドミッション・ポリシーと入学者選抜の関係性が不明確>

アドミッション・ポリシーとして、「保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有する」こと等を挙げているが、入学試験受験資格はそれらの条件を課していない。また、学力試験等においても保健学領域に関する基礎的な学力を問う試験が課されておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる人材を選抜できるかや3分野との関係性が不明確である。受験資格や選考方法がアドミッション・ポリシーや3分野に対応したものとなるよう、適切に改めること。

(対応)

アドミッション・ポリシーとして、「保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有する」としているのは、本大学院が基礎とする学部において養成している理学療法士、作業療法士、保健師、看護師の国家資格を有する者を念頭に置き、意欲的な学生を広く設定したものである。保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力という表現が漠然とした内容であり、受験者に不明確な印象を与えるおそれがあることから、審査意見を考慮し、全体的に見直した結果、より具体的な「理学療法学、作業療法学、看護学などの医療、保健分野等において、学士程度以上の基礎的な学力と技術を有する者」として入学試験受験資格を明確化することとした。

また、保健学領域に関する基礎的な学力を有すると認めるための方策として、一般入学試験及び社会人入学試験において保健学の学力試験を課すこととした。具体的な選抜方法として、一般入学試験では学力試験として「英語、小論文」であったものを「保健学、英語、小論文」に、社会人入学試験では学力試験として「小論文」であったものを「保健学、小論文」に修正することとした。学力試験に加え、個人面接及び出願書類により総合的に判断するとしていたが、個人面接並びに出願書類の⑤成績証明書、⑥志望理由書、及び⑦事前相談内容確認書により志望する分野、適性、意欲を確認し評価することにより総合的に合否を判定することを明確にした。

さらに、アドミッション・ポリシーを3分野に対応するよう適切に改めるため、各分野に おけるアドミッション・ポリシーを明確にすることとした。

ケア提供システム分野では、「②の職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者」を「② 保健・医療の職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者」とした。

人間発達ケア分野では、「③ 地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと 志す者」を「③ 人間発達の諸段階における健康課題に関心を持ち、医療専門職としてその 学識、技術を深め、医療・保健の発展に貢献したいと志す者」とした。

健康コミュニティ分野では、「③ 地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者」を「④ 地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者」とした。

新

IF.

第9 入学者選抜の概要

1 入学者受け入れの基本方針(アドミッション・ポリシー)

本大学院は建学の精神である「徳風四海に洽(あまね)く」と「仁心妙術」を重んじ、保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、多職種が協働した支援サービス提供の実践に求められる幅広い知識及び高度な専門技術を有する専門職医療人並びに専門職教育者を育成することを使命としている。

そこで本大学院では以下のような要件 を備えた意欲的な学生を求める。

- ① 理学療法学、作業療法学、看護学など の医療、保健分野等において、学士程度 以上の基礎的な学力と技術を有する者
- ② <u>保健・医療の</u>職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者
- ③ 人間発達の諸段階における健康課題 に関心を持ち、医療専門職としてその学 識、技術を深め、医療・保健の発展に貢 献したいと志す者
- ④ 地域の保健医療福祉に関心を持ち、そ の向上に寄与したいと志す者

第9 入学者選抜の概要
1 入学者受け入れの基本方

1 入学者受け入れの基本方針(アドミッション・ポリシー)

本大学院は建学の精神である「徳風四海に治(あまね)く」と「仁心妙術」を重んじ、保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、多職種が協働した支援サービス提供の実践に求められる幅広い知識及び高度な専門技術を有する専門職医療人並びに専門職教育者を育成することを使命としている。

そこで本大学院では以下のような要件 を備えた意欲的な学生を求める。

- ① 保健学領域に関する基礎的な学力 と実務能力を有し、専門職としての学 識と技能を深めたい者
- ② 職場における管理者を目指す者、大 学教員を目指す者、研究者を目指す者
- ③ 地域の保健医療福祉に関心を持ち、 その向上に寄与したいと志す者

2 選抜方法及び選抜体制

前述のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な資質と大学院教育を受けるに相応しい能力や適性等を持つ入学者を選抜する観点から、複数の選抜方法を採用する。

入学者の選抜方法は、一般入試及び社会 人入試である。一般入試は、「学力試験」、「志

2 選抜方法及び選抜体制

前述のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な資質と大学院教育を受けるに相応しい能力や適性等を持つ入学者を選抜する観点から、複数の選抜方法を採用する。

入学者の選抜方法は、一般入試及び社会 人入試である。一般入試は、「学力試験」、「志 望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。社会人入試は、小論文による「学力試験」、「志望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。

「事前相談内容確認書」は、大学院で学びたい研究内容や研究課題、相談した教員名、指導を希望する教員等について記入し、入学後に指導教員を決定する際の参考とするとともに、入学後のミスマッチを防ぐために、入学志願者に提出を求める。

本学学部入試では、入試委員会が主体となり適切な入学者選抜を実施してきている。本研究科の入学者の選抜に当たっても、 入試についての経験が豊富な教員がそろう研究科委員会が主体となり入学者を選抜する。

- 2 選抜方法及び選抜体制
- (1) 一般入学試験
- ア 入学試験受験資格

次のいずれかに該当する者を受験資格者とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育(日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む)における16年の課程を修了した者
- ④ 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の16年の課程を修 てした者
- ⑤ 外国の大学等において、修業年限が3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与 された者
- ⑥ 文部科学大臣が指定した専修学校の専 門課程を修了した者

望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。社会人入試は、小論文による「学力試験」、「志望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。

「事前相談内容確認書」は、大学院で学びたい研究内容や研究課題、相談した教員名、指導を希望する教員等について記入し、入学後に指導教員を決定する際の参考とするとともに、入学後のミスマッチを防ぐために、入学志願者に提出を求める。

本学学部入試では、入試委員会が主体となり適切な入学者選抜を実施してきている。本研究科の入学者の選抜に当たっても、 入試についての経験が豊富な教員がそろう研究科委員会が主体となり入学者を選抜する。

- 2 選抜方法及び選抜体制
- (1) 一般入学試験
- ア 入学試験受験資格

次のいずれかに該当する者を受験資格者とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育(日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む)における16年の課程を修了した者
- ④ 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の16年の課程を修 てした者
- ⑤ 外国の大学等において、修業年限が3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与 された者
- ⑥ 文部科学大臣が指定した専修学校の専 門課程を修了した者

⑦ 本大学院において、個別の入学資格審 査により、大学を卒業した者と同等以 上の学力があると認めた者で、22歳に 達した者

イ 出願手続

- ① 入学願書(写真貼付)
- ② 受験票
- ③ 銀行振込通知書
- ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位授与申請受理書(大学評価・学位授与機構発行)
- ⑤ 成績証明書
- ⑥ 志望理由書 (300 字程度にまとめる)
- ⑦ 事前相談内容確認書

ウ 入学者選抜方法

一般入学試験では、学力試験(<u>保健学、</u> 英語、小論文)、<u>出願書類の⑤成績証明書、</u> ⑥志望理由書、⑦事前相談内容確認書の審 <u>査、及び</u>個人面接<u>による志望分野、適性、</u> <u>意欲の確認と評価を行い、</u>総合的に合否を 判定する。

エ 試験の実施時期

年に2回実施する。(原則として9月と3月、ただし開設初年度は11月と3月)

(2) 社会人入学試験

ア 入学試験受験資格

次の①から⑦のいずれかに該当する者で、入学時までに 2 年以上の就労経験がある者を受験資格者とする。

- ①大学を卒業した者
- ②学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- ③外国において、学校教育(日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む)における16年の課程を修了した者

⑦ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

イ 出願手続

- ① 入学願書(写真貼付)
- ② 受験票
- ③ 銀行振込通知書
- ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位党与証明書、若しくは学位記(写)又は学位授与申請受理書(大学評価・学位授与機構発行)
- ⑤ 成績証明書
- ⑥ 志望理由書 (300 字程度にまとめる)
- ⑦ 事前相談内容確認書

ウ 入学者選考方法

一般入学試験では、学力試験(英語、小 論文)、個人面接及び出願書類により総合的 に判断し、合否を判定する。

エ 試験の実施時期

年に2回実施する。(原則として9月と3月、ただし開設初年度は11月と3月)

(2) 社会人入学試験

ア 入学試験受験資格

次の①から⑦のいずれかに該当する者 で、入学時までに 2 年以上の就労経験があ る者を受験資格者とする。

- ①大学を卒業した者
- ②学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- ③外国において、学校教育(日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む)における16年の課程を修了した者
- ④日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の16年の課程を修了した者

- ④日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の16年の課程を修了した者
- ⑤外国の大学等において、修業年限が3年 以上である課程を修了することによ り、学士の学位に相当する学位を授与 された者
- ⑥文部科学大臣が指定した専修学校の専 門課程を修了した者
- ⑦本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

イ 出願手続

- ① 入学願書(写真貼付)
- ② 受験票
- ③ 銀行振込通知書
- ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若 しくは学位授与証明書、若しくは学位 記(写)又は学位授与申請受理書(大学 評価・学位授与機構発行)
- ⑤ 成績証明書
- ⑥ 志望理由書 (300 字程度にまとめる)
- ⑦ 事前相談内容確認書
- ⑧ 推薦書(雇用を継続しながら修学する 社会人のみ)
- ウ 入学者選考方法

社会人入試では、学力試験(<u>保健学、</u>小論文)、<u>出願書類の⑤成績証明書、⑥志望理由書、⑦事前相談内容確認書の審査、及び個人面接による志望分野、適性、意欲の確認と評価を行い、</u>総合的に合否を判定する。

エ 試験の実施日程

年に2回実施する。(原則として9月と 3月、ただし開設初年度は11月と3月)

- ⑤外国の大学等において、修業年限が3年 以上である課程を修了することによ り、学士の学位に相当する学位を授与 された者
- ⑥文部科学大臣が指定した専修学校の専 門課程を修了した者
- ⑦本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

イ 出願手続

- ① 入学願書(写真貼付)
- ② 受験票
- ③ 銀行振込通知書
- ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若 しくは学位授与証明書、若しくは学位 記(写)又は学位授与申請受理書(大学 評価・学位授与機構発行)
- ⑤ 成績証明書
- ⑥ 志望理由書 (300 字程度にまとめる)
- ⑦ 事前相談内容確認書
- ⑧ 推薦書(雇用を継続しながら修学する 社会人のみ)
- ウ 入学者選考方法

社会人入試では、学力試験(小論文)、 個人面接及び出願書類等により総合的に 判断し、合否を判定する。

エ 試験の実施日程

年に2回実施する。(原則として9月と 3月、ただし開設初年度は11月と3月) (是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【教育課程等】

5 <基礎となる学部との教育課程の関係が不明確>

基礎となる学部である看護学部・保健科学部の学問分野を統合した研究科を設置するとしているが、一方でケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の3分野に専門科目が分類されており、関係性が不明確である。3分野について、基礎となる学部の学問分野とどのように対応しているのか、明確にすること。

(対応)

いる。

3 分野と基礎となる学部である看護学部・保健科学部の教育課程の中の専門科目との関連について、審査意見を考慮し全体を見直した結果、以下のとおり整理する。

ケア提供システム分野については、看護学部の科目区分「看護の統合実践」の中の「看護提供システム論」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法倫理管理」の中の「理学療法倫理・管理学」、作業療法学専攻の科目区分「作業療法管理」の中の「作業療法管理学」と関連している。

人間発達ケア分野(理学療法学)については、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法評価学」の中の「理学療法評価学 I ~VI」及び科目区分「理学利用法治療学」の中の「運動利用法学 I ・II」、「物理療法学 I ・II」、「理学療法義肢装具学」、「理学利用法地理洋楽 I ~VI」と関連している。

人間発達ケア分野(作業療法学)については、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「作業療法評価学」の中の「身体系作業療法評価学」、「精神系作業療法評価学」、「発達系作業療法評価学」、科目区分「作業療法治療学」の中の「身体系作業療法学」、「発達系作業療法学」、「精神系作業療法学」、「高齢期作業療法学 I・II」、「日常生活活動学 I・II」、「身体系作業療法治療学 I・II」、「精神系作業療法治療学 I・II」、「発達系作業療法治療学 I・II」、「高次脳機能系作業療法学 I・II」、「作業療法系義肢装具学 I・II」、「職業前評価治療学」と関連して

人間発達ケア分野(母子看護学)については、看護学部の科目区分「看護学専門科目」の中の「小児看護学」と「母性看護学」と関連している。

健康コミュニティ分野については、看護学部の科目区分「公衆衛生看護学関連科目」の中の「公衆衛生看護学 I ~Ⅲ」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「地域理学療法学」の中の「地域理学利用法学 I ・Ⅱ」、「生活環境学」、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「地域作業療法学」の中の「地域作業療法学 I ・Ⅱ」と関連している。

新

第8 基礎となる学部との関係

本学は保健科学部と看護学部を有してい る。保健科学部はリハビリテーション学科が 理学療法学専攻、作業療法学専攻の2つの専 攻を持ち、看護学部は看護学科を持ってい る。保健科学部は理学療法士養成校及び作業 療法士養成校の指定受け、看護学部は保健師 養成校及び看護師養成校の指定を受けて医 療専門職者を養成している。保健科学部の前 身は長野医療技術専門学校である。長野医療 技術専門学校は平成17年(2005)年に、文 部科学省から「高度専門士の称号付与認定」 をうけ、卒業生960名には学士の称号が付与 されている。長野保健医療大学の卒業生84 名を加え1,044名の卒業生の85%が長野県内 の医療機関等に勤務して地域社会を支えて いる。

保健科学部は、豊かな人間性と広い見識及 び高い教養と専門知識、確たる技能を有する 医療人(理学療法士・作業療法士)並びに研 究者の育成を目的としている。看護学部は、 医療において総合的な判断ができる質の高 い看護職、保健学部リハビリテーション学科 学生とともに IPE (多職種連携教育) につい て学び、豊かな人間性と広い見識を持って、 地域住民の健康生活をサポートすることの できるケア提供者を育成することを教育目 的としている。本学はこれらの教育目的に基 づき、保健師、看護師、理学療法士または作 業療法士の国家資格を取得し、保健師、看護 師、理学療法士、作業療法士として地域に貢 献できる人材をより多く輩出する努力を重 ねている。

保健科学部及び看護学部での教育及び研究は根底に看護・リハビリテーションという

旧

第8 基礎となる学部との関係

本学は保健科学部と看護学部を有してい る。保健科学部はリハビリテーション学科が 理学療法学専攻、作業療法学専攻の2つの専 攻を持ち、看護学部は看護学科を持ってい る。保健科学部は理学療法士養成校及び作業 療法士養成校の指定受け、看護学部は保健師 養成校及び看護師養成校の指定を受けて医 療専門職者を養成している。保健科学部の前 身は長野医療技術専門学校である。長野医療 技術専門学校は平成17年(2005)年に、文 部科学省から「高度専門士の称号付与認定」 をうけ、卒業生960名には学士の称号が付与 されている。長野保健医療大学の卒業生84 名を加え1,044名の卒業生の85%が長野県内 の医療機関等に勤務して地域社会を支えて いる。

保健科学部は、豊かな人間性と広い見識及 び高い教養と専門知識、確たる技能を有する 医療人(理学療法士・作業療法士)並びに研 究者の育成を目的としている。看護学部は、 医療において総合的な判断ができる質の高 い看護職、保健学部リハビリテーション学科 学生とともに IPE (多職種連携教育) につい て学び、豊かな人間性と広い見識を持って、 地域住民の健康生活をサポートすることの できるケア提供者を育成することを教育目 的としている。本学はこれらの教育目的に基 づき、保健師、看護師、理学療法士または作 業療法士の国家資格を取得し、保健師、看護 師、理学療法士、作業療法士として地域に貢 献できる人材をより多く輩出する努力を重 ねている。

保健科学部及び看護学部での教育及び研究は底流に看護・リハビリテーションという

学際的な視点があり、大学院で編成する教育 課程と強いつながりを有している(資料 20)。

具体的には、ケア提供システム分野については、看護学部の科目区分「看護の統合実践」の中の「看護提供システム論」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法倫理管理」の中の「理学療法倫理・管理学」、作業療法学専攻の科目区分「作業療法管理」の中の「作業療法管理学」と関連している。

人間発達ケア分野(理学療法学)については、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法評価学」の中の「理学療法評価学」の中の「理学療法評価学」の中の「運動利用法学 I・II」、「物理療法学 I・II」、「理学療法義肢装具学」、「理学利用法地理洋楽 I ~VI」と関連している。

人間発達ケア分野(作業療法学)については、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「作業療法評価学」の中の「身体系作業療法評価学」、「発達系作業療法評価学」、「科神系作業療法評価学」、「発達系作業療法評価学」、科目区分「作業療法治療学」の中の「身体系作業療法学」、「発達系作業療法学」、「精神系作業療法学」、「高齢期作業療法学」、「局常生活活動学 I・II」、「身体系作業療法治療学 I・II」、「特神系作業療法治療学 I・II」、「発達系作業療法治療学 I・II」、「発達系作業療法治療学 I・II」、「発達系作業療法治療学 I・II」、「発達系作業療法治療学 I・II」、「職業前評価治療学」と関連している。

人間発達ケア分野(母子看護学)について は、看護学部の科目区分「看護学専門科目」 の中の「小児看護学」と「母性看護学」と関 連している。

健康コミュニティ分野については、看護学 部の科目区分「公衆衛生看護学関連科目」の 中の「公衆衛生看護学 I ~Ⅲ」、保健科学部 学際的な視点があり、大学院で編成する教育 課程と強いつながりを有している(資料 20)。

理学療法学専攻の科目区分「地域理学療法学」の中の「地域理学利用法学 I・II」、「生	
活環境学」、保健科学部作業療法学専攻の科 目区分「地域作業療法学」の中の「地域作業 療法学 I・II」と関連している。	
設置の趣旨等を記載した書類の資料20	設置の趣旨等を記載した書類の資料20
別紙 5「資料 20 基礎となる学部との関係	別紙 5「資料 20 基礎となる学部との関係
新」のとおり	旧」のとおり

【教育課程等】

6 <授業科目の必修・選択の設定が不適切>

ディプロマ・ポリシー「研究・教育活動による後進を育成する能力」を修得するための 授業とされている「保健医療教育論」「保健医療教育実践論」や、ディプロマ・ポリシー「高 度専門的職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる 能力」を修得するための授業とされている「英語文献購読」など、ディプロマ・ポリシーに 位置付けられている授業科目の必修・選択の設定について、適切に改めること。

(対応)

審査意見 1 を考慮し全ての授業科目の内容とディプロマ・ポリシーとの関連について見直 し必要な修正を加えた結果、共通科目でのディプロマ・ポリシーとの関係は以下のとおりと なった。

- ① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 関連する科目:「医療倫理学」
- ② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 関連する科目:「応用統計学」、「保健医療研究法」
- ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力

関連する科目:「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「医療英語研究」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」

④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 関連する科目:「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」

⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 関連する科目:「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント 論」

審査意見6を考慮して必修・選択科目について見直した結果、①についての必修科目を「医療倫理学」、②についての必修科目を「保健医療研究法」、③についての必修科目を「医療英語研究」、④についての必修科目を「保健医療教育論」、⑤についての必修科目を「多職種連携論」と設定することとし、その結果「医療英語研究」及び「保健医療教育論」を必修科目に、「医療コミュニケーション論」を選択科目に履修要件を変更することとした。

上記内容を踏まえて、設置の趣旨等を記載した書類の第 4 教育課程の編成の考え方及び 特色の1 教育課程の編成の考え方・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)の(1)共通科 目、及び2 教育課程の編成の特色の(1)共通科目の記述内容を修正する。

(新旧対照表)教育課程等の概要

新	III
共通科目 単位数	共通科目 単位数
医療コミュニケーション論 選択 2	医療コミュニケーション論 必修 2
医療英語研究 必修 2	英語文献講読 選択 2
保健医療教育論 <u>必修 2</u>	保健医療教育論 選択 2
小計 (9科目) 必修 10 選択 8	小計 (9科目) 必修 8 選択 10
合計 (24 科目) <u>必修 22 選択 34</u>	合計 (24 科目) 必修 20 選択 36
修了要件及び履修方法	修了要件及び履修方法
共通科目から 12 単位以上(<u>必修 10 単位、</u>	共通科目から 12 単位以上(必修 8 単位、
選択2単位以上)、専門科目から8単位(必	選択4単位以上)、専門科目から8単位(必
修 2 単位、選択必修 6 単位)、特別研究 10 単	修 2 単位、選択必修 6 単位)、特別研究 10 単
位(必修)の合計30単位以上を修得し、か	位(必修)の合計30単位以上を修得し、か
つ修士論文の審査に合格すること。	つ修士論文の審査に合格すること。
別紙 6 教育課程等の概要 新	別紙6 教育課程等の概要 旧

(新旧対照表) 学則 別表1

新	IΠ
第26条 修士課程の修了要件は、次のとお	第26条 修士課程の修了要件は、次のとお
りとする。	りとする。
ア 共通科目のうち <u>必修 10 単位、選択 2 単</u>	ア 共通科目のうち必修8単位、選択4単
位以上、合わせて 12 単位以上	位以上、合わせて 12 単位以上
共通科目 単位数	共通科目 単位数
医療コミュニケーション論 選択 2	医療コミュニケーション論 必修 2
医療英語研究 业修 2	英語文献講読 選択 2
保健医療教育論 <u>必修 2</u>	保健医療教育論 選択 2
小計 (9科目) <u>必修 10 選択 8</u>	小計 (9科目) 必修 8 選択 10
合計 (24 科目) <u>必修 22 選択 34</u>	合計 (24 科目) 必修 20 選択 36
別紙7 学則 別表1 新	別紙7 学則 別表1 旧

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料 12 履修モデル

新	旧
共通科目 単位数	共通科目 単位数
医療コミュニケーション論 選択 2	医療コミュニケーション論 必修 2
医療英語研究	英語文献講読 選択 2
保健医療教育論 <u>必修 2</u>	保健医療教育論 選択 2

小計 (9科目) <u>必修 10 選択 8</u>	小計 (9科目) 必修 8 選択 10
合計 (24 科目) <u>必修 22 選択 34</u>	合計 (24 科目) 必修 20 選択 36
科目別授業時間等	科目別授業時間等
医療英語研究	英語文献講読
別紙8 履修モデル 新	別紙8 履修モデル 旧

(新旧対照表) シラバス ディプロマ・ポリシーとの関連 (評価の視点)

	/一との関連(評価の視点)
新	lfi .
医療倫理学	医療倫理学
DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分	保健学研究科ディプロマポリシーの高い
野に関する専門職として取り組む能力	倫理観をもって取り組む能力の修得に関連
	する。
多職種連携論	多職種連携論
DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識	保健学研究科ディプロマポリシーの専門
を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共	的基礎知識と技能の修得に関連する。
有できる能力	
DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ	
ネジメントに参画・参加できる能力	
医療コミュニケーション論	医療コミュニケーション論
DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識	保健学研究科ディプロマポリシーの専門
を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共	的基礎知識と技能の修得に関連する。
有できる能力	
DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ	
ネジメントに参画・参加できる能力	
保健医療マネジメント論	保健医療マネジメント論
DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識	保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専
を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共	門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高
有できる能力	い専門職業務を実践できる能力に関連する。
DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ	
ネジメントに参画・参加できる能力	
応用統計学	応用統計学
DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発	ディプロマポリシー1,2に関連(科学的な
揮できる能力	根拠に基づき実践する能力、高度専門職業人
DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識	に必要な広範な知識と質の高い専門職業務
を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共	を実践できる能力)
有できる能力	
医療英語研究	英語文献講読

<u>DP③</u> 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力

保健学研究科ディプロマポリシーの、高度 専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の 高い専門職業務を実践できる能力に関連す る。

保健医療教育論

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

<u>DP④</u> 研究・教育活動により後進を育成する 能力

保健医療教育実践論

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP④ 研究・教育活動により後進を育成する 能力

保健医療研究法

<u>DP②</u> 科学的な根拠に基づき<u>専門技能を発</u> 揮できる能力

保健学総論

<u>DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発</u> 揮できる能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

ケア提供システム特論

DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP④ 研究・教育活動により後進を育成する

保健医療教育論

保健医療の高度専門職に求められる高い 倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に 関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保 健医療の専門職養成機関における、高度専門 職としての教育者にふさわしい人格識見を 涵養する。

保健医療教育実践論

保健医療の高度専門職に求められる高い 倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に 関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保 健医療の専門職養成機関において、高度専門 職を養成する教育者にふさわしい人格識見 を涵養する。

保健医療研究法

ディプロマポリシーの、科学的な根拠に基づき実践する能力に関連する。

保健学総論

地域社会が抱える課題を適切に把握し、医療福祉に係る制度を理解した上で高度専門職業人として課題解決の道筋を立てる能力を身に付ける。

保健学研究科ディプロマポリシーの、高度 専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の 高い専門職業務を実践できる能力に関連す る。

ケア提供システム特論

保健学研究科ディプロマポリシーの、2. 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、 質の高い専門職業務を実践できる能力、及び 3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、 臨床・研究・教育活動による後進育成、職場 でのマネジメント向上を通じて地域に貢献

能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

〈ケア提供システム分野〉

A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力

A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力

A3 専門教育や医療現場において社会の変 革に対応したケア提供システムを考察でき る能力

ケア提供システム演習I

<u>DP①</u> 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

<u>DP④</u> 研究・教育活動により後進を育成する 能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

〈ケア提供システム分野〉 A1 東い倫理知な東明教育の医療

A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力

A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを 発揮できる能力

A3 専門教育や医療現場において社会の変 革に対応したケア提供システムを考察でき る能力

ケア提供システム演習Ⅱ

<u>DP①</u> 高い倫理観をもって保健医療福祉分 野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力 できる能力に関連する。

ケア提供システム演習 I

保健学研究科ディプロマポリシーの2.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。

ケア提供システム演習Ⅱ

保健学研究科ディプロマポリシーの2.高 度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質 の高い専門職業務を実践できる能力、及び 3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、 臨床・研究・教育活動による後進育成、職場 <u>DP④</u> 研究・教育活動により後進を育成する 能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力〈ケア提供システム分野〉

A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力

A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力

A3 専門教育や医療現場において社会の変 革に対応したケア提供システムを考察でき る能力 でのマネジメント向上を通じて地域に貢献 できる能力に関連する。

人間発達ケア特論

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP④ 研究・教育活動による後進を育成する 能力

<u>DP⑤</u> 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ ネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力

<u>B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び</u> 職業実践に結びつける能力

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

<u>DP①</u> 高い倫理観をもって保健医療福祉分 野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

人間発達ケア特論

保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力

<u>B3</u> 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

<u>DP①</u> 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力

B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

保健学研究科ディプロマポリシーの専門 的知識と技能の習得に関連する。 切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力 人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学) 人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学) 保健学研究科ディプロマポリシーの専門 DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分 野に関する専門職として取り組む能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ ネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力 B2 専門分野における課題解決のために適 切な方法を実施計画に活かせる能力 B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力 人間発達ケア演習 I (母子看護学) DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分

的知識と技能の習得に関連する。

野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ ネジメントに参画・参加できる能力

〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適 切な方法を実施計画に活かせる能力

B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分

人間発達ケア演習I(母子看護学)

保健学研究科ディプロマポリシーの専門 的知識と技能の習得に関連する。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

保健学研究科ディプロマポリシーの専門

野に関する専門職として取り組む能力

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

<u>DP⑤</u> 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ ネジメントに参画・参加できる能力

〈人間発達ケア分野〉

B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力

B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力

B3 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力

健康コミュニティ特論

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

<u>DP④</u> 研究・教育活動による後進を育成する 能力に関連

DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

〈健康コミュニティ分野〉

C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の 向上のために、地域の現状を分析できる能力

<u>C2</u> 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力

<u>C3</u> 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力

健康コミュニティ演習I

DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力

<u>DP④</u> 研究・教育活動による後進を育成する 能力

<u>DP⑤</u> 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

的知識と技能の習得に関連する。

健康コミュニティ特論

保健学研究科ディプロマポリシーの専門 的知識と技能の習得に関連する

健康コミュニティ演習 I

保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

- C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の 向上のために、地域の現状を分析できる能力
- C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統
- 合して根拠に基づく実践を展開できる能力
- <u>C3</u> 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力

健康コミュニティ演習Ⅱ

- DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力
- <u>DP④</u> 研究・教育活動による後進を育成する 能力に関連
- <u>DP⑤</u> 地域の医療・行政・保健福祉組織のマ ネジメントに参画・参加できる能力
- 〈健康コミュニティ分野〉
- C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の 向上のために、地域の現状を分析できる能力
- <u>C2</u> 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力
- C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力

保健学特別研究

- <u>DP①</u> 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
- <u>DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発</u> <u>揮できる能力</u>
- DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識 を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力
- DP④ 研究・教育活動により後進を育成する 能力
- DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力
- 〈ケア提供システム分野〉
- A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力
- A2 専門教育やケア提供システム分野にお

健康コミュニティ演習Ⅱ

保健学研究科ディプロマポリシーの専門 的知識と技能の習得に関連する。

保健学特別研究

保健・医療・福祉の専門分野に関する研究 課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基 づいて実践することの理解 いて自らが組織に参画し、リーダーシップを 発揮できる能力

A3 専門教育や医療現場において社会の変 革に対応したケア提供システムを考察でき る能力

〈人間発達ケア分野〉

- B1 専門分野の発展のために必要な課題を 抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理 的に整理できる能力
- B2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力
- <u>B3</u> 専門分野の知見収集の成果を教育及び 職業実践に結びつける能力

〈健康コミュニティ分野〉

- C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の 向上のために、地域の現状を分析できる能力
- C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力
- C3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力

別紙 11 シラバス 新

別紙 11 シラバス 旧

※DP:ディプロマ・ポリシー

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12ページ)

新

1 教育課程の編成の考え方・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

(1) 共通科目

本研究科の<u>3分野共通の</u>ディプロマ・ポリシーに記載した能力の修得を目指し、以下の科目を1年次前期に配置した。

- ① 高い倫理観を<u>もって保健医療福祉分</u> <u>野に関する専門職として取り組む能力</u> に関連する科目:「医療倫理学」
- ② 科学的な根拠に基<u>づき専門技能を発</u> <u>揮できる能力に関連する科目:「応用統</u> 計学」、「保健医療研究法」

旧

- 1 教育課程の編成の考え方・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
 - (1) 共通科目

本研究科のディプロマ・ポリシーに記載 した能力の修得を目指し、以下の科目を1 年次前期に配置した。

- ① 高い倫理観を修得するために「医療倫理学」を配置した。
- ② 科学的根拠に基づく実践能力を修得するために「応用統計学」及び「保健医療研究法」を配置した。
- ③ 高度専門職業人に必要となる広範な

- ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力に関連する科目:「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「医療英語研究」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」
- ④ 研究・教育活動により後進を育成する 能力に関連する科目:「保健医療教育 論」、「保健医療教育実践論」
- ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力に 関連する科目:「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」

①高い倫理観をもって保健医療福祉分野 に関する専門職として取り組む能力につい ては「医療倫理学」を、②科学的な根拠に基 づき専門技能を発揮できる能力については 「保健医療研究法」を、③高度専門職業人に 必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議 論を通じて考えを共有できる能力について は「医療英語研究」を、④研究・教育活動に より後進を育成する能力については「保健 医療教育論」を、⑤地域の医療・行政・保健 福祉組織のマネジメントに参画・参加でき る能力については「多職種連携論」を必修科 目に設定した。「医療コミュニケーション 論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計 学」、「保健医療教育実践論」を選択科目とし た。

- 知識を修得するために「英語文献講読」を配置した。
- ④ 他の専門職と議論を通じて考えを共 有できる能力を修得するために「医療 コミュニケーション論」を配置した。
- ⑤ 後進を育成する能力を修得するため に「保健医療教育論」及び「保健医療教 育実践論」を配置した。
- ⑥ 保健医療福祉チームをマネジメント できる能力を修得するために「保健医 療マネジメント論」及び「多職種連携 論」である。

このうち、「医療倫理学」、「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論、「保健医療研究法」を必修科目とし、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「英語文献購読」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」は選択科目とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15ページ)

新	旧
2 教育課程の編成の特色	2 教育課程の編成の特色
本研究科では、「誰一人として取り残さな	本研究科では、「誰一人として取り残さな

い地域社会」の構築を志向する保健医療福祉 関連職が備えるべき資質として、ディプロマ・ポリシーに掲げた高い倫理観、科学的な根拠に基づく実践、広範な知識とコミュニケーション能力、後進指導能力、マネジメント能力を重視し、それらについて学修するために、共通科目9科目、専門科目14科目、特別研究科目1科目を配置した。

(1) 共通科目

共通科目には9科目を配置し、<u>5科目</u>を必修とした。「医療倫理学」では、保健医療の専門職医療人おける職業的倫理性を涵養する。「多職種連携論」では、学際的なチーム医療の中核となる多職種連携についての理論と実践能力を学修する。「<u>医療英語研究」では、文献により医療・医学についての基礎的・専門的知識や特有の規則を学修し、英語文献を講読し、知識を広げる。「保健医療教育論」では、教育学の基本を学修する。「保健医療研究法」では、研究活動を行うための基礎的知識、研究技法、研究倫理について学修する。これらの必修共通科目の履修により、倫理性、学際性、協調性、教育能力、科学的研究能力を養う。</u>

選択科目は 4 科目である。「医療コミュニケーション論」では、高度な専門職業人として求められる他者とのコミュニケーションを通して、合意、共通理解を得る能力、表現能力、交渉能力について学修する。「保健医療マネジメント論」では、保健医療現場での基本となる医療制度、政策、倫理、会計の理解を深めリーダーシップとマネジメントを学修する。「応用統計学」では、研究活動で必要となる統計解析の手法や手順について学修する。「保健医療教育実践論」では、高度専門職の養成に当たる教育者に求められる専門的知識と指導力を身に着ける。なお、

い地域社会」の構築を志向する保健医療福祉 関連職が備えるべき資質として、ディプロマ・ポリシーに掲げた高い倫理観、科学的な根拠に基づく実践、広範な知識、コミュニケーション能力、後進指導能力、マネジメント能力を重視し、それらについて学修するために、共通科目9科目、専門科目14科目、特別研究科目1科目を配置した。

(1) 共通科目

共通科目には 9 科目を配置し、4 科目を 必修とした。「医療倫理学」では、保健医療 の専門職医療人おける職業的倫理性を涵養 する。「多職種連携論」では、学際的なチーム医療の中核となる多職種連携についての 理論と実践能力を学修する。「医療コミュニケーション論」では、高度な専門職業人として求められる他者とのコミュニケーション を通して、合意、共通理解を得る能力、表現 能力、交渉能力について学修する。「保健医療研究法」では、研究活動を行うための基礎 的知識、研究技法、研究倫理について学修する。これらの必修共通科目の履修により、倫 理性、学際性、協調性、科学的研究能力を養 う。

選択科目は5科目である。「保健医療マネジメント論」では、保健医療現場での基本となる医療制度、政策、倫理、会計の理解を深めリーダーシップとマネジメントを学修する。「応用統計学」では、研究活動で必要となる統計解析の手法や手順について学修する。「英語文献講読」では、文献により医療・医学についての基礎的・専門的知識や特有の規則を学修し、英語文献を講読し、知識を広げる。「保健医療教育論」及び「保健医療教育実践論」では、教育学の基本を学修し、高度専門職の養成に当たる教育者に求められる専門的知識と指導力を身に着ける。な

「保健医療教育論」及び「保健医療教育実践論」の教育2科目は、理学療法士・作業療法士が養成校の教員となるために必要な教育課程4単位にも対応する。これらの選択共通科目履修により、マネジメント能力、解析研究能力、情報収集能力、教育能力を養う。

お、この教育2科目は、理学療法士・作業療法士が養成校の教員となるために必要な教育課程4単位にも対応する。これらの選択共通科目履修により、マネジメント能力、解析研究能力、情報収集能力、教育能力を養う。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (27ページ)

5 修士課程修了要件

修士課程の修了要件は次のとおりとする。

新

- (1) 本研究科に2年以上在学すること。
- (2) 次の授業科目を履修し、合わせて30単位以上を取得すること。
 - ア 共通科目から 12 単位以上(<u>必修科目</u> 10 単位、選択科目 2 単位以上)の科目単位を取得すること。
 - イ 専門科目から 8 単位(必修2単位、 選択科目4単位)の科目単位を取得する こと。
 - ウ 特別研究科目の 必修 10 単位の科目 単位を取得すること。
- (3) 必要な研究指導を受けた上で、本研究 科が実施する修士論文審査及び最終試験に 合格すること。

5 修士課程修了要件

修士課程の修了要件は次のとおりとする。

旧

- (1) 本研究科に2年以上在学すること。
- (2) 次の授業科目を履修し、合わせて30単位以上を取得すること。
 - ア 共通科目から 12 単位以上(必修科目 8 単位、選択科目 4 単位以上)の科目単 位を取得すること。
 - イ 専門科目から 8 単位(必修2単位、 選択科目4単位)の科目単位を取得する こと。
 - ウ 特別研究科目の 必修 10 単位の科目 単位を取得すること。
- (3) 必要な研究指導を受けた上で、本研究 科が実施する修士論文審査及び最終試験に 合格すること。

(是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【教育課程等】

7 <授業科目の内容等が不適切>

授業科目の内容等について、以下の例の様に不適切と思われる点が散見されることから、 全体について見直し、適切に改めること。

- (1) ディプロマ・ポリシーとして挙げられている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に 関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修と しているが、同科目の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確である。
- (2)「ケア提供システム演習Ⅱ」など、演習系の科目で研究計画書の作成まで行っている。
- (3)「英語文献講読」について、単に文献を講読するのみでは大学院教育にふさわしい科目名称とは言えない。
- (4) 授業の到達目標について、例えば「医療倫理学」において、「自分の言葉で表現できる」など、大学院教育の到達目標として不適切であると思われる科目が散見される。

(対応)

(1) 必修「医療倫理学」の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確

ディプロマ・ポリシーとして挙げている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修としている。審査意見を考慮し改めて全体を見直したところ、医療倫理としては偏りがあったことから、我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、神道、仏教及び儒教、西洋近代思想を概観したうえで、その理解に基づいて、現代医学の諸問題、具体的には、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について学修し、グループディスカッションにより考察し、理解を深め、医療倫理観を修得することとした。これに伴い授業科目の概要、及びシラバスの授業計画・キーワードを修正するとともに、保健学総論のキーワードに不適切な表現があったことから適切な内容に修正することとした。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
医療倫理学	医療倫理学

<u>我々日本人の考え方を作っている思想を</u>歴史的に捉えるため、(1)日本固有の思想として神話に基づく神道、(2)外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3)日本の近代化を促した西洋近代思想<u>を概説し、その</u>理解に基づいて、医療における現代的な諸問

日本人がこれまでにどんなことを考えてきたかを概観し、我々の考え方を作っている思想を歴史的に捉えることを第一の目的とする。その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、尊厳死などの問題を考察する。

題、すなわち、インフォームド・コンセント、 安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診 断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染 病・感染症の歴史的経過と現代の問題につい て、講義及び小グループによるディスカッションによりを考察し理解を深める。 内容的には、(1)日本固有の思想として神話に基づく神道、(2)外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3)日本の近代化を促した西洋近代思想、をとりあげる。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行うこともある。

(新旧対照表) シラバス 授業計画

(新旧対照衣) ンプハム 授業計画	
新	旧
医療倫理学	医療倫理学
1. 日本固有の思想(1) 日本神話概観、神	1. 日本固有の思想(1) 日本神話概観
話的思惟の特質、世界解釈の方法	2. 日本固有の思想(2) 神話的思惟の特質
2. 日本固有の思想(2) <u>グループディスカ</u>	3. 日本固有の思想(3) 世界解釈の方法ー
<u>ッション及び小テスト</u>	一起源説話
3. 仏教思想(1) 釈迦の説いたこと、 <u>日本</u>	4.仏教思想(1) 釈迦の説いたこと
における仏教受容の諸相、仏教的思惟の特質	5. 仏教思想(2) 日本における初期の仏教
4. 仏教思想(2) 他の東洋思想(儒教・道	受容の様相
教)、グループディスカッション及び小テス	6. 仏教思想(3) 仏教的思惟の特質 輪廻
<u> </u>	転生の世界観
5. 近世・近代の思想(1) 朱子学と国学、	7. 仏教思想(4) 仏教的思惟の特質 四苦
町人思想の諸相と職業観、西洋思想の受け入	八苦の人生観
<u>h</u>	8. 仏教思想(5) 四苦(生老病死)の現代
6. 近世・近代の思想(2) グループディス	的樣相.
<u>カッション及び小テスト</u>	9. 仏教思想(6) 四苦(生老病死)の現代
7. 現代医学の諸問題(1) インフォームド・	的様相(2)
コンセント、安楽死・尊厳死	10. 儒教思想(1) 朱子学概観
8. 現代医学の諸問題(1) グループディス	11. 儒教思想(2) 武士と町人の世界観
カッション及び小テスト.	12. 儒教思想 (3) 儒教への反発と国学の
9. 現代医学の諸問題(2) 脳死と臓器移植	死生観
10. 現代医学の諸問題(2) グループディ	13. 西洋の近代思想(1) 明治維新の世界
スカッション及び小テスト	観
11. 現代医学の諸問題(3) 出生前診断と	14. 西洋の近代思想(2) 福沢諭吉の人間
遺伝病	観
12. 現代医学の諸問題 (3) グループディ	15. まとめと討論

スカッション及び小テスト	
13. 現代医学の諸問題(4) 遺伝子技術と	
認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と	
現代の問題	
14. 現代医学の諸問題(4) グループディ	
スカッション及び小テスト	
15. まとめと討論	
医療倫理学	医療倫理学
キーワード	キーワード
倫理学、保健学、科学技術倫理、生命倫理、	神話的思惟、仏教的世界観、儒教的世界観、
東洋思想	西洋近代思想
保健学総論	保健学総論
キーワード	キーワード
保健学 障害科学 看護学 理学療法学	研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイ
作業療法学	ン、研究計画書

(2) 審査意見を考慮して全体を見直した結果、研究計画書の作成については保健学特別研究の範疇であることから記述から削除することとし、以下のように修正することとした。

演習 I 系の科目(「ケア提供システム演習 I 」、「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」、「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」、「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」、「健康コミュニティ演習 I 」)については、文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修することとし、演習 I 系の科目(「ケア提供システム演習 I 」、「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」、「人間発達ケア演習 I (伊業療法学)」、「人間発達ケア演習 I (伊書養法学)」、「使康コミュニティ演習 I 」)については、実践の場における支援方法の問題点を明らかする過程を学修することとし、全体として研究に必要なプロセスを演習 I ・I により修得することとした。

演習I系科目の授業計画の内容として、

- 1. それぞれの分野のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー(1~10回)
- 2. 文献クリティーク(リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む、)(11~20回)
- 3. それぞれの分野における有用なエビデンスの検討(21~25回)
- 4. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議 (26~30 回) を基本とした。

演習Ⅱ系の授業計画の内容として、

- 1. それぞれの分野に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解(1~4回)
- 2. それぞれの分野の学問に関わる動向の理解(5~8回)
- 3. それぞれの分野に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求(9~16回)
- 4. それぞれの分野に関わる支援方法と課題の探求 (17~24 回)
- 5. それぞれの分野に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議(25~30回)

を基本とした。

また、保健学特別研究について、設置の趣旨等を記載した書類の資料 13「履修指導及び研究指導の方法・日程案」に記載したとおり、1 年後期から研究の方向性を絞り込み、研究課題の検討、研究計画の立案、研究計画書の提出と研究倫理審査の申請を目指し、2 年次からは研究計画の実施、修士論文の作成という日程案があるにもかかわらず、配当年次を 2 年次通年とする齟齬がありこれとの整合を図るため、配当年次を「1 年次~2 年次」、配当学期を「後期(1 年次)通期(2 年次)」とするとともに、授業科目の概要については「専門分野の研究課題について作成した研究計画に沿って研究方法を探求したうえで研究を実践し、」という適切でない表現があるため、「専門分野の研究課題を練り上げ、研究計画を研究指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文としてまとめる。」という内容に修正した。

教員審査結果を受けて、保健学特別研究に関する授業科目の内容で、⑤水嵜知子がMマル合の判定であったため、授業担当内容について「医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題の研究過程において、

文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。」としていたものを「医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。」に修正した。これに伴い、①井部俊子の授業担当内容を「医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。」に修正し、それぞれ独立したシラバスとした。

これらに伴い、カリキュラム・ポリシーの記載内容を上記の内容に修正することとし、 シラバスについては、授業の到達目標、授業科目の概要、授業時間外の学習情報も含めて 適正となるよう修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(13ページ)

1 教育課程編成の考え方・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

新

(2) 専門科目

「看護・リハビリテーション領域」として、保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修する必修科目の「保健学総論」を基盤として、養成する人材像において述べた「ケア提供システム」、「人間発達ケア」、「健康コミュニティ」の3分野の人材を養成するために、分野別のディプロマ・ポリシーに記載した能力の修得を目指して、専門分化した各分野の1年次前期に特論を、1年次後期に演習Ⅰ、演習Ⅱを配置した。

各分野の「特論」において各分野の内容を概括的に学修し、分野ごとの「演習 I 」では、文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。分野ごとの「演習 II 」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程を学修する。専門分化した内容を体系的に履修するため、同じ分野の特論、演習 I、演習 II を選択必修科目とした。研究に必要なプロセスを演習 I・II により修得す

1 教育課程編成の考え方・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

旧

(2) 専門科目

「看護・リハビリテーション領域」として、保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修する必修科目の「保健学総論」を基盤として、養成する人材像において述べた「ケア提供システム」、「人間発達ケア」、「健康コミュニティ」の3分野の人材を養成するために専門分化した分野ごとの特論を1年次前期に、演習I、演習IIを1年次後期に配置した。

各分野の「特論」において各分野の内容を概括的に学修し、分野ごとの「演習Ⅰ」では、修士論文の研究課題の策定に向けて、研究デザイン、研究プロトコルの作成、研究課題の抽出までを学修する。分野ごとの「演習Ⅱ」では、学生が選択した研究課題について研究計画仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。専門分化した内容を体系的に履修するため、同じ分野の特論、演習Ⅰ、演習Ⅱを選択必修科目とした。

る。

ア ケア提供システム分野

「ケア提供システム特論」により、保健医療福祉システム、システムマネジメントについて学修し、「ケア提供システム演習Ⅰ」、「ケア提供システム演習Ⅱ」により、文献検索を通してエビデンスを構築する過程の学修、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。

イ 人間発達ケア分野

「人間発達ケア特論」により人間の発達 段階における諸課題を共通に学修したうえ で、演習では理学療法学、作業療法学、母子 看護学の専門分野に分化して担当教員によ る指導を通して、それぞれの専門分野に関 連した様々な人間の発達段階における健康 について学修する。

① 理学療法学系

「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」により、発達過程における理学療法学に関連する文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。また、「人間発達ケア演習 II (理学療法学)」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習 I・II により修得する。

② 作業療法学系

「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」により、発達過程における作業療法学に関連する文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。また、「人間発達ケア

ア ケア提供システム分野

「ケア提供システム特論」、「ケア提供システム演習Ⅱ」 ステム演習Ⅰ」、「ケア提供システム演習Ⅲ」 を通して、保健医療福祉システム、システム マネジメントに関する問題を発見し、課題 を設定し、文献検索、批判的吟味を行い、研 究計画を立案し倫理審査を受ける。

イ 人間発達ケア分野

「人間発達ケア特論」により人間の発達 段階における諸課題を共通に学修したうえ で、演習では理学療法学、作業療法学、母子 看護学の専門分野に分化して担当教員によ る指導を通して、それぞれの専分野域に関 連した様々な人間の発達段階における健康 に関する研究課題を設定し、文献検索、批判 的吟味を行い、研究計画を立案し倫理審査 を受ける。

① 理学療法学系

「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」により、発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。また、「人間発達ケア演習 II (理学療法学)」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、研究計画の立案、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

② 作業療法学系

「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」により、発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。また、「人間発達ケア演習 II (作業療法学)」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、研究計画の立案、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

演習Ⅱ(作業療法学)」により、担当教員が | ③ 母子看護学系 専門とする研究・実務経験を活かして、実 践の場における支援方法の問題点を明ら かにする過程の学修を通して研究に必要 なプロセスを修得する。研究に必要なプロ セスを演習 I・Ⅱにより修得する。

③ 母子看護学系

「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」に より、発達過程における母子看護学に関連 する文献検索を通してエビデンスを構築 する過程を学修する。また、「人間発達ケア 演習Ⅱ(母子看護学)」により、担当教員が 専門とする研究・実務経験を活かして、実 践の場における支援方法の問題点を明ら かにする過程の学修を通して研究に必要 なプロセスを修得する。研究に必要なプロ セスを演習 I・Ⅱにより修得する。

ウ 健康コミュニティ分野

「健康コミュニティ特論」により、コ ミュニティの特性や健康課題を踏まえ た特定集団の健康への支援と研究に必 要な理論と方法論を学修する。「健康コ ミュニティ演習 I」により、<u>文献検索を</u> 通してエビデンスを構築する過程を学 修する。「健康コミュニティ演習Ⅱ」に より、実践の場における支援方法の問題 点を明らかにする過程の学修を通して 研究に必要なプロセスを修得する。研究 に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修 得する。

(3) 特別研究科目

特別研究科目は、共通科目と専門科目を基 礎として、1年次後期から2年次通期に履修 する。学生は、自身の研究課題を練り上げ、 研究計画を指導教員の下に立案、実施し、-

「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」に より、発達過程における母子看護学に関連 する研究課題を明確化し、研究デザインの 選定、プロトコルの作成までを学修する。 また、「人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)」 により、担当教員が専門とする研究・実務 経験を活かして、研究計画の立案、研究倫 理審査までの過程を取り上げる。

ウ 健康コミュニティ分野

「健康コミュニティ特論」、「健康コミ ユニティ演習I」、「健康コミュニティ演 習Ⅱ」演習を通して、公衆衛生分野又は 社会調査に関する研究課題を設定し、文 献検索、批判的吟味を行い、研究計画を 立案し倫理審査を受ける。

(3) 特別研究科目

特別研究科目は、2年次通期の履修とし、 学生は、作成した研究計画に基づき、研究指 導教員の指導の下に研究手法を学修し、デー タ収集、入力、解析を行い、その結果を修士 論文としてまとめ、修士論文審査を受ける。

<u>連の成果を</u>論文としてまとめ、修士論文審査を受ける。

2 教育課程の編成の特色

(2) 専門科目

専門科目には次のとおり3種類の養成する人材像に沿った専門職を育成するため、医学、看護学、理学療法学、作業療法学などを基盤にした看護・リハビリテーション領域の14科目と特別研究を配置し、それぞれの専門分野の研究を深める科目を配置している。

「保健学総論」は、必修科目で、多職種 協働による「誰一人として取り残さない地 域社会」の構築を志向する保健医療福祉関 連職に必要となる基礎知識を学修するた めに、学際的視野に基づいて医学、看護学、 理学療法学、作業療法学の基本的学理を学 修することとしている。

養成する人材像に沿った「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の専門職を育成するため、それぞれ特論、それに関連する演習Ⅰ、演習Ⅱの3科目を配置し、選択必修科目として、自ら選択した研究課題に応じることとしている。

ア ケア提供システム分野

「ケア提供システム特論」では、わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論、ならびに地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学修する。

「ケア提供システム演習 I 」では、医療

2 教育課程の編成の特色

(2) 専門科目

専門科目には次のとおり3種類の養成する人材像に沿った専門職を育成するため、医学、看護学、理学療法学、作業療法学などを基盤にした看護・リハビリテーション領域の14科目と特別研究を配置し、それぞれの専門分野の研究を深める科目を配置している。

「保健学総論」は、必修科目で、多職種 協働による「誰一人として取り残さない地 域社会」の構築を志向する保健医療福祉関 連職に必要となる基礎知識を学修するた めに、学際的視野に基づいて医学、看護学、 理学療法学、作業療法学の基本的学理を学 修することとしている。

養成する人材像に沿った「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の専門職を育成するため、それぞれ特論、それに関連する演習 I、演習 II の 3 科目を配置し、選択必修科目として、自ら選択した研究課題に応じることとしている。

ア ケア提供システム分野

「ケア提供システム特論」では、わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論、ならびに地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学修する。

「ケア提供システム演習I」では、医療

現場における組織を動かすこと及びケア 提供における倫理・コミュニケーションに 関連した研究課題、後遺障害を持ちながら 社会参加する人々の健康支援に関する研 究課題を選択した学生は、テーマに沿った 研究論文の系統的なレビューにより情報 収集能力と分析力を高め、内外の最新知見 を入手し有用なエビデンスを検討する。ま た、関連する先行研究のレビューレポート を作成し発表する。

「ケア提供システム演習Ⅱ」では、医療 現場における組織を動かすこと及びケア 提供における倫理・コミュニケーションに 関連した研究課題、後遺障害を持ちながら 社会参加する人々の健康支援に関する研究課題を選択した学生は、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。

イ 人間発達ケア分野

「人間発達ケア特論」では、様々なライフステージ(発達段階)において健康課題を持つ人々の生活を支える包摂的な支援を多職種連携チームにより提供する際の問題に関する研究を行う上で必要となる知識、理論、方法論を学修する。

「人間発達ケア特論」を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学の視点から様々なライフステージにおける健康課題(例えば妊娠出産、乳幼児保育、壮年期の生活習慣病、スポーツ活動、高齢者の運動器機能障害、担癌、循環器疾患、神経疾患患者のリハビリテーションなど)を持つ人々の機能回復、健康増進、生活を支える包摂的な支援に関する研究を行うため、3つのコース別に演習Ⅰ及び演習Ⅱを

現場における組織を動かすこと及びケア 提供における倫理・コミュニケーションに 関連した研究課題、後遺障害を持ちながら 社会参加する人々の健康支援に関する研 究課題について、テーマに沿った研究論文 の系統的なレビューにより情報収集能力 と分析力を高め、内外の最新知見を入手し て自らの研究テーマの抽出につなげる。選 択した課題を実証的に検証する方法につ いて検討し、研究を進めるための条件を整 える。

「ケア提供システム演習Ⅱ」では、医療 現場における組織を動かすこと及びケア 提供における倫理・コミュニケーションに 関連した研究課題、後遺障害を持ちながら 社会参加する人々の健康支援に関する研 究課題について、学生が選択した自己の研 究課題について、研究計画書を完成させ て、研究倫理審査を受ける。

イ 人間発達ケア分野

「人間発達ケア特論」では、様々なライフステージ (発達段階) において健康課題を持つ人々の生活を支える包摂的な支援を多職種連携チームにより提供する際の問題に関する研究を行う上で必要となる知識、理論、方法論を学修し、研究課題設定につなげる。

「人間発達ケア特論」を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学の視点から様々なライフステージにおける健康課題(例えば妊娠出産、乳幼児保育、壮年期の生活習慣病、スポーツ活動、高齢者の運動器機能障害、担癌、循環器疾患、神経疾患患者のリハビリテーションなど)を持つ人々の機能回復、健康増進、生活を支える包摂的な支援に関する研究を行うた

配置している。

- ① 「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」 では、実務経験から捉えた理学療法学に 関連する発達過程における研究課題を選 択した学生は、テーマに沿った研究論文 の系統的なレビューにより情報収集能力 と分析力を高め、内外の最新知見を入手 し有用なエビデンスを検討する。担当教 員の専門性に応じて、人間の発達過程に おける肢体不自由に関連する研究課題、 人間の発達過程における障害に関する支 援機器の役割等に関連する研究課題、運 動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連 した理学療法学の研究課題、動作解析、 運動機能評価、運動機能維持、ロコモテ ィブシンドロームなどに関連した理学療 法学の研究課題を設定する。「人間発達ケ ア演習Ⅱ(理学療法学)」では、実践の場 における支援方法の問題点を明らかにす るため、保健統計や施策を含めて幅広く 理解し、必要な支援方法と課題について 理解する。
- ② 「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」では、実務経験から捉えた作業療法学に関連する発達過程における研究課題を選択した学生は、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。自らの研究対象に応じて、作業療法の介入と効果の研究分野、脳機能と作業療法に関する研究分野、超高齢化社会における社会参加に関する研究分野、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究分野に関連する研究課題、人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連

- め、3 つのコース別に演習 I 及び演習 I を配置している。
- ① 「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」 では、実務経験から捉えた理学療法学に 関連する発達過程における研究課題を明 確化し、関連文献をレビューし、仮説設 定、概念の操作的定義、研究フィールド、 研究デザインの選定、対象の選定基準、 測定変数、測定評価尺度、統計的解析方 法などを検討し、プロトコルを作成する までの過程を学修する。担当教員の専門 性に応じて、人間の発達過程における肢 体不自由に関連する研究課題、人間の発 達過程における障害に関する支援機器の 役割等に関連する研究課題、運動療法学、 組織学、骨格筋生理学に関連した理学療 法学の研究課題、動作解析、運動機能評 価、運動機能維持、ロコモティブシンド ロームなどに関連した理学療法学の研究 課題を設定する。「人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)」では、演習 I で専門分化 した研究課題について研究計画を仕上 げ、人を対象とする研究における倫理規 程等に沿って作成し、研究倫理審査を受 審し、プロトコルを完成させる。
- ② 「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」では、実務経験から捉えた作業療法学に関連する発達過程における研究課題を明確化し、関連文献をレビューし、仮説設定、概念の操作的定義、研究フィールド、研究デザインの選定、対象の選定基準、測定変数、測定評価尺度、統計的解析方法などを検討し、プロトコルを作成するまでの過程を学修する。自らの研究対象に応じて、作業療法の介入と効果の研究分野、脳機能と作業療法に関する研究分野、超高齢化社会における社会参加に関

する研究課題に分かれて実践的研究手法に結び付ける演習を行う。「人間発達ケア演習 II (作業療法学)」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。

③ 「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」 では、発達過程における小児・母子を中 心とした看護学に関連する研究課題を選 択した学生は、テーマに沿った研究論文 の系統的なレビューにより情報収集能力 と分析力を高め、内外の最新知見を入手 し有用なエビデンスを検討する。自らの 研究対象に応じて、発達過程におけるリ プロダクティブヘルス・ライツ、及び発 達過程での感染症の実態と予防(HIV 含む)に関連する研究課題、乳幼児期・ 小児期に関連する研究課題に分かれて研 究・実務経験を活かした演習を行う。「人 間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)」では、 実践の場における支援方法の問題点を明 らかにするため、保健統計や施策を含め て幅広く理解し、必要な支援方法と課題 について理解する。発達過程におけるリ プロダクティブヘルス・ライツ、及び発 達過程での感染症の実態と予防(HIV 含む) に関連する研究課題については、 教員が共同で演習を行う。

ウ 健康コミュニティ分野

「健康コミュニティ特論」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的 (inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団)の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領

する研究分野、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究分野に 関連する研究課題、人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・ 福祉工学、応用健康科学に関連する研究 課題に分かれて実践的研究手法に結び付ける演習を行う。「人間発達ケア演習II (作業療法学)」では、演習Iで専門分化した研究課題ごとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受審し、プロトコルを完成させる。

③ 「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」 では、発達過程における小児・母子を中 心とした看護学に関連する研究課題を明 確化し、関連文献のレビュー、臨床のフ ィールドワーク、研究枠組みの明確化と 概念定義、仮説の明確化、研究デザイン の選定、プロトコルの作成までを学修す る。自らの研究対象に応じて、発達過程 におけるリプロダクティブヘルス・ライ ツ、及び発達過程での感染症の実態と予 防(HIV含む)に関連する研究課題、 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に 分かれて研究・実務経験を活かした演習 を行う。「人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護 学)」では、演習 I で専門分化した研究課 題ごとに、研究計画を仕上げ、研究倫理 審査を受審し、プロトコルを完成させる。 発達過程におけるリプロダクティブヘル ス・ライツ、及び発達過程での感染症の 実態と予防(HIV含む)に関連する研 究課題については、教員が共同で演習を 行う。

ウ 健康コミュニティ分野

「健康コミュニティ特論」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働

域の研究につなげる。

「健康コミュニティ演習 I」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団)の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討し、コミュニティにおける包摂的な (inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

「健康コミュニティ演習II」では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的 (inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。

(3) 特別研究科目

「保健学特別研究」では、共通科目、保健学総論、保健学専攻の講義科目、演習を踏まえ、実践・研究・教育を発展させるための専門分野の研究課題を練り上げ、研究計画を研究指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文としてまとめる。論文作成過程を通じて、情報活用力、データ解析力、問題発見と解決能力、研究開発能力、研究者としての判断力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を養い、保健学における高度な知識・技術の集大成を図る。

による包摂的 (inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団) の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論、を学修し、関心分野の研究につなげる。

「健康コミュニティ演習 I」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な(inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々(特定集団)の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心分野の研究につなげる。

「健康コミュニティ演習II」では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的 (inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Iで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。

(3) 特別研究科目

「保健学特別研究」では、共通科目、保健学総論、保健学専攻の講義科目、演習を踏まえ、実践・研究・教育を発展させるための専門分野の研究課題について作成した研究計画に沿って、研究指導教員により、研究方法を探求した上で研究を実践し、修士論文を作成するための指導を行う。論文作成過程を通じて、情報活用力、データ解析力、問題発見と解決能力、研究開発能力、研究者としての判断力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を養い、保健学における高度な知識・技術の集大成を図る。

(新旧対照表)教育課程等の概要

新	旧
特別研究科目	特別研究科目
配当年次 1後~2通	配当年次 2通
別紙6 教育課程等の概要 新	別紙6 教育課程等の概要 旧

(如口台四字) 核类划口の栖用	
(新旧対照表)授業科目の概要 新	lii lii
トーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ケア提供システム演習 I
医療サービス・マネジメントに関連するリ	 テーマに沿った研究論文の系統的なレビ
サーチクエスチョンに沿った研究論文の系	 ューにより情報収集能力と分析力を高め、内
統的なレビューにより情報収集能力と分析	 外の最新知見を入手して自らの研究テーマ
力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエ	 の抽出につなげる。選択した課題を実証的に
 ビデンスを検討する。またリサーチクエスチ	 検証する方法について検討し、研究を進める
ョンに関連する先行研究のレビューレポー	 ための条件を整える。
	 本演習は研究課題に基づき、担当する教員
	 の指導により進める。
の指導により進める。	
<u></u> ケア提供システム演習 II	ケア提供システム演習Ⅱ
 授業科目の概要	 授業科目の概要
医療サービス・マネジメントに関連する研	 学生が選択した自己の研究課題について、
	 研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受
広く理解するとともに、必要な支援方法と課	ける。
題について理解する。	本演習は、研究課題に基づき、担当する教
本演習は研究課題に基づき、担当する教員	員の指導により進める。
の指導により進める。	
人間発達ケア演習 I (理学療法学)	人間発達ケア演習 I (理学療法学)
発達過程における理学療法学に関連す	発達過程における理学療法学に関連する
る <u>リサーチクエスチョンに沿った研究論文</u>	研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、
の系統的なレビューにより情報収集能力と	臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確
分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用	化と概念定義、仮設の明確化、研究デザイン
なエビデンスを検討する。またリサーチクエ	の選定、プロトコルの作成までを学修する。
スチョンに関連する先行研究のレビューレ	本演習は、担当教員が専門とする研究・実
ポートを作成し、発表する。	務経験を活かして、演習や学生支援を行う。
本演習は研究課題に基づき、担当する教員	
<u>の指導により進める。</u>	
人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する 研究課題について、保健統計や施策を含めて 幅広く理解するとともに、必要な支援方法と 課題について理解する。

本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

発達過程における作業療法学に関連する リサーチクエスチョンに沿った研究論文の 系統的なレビューにより情報収集能力と分 析力を高め、内外の最新知見を入手し有用な エビデンスを検討する。またリサーチクエス チョンに関連する先行研究のレビューレポ ートを作成し、発表する。

本演習は研究課題に基づき、担当する教員 の指導により進める。

人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学) 授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。

本演習は研究課題に基づき、担当する教員 の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

発達過程における母子・家族を中心とした 看護学に関連する<u>リサーチクエスチョンに</u> 沿った研究論文の系統的なレビューにより 情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知 見を入手し有用なエビデンスを検討する。ま たリサーチクエスチョンに関連する先行研 究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員 の指導により進める。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) 授業科目の概要

授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教 員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。

本演習は、担当教員が専門とする研究・実 務経験を活かして、演習や学生支援を行う。

人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学) 授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教 員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

発達過程における小児・母子を中心とした 看護学に関連する研究課題を明確化し、関連 文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、 研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確 化、研究デザインの選定、プロトコルの作成 までを学修する。

本演習は、担当教員が専門とする研究・実 務経験を活かして、講義や学生支援を行う。

人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学) 授業科目の概要 発達過程における母子・家族を中心とした 看護学に関連する研究課題<u>について保健統</u> 計や施策を含めて幅広く理解するとともに、 必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員 の指導により進める。 発達過程における小児・母子を中心とした 看護学に関連する研究課題の中から学生が 選択した自己の研究課題について、研究計画 を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上 げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教 員の指導により進める。

健康コミュニティ演習 I

本講座では、コミュニティの特性や健康 課題を踏まえた、協働による包摂的な

(inclusive)支援や、コミュニティに暮ら す人々 (特定集団)の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。

プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

健康コミュニティ演習I

健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的 (inclusive) な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、研究枠組みの明確化、概念定義および仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。

本演習では、公衆衛生学の視点からの研究 および社会調査や評価指標の開発などの手 法を用いた研究を対象とするため、開講前に 学生の研究課題もしくは関心のある課題に ついてヒアリングし、該当する課題を研究す る教員を中心に進める。

健康コミュニティ演習Ⅱ

授業科目の概要

本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習

健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要

本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Iで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。

により探求する。	本演習は、人々の健康への支援に関連する
	研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験
	を活かして演習を行う。
保健学特別研究	保健学特別研究
研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論
の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論	の履修により学んだ学識と技能を用いて、指
文にまとめる。 論文作成過程を通じて、高度	導教員による直接指導のもとに、専門科目の
な知識・技術の集大成を図る。	演習において作成し倫理審査を経た研究プ
	ロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文
	としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を
	行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・
	技術の集大成を図る。
別紙9 授業科目の概要 新	別紙9 授業科目の概要 旧

(新旧対照表) シラバス (保健学特別研究)

新	旧
配当年次 1年次~2年次	配当年次 2年次
配当学期 後期(1年次)通期(2年次)	配当学期 通期
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) シラバス

新	旧
ケア提供システム演習I	ケア提供システム演習 I
授業科目の概要	授業科目の概要
医療サービス・マネジメントに関連するリ	テーマに沿った研究論文の系統的なレビ
サーチクエスチョンに沿った研究論文の系	ューにより情報収集能力と分析力を高め、内
統的なレビューにより情報収集能力と分析	外の最新知見を入手して自らの研究テーマ
力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエ	の抽出につなげる。選択した課題を実証的に
ビデンスを検討する。またリサーチクエスチ	検証する方法について検討し、研究を進める
ョンに関連する先行研究のレビューレポー	ための条件を整える。
トを作成し、発表する。	本演習は研究課題に基づき、担当する教員
本演習は研究テーマに基づき、担当する教	の指導により進める。
員の指導により進める。	
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ
授業科目の概要	授業科目の概要
医療サービス・マネジメントに関連する研	学生が選択した自己の研究課題について、
究課題について、保健統計や施策を含めて幅	研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受

広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。

本演習は、研究テーマに基づき、担当する 教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (理学療法学) 授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する リサーチクエスチョンに沿った研究論文の 系統的なレビューにより情報収集能力と分 析力を高め、内外の最新知見を入手し有用な エビデンスを検討する。またリサーチクエス チョンに関連する先行研究のレビューレポ ートを作成し、発表する。

本演習は研究テーマに基づき、担当する教 員の指導により進める。

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する研究課題<u>について、保健統計や施策を含めて</u>幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。

本演習は、研究テーマに基づき、担当する 教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (作業療法学) 授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する リサーチクエスチョンに沿った研究論文の 系統的なレビューにより情報収集能力と分 析力を高め、内外の最新知見を入手し有用な エビデンスを検討する。またリサーチクエス チョンに関連する先行研究のレビューレポ ートを作成し、発表する。

本演習は研究テーマに基づき、担当する教 員の指導により進める。_

人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)

授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する

ける。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (理学療法学) 授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。

本演習は、担当教員が専門とする研究・実 務経験を活かして、演習や学生支援を行う。

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学) 授業科目の概要

発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (作業療法学) 授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。

本演習は、担当教員が専門とする研究・実 務経験を活かして、演習や学生支援を行う。

人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学) 授業科目の概要

発達過程における作業療法学に関連する

研究課題について、<u>保健統計や施策を含めて</u> 幅広く理解するとともに、必要な支援方法と 課題について理解する。

本演習は、研究テーマに基づき、担当する 教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (母子看護学) 授業科目の概要

発達過程における母子・家族を中心とした 看護学に関連する<u>リサーチクエスチョンに</u> 沿った研究論文の系統的なレビューにより 情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知 見を入手し有用なエビデンスを検討する。ま たリサーチクエスチョンに関連する先行研 究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究テーマに基づき、担当する教 員の指導により進める。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) 授業科目の概要

発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題<u>について保健統計や施策を含めて幅広く理解するととも</u>に、必要な支援方法と課題について理解する。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教 員の指導により進める。

健康コミュニティ演習I

授業科目の概要

本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な(inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々(特定集団)の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。

研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。

人間発達ケア演習 I (母子看護学) 授業科目の概要

発達過程における小児・母子を中心とした 看護学に関連する研究課題を明確化し、関連 文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、 研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確 化、研究デザインの選定、プロトコルの作成 までを学修する。

本演習は、担当教員が専門とする研究・実 務経験を活かして、講義や学生支援を行う。

人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学) 授業科目の概要

発達過程における小児・母子を中心とした 看護学に関連する研究課題の中から学生が 選択した自己の研究課題について、研究計画 を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上 げる。

本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。

健康コミュニティ演習 I 授業科目の概要

本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団)の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と 方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。

プレゼンテーション演習を通して、特定の コミュニティ・対象集団についての理解を深 め、コミュニティにおける包摂的な プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

健康コミュニティ演習Ⅱ

授業科目の概要

本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題<u>について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。</u>

本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。

健康コミュニティ演習Ⅱ

授業時間外の学習情報(事前学習)

演習は、学生と教員<u>との</u>ディスカッション、学生のプレゼンテーション、フィールドでの演習により進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。

保健学特別研究

授業科目の概要

研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員 の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論 文としてまとめる。論文作成過程を通じて、 保健学における高度な知識・技術の集大成を 図る。

健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要

本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Iで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。

本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。

健康コミュニティ演習Ⅱ

授業時間外の学習情報(事前学習)

演習は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。

保健学特別研究

授業科目の概要

共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。

(新旧対照表) シラバス 授業計画

(利用が無数) マノバハ 12米可凹	
新	旧
ケア提供システム演習I	ケア提供システム演習 I
1~10. 医療サービスマネジメントのリサー	1~4. 課題の明確化とその範囲の特定
チクエスチョンに沿った系統的文献レビュ	5~10. 関心のある領域の系統的文献レビュ
<u>-</u>	<u> </u>
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	11~16. 研究テーマに適した研究方法の検討
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	の明確化
ディスカッションを含む)_	23~30. 研究デザインを元にプロトコルの作
21~25. 医療サービスマネジメントにおける	成
有用なエビデンスの検討	
26~30. 先行研究のレビューレポートの作成	
と発表、討議	
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ
1~4. 医療サービスマネジメントに関わる保	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
健・医療・福祉の動向と現状の理解	ロトコル作成
5~8. 医療サービスマネジメントに関する学	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
問の動向の理解	準と除外基準の明確化
9~16. 医療サービスマネジメントに関わる	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
実践・教育・研究の現状と課題の探求	研究の場合は、面接・観察法の訓練
17~24. 医療サービスマネジメントに関わる	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
支援方法と課題の探求	書、同意文書、同意撤回文書の作成
25~30. 医療サービスマネジメントに関わる	25~30. 研究計画書の作成
実践・教育・研究・支援方法の課題発表およ	
<u>び討議</u>	
人間発達ケア演習 I (理学療法学)	人間発達ケア演習 I (理学療法学)
1~10. 発達過程における理学療法学のリサ	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
<u>ーチクエスチョンに沿った系統的文献レビ</u>	5~10. 関連文献のレビュー
<u> </u>	11~16. 臨床フィールドワークの着手
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	の明確化
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	23~26. 研究デザインと研究計画
ディスカッションを含む)	27~28. デザインの選択
21~25. 発達過程における理学療法学におけ	29~30. 介入のためのプロトコル作成

る有用なエビデンスの検討	
$26\sim30$. 先行研究のレビューレポートの作成	
と発表、討議	
人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)
1~4. 理学療法学に関わる保健・医療・福祉	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
の動向と現状の理解	ロコル作成
5~8. 理学療法学の動向の理解	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
9~16. 理学療法学に関わる実践・教育・研究	準と除外基準の明確化
の現状と課題の探求	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
17~24. 理学療法学に関わる支援方法と課題	研究の場合は、面接・観察法の訓練
の探求	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
25~30. 理学療法学に関わる実践・教育・研	書、同意文書、同意撤回文書の作成
究・支援方法と課題発表および討議	25~30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習 I (作業療法学)	人間発達ケア演習 I (作業療法学)
1~10. 発達過程における作業療法学のリサ	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
ーチクエスチョンに沿った系統的文献レビ	5~10. 関連文献のレビュー
<u> </u>	11~16. 臨床フィールドワークの着手
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	の明確化
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	23~24 研究デザインと研究計画
ディスカッションを含む)_	25~26. デザインの選択
21~25.発達過程における作業療法学におけ	27~30.介入のためのプロトコル作成
る有用なエビデンスの検討	
26~30. 先行研究のレビューレポートの作成	
と発表、討議	
人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)
1~4.作業療法学に関わる保健・医療・福祉	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
の動向と現状の理解	ロトコル作成
5~8. 作業療法学の動向の理解	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
9~16. 作業療法学に関わる実践・教育・研究	準と除外基準の明確化
の現状と課題の探求	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
17~24.作業療法学に関わる支援方法と課題	研究の場合は、面接・観察法の訓練
の探求	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
25~30. 作業療法学に関わる実践・教育・研	書、同意文書、同意撤回文書の作成
究・支援方法と課題発表および討議	25~30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習 I (母子看護学)	人間発達ケア演習 I (母子看護学)
1~10. 発達過程における母子・家族を中心と	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
	<u> </u>

<u>した看護学のリサーチクエスチョンに沿っ</u> た系統的文献レビュー

11~20. 文献クリティーク(リサーチクエス チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と 妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、 ディスカッションを含む)

21~25. 発達過程における母子・家族を中心 とした看護学における有用なエビデンスの 検討

<u>26~30. 先行研究のレビューレポートの作成</u> と発表、討議

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) (坂口・林)

1~4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解

<u>5~8. リプロダクティブへルス (性感染症)</u> の動向の理解

9~16. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17~24. リプロダクティブヘルス・ライツに 関わる支援方法と課題の探求

25~30. リプロダクティブヘルス・ライツに 関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発 表および討議

人間発達ケア演習 II (母子看護学) (樋貝)

1~4. 乳幼児期・小児期に関わる母子保健・ 医療・福祉の動向と現状の理解

5~8. 小児看護学の動向の理解

9~16. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・ 研究の現状と課題の探求

17~24.乳幼児期・小児期に関わる支援方法 と課題の探求

25~30. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議

5~10. 関連文献のレビュー

の明確化

11~16. 臨床フィールドワークの着手 17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説

23~26. 研究デザインと研究計画 27~28. データ分析の予備的検討 29~30. 介入のためのプロトコル作成

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) (坂口・林)

1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成

5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化

9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的 研究の場合は、面接・観察法の訓練

19~24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25~30. 研究計画書の作成

人間発達ケア演習 II (母子看護学) (樋貝)

1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成

5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化

9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的 研究の場合は、面接・観察法の訓練

19~24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25~30. 研究計画書の作成 健康コミュニティ演習I

1. オリエンテーション

2~6. 関心のあるリサーチクエスチョンに沿

った系統的文献レビュー

11~16. 文献クリティーク (リサーチクエス

チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と

妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、

ディスカッションを含む)

17~20. "プレゼンテーション

21. 関心のあるリサーチクエスチョンにおけ

る有用なエビデンスの検討

22~25. "プレゼンテーション

26~29. 先行研究のレビューレポートの作成

と発表、討議.

30. まとめ

理解

健康コミュニティ演習Ⅱ

1. オリエンテーション

2~3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の

 $6\sim10$. 健康上の問題を抱える人々あるいは

障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関

する現状と課題の理解

11~15. " プレゼンテーション・ディスカ ッション

16~18. 健康上の問題を抱える人々あるいは

障害を持つ人々への支援内容と効果的な支

援方法に関する研究の現状と課題の探求

19~20. "プレゼンテーション・ディスカ

ッション

21~22.健康上の問題を抱える人々あるいは 障害を持つ人々への必要な支援内容と効果

的な支援方法の探求.

23~24. "プレゼンテーション・ディスカ

健康コミュニティ演習I

1. オリエンテーション

2. 課題の明確化とその範囲の限定

3. 1.

4~6. 関連文献のレビュー

7∼10. "

11~14. フィールドワーク(プレ調査、フィールドの選定と確保)

15~17. "

18~20. 研究枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化。

21~24. "

最終報告

25~28. 研究デザインの選定と研究プロトコルの作成

29~30. "

最終報告

健康コミュニティ演習Ⅱ

1. オリエンテーション

2~3. 研究目的、研究対象者(選考基準、除 外基準)の特定

4. "

5~6. 研究デザインの特定と研究プロトコル の作成

7∼8. "

9~14. 研究方法の具体化(測定法、

15~20. *"*

21~22. 研究倫理について: 依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成.

23~24. "

25~27. 研究計画書の作成

28~29. *II*

30. 研究計画書の発表

ッション	
25~27. 健康上の問題を抱える人々あるいは	
障害を持つ人々に求められる支援策、必要と	
される研究の探求	
28~29.	
<u>ッション</u>	
<u>30. まとめ</u>	
保健学特別研究	保健学特別研究
1~30. 研究計画書の作成:研究課題の決定、	. 研究計画書に基づく研究の実施
研究計画書の作成、倫理審査申請	. データの収集、データの入力及びデータの
31~78. 研究の実施:調査・実験、データ収	解析
<u>集</u>	. データ結果の取りまとめ
<u>79~94. データ入力</u>	. 論文作成
95~110. データ解析と考察	. プレゼンテーションの準備
<u>111~142. 論文作成</u>	. 修士論文の提出
<u>143~150. 修士論文の提出:プレゼンテーシ</u>	
ョン等発表準備	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) 学則 別表 1 教育課程

新	旧
特別研究科目	特別研究科目
配当年次 1後~2通	配当年次 2通
別紙7 学則 別紙1 新	別紙7 学則 別紙1 旧

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料17 時間割表

新	旧
大学院1年目時間割表(後期)	大学院1年目 時間割表(後期)
土曜日 1、2限 保健学特別研究	土曜日 (空欄)
設置の趣旨等を記載した書類	設置の趣旨等を記載した書類
別紙 10 資料 17 時間割表 新	別紙 10 資料 17 時間割表 旧

(3)「英語文献講読」について、大学院教育にふさわしい科目名称、内容について

審査意見を考慮し、科目の内容を全体的に見直した結果、授業科目の概要について、「リハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。」としていたものを、「英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学及び看護学に関する論文をクリティカルに読み論理的かつ的確に発表できる力を養う。」と修正し、科目名称を「医学英語研究」に修正した。

また、理学療法学、作業利用法学、看護学に関する英語論文をクリティカルに読みプレゼンテーションにより討議する講義では、担当する理学療法学、作業療法学、看護学の専任教員がこの科目の担当教員と一部共同により行い授業効果を上げることとした。

また、「医療コミュニケーション論」について、審査意見を考慮し内容を検討した結果、大学院教育にふさわしい内容とするため、授業計画に「論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎」を取り上げることとした。

(新旧対照表)教育課程等の概要

新	旧
共通科目	共通科目
医療英語研究	英語文献講読
別紙6 教育課程等の概要 新	別紙6 教育課程等の概要 旧

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	I
共通科目	共通科目
医療英語研究	英語文献講読
内容	内容
医療・医学に関する英語文献を講読し、そ	医療・医学に関する英語文献を講読し、そ
の読解力を養うとともに、医療・医学に関わ	の読解力を養うとともに、医療・医学に関わ
る基礎的・専門的知識およびその英語特有の	る基礎的・専門的知識およびその英語特有の
規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英	規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英
語を規則等にも注目して読み、後半は <u>英語の</u>	語を規則等にも注目して読み、後半はリハビ
文献検討力を養うため、リハビリテーション	リテーション学と看護学に関する論文紹介
学と看護学に関する英語論文をクリティカ	のプレゼンテーションをグループで行うこ
ルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表	とによりクリティカルに読む姿勢を養う。
<u>できる力</u> を養う。	
別紙9 授業科目の概要 新	別紙9 授業科目の概要 旧

(新旧対照表) シラバス

新	旧
目次	目次
医療英語研究	英語文献講読
6ページ	6ページ
授業科目 医療英語研究	授業科目 英語文献講読
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) 学則 別表1

新	旧
共通科目	共通科目
医療英語研究	英語文献講読
別紙7 学則 別表1 新	別紙7 学則 別表1 旧

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料17

新	旧
1ページ 大学院1年目	1ページ 大学院1年目
土曜日 5時限 医療英語研究	土曜日 5時限 英語文献講読
3ページ 科目別授業時間等	3ページ 科目別授業時間等
共通科目 医療英語研究	共通科目 英語文献講読
設置の趣旨等を記載した書類	設置の趣旨等を記載した書類
別紙 10 資料 17 時間割表 新	別紙 10 資料 17 時間割表 旧

(新旧対照表) シラバス 授業計画

新	旧
医療英語研究	英語文献講読
1. 医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解	1. 医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解
し、Cell, Organ, and Systemを読む。	し、Cell, Organ, and Systemを読む。
2. ラテン語またはギリシャ語に由来する複	2. ラテン語またはギリシャ語に由来する複
数形の作り方を理解し、Circulatory System	数形の作り方を理解し、Circulatory System
を読む。	を読む。
3. Respiratory System を読み、呼吸器系に	3.Respiratory System を読み、呼吸器系に
関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解す	関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解す
る。	る。
4.Digestive System を読み、消化器系に関	4.Digestive System を読み、消化器系に関
する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。
5.Urinary System を読み、泌尿器系に関す	5.Urinary System を読み、泌尿器系に関す

る語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 6. Nervous System と Musculoskeletal System を読み、神経系と筋骨格系に関する 語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。

7. 英語文献について、アブストラクト、本文、 文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から 医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。

8. 保健学分野の基本的な英語文献 1 編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。 9. 前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。 10. 理学療法学に関する英語文献を選択し、 その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。

11. 前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。

12.作業療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙.表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。

13. 前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。

14. 看護学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。

15. 前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。

6. Nervous System と Musculoskeletal System を読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。7. 英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。8. 保健学分野の基本的な英語文献 1 編を読

る語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。

8. 保健学分野の基本的な英語文献 1 編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。 9. 前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。 10. 作業療法学分野の英語文献 1 編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。

11. 前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。

12. 理学療法学分野の英語文献 1 編を語彙・ 表現・構成に注目しながら読み、内容を理解 する。

13. 前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。

14. 看護学分野の英語文献 1 編を語彙・表現・ 構成に注目しながら読み、内容を理解する。 15. 前回扱った論文についてグループによる プレゼンテーションを行い、相互に評価す る。

医療コミュニケーション論

1. 医療コミュニケーション概論科学

医療コミュニケーション論

1. 医療コミュニケーション概論科学

- 2. 技術コミュニケーション-最新科学を一 般の人に伝える。
- 3. 臨床コミュニケーション ①-疾病を患 者・家族に理解させる。
- 4. 臨床コミュニケーション②-個人の病態 を本人・家族に伝える。
- 5. ヘルスライティング①-患者・家族に向け た支援文書作成
- 6. ヘルスライティング②-保健医療文書の 作成
- 7. ヘルスライティング③-発表会・総合討論 8. ヘルスコミュニケーション①-個人の行動 変容を促すコミュニケーション
- 9. ヘルスコミュニケーション②-集団の行 動変容を促すコミュニケーション
- 10. ヘルスコミュニケーション③-他職種連 携コミュニケーション
- 11. ヘルスコミュニケーション④-外国人患 者とのコミュニケーション
- 12. 論文発表のための英語によるプレゼン テーションの基礎
- 13. グループ組織のコミュニケーション
- 14. 患者・市民の啓発
- 15. まとめとグループ討論
- 別紙 11 シラバス 新

- 2. 技術コミュニケーション-最新科学を一 般の人に伝える。
- 3. 臨床コミュニケーション ①-疾病を患 者・家族に理解させる。
- 4. 臨床コミュニケーション②-個人の病態 を本人・家族に伝える。
- 5. ヘルスライティング①-患者・家族に向け た支援文書作成
- 6. ヘルスライティング②-保健医療文書の 作成
- 7. ヘルスライティング③-発表会・総合討論 8. ヘルスコミュニケーション①-個人の行動 変容を促すコミュニケーション
- 9. ヘルスコミュニケーション②-集団の行 動変容を促すコミュニケーション
- 10. ヘルスコミュニケーション③-他職種連 携コミュニケーション
- 11. ヘルスコミュニケーション④-外国人患 者とのコミュニケーション
- 12. ヘルスコミュニケーション⑤-まとめと 発表会
- 13. グループ組織のコミュニケーション
- 14. 患者・市民の啓発
- 15. まとめとグループ討論

別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) 授業科目の概要 医療コミュニケーション論

新

本講義の目的は、医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション)の理論と実践 を体系的に学習することにより、医療・保健 領域において患者、市民といったさまざまな 個人・集団に向けて適切なコミュニケーショ ンを可能にすることにある。その結果として 医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、

本講義の目的は、医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション)の理論と実践 を体系的に学習することにより、医療・保健 領域において患者、市民といったさまざまな 個人・集団に向けて適切なコミュニケーショ ンを可能にすることにある。その結果として 医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、 正しく情報収集することに役立てることに | 正しく情報収集することに役立てることに

旧

ある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために(1)コミュニケーションの基本理論(2)コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。

(③ 中島八十一/7回)

疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成や<u>論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎</u>を修得する。

ある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションの基本理論(2)コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。

(3 中島八十一/7回)

疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成の実務を修得する。

(4) 授業の到達目標についての審査意見を考慮してシラバスを全体的に見直した結果、到達目標は箇条書きとし、「自分の言葉で表現できる」、「できるようになる」、「理解する」、「使用法が分かる」、「修得する」など大学院教育の到達目標として不適切なものについて、「~を理解し、説明できる」、「~が行える」、「~を説明できる」、「~を論述できる」のように修正した。

また、演習と特別研究については、審査意見7(2)の審査意見を考慮して全体的に見直した結果、到達目標を授業科目の概要に合わせて全面的に修正した。

(新旧対照表) シラバス 到達目標

(利口対照衣) ンノハヘ 到達日保	
新	IΒ
医療倫理学	医療倫理学
1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要となる	1.講義を聞いて理解したことを自分の言葉
倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。	で表現できる。
2. 保健学の研究に必要となる倫理原則、行動	2. 学んだことを課題解決に反映できる。
規範を理解し、説明できる。	3. 学んだことを知りたい人に適切に伝える
3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動	ことができる。
において生じた倫理問題について整理し、倫	
理原則、行動規範をどのように当てはめるか	
について論述できる。	
4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を	
<u> 共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達</u>	
<u>することができる。</u>	
医療コミュニケーション論	医療コミュニケーション論
1. 出来事を他人が理解できる日本文として	1. 出来事を即座に日本語で書き、他人に理
記述できる。	解させることができるようになる。
2. 多くの人に分かりやすく日本語で話すこ	2. 多くの人を対象に等しく同じような理解
<u>とができる。</u>	に至るように日本語で話すことができるよ
3.他人の考えていることを正確に文書とし	うになる。
て記録できる。	3. 他人の考えていることを適切に引き出
	し、記録することができるようになる。
保健医療マネジメント論	保健医療マネジメント論
1. わが国における社会保障制度の特性を理	1. わが国における社会保障制度の特性を理
解し、説明できる。	解する。
2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・	2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・
政策を説明できる。	政策を理解する。
3. 高度実践家に <u>求め</u> られるマネジメント論	3. 高度実践家にもとめられるマネジメント
について論述できる。	論を学習する。

応用統計学

- 1. 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。
- 2. 医学統計(疫学統計、生物統計)の概念と解析結果を理解し、説明できる。
- 3. 心理統計(多変量解析、尺度構成)の概 念と解析結果を理解し、説明できる。
- 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。

医療英語研究

- 1. 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して<u>理解し、説明でき</u>る。
- 2. やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について理解し、説明できる。
- 3. 英語で書かれた医療分野の文献を ESP (English for Specific Purposes:専門分野別英語)の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる。

保健医療教育論

- 1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育に おける保健医療教育の歴史的変遷、並びに保 健医療教育の理論と実践についての<u>知識を</u> 体系的・系統的に理解し、説明できる。
- 2. この理論と実践の<u>往還作業</u>を通して、<u>保健</u> 医療教育論の系譜と今日的課題について説 明できる。

保健医療教育実践論

- 1. 保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。
- 2. 実践事例における保健医療の専門知識と 科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材と して再構成できる。

保健学総論

応用統計学

- 1. 統計学の基礎的な事項が理解できる。
- 2. 医学統計(疫学統計、生物統計)の概念 と解析結果が理解できる。
- 3. 心理統計(多変量解析、尺度構成)の概念と解析結果が理解できる。
- 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。

英語文献講読

大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようになった後に、英語で書かれた医療分野の文献を ESP (English for Specific Purposes:専門分野別英語)の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。

保健医療教育論

学部での基礎教育、卒後教育、現任教育に おける保健医療教育の歴史的変遷、並びに保 健医療教育の理論と実践についての基礎的 知識を修得する。この理論と実践の学びを通 して、保健医療教育の原理を探究し、人間理 解を深める。

保健医療教育実践論

本講義では、保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できるようになる。また、実践事例における保健医療の専門知識を理解し、教授できる指導力を修得する。

保健学総論

- 1. 医学、医療の動向を説明できる。
- 2. 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。
- 3. 各発達段階における健康課題を<u>理解し、</u> 説明できる。
- 4. 障害者の健康について説明できる。
- 5. 地域社会の健康課題について説明できる。
- 6. 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。

ケア提供システム特論

- 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。
- 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。

ケア提供システム演習I

- 1. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。_
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。

1. 医学、医療の動向を説明できる。

- 2. 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。
- 3. 各発達段階における健康課題を理解する。
- 4. 障害者の健康について説明できる。
- 5. 地域社会の健康課題について説明できる。
- 6. 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。

ケア提供システム特論

- 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を理解する。
- 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを理解する。

ケア提供システム演習I

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

ケア提供システム演習Ⅱ

- 1. 医療サービスマネジメントに関連する保 健・医療・福祉・教育の動向と現状について 理解し、説明できる。
- 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係 法規や様々な施策、取り組みについて理解

ケア提供システム演習Ⅱ

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程

- し、説明できる。
- 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・ 教育・研究の課題を探求できる。
- 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援 方法について理解するとともに、課題につい て探求できる。
- を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を 学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配 慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への 提出資料を完成する過程を学び、自己の課題 に係る研究計画書と研究倫理審査委員会へ の提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

- 1. 発達過程における理学療法学に関連する リサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研 究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 理学療法に有用なエビデンスを検討できる。

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

- 1. 発達過程における理学療法学に関連する 保健・医療・福祉・教育の動向と現状につい て理解し、説明できる。
- 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。
- 4. 理学療法学に関わる支援方法について理

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学

解するとともに、課題について探求できる。

- び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

- 1.発達過程における作業療法学に関連する リサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。_
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 作業療法学に有用なエビデンスを検討でき る。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)

題を探求できる。

- 1. 発達過程における作業療法学に関連する 保健・医療・福祉・教育の動向と現状につい て理解し、説明できる。
- 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課
- 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学

- び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

- 1. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、津瀬明できる。
- <u>4. リサーチクエスチョンに関連する先行研</u> 究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 母子・家族への看護に有用なエビデンスを検 討できる。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

- 1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状 について理解し、説明できる。
- 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、 取り組みについて理解し、説明できる。
- 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる 実践・教育・研究の課題を探求できる。
- 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる 支援方法について理解するとともに、課題に ついて探求できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を 学び、自己の課題に係る母集団を特定でき る。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提

出資料を完成する過程を学び、自己の課題に 係る研究計画書と研究倫理審査委員会への 提出資料を完成できる。

健康コミュニティ演習I

- 1. コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- <u>4. リサーチクエスチョンに関連する先行研</u> 究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 コミュニティとそこに暮らす人々への支援 に有用なエビデンスを検討できる。

健康コミュニティ演習Ⅱ

- 1. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、 説明できる。
- 2. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関わる関係法規 や様々な施策、取り組みについて理解し、説 明できる。
- 3 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関わる実践・教 育・研究の課題を探求できる。
- 4. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法について理解する とともに、課題について探求できる。

保健学特別研究

- 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。
- を作成して無理番疽を甲頭できる。
- 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。3. 収集したデータを入力し整理できる。
- 4. 整理したデータを解析できる。

健康コミュニティ演習 I

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することができる。
- 4. 研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。

健康コミュニティ演習Ⅱ

- 1. 自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。
- 2.人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 3. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

保健学特別研究

- 1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。
- 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。
- 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。

5. データに基づいた考察ができる。	
6. テーマに沿った修士論文を作成できる。	
7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼ	
ンテーション等の準備ができる。	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

【教育課程等】

8 <授業科目の評価方法が不明確>

授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- (1) 学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも 定められていないことから、適切に改めること。
- (2) シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。
 - ・「多職種連携論」では評価項目としてグループワーク参加状況が挙げられている。
 - ・「人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)」では、論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされており、特に「新規性」の項目は評価基準として不明確。

(対応)

(1) 学修成果の評価方法について

審査意見を考慮して見直した結果、学修評価について学生の理解を深めるため、期末試験、レポート、グループワークでの課題のプレゼンテーション・ディスカッションの内容等を個別に評価し、個別の評価結果を重みづけして総合評価する。重みづけの程度は、シラバスに明記することを方針とし、学修評価基準として適切な表現に修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12ページ)

新	旧
1 教育課程編成の考え方・実施の方針(カ	1 教育課程編成の考え方・実施の方針(カ
リキュラム・ポリシー)	リキュラム・ポリシー)

本研究科の教育目的は、地域の健康に関する課題を、科学的かつ包括的に分析し対応できる高度な専門職医療人及び専門職教育者を養成するとともに、保健医療福祉システムを学際的な視点から地域に貢献できる人材を育成することとしている。

本研究科におけるカリキュラム・ポリシーは、教育課程を高度な専門職医療人の基盤となる科目を配置する「共通科目」、看護・リハビリテーション領域として医学、看護学、

本研究科の教育目的は、地域の健康に関する課題を、科学的かつ包括的に分析し対応できる高度な専門職医療人及び専門職教育者を養成するとともに、保健医療福祉システムを学際的な視点から地域に貢献できる人材を育成することとしている。

本研究科におけるカリキュラム・ポリシーは、教育課程を高度な専門職医療人の基盤となる科目を配置する「共通科目」、看護・リハビリテーション領域として医学、看護学、

理学療法学、作業療法学を統合した学際的な保健学の知識を学修し、専門分化した内容をさらに探求するための「専門科目」、共通科目と専門科目で培った能力により科学的かつ包括的に分析し修士論文の作成として集大成を図る「特別研究科目」の科目区分とし、詳細を以下に示す。(資料9)

学修評価については、期末試験、レポート、 課題のプレゼンテーションやディスカッションの内容等を個別に評価し、個別の評価結果を重みづけして総合評価する。重みづけの程度は、シラバスに明記する。 理学療法学、作業療法学を統合した学際的な保健学の知識を学修し、専門分化した内容をさらに探求するための「専門科目」、共通科目と専門科目で培った能力により科学的かつ包括的に分析し修士論文の作成として集大成を図る「特別研究科目」の科目区分とし、詳細を以下に示す。(資料9)

(2) シラバスに記載されている評価方法について

審査意見で「グループワーク参加状況」が評価方法として不明確との指摘を受けており、 単なる出席状況と誤解を与えるような表現は適切でないため、本来意図していた「グループ ワークでのプレゼンテーション・討議の内容」に改めることとした。また、演習科目におい て用いていた客観的評価ではないとの指摘を受けた「論理性・妥当性・新規性の観点から評 価」という表現については、評価基準として相応しくないため削除することとし、「プレゼン テーション及び討議の内容を総合評価する。」に修正することとした。

不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるという審査意見を考慮し、かつ、審査意見8(1)の内容も踏まえ全体を見直した結果、カリキュラム・ポリシーで評価方法の方針を示したうえで、シラバス全体について適切となるよう、期末試験、レポート、グループワークでの課題のプレゼンテーション・ディスカッションの内容等を個別に評価し、複数の評価項目を採用する場合は、評価に当たっての構成比をシラバスに明記し、複数の評価項目を採用する場合は、評価に当たっての構成比をシラバスに明記するよう修正した。

また、評価方法の明確化に伴い、健康コミュニティ特論では、授業時間外の学習情報の内容を修正した。

(新旧対照表) シラバス

新	IΞ
医療倫理学	医療倫理学
成績評価基準	成績評価基準
試験(50%)、レポート(20%)、小テスト(30%)	成績評価は、試験、レポート、小テストに
により総合評価する。	基づいて総合的に行う。
多職種連携論	多職種連携論
成績評価基準	成績評価基準
グループワーク <u>での</u> プレゼンテーション <u>・</u>	グループワーク参加状況、プレゼンテーシ
討議の内容(40%)及びレポートの内容	ョンやレポート内容等の総合評価
<u>(60%) を</u> 総合評価する。	
応用統計学	応用統計学
成績評価基準	成績評価基準
授業に <u>おいて提示する</u> 課題の理解度と達	授業における課題の理解度と達成度で評
成度で <u>総合評価</u> する。	価する
保健医療教育論	保健医療教育論
成績評価基準	成績評価基準
毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚	毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚
の考察 (50%)、800 字小論文 (50%) で総合	の考察 (50 点)、800 字小論文 (50 点)、合計
<u>評価する。</u>	100 点(担当土井)

保健医療教育実践論	保健医療教育実践論
成績評価基準	成績評価基準
毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚	毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚
の考察 (50%)、800 字小論文 (50%) で総合	の考察 (50 点)、800 字小論文 (50 点)、合計
<u>評価する。</u>	100 点(担当土井)
保健医療研究法	保健医療研究法
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション <u>(40%) 及び</u> レポート	グループワークの参加状況、プレゼンテー
<u>(60%) により</u> 総合評価する。	ションやレポート内容等を総合評価する。
ケア提供システム演習I	ケア提供システム演習 I
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	課題のプレゼンテーションとディスカッ
合評価する。	ションの内容に基づき、総括的に評価する。
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	研究計画書の完成度。
合評価する。	課題のプレゼンテーションとディスカッシ
	ョンの内容に基づき、総括的に評価する。
人間発達ケア演習 I (理学療法学)	人間発達ケア演習 I (理学療法学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
	る。
人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
合評価する。	妥当性、新規性の観点から評価する。
人間発達ケア演習 I (作業療法学)	人間発達ケア演習 I (作業療法学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
	る。
人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
	妥当性、新規性の観点から評価する。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)	人間発達ケア演習 I (母子看護学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
	る。
人間発達ケア演習 I (母子看護学)	人間発達ケア演習 I (母子看護学)
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
	る。
健康コミュニティ特論	健康コミュニティ特論
成績評価基準	成績評価基準
グループワークでのプレゼンテーション・	出席状況、(不適切)授業における課題レ
計議の内容 (40%) 及び課題レポートの内容	ポート、プレゼンテーションの内容
(60%)を総合評価する。	
健康コミュニティ特論	健康コミュニティ特論
 授業時間外の学習情報(事前学習)	 授業時間外の学習情報(事前学習)
講義内容に関する知見を検索・整理するこ	健康支援に関する情報を検索整理し、プレ
と。プレゼンテーションの準備を通して知識	ゼンテーション、ディスカッションで積極的
を広げ、自己の学習課題に気づくこと。	に発言すること
(事後学習)	(事後学習)
事前学習と授業で講義内容に関する自己	新たな知識を整理すること
の知見を深め整理すること。プレゼンテーシ	
ョン、ディスカッションを通して知識の統合	
を行うこと。	
= 10 	<u>│</u> │健康コミュニティ演習Ⅰ
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
<u> </u>	3.
	で。 健康コミュニティ演習Ⅱ
成績評価基準	成績評価基準
プレゼンテーション及び討議の内容を総	
合評価する。	子生の切れ計画立来に当たりて、
<u>ローロック。</u> 保健学特別研究	保健学特別研究
研究計画を実行できていれば「水準にある	
(可)」、加えて正確なデータ分析ができてい	(可)」、加わえて正確なデータ分析ができれ
<u>れば</u> 「やや上にある(良)」、 <u>分析結果を論理</u>	ば「やや上にある(良)」、結果に基づき研究

的に考察し口頭発表できていれば「かなり上	結果を口頭発表できれば「かなり上にある
にある(優)」、論理的な研究論文が執筆でき	(優)」、論理的な研究論文が執筆できれば
<u>ていれば</u> 「卓越している (秀)」と評価する。	「卓越している(秀)」と評価する。
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

【教育課程等】

9 <修士論文の審査体制が不明確>

審査会の構成において、例えば以下に示されるように不明確な点があるので、全体について見直し、必要に応じて適切に改めること。《是正事項》

- (1) 主査は研究指導教員(担当する研究課題を除く。)とあるが、具体的にどのような者が充てられるのか、副研究指導教員が充てられる可能性があるのか、など不明確である。
- (2) 論文の評価基準について「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する」とあるのみで、具体的にどのような基準で審査を行うのか不明確である。
- (3)審査員の仮決定後、正式な審査員の決定のタイミングが不明確である。

(対応)

- (1)審査意見を考慮して改めて修士論文の審査体制について見直したところ、主査は、担当する修士論文の研究指導教員及び副研究指導教員を除き、原則として関連する専門領域の研究指導教員を充てるよう明確化した。
- (2) 論文は、それぞれの分野で設定したディプロマ・ポリシーの内容、ケア提供システム分野では、倫理観、リーダーシップ、社会変革に対応した考察力、人間発達ケア分野では、課題の抽出・知見の探求・論理的な整理能力、課題解決のために適正な方法を実施計画に活かせる能力、治験収集の成果を実践に結び付ける能力、健康コミュニティ分野では、地域の現象分析力、ニーズと理論の統合力、施策の実現力について、設置の趣旨等を記載した書類の資料9で例示した情報活用力、データ解析力、問題発見・解決の能力、研究開発能力、プレゼンテーション能力、研究者としての判断力、文章作成能力に基づいて審査し、その評価基準は、研究計画を実行できていれば「水準にある(可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、分析に基づいて論理的に考察し口頭発表できていれば「かなり上にある(優)」、論理的な研究論文が執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。

なお、保健学特別研究のシラバスにおける成績評価基準の中で、「結果に基づいて研究結果を口頭発表できていれば「かなり上にある(優)」」については内容が不適切であったため、「分析に基づいて論理的に考察し口頭発表できていれば「かなり上にある(優)」」に修正した。

「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する。」については、最終試験において、高い倫理観、科学的妥当性、専門職としての広範な知識、後進の育成やマネジメントに関する十分な知識と能力の有無について確認し学位の授与について総合判断することとした。

(3) 審査員の決定については、修士論文が提出された時点で担当する研究指導教員が主査を推薦し、研究科委員会において正式決定することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(25ページから26ページ)

新

4 修士論文の審査体制

(1) 修士論文の審査の流れ

学生は、修士論文の提出に先立ち、研究科 委員会に修士論文の題目を提出する。研究科 委員会では、提出された題目により、審査員 (主査・副査)を仮決定し、円滑な論文審査 に備える。

学生は、研究指導教員の確認を受けた修士 論文を、所定の期日までに研究科委員会に提 出する。研究科委員会は、審査会を組織し、 3名以上の審査員を選出する。審査員は、当 該論文の審査を行う。

(2) 審査会の構成

審査会の審査員は、研究科委員会において 選出する。審査会には、主査1名及び副査2 名以上の委員を置き、主査には研究指導教員 (担当する修士論文の研究指導教員及び副 研究指導教員を除く。)を充てる。審査員の 決定は、修士論文が提出された時点で担当す る研究指導教員が主査を推薦し、研究科委員 会の承認を得て正式決定する。また、研究科 委員会は、修士論文の審査に当たり必要な場 合には、他の大学院等の教員等を委員に加え ることができる。

(3) 審査会の審査・口頭試問

審査会は、論文を審査し、提出された修士 論文に基づき口頭試問を行う。

論文審査は、計画に沿って研究が行われたか、データの解析が適切に行われたか、分析 結果の考察、結論が論理的で適切か、論文の 構成、記述が適切かを総合的に評価する。

4 修士論文の審査体制

(1) 学位論文の審査の流れ

学生は、修士論文の提出に先立ち、研究科 委員会に修士論文の題目を提出する。研究科 委員会では、提出された題目により、審査員 (主査・副査)を仮決定し、円滑な論文審査 に備える。

旧

学生は、研究指導教員の確認を受けた修士 論文を、所定の期日までに研究科委員会に提 出する。研究科委員会は、審査会を組織し、 3名以上の審査員を選出する。審査員は、当 該論文の審査を行う。

(2) 審査会の構成

審査会の審査員は、研究科委員会において 選出する。審査会には、主査1名及び副査2 名以上の委員を置き、主査には研究指導教員 (担当する研究課題を除く)を充てる。また、 研究科委員会は、修士論文の審査に当たり必 要な場合には、他の大学院等の教員等を委員 に加えることができる。

(3) 審査会の審査・口頭試問

審査会は、論文を審査し、提出された修士 論文に基づき口頭試問を行う。口頭試問は、 論文提出者が広い視野に立ち、専攻の学問分 野について精深な学識と精緻な研究を遂行 する能力を有することを確認するため、提出 論文を中心にこれに関連する研究分野につ いて行う。

論文提出者は、審査会で指摘された事項がある場合は、指摘事項を踏まえて修士論文を修正し研究科委員会に提出する。

口頭試問は、研究論文のプレゼンテーションと質疑を通して、提出者の倫理性、論理性、 学力、課題解決力などを評価する。

評価基準は、研究計画を実行できていれば「水準にある(可)、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある(良)」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができれていれば「かなり上にある(優)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している(秀)」と評価する。

論文提出者は、審査会で指摘された事項がある場合は、指摘事項を踏まえて修士論文を修正し研究科委員会に提出する。

(4) 修士論文発表会

審査会は、審査及び口頭試問を終了したとき、論文審査の要旨、口頭試問の結果を添えて、研究科委員会に報告する。研究科委員会は修士論文発表会(最終試験)を開催し、審査会からの報告及び提出された修士論文に基づき発表内容について、質疑を行い、必要な場合は、指摘事項の修正を求めることがある。

(5) 合否の判定及び学位の授与

論文提出者は、修士論文発表会で指摘事項がある場合は、指摘の内容を踏まえて修士論文(最終)を研究科委員会に再提出する。研究科委員会は、修士論文報告会での質疑及び提出された修士論文に基づいて審議を行い、高い倫理観、科学的妥当性、専門職としての広範な知識、後進の育成やマネジメントに関する十分な知識と能力の有無について確認し、学位の授与について総合的に検討し合否の判定を行う。研究科委員会は、合格した学生について学位を授与すべきものと決定した者として学長に報告する。(資料 16)

(4) 修士論文発表会

審査会は、審査及び口頭試問を終了したとき、論文審査の要旨、口頭試問の結果を添えて、研究科委員会に報告する。研究科委員会は修士論文発表会(最終試験)を開催し、審査会からの報告及び提出された修士論文に基づき、本研究科が掲げるディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する。

(5) 合否の判定及び学位の授与

論文提出者は、修士論文発表会で指摘事項がある場合は、指摘の内容を踏まえて修士論文(最終)を研究科委員会に再提出する。研究科委員会は、修士論文報告会での質疑及び提出された修士論文に基づいて審議を行い合否について判定を行う。研究科委員会は、合格した学生について学位を授与すべきものと決定した者として学長に報告する。(資料 16)

と評価する。

を執筆できていれば「卓越している (秀)」

新 旧 保健学特別研究 保健学特別研究 成績評価の基準 成績評価の基準 研究計画を実行できていれば「水準にある 研究計画を実行できれば「水準にある (可)、加えて正確なデータ解析ができてい (可)」、加わえて正確なデータ分析ができれ れば「やや上にある(良)」、さらに分析結果 ば「やや上にある(良)」、結果に基づき研究 を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表 結果を口頭発表できれば「かなり上にある が出きれていれば「かなり上にある(優)」、 (優)」、論理的な研究論文が執筆できれば 「卓越している (秀)」と評価する。 さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文

(改善事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【教育課程等】

10 <シラバスの記載方法が不明確>

シラバスの記載内容について、以下の例のように不明確又は不適切と思われる科目が散 見されるので、全体について見直し、適切に改めること。

- (1) 論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないもの(「人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)」)。
- (2) 授業回数が目途も含め一切の記載がないもの(「保健学特別研究」)。
- (3) 到達目標について、「~を理解する」など観察可能な目標が一切記載されていないもの(「ケア提供システム特論」)。
- (4) 授業内容が標題のみで具体的に示されておらず、テキストも示されていないもの(「保 健医療マネジメント論」)。
- (5) 授業内容の差異が分からないもの(「保健医療研究法」)。

(対応)

(1) シラバスの具体的な評価基準について

論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないという審査意見を考慮してシラバス全てを見直した結果、演習科目における評価項目として「プレゼンテーション及び討議の内容」を具体的に掲げ、評価の観点として倫理性、論理性、妥当性を掲げて総合評価するよう修正した。

(新旧対照表) シラバス 成績評価基準

新	旧
ケア提供システム演習I	ケア提供システム演習 I
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	課題のプレゼンテーションとディスカッ
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	ションの内容に基づき、総括的に評価する。
<u>3.</u>	
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	研究計画書の完成度。
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	課題のプレゼンテーションとディスカッシ
<u>3.</u>	ョンの内容に基づき、総括的に評価する。
人間発達ケア演習 I (理学療法学)	人間発達ケア演習 I (理学療法学)
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
<u>5.</u>	る。
人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性の観点から評価する。
<u>3.</u>	
人間発達ケア演習 I (作業療法学)	人間発達ケア演習 I (作業療法学)
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
<u>3.</u>	る。
人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	妥当性、新規性の観点から評価する。
人間発達ケア演習 I (母子看護学)	人間発達ケア演習 I (母子看護学)
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
<u>5.</u>	る。
人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)	人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性の観点から評価する。
<u>5.</u>	
健康コミュニティ演習I	健康コミュニティ演習I
プレゼンテーション及び討議の内容を総	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
合評価する。	妥当性、新規性(不明確)の観点から評価す
	る。
健康コミュニティ演習Ⅱ	健康コミュニティ演習Ⅱ
プレゼンテーション及び討議の内容を、倫	学生の研究計画立案に当たって、論理性、
理性、論理性、妥当性の観点から総合評価す	妥当性、新規性の観点から評価する。
<u>3.</u>	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(2) シラバスの授業回数が目途も含め一切の記載がないもの

「保健学特別研究」について

授業内容を、「研究計画書に基づく研究の実施」、「データの収集・データの入力及びデータの解析」、「データ結果の取りまとめ」、「論文作成」、「プレゼンテーションの準備」、「修士論文の提出」とし授業回数については目途も含め記載がないという審査意見を考慮し見直した結果、審査意見 7 (2) の対応により修正した授業概要に沿って授業回数及び授業内容について、以下のように修正した。

1~30回:研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請

31~78回:研究の実施:調査・実験、データ収集

79~94回:データ入力

95~110回:データ解析と考察

111~142回:論文作成

143~150回:修士論文の提出、プレゼンテーション等発表準備

(新旧対照表) シラバス (保健学特別研究)

	新		旧
授業計画		授業計	画
□	内 容	口	内 容
1~30	研究計画書の作成:研究課題		研究計画書に基づく研究の実施
	の決定、研究計画書の作成、倫		データの収集、データの入力及び
	理審査申請		データの解析
31~78	研究の実施:調査・実験、デー		データ結果の取りまとめ
	タ収集		論文作成
79~94	データ入力		プレゼンテーションの準備
95~110	データ解析と考察		修士論文の提出
111~142	論文作成		
143~150	修士論文の提出、プレゼンテ		
	ーション等発表準備		
別紙 11 シ	ラバス 新	別紙 11	シラバス 旧

(3) シラバスの到達目標について

到達目標について、観察可能な目標が一切記載されていないものがあるという審査意見を踏まえ、すべてのシラバスを見直した結果、審査意見7(4)に記載のとおり、到達目標は箇条書きとし、「自分の言葉で表現できる」、「できるようになる」、「理解する」、「使用法が分かる」、「修得する」など大学院教育の到達目標として不適切なものについて、「~を理解できる」、「~が行える」、「~を説明できる」、「~を論述できる」のように修正した。

また、演習と特別研究については、審査意見 7 (2) の審査意見を考慮して全体的に見直した結果、到達目標を授業科目の概要に合わせて全面的に修正した。

(新旧対照表) シラバス 到達目標

(新旧対照表) シラバス 到達目標	
新	旧
医療倫理学	医療倫理学
1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要となる	1.講義を聞いて理解したことを自分の言葉
倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。	で表現できる。
2. 保健学の研究に必要となる倫理原則、行動	2. 学んだことを課題解決に反映できる。
規範を理解し、説明できる。	3. 学んだことを知りたい人に適切に伝える
3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動	ことができる。
において生じた倫理問題について整理し、倫	
理原則、行動規範をどのように当てはめるか	
について論述できる。	
4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を	
共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達	
<u>することができる。</u>	
医療コミュニケーション論	医療コミュニケーション論
1. 出来事を他人が理解できる日本文として	1. 出来事を即座に日本語で書き、他人に理
記述できる。	解させることができるようになる。
2.多くの人に分かりやすく日本語で話すこ	2. 多くの人を対象に等しく同じような理解
とが <u>できる</u> 。	に至るように日本語で話すことができるよ
3.他人の考えていることを正確に文書とし	うになる。
て記録できる。	3. 他人の考えていることを適切に引き出
	し、記録することができるようになる。
保健医療マネジメント論	保健医療マネジメント論
1. わが国における社会保障制度の特性を理	1. わが国における社会保障制度の特性を理
解し、説明できる。	解する。
2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・	2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・
政策を <u>説明できる。</u>	政策を理解する。
3. 高度実践家にもとめられるマネジメント	3. 高度実践家にもとめられるマネジメント

論について論述できる。

応用統計学

- 1. 統計学の基礎的な事項を<u>理解し、説明で</u> きる。
- 2. 医学統計(疫学統計、生物統計)の概念と解析結果を理解し、説明できる。
- 3. 心理統計(多変量解析、尺度構成)の概 念と解析結果を理解し、説明できる。
- 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、 基本的な統計解析が行える。

医療英語研究

- 1. 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して<u>理解し、説明でき</u>る。
- 2. 簡潔な英語で書かれた人体の構造、機能、 疾病について読むことができる。
- 3. 英語で書かれた医療分野の文献を ESP (English for Specific Purposes:特定の目的のための英語)の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる

保健医療教育論

- 1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育に おける保健医療教育の歴史的変遷、並びに保 健医療教育の理論と実践についての<u>知識を</u> 体系的・系統的に理解し、説明できる。
- 2. この理論と実践の往還作業を通して、保健 医療教育論の系譜と今日的課題について説 明できる。

保健医療教育実践論

- 1. 保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。
- 2. 実践事例における保健医療の専門知識と 科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材と

論を学習する。

応用統計学

- 1. 統計学の基礎的な事項が理解できる。
- 2. 医学統計(疫学統計、生物統計)の概念と解析結果が理解できる。
- 3. 心理統計(多変量解析、尺度構成)の概 念と解析結果が理解できる。
- 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。

英語文献講読

大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようになった後に、英語で書かれた医療分野の文献を ESP (English for Specific Purposes:専門分野別英語)の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。

保健医療教育論

学部での基礎教育、卒後教育、現任教育に おける保健医療教育の歴史的変遷、並びに保 健医療教育の理論と実践についての基礎的 知識を修得する。この理論と実践の学びを通 して、保健医療教育の原理を探究し、人間理 解を深める。

保健医療教育実践論

本講義では、保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できるようになる。また、実践事例における保健医療の専門知識を理解し、教授できる指導力を修得す

して再構成できる。

保健学総論

- 1. 医学、医療の動向を説明できる。
- 2. 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。
- 3. 各発達段階における健康課題を<u>理解し、</u> 説明できる。
- 4. 障害者の健康について説明できる。
- 5. 地域社会の健康課題について説明できる。
- 6. 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。

ケア提供システム特論

- 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。
- 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。

ケア提供システム演習 I

- 1. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研 究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。

ケア提供システム演習Ⅱ

1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について 理解し、説明できる。

る。

保健学総論

- 1. 医学、医療の動向を説明できる。
- 2. 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。
- 3. 各発達段階における健康課題を理解する。
- 4. 障害者の健康について説明できる。
- 5. 地域社会の健康課題について説明できる。
- 6. 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。

ケア提供システム特論

- 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を理解する。
- 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを理解する。

ケア提供システム演習 I

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

ケア提供システム演習Ⅱ

1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題

- 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係 法規や様々な施策、取り組みについて理解 し、説明できる。
- 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・ 教育・研究の課題を探求できる。
- 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援 方法について理解するとともに、課題につい て探求できる。

に係る計画を作成できる。

- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を 学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配 慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への 提出資料を完成する過程を学び、自己の課題 に係る研究計画書と研究倫理審査委員会へ の提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

- 1.発達過程における理学療法学に関連する リサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 理学療法に有用なエビデンスを検討できる。

人間発達ケア演習 I (理学療法学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)

- 1. 発達過程における理学療法学に関連する 保健・医療・福祉・教育の動向と現状につい て理解し、説明できる。
- 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施 策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課

人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定でき

題を探求できる。

4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。

る。

- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

- 1. 発達過程における作業療法学に関連する リサーチクエスチョンを明確にするステッ プを理解し、説明できる。
- 2.様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。

人間発達ケア演習 I (作業療法学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)

- 1. 発達過程における作業療法学に関連する 保健・医療・福祉・教育の動向と現状につい て理解し、説明できる。
- 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。
- 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定で

きる。

- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。
- 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

- 1. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解できる。
- <u>4. リサーチクエスチョンに関連する先行研</u> 究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。

人間発達ケア演習 I (母子看護学)

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集 し、レビューレポートの書き方を理解し、レ ビューレポートを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。
- 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

- 1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状 について理解し、説明できる。
- 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、 取り組みについて理解し、説明できる。
- 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる 実践・教育・研究の課題を探求できる。
- 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる 支援方法について理解するとともに、課題に ついて探求できる。

人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)

- 1. 自己の研究課題について、研究デザインの 選択と精密な介入プロトコル又はフィール ドワークの計画について学び、自己の課題に 係る計画を作成できる。
- 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。
- 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。
- 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮

を検討できる。

5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

健康コミュニティ演習I

- 1. コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。
- 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。
- 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。
- 5. 関連する文献のクリティークによって、 コミュニティとそこに暮らす人々への支援 に有用なエビデンスを検討できる。

健康コミュニティ演習Ⅱ

- 1. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、 説明できる。
- 2. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関わる関係法規 や様々な施策、取り組みについて理解し、説 明できる。
- 3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法に関わる実践・教 育・研究の課題を探求できる。
- 4. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害 を持つ人々への支援方法について理解する とともに、課題について探求できる。

保健学特別研究

1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。

健康コミュニティ演習I

- 1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。
- 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。
- 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することができる。
- 4. 研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。
- 5. 研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。

健康コミュニティ演習Ⅱ

- 1. 自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。
- 2. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を 学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配 慮を検討できる。
- 3. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。

保健学特別研究

- 1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。
- 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。

2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。	3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの
3. 収集したデータを入力し整理できる。	方法を修得する。
4. 整理したデータを解析できる。	
5. データに基づいた考察ができる。	
6. テーマに沿った修士論文を作成できる。	
7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼ	
ンテーション等の準備ができる。	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(4) 授業内容が標題のみで具体的に明示されていない

授業内容が標題のみで具体的に明示されていないという審査意見を考慮して全体を見直した結果、保健医療マネジメント論、保健医療研究法、ケア提供システム特論について、学生が理解しやすいように修正した。

また、テキストの記載がないものや「随時紹介する」や「適宜紹介する」についても、修正 した。演習科目については、原則として学生自らが各種文献データベース等から文献を選ぶ こととし、教員が必要と認めた文献等をその都度紹介することとした。

(新旧対照表) シラバス「保健医療マネジメント論」授業計画

(新印対忠衣)ンプハス「保健医療マインメン	/ 下冊」 (文集計画)
新	ĺΗ
1 人口減少時代における社会保障	1 人口減少時代における社会保障
2 医療制度・政策の基礎となる法令	2 保健医療福祉制度・政策 I
3 福祉制度・政策の基礎となる法令	3 保健医療福祉制度・政策 Ⅱ
4 保健医療における看護師の役割と機能	4 保健医療福祉に関連した法規 I
5 保健医療における理学療法士・作業療法	5 保健医療福祉に関連した法規 Ⅱ
<u>士の役割と機能</u>	6 保健医療福祉における倫理 I
6 保健医療福祉における倫理 I:実践にお	7 保健医療福祉における倫理 Ⅱ
ける倫理的課題と高度専門実践者の役割	8 診療報酬制度と財務会計・管理会計 I
7 保健医療福祉における倫理 Ⅱ:事例に基	9 診療報酬制度と財務会計・管理会計 Ⅱ
づいた討議	10 介護報酬制度と財務会計・管理会計 I
8 <u>医療機関の収入の仕組みと経営管理 I</u>	11 介護報酬制度と財務会計・管理会計 Ⅱ
(診療報酬)	12 医療の質保証と医療安全
9 医療機関の収入の仕組みと経営管理 Ⅱ	13 人材開発と経験学習
(財務分析、経営管理)	14 リーダーシップとマネジメント
10 <u>福祉施設の収入の仕組みと経営管理 I</u>	15 組織開発の手法
(介護報酬)	
11 福祉施設の収入の仕組みと経営管理 Ⅱ	
(財務分析、経営管理)	
12 医療の質保証と医療安全	
13 人材開発と経験学習	
14 リーダーシップとマネジメント	
15 組織開発の手法	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) シラバス「保健医療研究法」授業計画

	新			旧	
1	授業の概要:研究の目的、	実践との関連	1	授業の概要:研究の目的、実践との関連	

- 2 エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM)
- 3 責任ある研究活動:研究倫理と行動規範
- 4 文献検討の方法:文献の位置づけ、文献 検索、論文の種類と構成
- 5 研究のプロセス、研究テーマ、研究デザ イン
- 6 研究方法論 1: 実験研究
- 7 研究方法論 2:調査研究
- 8 研究方法論 3:疫学研究
- 9 研究方法論 4:質的研究1(定義と種類、 プロセス、データ収集方法、評価基準)
- 10 研究方法論 5:質的研究 2 (インタビュ 一法)
- 11 研究方法論 6:質的研究 3(参加観察法)
- 12 研究方法論 7:質的研究 4 (データの分 析と解釈)
- 13 文献クリティークの方法
- 14 研究計画書:作成上の注意
- 15 まとめ 研究の計画に向けて

別紙 11 シラバス 新

- 2 エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM)
- | 3 責任ある研究活動:研究倫理と行動規範
- 4 文献検討の方法: 文献の位置づけ、文献 検索、論文の種類と構成
- 5 研究のプロセス、研究テーマ、研究デザ イン
- 6 研究方法論 1: 実験研究
- 7 研究方法論 2:調査研究
- 8 研究方法論 3:疫学研究
- 9 研究方法論 4:質的研究 1
- 10 研究方法論 5:質的研究 2
- 11 研究方法論 6:質的研究 3
- 12 研究方法論7:質的研究4
- 13 文献クリティークの方法
- 14 研究計画書:作成上の注意
- 15 まとめ 研究の計画に向けて

別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) シラバス「ケア提供システム特論」授業計画

新 1 人口減少時代の社会保障 2 保健医療福祉制度と政策 3 保健医療福祉に関連した法規 4 サービスマネジメント論 5 組織論と組織管理に関する基礎理論 6 組織論と組織管理についての現組織への 適用と考察 7 人材育成とマネジメントに関する基礎理 論 8 人材育成とマネジメント論の現組織への 適用と考察

9 経営資源(人、物、金、情報)の管理と効

率化に関する基礎的理論

- 1 人口減少時代の社会保障
- 2 保健医療福祉制度と政策
- 3 保健医療福祉に関連した法規

旧

- 4 サービスマネジメント論
- 5 組織論と組織管理 I
- 6 組織論と組織管理 Ⅱ
- 7 人材育成とマネジメント I
- 8 人材育成とマネジメント Ⅱ
- 9 資源管理と効率化 I
- 10 資源管理と効率化 Ⅱ
- 11 質の保証 I
- 12 質の保証 Ⅱ
- 13 地域包括ケアシステムの理念

10 経営資源管理と効率化に関する現組織	14 多職種協働論
への適用と考察	15 まとめ
11 提供するサービスの質の保証に関する	
基礎理論	
12 提供するサービスの質の改善	
13 地域包括ケアシステムの理念	
14 多職種協働論	
15 まとめ	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(新旧対照表) シラバス「ケア提供システム演習 I 」授業計画

新	III
1~10. 医療サービスマネジメントのリサー	1~4. 課題の明確化とその範囲の特定
チクエスチョンに沿った系統的文献レビュ	5~10. 関心のある領域の系統的文献レビュ
<u>-</u>	_
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	11~16. 研究テーマに適した研究方法の検討
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	の明確化
ディスカッションを含む)	23~30. 研究デザインを元にプロトコルの作
21~25. 医療サービスマネジメントにおける	成
<u>有用なエビデンスの検討</u>	

(新旧対照表) シラバス「ケア提供システム演習Ⅱ」授業計画

新	旧
1~4. 医療サービスマネジメントに関わる保	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
健・医療・福祉の動向と現状の理解	ロトコル作成
5~8. 医療サービスマネジメントに関する学	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
問の動向の理解	準と除外基準の明確化
9~16. 医療サービスマネジメントに関わる	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
実践・教育・研究の現状と課題の探求	研究の場合は、面接・観察法の訓練
17~24. 医療サービスマネジメントに関わる	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
支援方法と課題の探求	書、同意文書、同意撤回文書の作成
25~30. 医療サービスマネジメントに関わる	25~30. 研究計画書の作成
実践・教育・研究・支援方法の課題発表およ	
<u>び討議</u>	

(新旧対照表)シラバス「人間発達ケア演習 I (理学療法学)」授業計画

新	旧
1~10. 発達過程における理学療法学のリサ	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
<u>ーチクエスチョンに沿った系統的文献レビ</u>	5~10. 関連文献のレビュー
<u> </u>	11~16. 臨床フィールドワークの着手
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	の明確化
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	23~26. 研究デザインと研究計画
ディスカッションを含む)	27~28. デザインの選択
21~25.発達過程における理学療法学におけ	29~30.介入のためのプロトコル作成
る有用なエビデンスの検討	
26~30. 先行研究のレビューレポートの作成	
と発表、討議	

(新旧対照表)シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)」授業計画

新	旧
1~4. 理学療法学に関わる保健・医療・福祉	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
の動向と現状の理解	ロコル作成
5~8. 理学療法学の動向の理解	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
9~16. 理学療法学に関わる実践・教育・研究	準と除外基準の明確化
の現状と課題の探求	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
17~24. 理学療法学に関わる支援方法と課題	研究の場合は、面接・観察法の訓練
の探求	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
25~30. 理学療法学に関わる実践・教育・研	書、同意文書、同意撤回文書の作成
究・支援方法と課題発表および討議	25~30. 研究計画書の作成

(新旧対照表)シラバス「人間発達ケア演習 I (作業療法学)」授業計画

新	旧
1~10. 発達過程における作業療法学のリサ	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
<u>ーチクエスチョンに沿った系統的文献レビ</u>	5~10. 関連文献のレビュー
<u> </u>	11~16. 臨床フィールドワークの着手
11~20. 文献クリティーク (リサーチクエス	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	の明確化
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	23~24 研究デザインと研究計画
ディスカッションを含む)	25~26. デザインの選択
21~25.発達過程における作業療法学におけ	27~30. 介入のためのプロトコル作成
<u>る有用なエビデンスの検討</u>	

26~30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議

(新旧対照表) シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)」授業計画

新	旧
1~4. 作業療法学に関わる保健・医療・福祉	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
の動向と現状の理解	ロトコル作成
5~8. 作業療法学の動向の理解	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
9~16. 作業療法学に関わる実践・教育・研究	準と除外基準の明確化
の現状と課題の探求	9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的
17~24.作業療法学に関わる支援方法と課題	研究の場合は、面接・観察法の訓練
の探求	19~24. 研究倫理について依頼及び説明文
25~30.作業療法学に関わる実践・教育・研	書、同意文書、同意撤回文書の作成
究・支援方法と課題発表および討議	25~30. 研究計画書の作成

新旧対照表)シラバス「人間発達ケア演習 I (母子看護学)」授業計画

新	Iβ
1~10. 発達過程における母子・家族を中心と	1~4. 課題の明確化とその範囲の限定
した看護学のリサーチクエスチョンに沿っ	5~10. 関連文献のレビュー
た系統的文献レビュー	11~16. 臨床フィールドワークの着手
11~20. 文献クリティーク(リサーチクエス	17~22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	の明確化
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	23~26. 研究デザインと研究計画
ディスカッションを含む)	27~28. データ分析の予備的検討
21~25. 発達過程における母子・家族を中心	29~30.介入のためのプロトコル作成
とした看護学における有用なエビデンスの	
検討	
26~30. 先行研究のレビューレポートの作成	
と発表、討議	

(新旧対照表)シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学)」授業計画

新	IΒ
(坂口・林)	(坂口・林)
1~4. リプロダクティブヘルス・ライツに関	1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプ
わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理	ロトコル作成
<u>β</u> 4	5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基
5~8. リプロダクティブヘルス (性感染症)	準と除外基準の明確化

の動向の理解

9~16. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17~24. リプロダクティブヘルス・ライツに 関わる支援方法と課題の探求

25~30. リプロダクティブヘルス・ライツに 関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発 表および討議 9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19~24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25~30. 研究計画書の作成

(樋貝)

1~4. 乳幼児期・小児期に関わる母子保健・ 医療・福祉の動向と現状の理解

5~8. 小児看護学の動向の理解

9~16. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・ 研究の現状と課題の探求

17~24. 乳幼児期・小児期に関わる支援方法 と課題の探求

25~30. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議

(樋貝)

1~4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成

5~8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化

9~18. 研究する変数の測定法の特定 質的 研究の場合は、面接・観察法の訓練 19~24. 研究倫理について依頼及び説明文

書、同意文書、同意撤回文書の作成 25~30. 研究計画書の作成

(新旧対照表)シラバス「健康コミュニティ演習 I」授業計画

新	[H		
1. オリエンテーション	健康コミュニティ演習I		
2~6. 関心のあるリサーチクエスチョンに沿	1. オリエンテーション		
った系統的文献レビュー7~	2. 課題の明確化とその範囲の限定		
10. "プレゼンテーション	3. "		
11~16. 文献クリティーク (リサーチクエス	4~6. 関連文献のレビュー		
チョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と	7∼10. <i>"</i>		
妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、	11~14. フィールドワーク		
ディスカッションを含む)	(プレ調査、フィールドの選定と確保)		
17~20. "プレゼンテーション	15~17. "		
21. 関心のあるリサーチクエスチョンにおけ	18~20. 研究枠組みの明確化と概念的定義・		
る有用なエビデンスの検討	仮説の明確化.		
<u>22~25. </u>	21~24. " 最終報告		
26~29. 先行研究のレビューレポートの作成	25~28. 研究デザインの選定と研究プロトコ		
と発表、討議.	ルの作成		
<u>30. まとめ</u>	29~30. " 最終報告		
	·		

新	Iβ
1. オリエンテーション	1. オリエンテーション
2~3.健康上の問題を抱える人々あるいは障	2~3. 研究目的、研究対象者(選考基準、除
害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の	外基準) の特定
理解	4. "
4~5. "プレゼンテーション・ディスカ	5~6. 研究デザインの特定と研究プロトコル
<u>ッション</u>	の作成
6~10.健康上の問題を抱える人々あるいは	7∼8. <i>"</i>
障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関	9~14. 研究方法の具体化(測定法、
<u>する現状と課題の理解</u>	15~20. "
11~15. " プレゼンテーション・ディスカ	21~22. 研究倫理について:依頼及び説明文
<u>ッション</u>	書、同意文書、同意撤回文書の作成.
16~18. 健康上の問題を抱える人々あるいは	23~24. "
障害を持つ人々への支援内容と効果的な支	25~27. 研究計画書の作成
援方法に関する研究の現状と課題の探求	28~29. "
19~20. "プレゼンテーション・ディスカ	30. 研究計画書の発表
<u>ッション</u>	
21~22. 健康上の問題を抱える人々あるいは	
障害を持つ人々への必要な支援内容と効果	
的な支援方法の探求.	
23~24. "プレゼンテーション・ディスカ	
<u>ッション</u>	
25~27. 健康上の問題を抱える人々あるいは	
障害を持つ人々に求められる支援策、必要と	
される研究の探求	
28~29. " プレゼンテーション・ディス	
カッション	
30. まとめ	

(新旧対照表) シラバス「保健学特別研究」授業計画

新	旧
1~30. 研究計画書の作成: 研究課題の決定、	. 研究計画書に基づく研究の実施
研究計画書の作成、倫理審査申請	. データの収集、データの入力及びデータ
31~78. 研究の実施:調査・実験、データ収	の解析
<u>集</u>	. データ結果の取りまとめ
79~94. データ入力	. 論文作成

95~110. データ解析と考察

111~142. 論文作成

143~150. 修士論文の提出:プレゼンテーシ

ョン等発表準備

. プレゼンテーションの準備

. 修士論文の提出

(新旧対照表) シラバス テキスト・参考図書

新	Iβ
医療倫理学	医療倫理学
『古事記』、 『論語』、 大林太良『神話学	随時紹介する。
入門』、 中村元訳『ブッダのことば』、 湯	
浅泰雄『日本人の宗教意識』、 福沢諭吉 『学	
問のすすめ』、新渡戸稲造『武士道』、宮	
川俊行『安楽死の論理と倫理』、 今井通夫	
<u>『生命倫理学入門』、 その他</u> 随時紹介する。	
保健医療マネジメント論	保健医療マネジメント論
テキスト:入山章栄,世界標準の経営理論,	テキスト:随時、提示する
ダイヤモンド社, 2019 年	参考図書:
参考図書: リハビリテーション看護(改訂第	
2 版): 障害をもつ人の可能性とともに歩	
む,南江堂,2015 年,酒井 郁子 (編集), 金	
<u>城 利雄 (編集),1 章:中島八十一:リハビ</u>	
<u>リテーション看護と法律</u>	
応用統計学	応用統計学
参考図書:「メタアナリシス入門 エビデン	適宜紹介する。
スの統合を目指す統計手法」丹後俊郎(朝倉	
<u>書店)</u>	
保健学総論	保健学総論
テキスト:「健康科学」本間日臣、古谷博、	テキスト:適宜紹介する。
丸井英二編集(医学書院)	参考図書:
ケア提供システム特論	ケア提供システム特論
テキスト: <u>島崎謙治, 日本の医療制度と政策</u>	テキスト:随時、提示する
〔増補改訂版〕,東京大学出版会,2020	参考図書:
ケア提供システム演習I	ケア提供システム演習 I
各種文献データベース等から、各自文献を	適宜紹介する。
選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ

各種文献データベース等から、各自文献を | 随時、提示する。 選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 人間発達ケア演習 I (理学療法学) 人間発達ケア演習 I (理学療法学) 各種文献データベース等から、各自文献を選 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連す ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 る理論を用いる。 人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学) 人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学) 各種文献データベース等から、各自文献 随時紹介する。各学生の研究テーマに関 を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 連する理論を用いる。 人間発達ケア演習I(作業療法学) 人間発達ケア演習 I (作業療法学) 各種文献データベース等から、各自文献を 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連 選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 する理論を用いる。 人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学) 人間発達ケア演習Ⅱ(作業療法学) 各種文献データベース等から、各自文献を 適官紹介する。 選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 人間発達ケア演習 I (母子看護学) 人間発達ケア演習 I (母子看護学) 各種文献データベース等から、各自文献を 随時紹介する。各学生の研究テーマに関 選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 連する理論を用いる。 人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) 人間発達ケア演習Ⅱ(母子看護学) 各種文献データベース等から、各自文献を 適宜紹介する。 選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。 健康コミュニティ特論 健康コミュニティ特論 参考図書:公衆衛生看護学テキスト2「公衆 適宜紹介する。 衛生看護技術」. 医歯薬出版. 2014、堀公俊他. チームビルディング-人と人を「つなぐ」技 法-. 日本経済出版社. 2007、福原宏幸. 社会的 排除・包摂と社会政策. 法律文化社. 2007、篠 田道子. チームマネジメントの知識とスキ ル. 医学書院. 2011、真山達志他. 政策実施の 理論と実像.ミネルヴァ書房.2016、國井修. 災害時の公衆衛生-私たちにできること-. 南 山堂. 2012、京極真, 信念対立解明アプロー チ. 中央法規. 2012、吉浦輪. 地域における連 携・協働 事例集-対人援助の臨床から学ぶ IP-. 協同医書出版社. 2018、河野眞編. 地域包 括リハビリテーション実践マニュアル. 羊土 社. 2018、河野眞編. 国際リハビリテーショ

ン学―国境を越える PT・OT・ST. 羊土社.	
2016	
健康コミュニティ演習I	健康コミュニティ演習 I
各種文献データベース等から、各自文献を	適宜紹介する。
選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
健康コミュニティ演習Ⅱ	健康コミュニティ演習Ⅱ
各種文献データベース等から、各自文献を	適宜紹介する。
選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
保健学特別研究	保健学特別研究
各種文献データベース等から、各自文献を	適宜紹介する。
選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
保健学特別研究(外里 冨佐江)	保健学特別研究(外里 富佐江)
アメリカ心理学会.APA 論文作成マニュア	適宜紹介する。
ル 第 2 版. 医学書院. 2011	
その他、随時紹介する。	
保健学特別研究 (川崎千恵)	保健学特別研究 (川崎千恵)
アメリカ心理学会. APA 論文作成マニュアル	適宜紹介する。
第 2 版. 医学書院. 2011	
その他、随時紹介する。	
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧

(5) 授業内容の差異が不明

「保健医療研究法」の第9回から12回までの質的研究にについて、授業内容が表題のみであったため、学生が理解者数用に、「研究方法論4:質的研究1」では(定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準)、「研究方法論5:質的研究2」では(インタビュー法)、「研究方法論6:質的研究3」では(参加観察法)」、「研究方法論7:質的研究4」では(データの分析と解釈)」を追記し明確にした。

(新旧対照表) シラバス「保健医療研究法」授業計画

(利用内無数) マクバス・体展区が明月間 1大米町画					
新	II				
1 授業の概要:研究の目的、実践との関連	1 授業の概要:研究の目的、実践との関連				
2 エビデンスベースドメディスン	2 エビデンスベースドメディスン				
(Evidence Based Nedicine: EBM)	(Evidence Based Nedicine: EBM)				
3 責任ある研究活動:研究倫理と行動規範	3 責任ある研究活動:研究倫理と行動規範				
4 文献検討の方法:文献の位置づけ、文献	4 文献検討の方法:文献の位置づけ、文献				
検索、論文の種類と構成	検索、論文の種類と構成				
5 研究のプロセス、研究テーマ、研究デザ	5 研究のプロセス、研究テーマ、研究デザ				
イン	イン				
6 研究方法論 1:実験研究の方法	6 研究方法論 1:実験研究の方法				
7 研究方法論 2:調査研究の方法	7 研究方法論 2:調査研究の方法				
8 研究方法論 3:疫学研究の方法	8 研究方法論 3:疫学研究の方法				
9 研究方法論4:質的研究1 <u>(定義と種類、</u>	9 研究方法論 4:質的研究1				
プロセス、データ収集方法、評価基準)	10 研究方法論 5:質的研究 2				
10 研究方法論 5:質的研究 2 (インタビュ	11 研究方法論 6:質的研究 3				
<u>一法)</u>	12 研究方法論7:質的研究4				
11 研究方法論 6: 質的研究 3 <u>(参加観察法)</u>	13 文献クリティークの方法				
12 研究方法論 7: 質的研究 4 <u>(データの分</u>	14 研究計画書:作成上の注意				
析と解釈)	15 まとめ 研究の計画に向けて				
13 文献クリティークの方法					
14 研究計画書:作成上の注意					
15 まとめ 研究の計画に向けて					
別紙 11 シラバス 新	別紙 11 シラバス 旧				

(是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【教員組織等】

11 <研究指導補助教員数が大学院設置基準を満たしていない> について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

研究指導補助教員数が 1 名不足しているため、この不足分の補充として保健学特別研究の研究指導教員候補として博士 飛松好子(国立障害者リハビリセンター総長)を新規に採用することとし、併せて授業科目不可となった教員の専任補充として、人間発達ケア特論、人間発達ケア演習 I (理学療法学)、人間発達ケア演習 I (理学療法学)について同教員の担当予定授業科目として専任教員資格審査を申請することとした。

同氏は、東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻運動障害学講座肢体不自由学分野において、広島大学大学院医系科学研究科総合健康科学専攻心身機能生活制御学講座において教育研究の経験が豊富であり、臨床現場に在籍する現在においても研究活動を続けている。

(新旧対照表) 基本計画書 教員組織の概要

新	旧
教授 13 人、准教授 <u>4 人、</u> 計 <u>17 人</u>	教授 13人、准教授 3人、計 16人

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19ページ)

新 Π 1 教員組織編成の考え方及び特色 1 教員組織編成の考え方及び特色 「誰一人として取り残さない地域社会」 「誰一人として取り残さない地域社会」の の構築を目指して、基礎となる学部の枠に 構築を目指して、基礎となる学部の枠にとら とらわれず、大学院教育の中で必要な者に われず、大学院教育の中で必要な者に必要な 必要な知識と技術を伝授するために必要と 知識と技術を伝授するために必要とされる される知見と経験を有する医師、義肢装具 知見と経験を有する医師、義肢装具士、看護 士、看護師、保健師、理学療法士、作業療法 師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会 福祉士の資格を有する教員により組織を編 士、社会福祉士の資格を有する教員により 組織を編成している。専任教員の配置は、教 成している。専任教員の配置は、教授13人、 授13人、准教授4人の計17人を配置する。 准教授3人の計16人を配置する。

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

	新			旧
別紙 12	専任教員の年齢構成・学位保有状	別紙	€ 12	専任教員の年齢構成・学位保有状
況 新		況	旧	

(是正事項) 保健学研究科 保健学専攻 (M)

【教員組織等】

12 <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手 教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。《是正事項》

(対応)

補正申請においては、豊かな経験と業績を有する教授を1名補充し、適切な内容に修正した。「2 教員の年齢構成」については、審査意見を考慮して見直した結果、教員組織の将来構想を明確にするために「3 教員の採用計画」という項目を起こし、現況、将来採用計画、後進の育成について記載することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19ページから 20ページ)

旧

2 教員の年齢構成

完成年度末における職位別の教員の年齢 構成は、教授は50歳代が5人、60歳代が3 人、70歳代が6人、准教授は50歳代が1人、 60歳代が2人である。大学院にふさわしい 質の高い教育と研究を実践するため、専門 分野での豊富な教育経験と研究業績を有す る教員を優先したことにより、70歳以上が 31.3%を占め高年齢の傾向にある。本学に おける定年は満65歳と定めているが、満70 歳まで再雇用でき、特に学園が認めた者に 対しては満73歳まで延長して継続任用が可 能となっている。また、大学院の完成年度ま でに定年を迎える教員がいる場合は、定年 年齢にかかわらず(70歳を超える場合も) 完成年度(令和5年3月)まで在籍させる方 針である。(資料 10)

3 教員の採用計画

専任教員は、大学院発足時の令和3年4月 に17人を確保し、完成年度までこの体制を

2 教員の年齢構成

完成年度末における職位別の教員の年齢 構成は、教授は50歳代が5人、60歳代が3 人、70歳代が5人、准教授は50歳代が1人、 60歳代が2人である。大学院としての教育 の質を担保するために、研究業績と経験が豊 富な教員を配置した結果、70歳以上が 31.3%を占め高年齢の傾向にある。本学にお ける定年は65歳と定めているが、70歳まで 再雇用でき、特に学園が認めた者に対しては 満73歳まで延長して継続任用が可能となっ ている。また、大学院の完成年度までに定年 を迎える教員がいる場合は、定年年齢にかか わらず(70歳を超える場合も)完成年度(令 和5年3月)まで在籍させる方針である。

(資料 10)

本研究科の完成年度後も定年退職する教員を補充するため、研究科開設後から職位、年齢等を考慮して該当科目担当者の後任となる教員を確保するための準備を始める。同時に、学部において教育研究業績の積み上げ

維持するものとする。

保健学研究科の専任教員の定年は大学と同じ満65歳であり、本研究科の完成年度後においてこれを超える専任教員7人については、定年の特例に関する規程の適用により満70歳まで専任教員として雇用することとし、本研究科の状況を考慮してさらに1年間延長し3回まで更新できることとしている。

更新限度までの満 73 歳まで雇用した場合、完成年度後 6 年間に毎年度 1 人以上の退職者があることから、本研究科の完成年度後に退職する教員の補充について、研究科開設後から、大学院にふさわしい教育と研究を維持・向上するため、後任となる教員を確保するための準備を計画的に進める。

後任者の採用に当たっては、教育研究の 質の継続を図るため、既存の授業科目継続 を基本として、該当する授業科目を担当す るのに適した教員を採用する。また、本研究 科の教育研究の維持・向上のために、学部から昇格できる者がある場合はこれを優先 し、該当者がいない場合は公募により広く 候補者を求め、適任者を確保する。さらに、 教員の採用は、バランスのとれた年齢構成 となるよう該当者の年齢を考慮するものと し、教育研究の継続性のため、原則として定 年特例の満70歳まで4年以上の期間がある 者とする。

こうした状況を踏まえ、学部においては、 令和2年度に30歳代教員を2名、20歳代教 員を1名採用している。これらを含む若手 教員に対して、令和元年度に立ち上げた地 域保健医療研究センターを中心として、発 達障害研究班、スポーツ健康班、高齢者健康 増進班、リハビリテーション看護研究班の 設置により、教員自らの教育研究業績の積 に取り組む教員に対して、研究者として自立 して研究活動を行い、高度な専門的業務に従 事するために必要となる研究能力や基礎と なる豊かな学識を身に着けられるよう全学 を上げて支援し、大学院の教育研究指導教員 として登用を図る計画である。このような取 り組みにより、年齢構成のバランスを図りな がら教育研究が継続的に発展できるよう教 育研究環境の整備に努める。 み上げの取り組みを支援している。さらに、 飯山市や地元長野市川中島町住民自治協議 会との連携協定を基本として研究フィール ドを設定している。このような教育研究環境の充実に取り組むとともに、年齢構成の バランスを図りながら教育研究が継続的に 発展できるよう努め、大学の中から大学院 の教育研究指導教員にふさわしい人材を登 用していく計画である。

【名称、その他】

13 <研究上必要な施設・設備が十分に整っているか不明確>

大学院専用の施設・設備として挙げられているのは研究室のみであり、他は全て学部生と共用することとされている。大学院生が研究を実施するにあたり十分な研究スペースが確保されているか、研究に支障なく施設・設備を利用可能であるか不明確であるので、具体的に説明すること。

(対応)

大学院生の研究環境について

大学院専用の施設・設備は南館の研究室のみであり、他は全て学部生と共用することとしているが、研究スペースについて審査意見を考慮し内容を見直した結果、教室以外に研究スペースとして想定する演習室における大学院研究の内容や使用見込み、使用できる時間のほか、図書館の利用についての説明をさらに書き加えることとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (29 ページから 30 ページ)

新

第7 施設、設備等の整備計画

1 大学院生研究室

本大学院の施設は、新幹線長野駅からJR 信越線を利用して 10 分の今井駅前に位置 し、本館の保健科学部及び南館の看護学部の 講義室、実習室、研究室を共有利用する計画 である。学生専用スペースとして、南館の3 階に大学院生研究室を配置した。同室の隣に ある少人数授業に対応したセミナー室4室 を大学院の主な講義室として使用し、演習、 特別研究では本館・南館の実習室も利用する こととした。大学院生研究室は、60.8㎡、入 学定員以上のスペースを確保して最大 18 人 が収容可能で、机、椅子、個人用ロッカー、 複写機等を配置する計画である。専用スペー スがある南館の全館に Wi-Fi 環境を整え、ハ ードの面において学生の研究活動をサポー トできる環境を整えている。(資料 18)

旧

第7 施設、設備等の整備計画

1 大学院生研究室

本大学院の施設は、新幹線長野駅からJR 信越線を利用して 10 分の今井駅前に位置 し、本館の保健科学部及び南館の看護学部の 講義室、実習室、研究室を共有利用する計画 である。学生専用スペースとして、南館の3 階に大学院生研究室を配置した。同室の隣に ある少人数授業に対応したセミナー室4室 を大学院の主な講義室として使用し、演習、 特別研究では本館・南館の実習室も利用する こととした。大学院生研究室は、60.8 ㎡、入 学定員以上のスペースを確保して最大 18 人 が収容可能で、机、椅子、個人用ロッカー、 複写機等を配置する計画である。専用スペー スがある南館の全館に Wi-Fi 環境を整え、ハ ードの面において学生の研究活動をサポー トできる環境を整えている。(資料 18)

2 講義室・演習室

学生が主に利用する講義室は、看護学部と共用する南館3階セミナー室4室(21.37㎡×4室)である。このセミナー室は少人数によるゼミ形式及び10人規模の講義に対応できる。このセミナー室は、授業外においても教員、学生によるグループ・ディスカッション、ワークスペース等の目的での活用を想定している。

実技を取り入れる必要がある授業では、 南館2階の第2看護実習室(小児・母性看護 実習室)を必要に応じて看護学部と、本館1 階の日常生活活動室、水治療室、2階の運動 療法室、徒手物理療法室、基礎医学実習室、 義肢装具室、3階の第1作業療法室、第2作 業療法室を、必要に応じて保健科学部と共 用により使用する計画である。

共用するセミナー室及び実習室を使用する場合は、学部授業と重ならないよう時間的な配慮を行なう。また、各講義室、セミナー室及び実習室の現在の稼働率は下表の通りであり、大学院の講義等と共有が可能な状況にある。

学部生と共用する施設・設備として、人の動作計測機器を用いた研究を想定する運動療法室、排泄・入浴などのシミュレーター、和式生活を関連した研究を想定する日常生活活動室、水治療に関連した研究を想定する水治療室、物理療法機器を用いた研究を想定する徒手物理療法室、電気生理学の測定機器を備えた基礎医学実習室、妊娠中の母子のモニターなどの研究を想定した第2看護実習室(小児・母性看護学実習室)など、休日、夜間、又は曜日により終日研究に利用でき、学部教育と調整を図りながら、大学院生にとって十分な研究スペースを確保できる状況にある。また、南館に併設する図書館の利用

2 講義室・演習室

学生が主に利用する講義室は、看護学部と共用する南館3階セミナー室4室(21.37㎡×4室)である。このセミナー室は少人数によるゼミ形式及び10人規模の講義に対応できる。このセミナー室は、授業外においても教員、学生によるグループ・ディスカッション、ワークスペース等の目的での活用を想定している。

実技を取り入れる必要がある授業では、 南館2階の第2看護実習室(小児・母性看護 実習室)を必要に応じて看護学部と、本館1 階の日常生活活動室、水治療室、2階の運動 療法室、徒手物理療法室、基礎医学実習室、 義肢装具室、3階の第1作業療法室、第2作 業療法室を、必要に応じて保健科学部と共 用により使用する計画である。

共用するセミナー室及び実習室を使用する場合は、学部授業と重ならないよう時間的な配慮を行なう。また、各講義室、セミナー室及び実習室の現在の稼働率は下表の通りであり、大学院の講義等と共有が可能な状況にある。

については、原則として平日 19 時 30 分まで 開館することとしており、大学院生の便宜を 図るため、授業時間帯に夜間を希望する者が いる場合においては、必要に応じて開館時間 を 21 時 30 分まで延長する計画である。

保健学研究科 保健学専攻 (M)

14 審査意見への対応以外の変更 書類の不備の修正

(対応)

当初申請において、関係資料間の整合性を十分図るべきところ、一部に不突合等があるため修正する。

① 基礎とする学部の教育課程等の概要の一部に重複があるため修正する。

(新旧対照表) 保健科学部の教育課程等の概要

新			旧					
導入	.科目				導入	、科目		
大学基礎セミナー 理学療法基礎セミナー 作業療法基礎セミナー		導入科目			大学基礎セミナー			
		((理学療法学関係)		理学療法基礎セミナー			
			導入科目		大学基礎セミナー			
수	拿入科	=	アカデミックリテラシー		((作業療法学関係)		作業療法基礎セミナー
			自然科学の基礎					アカデミックリテラシー
			情報リテラシー			導入科目		自然科学の基礎
								情報リテラシー
			- (30 科目) :位数小計 28		教養科目小計 (31 科目) 選択科目単位数小計 29			
		解剖	学 (総合)	\neg		基礎医学	解剖与	学 I (総合)
		解剖	学Ⅱ(総合)				解剖当	学Ⅱ(総合)
解剖学実習(人体解剖観察)				解剖学	学実習(人体解剖観察)			
	解剖学演習 I (骨格系)					生理等	ŽΙ	
専品	++	解剖	学演習Ⅱ(筋・神経系)		専		生理等	ŽⅡ
門基	基礎	運動	品器系解剖学 I		門基		生理等	学実習
基	医 医	運動	器系解剖学Ⅱ		磁		人間系	ě達学
科	学	体表	解剖学演習		科	基礎医学	解剖当	Ż演習Ⅰ(骨格系)
目目	7	リハヒ゛	リテーションのための人体構造(運動器)			(理学療	解剖当	学演習Ⅱ(筋・神経系)
		リハヒ [*]	リテーションのための人体構造 (神経系)	_		法学関	理学易	寮法基礎運動学 I
		生理	学 I	_]		係)	理学易	寮法基礎運動学Ⅱ
		生理	学				運動等	学実習
		生理	学実習			基礎医学	運動器	景系解剖学 I

新	IH		
理学療法基礎運動学 I	(作業療 運動器系解剖学Ⅱ		
理学療法基礎運動学Ⅱ	法学関体表解剖学演習		
作業療法基礎運動学 I	係) リハビリテーションのための人体構造(運動器)		
作業療法基礎運動学Ⅱ	リハビリテーションのための人体構造 (神経系)		
運動学実習	作業療法基礎運動学 I		
人間発達学	作業療法基礎運動学Ⅱ		
	運動学実習		
専門基礎科目小計(44 科目)	専門基礎科目小計(45科目)		
選択科目単位数小計 20	選択科目単位数小計 22		
合計 (170 科目)	合計 (172 科目)		
選択科目単位数合計 198	選択科目単位数合計 201		
別紙 13 基礎となる学部の教育課程等の	別紙 13 基礎となる学部の教育課程等の概		
概要 3~6ページ 新	要 3~6ページ 旧		

② 設置の趣旨等を記載した書類及び教育課程の概要との整合を図るため修正する。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
専門科目 6 ページから 12 ページ	専門科目 6 ページから 12 ページ
看護・リハビリテーション領域	看護・リハビリテーション分野
別紙9 授業科目の概要 新	別紙9 授業科目の概要 旧

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 12 履修モデル

新	旧
専門科目	専門科目
看護・リハビリテーション領域	看護・リハビリテーション分野
別紙8 資料12 履修モデル 新	別紙8 資料12 履修モデル 旧

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料 17 時間割表 3ページ~4ページ

新	IΠ
保健学特別研究(人間発達ケア(母子看護	保健学特別研究(人間発達ケア(母子看護
学)分野)	学) 領域)
保健学特別研究(人間発達ケア(作業療法	保健学特別研究(人間発達ケア(作業療法
学)分野)	学) 領域)

新	Iβ
保健学特別研究(健康コミュニティ分野)	保健学特別研究(健康コミュニティ領域)
保健学特別研究(人間発達ケア(理学療法	保健学特別研究(人間発達ケア(理学療法
学)分野)	学) 領域)
保健学特別研究(ケア提供システム分野)	保健学特別研究(ケア提供システム領域)
科目別授業時間	科目別授業時間等
科目区分 看護リハビリテーション領域	科目区分 看護リハビリテーション分野
科目区分 特別研究	科目区分 特別研究
保健学特別研究	保健学特別研究
ケア提供システム分野	ケア提供システム領域
人間発達ケア(理学療法学)分野	人間発達ケア(理学療法学領域)
人間発達ケア(作業療法学)分野	人間発達ケア(作業療法学領域)
人間発達ケア(母子看護学)分野	人間発達ケア(母子看護学領域)
健康コミュニティ分野	健康コミュニティ領域
別紙 10 資料 17 時間割表 新	別紙 10 資料 17 時間割表 旧

③ 添付した規程(案)関係について、設置の趣旨等を記載した書類との整合を図るため修正する。

(新旧対照表) 長野保健医療大学大学院研究科委員会規程(案)

新	旧						
第9条 この規程の改廃は、 <u>運営会議</u> の議	第9条 この規程の改廃は、 <u>運営委員会</u> の						
決により行う。	議決により行う。						
別紙 14 長野保健医療大学大学院研究科委	別紙 14 長野保健医療大学大学院研究科委						
員会規程(案) 新	員会規程(案) 旧						

(新旧対照表) 長野保健医療大学大学院履修規程(案)

新	旧
第18条 この規程の改廃は、研究科委員会	第 18 条 この規程の改廃は、研究科委員会
の発議により、教授会の議を経て <u>運営会</u>	の発議により、教授会の議を経て <u>運営委</u>
<u>議</u> の議決により行う。	<u>員会</u> の議決により行う。
別紙 15 長野保健医療大学大学院履修規程	別紙 15 長野保健医療大学大学院履修規程
(案) 新	(案) 旧

審査意見への対応を記載した書類 別紙目次

別紙1 資料9 保健学専攻履修プロセス概念図

別紙 2 資料 24 都道府県別・男女別 健康寿命・平均寿命の比較

別紙3 資料25 健康状況等の都道府県比較

別紙4 資料26 平成29年 介護サービス利用者数

別紙5 資料20 基礎となる学部との関係

別紙6 教育課程等の概要

別紙7 長野保健医療大学大学院学則(案)別紙1

別紙8 資料12 履修モデル

別紙9 授業科目の概要

別紙 10 資料 17 時間割表

別紙 11 シラバス

別紙 12 専任教員の年齢構成・学位保有状況

別紙13 基礎となる学部の教育課程の概要(保健科学部)

別紙 14 研究科委員会規程(案)

別紙 15 資料 11 長野保健医療大学大学院履修規程(案)

保健学専攻履修プロセス概念図

ディプロマ・ポリシー

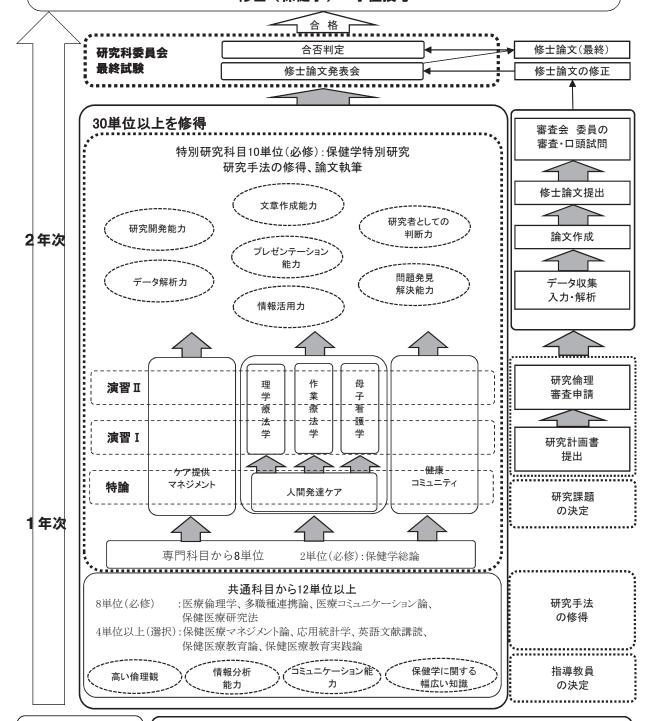
- 1 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
- 2 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
- 3 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて 考えを共有できる能力
- 4 研究・教育活動により後進を育成する能力
- 5 医療機関、行政機関、保健福祉施設、地域などにおいてマネジメントできる能力

修士(保健学) 学位授与

ケア提供システム分野のディプロマ・ポリシー

人間発達ケア分野のディプロマ・ポリシー

健康コミュニティ分野のディプロマ・ポリシー



アドミッション ・ポリシー 本大学院では以下のような要件で意欲的な学生を求める。

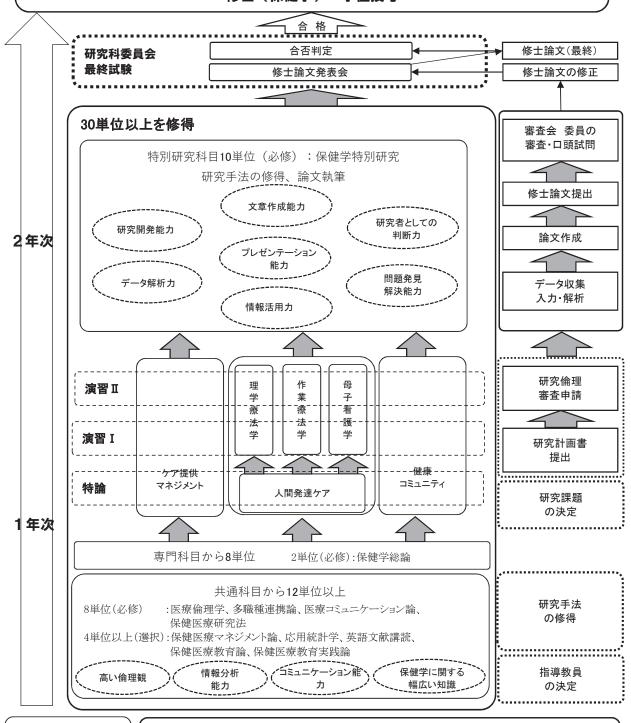
- 1 保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有し、専門職としての学識と技能を深めたい者
- 2 職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者
- 3 地域の保健医療福祉全般に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者

保健学専攻履修プロセス概念図

ディプロマ・ポリシー

- 1 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
- 2 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
- 3 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
- 4 研究・教育活動による後進を育成する能力
- 5 医療機関、地域などでの保健医療福祉チームをマネジメントできる能力

修士(保健学) 学位授与



アドミッション ・ポリシー 本大学院では以下のような要件で意欲的な学生を求める。

- 1 保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有し、専門職としての学識と技能を深めたい者
- 2 職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者
- 3 地域の保健医療福祉全般に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者

都道府県別・男女別 健康寿命・平均寿命の比較

青森 77.44 47 82.66 47 78.67 47 85.93 47 岩手 78.44 43 83.17 43 79.86 45 86.44 42 岩井 78.12 46 82.82 46 79.51 46 86.38 44 山形 79.11 33 83.77 32 80.52 29 86.96 25 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.33 39 80.61 27 86.46 33 本 79.17 36 84.01 14 80.96											
本語			健康寿命	命(年)			【参考】平均	匀寿命(年)			
出海道		男性	順位	女性	順位	男性	順位	女性	順位		
出海道	全国	79.47	_	83.84	_	80.77	_	87.01	_		
青森 77.44 47 82.66 47 78.67 47 85.93 47 岩手 78.44 43 83.17 43 79.86 45 86.44 42 岩井 78.12 46 82.82 46 79.51 46 86.38 44 山形 79.11 33 83.77 32 80.52 29 86.96 25 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 48 大城 79.17 31 83.33 39 80.61 27 86.46 33 本 79.17 36 84.01 14 80.96			35		25		34		37		
岩手 78.44 43 83.17 43 79.86 45 86.44 44 所成 79.69 17 84.12 9 80.99 15 87.16 8 水田 78.12 46 82.82 46 79.51 46 86.38 44 山形 79.11 33 83.77 32 80.52 29 86.96 22 福島 78.71 41 83.12 44 80.12 41 86.40 36 橋島 78.71 41 83.12 44 80.12 41 86.40 34 橋島 79.71 31 83.24 42 80.28 34 86.33 44 藤馬 79.00 34 83.33 39 80.10 42 86.84 33 藤里 79.70 16 84.01 14 80.96 16 86.91 33 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 41 藤宇 79.70 16 84.01 14		77.44							47		
宮城 79.69 17 84.12 9 80.99 15 87.16 20 秋田 78.12 46 82.82 46 79.51 46 86.38 44 利用 79.11 33 83.77 32 80.52 29 86.96 22 福島 78.71 41 83.12 44 80.12 41 86.40 43 炭城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 44 群馬 79.20 30 83.76 33 80.10 42 86.24 44 群馬 79.20 30 83.76 33 80.61 27 86.84 33 韓馬 79.98 18 83.78 31 80.82 22 86.66 33 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 15 神野川 79.98 5 83.91 21 81.32		78.44	43		43		45		42		
秋日									20		
田形 79.11 33 83.77 32 80.52 29 86.96 25 1 1					46				44		
福島 78.71 41 83.12 44 80.12 41 86.40 43 茨城 79.17 31 83.24 42 80.28 34 86.33 45 杭木 79.00 34 83.33 39 80.10 42 86.24 44 群馬 79.00 30 83.76 33 80.61 27 86.84 33 埼玉王 79.68 18 83.78 31 80.82 22 86.66 33 千葉 79.70 16 84.01 14 80.96 16 86.91 30 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 11 神奈川 79.98 5 83.91 21 81.32 5 87.24 17 新潟 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 富山 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 83 石川 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 11 石川 79.58 20 84.06 11 81.04 12 87.28 13 山梨 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 15 山梨 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 15 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 11 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 11 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 11 全髪知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.82 34 計門 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 22 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 玉重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 22 ※ 80.39 2 84.44 37 81.40 3 87.35 9 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 和歌山 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 和歌山 78.89 38 38.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 鳥取 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 愛媛 78.77 11 84.20 7 80.79 23 87.64 33 森山 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 森良 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 21 点扇 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 11 ロロ 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 21 点扇 79.87 40 80.92 23 87.64 32 森山 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 11 □ 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 11 □ 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 11 □ 59.79 27 28 83.80 29 80.51 30 86.68 31 □ 60.60 79.55 22 88.80 20 80.66 25 87.14 21 □ 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 66 □ 79.									29		
茨城									43		
栃木 79.00 34 83.33 39 80.10 42 86.24 46 24 25 24 26 26 27 27 28 28 28 28 28 28			31						45		
群馬 79.20 30 83.76 33 80.61 27 86.84 33 第五 79.68 18 83.78 31 80.82 22 86.66 35 千葉 79.70 16 84.01 14 80.96 16 86.91 30 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 15 神奈川 79.98 5 83.91 21 81.32 5 87.24 17 新潟 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 81.07 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8			34		39				46		
埼玉玉 79.68 18 83.78 31 80.82 22 86.66 39 千葉 79.70 16 84.01 14 80.96 16 86.91 30 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 11 神奈川 79.98 5 83.91 21 81.32 5 87.24 17 新鴻 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 新鴻 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 新鴻 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 81 石川 79.58 20 84.06 11 81.04 12 87.28 12 田梨 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 5 田梨 79.75 14 83.82 28 80.85 20 87.22 18 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 1 世東 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 34 黄脚 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 22 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 汝寶 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 2 次阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 天阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 烏眼 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 烏眼 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 烏眼 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 烏眼 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.67 1 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 田川 79.57 21 84.20 7 80.66 25 87.14 21 田川 79.57 21									33		
千葉 79.70 16 84.01 14 80.96 16 86.91 30 東京 79.72 15 84.06 11 81.07 11 87.26 15 神奈川 79.98 5 83.91 21 81.32 5 87.24 17 新陽 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 富山 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 8 福井 79.79 10 84.01 14 81.04 12 87.28 15 山梨 79.75 14 83.82 28 80.85 20 87.54 5 4 57.54 5 57.54 57.54 5 6 78.74 18 87.57 14 83.82 28 80.85 20 87.54 5 4 57.54 4 8 86.61 3 78.74 18 87.54 4									39		
東京									30		
神奈川 79.98 5 83.91 21 81.32 5 87.24 17.3 37.3 17.			15				11		15		
新潟 79.27 28 83.83 27 80.69 24 87.32 11 富山 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 8 石川 79.58 20 84.06 11 81.04 12 87.28 13 福井 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 5 山梨 79.75 14 83.82 28 80.85 20 87.22 18 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 月 岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 3 静岡 79.89 7 84.39 4 80.00 14 86.82 3 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 遼賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.57 4 京康 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.88 34 82.92 45 79.94 44 86.47 41 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 16 扇根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 16 西山 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 彦崎 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 丘島 79.87 28 83.80 29 80.51 30 86.88 33 香川 79.77 11 83.89 24 80.87 33 86.63 3 彦崎 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 丘田 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 彦崎 79.87 28 88.80 3 83.80 29 80.51 30 86.88 33 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高加 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 養媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高加 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 88.00 43 32 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 88.00 43 32 87.12 22 長鹿島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36		79.98	5	83.91	21	81.32	5	87.24	17		
富山 79.36 25 83.99 18 80.61 27 87.42 8 石川 79.58 20 84.06 11 81.04 12 87.28 13 福井 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 5 山梨 79.75 14 83.82 28 80.85 20 87.22 18 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 1 岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 34 静岡 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 22 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 正重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 5 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 33 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25					27	80.69	24	87.32	11		
石川 79.58 20 84.06 11 81.04 12 87.28 13 福井 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 5 14 83.82 28 80.85 20 87.22 18 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 月 岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 34 80.01 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 25 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 33 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 家都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 9 7 84.39 12 80.86 19 86.99 27 83.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 86.73 38 87.27 14 86.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 86.80 79.82 8 84.05 13 81.03 13 87.67 15 86.80 79.82 8 84.05 13 81.03 13 87.67 15 86.80 79.82 8 84.05 13 81.03 13 87.67 15 86.80 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 33 86.82 高知 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 86.80 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 33 66.80 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.67 33 86.87 30 80.26		79.36	25	83.99	18	80.61	27	87.42	8		
福井 79.79 10 84.01 14 81.27 6 87.54 5 山梨 79.75 14 83.82 28 80.85 20 87.22 18 長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 1 岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 34 8 80.95 17 87.10 22 8 8 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 84.39 4 80.95 17 87.10 22 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8			20	84.06	11	81.04	12		13		
山梨	福井	79.79	10	84.01	14	81.27	6		5		
長野 80.55 1 84.60 1 81.75 2 87.67 日本 岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 32 静岡 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 22 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 滋質 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 5 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 26 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 烏取 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3							20		18		
岐阜 79.81 9 83.74 34 81.00 14 86.82 34 静岡 79.89 7 84.39 4 80.95 17 87.10 24 愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 滋賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 5 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44		80.55	i	84.60	1	81.75	2	87.67	1		
要知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 滋賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 万字 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 9 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5			9		34		14	86.82	34		
愛知 80.01 4 84.00 16 81.10 8 86.86 32 三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 滋賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 万字 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 9 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 86.73 38 月季 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 8 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	静岡	79.89	7	84.39	4	80.95	17	87.10	24		
三重 79.56 23 83.91 21 80.86 19 86.99 27 滋賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 9 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.71 39 87.27 14 鳥根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 広島 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 3 広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 <tr< td=""><td>愛知</td><td>80.01</td><td>4</td><td>84.00</td><td>16</td><td>81.10</td><td>8</td><td></td><td>32</td></tr<>	愛知	80.01	4	84.00	16	81.10	8		32		
滋賀 80.39 2 84.44 3 81.78 1 87.57 4 京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 5 5 5 5 5 5 5 5 5	三重	79.56	23	83.91	21	80.86	19	86.99	27		
京都 79.90 6 83.64 37 81.40 3 87.35 5 大阪 78.85 36 83.25 41 80.23 38 86.73 38 兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 奈良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 島根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 歯間山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 3 広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 39 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19	滋賀	80.39	2	84.44	3	81.78	1	87.57	4		
兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 京良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 島根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 日間山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 日間山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 日間山 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 日間日 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 日間日 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 3年 1 日間日 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 2月 在間 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 8	京都	79.90	6	83.64	37	81.40	3	87.35	9		
兵庫 79.77 11 84.14 8 80.92 18 87.07 25 京良 80.27 3 83.90 23 81.36 4 87.25 16 和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 島根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 日間山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 日間山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 日間山 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 日間日 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 日間日 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 3年 1 日間日 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 2月 在間 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 80.97 28 8	大阪	78.85	36	83.25	41	80.23	38	86.73	38		
和歌山 78.38 44 82.92 45 79.94 44 86.47 41 8 8 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 8 8 8 8 8 8 8 8 8	兵庫	79.77	11	84.14	8	80.92	18	87.07	25		
鳥取 78.80 38 83.95 20 80.17 39 87.27 14 島根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3	奈良	80.27	3	83.90	23	81.36	4	87.25	16		
島根 79.57 21 84.20 7 80.79 23 87.64 3 岡山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 39 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12	和歌山	78.38	44	82.92	45	79.94	44	86.47	41		
岡山 79.57 21 84.23 6 81.03 13 87.67 1 広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 38 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12	鳥取	78.80	38	83.95	20	80.17	39	87.27	14		
広島 79.82 8 84.05 13 81.08 9 87.33 10 山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 39 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 <td>島根</td> <td>79.57</td> <td>21</td> <td>84.20</td> <td>7</td> <td>80.79</td> <td>23</td> <td>87.64</td> <td>3</td>	島根	79.57	21	84.20	7	80.79	23	87.64	3		
山口 79.27 28 83.80 29 80.51 30 86.88 31 徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 39 香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36 <	岡山	79.57	21	84.23	6	81.03	13	87.67	1		
徳島 79.15 32 83.27 40 80.32 33 86.66 39 番川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 長崎 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78	広島	79.82	8	84.05	13	81.08	9	87.33	10		
香川 79.77 11 83.89 24 80.85 20 87.21 19 愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	山口	79.27	28	83.80	29	80.51	30	86.88	31		
愛媛 78.72 40 83.61 38 80.16 40 86.82 34 高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	徳島	79.15	32	83.27	40	80.32	33	86.66	39		
高知 78.61 42 83.79 30 80.26 37 87.01 26 福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 歷史島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	香川	79.77	11	83.89	24	80.85	20	87.21	19		
福岡 79.34 26 84.09 10 80.66 25 87.14 21 佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	愛媛	78.72	40	83.61	38	80.16	40	86.82	34		
佐賀 79.53 24 84.29 5 80.65 26 87.12 22 長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36		78.61		83.79	30	80.26		87.01	26		
長崎 79.29 27 83.85 26 80.38 31 86.97 28 熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36		79.34	26	84.09	10	80.66	25	87.14	21		
熊本 79.76 13 83.98 19 81.22 7 87.49 6 大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	佐賀	79.53		84.29	5	80.65	26	87.12	22		
大分 79.63 19 84.57 2 81.08 9 87.31 12 宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	長崎	79.29	27	83.85	26	80.38	31	86.97	28		
宮崎 78.82 37 84.00 16 80.34 32 87.12 22 鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	熊本	79.76	13	83.98	19	81.22	7	87.49	6		
鹿児島 78.73 39 83.72 35 80.02 43 86.78 36	大分	79.63	19	84.57	2	81.08		87.31	12		
	宮崎	78.82	37	84.00	16	80.34	32	87.12	22		
沖縄 78.36 45 83.68 36 80.27 36 87.44 7	鹿児島	78.73	39	83.72	35	80.02	43	86.78	36		
	沖縄	78.36	45	83.68	36	80.27	36	87.44	7		

注:健康寿命は 2016 年、平均寿命は 2015 年 ※健康寿命は、日常生活に制限のない期間として計算

出典:「健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究」厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)分担研究報告書 研究分担者:橋本修二(藤田保健衛生大学医学部衛生学講座・教授)、厚生労働省「都道府県別生命表(2015 年)」をもとに作成

健康状況等の都道府県比較

日常生活に制限のない期間の平均 (2016年) 自分が健康であると自覚している期間の平均 (2016年)

	4/7 \ \	男性		女性				
番号	都道 府県	推定値	順	推定値	順			
		1年7年10年	位	1年7年10年	位			
	全国	72.14		74.79				
1	北海道	71.98	25	73.77	45			
2	青森	71.64	35	75.14	20			
3	岩手	71.85	28	74.46	34			
4	宮城	72.39	12	74.43	36			
5	秋田	71.21	47	74.53	33			
6	山形	72.61	7	75.06	23			
7	福島	71.54	37	75.05	24			
8	茨城	72.50	9	75.52	8			
9	栃木	72.12	19	75.73	6			
10	群馬	72.07	22	75.20	15			
11	埼玉	73.10	2	74.67	29			
12	千葉	72.37	13	75.17	18			
13	東京	72.00	24	74.24	38			
14	神奈川	72.30	16	74.63	31			
15	新潟	72.45	10	75.44	11			
16	富山	72.58	8	75.77	4			
17	石川	72.67	5	75.18	16			
18	福井	72.45	10	75.26	14			
19	山梨	73.21	1	76.22	3			
20	長野	72.11	20	74.72	27			
21	岐阜	72.89	4	75.65	7			
22	静岡	72.63	6	75.37	13			
23	愛知	73.06	3	76.32	1			
24	三重	71.79	31	76.30	2			
25	滋賀	72.30	16	74.07	42			
26	京都	71.85	28	73.97	44			
27	大阪	71.50	40	74.46	34			
28	兵庫	72.08	21	74.23	39			
29	奈良	71.39	42	74.10	41			
30	和歌山	71.36	44	74.42	37			
31	鳥取	71.69	33	74.14	40			
32	島根	71.71	32	75.74	5			
33	岡山	71.54	37	75.09	21			
34	広島	71.97	27	73.62	46			
35	山口	72.18	18	75.18	16			
36	徳島	71.34	45	74.04	43			
37	香川	72.37	13	74.83	26			
38	愛媛	71.33	46	74.59	32			
39	高知	71.37	43	75.17	18			
40	福岡	71.49	41	74.66	30			
41	佐賀	71.60	36	75.07	22			
42	長崎	71.83	30	74.71	28			
43	熊本	71.68	-		-			
44	大分	71.54	37	75.38	12			
45	宮崎	72.05	23	74.93	25			
46	鹿児島	72.31	15	75.51	9			
47	沖縄	71.98	25	75.46	10			

	₩7 \ \\	男性		女性				
番号	都道 府県	推定値	順	推定値	順			
			位		位			
- 1	全国	72.31	0.0	75.58	10			
1	北海道	71.65	36	74.92	40			
2	青森	71.03	46	75.45	29			
3	岩手	71.52	41	74.60	44			
4	宮城	72.50	16	75.52	27			
5	秋田	71.71	35	75.78	22			
6	山形	72.67	12	76.11	14			
7	福島	72.12	27	74.47	45			
8	茨城	72.82	10	75.34	33			
9	栃木	71.97	30	76.23	11			
10	群馬	72.13	25	75.83	20			
11	埼玉	73.12	4	75.90	18			
12	千葉	73.09	5	75.38	32			
13	東京	72.53	15	75.45	29			
14	神奈川	73.08	6	75.93	17			
15	新潟	72.29	21	76.32	9			
16	富山	72.56	14	76.52	7			
17	石川	73.15	3	76.05	15			
18	福井	73.21	2	76.81	4			
19	山梨	74.14	1	77.04	3			
20	長野	72.25	24	75.59	26			
21	岐阜	72.97	9	75.62	25			
22	静岡	72.31	20	76.36	8			
23	愛知	72.77	11	76.24	10			
24	三重	71.79	34	77.33	2			
25	滋賀	72.57	13	75.76	23			
26	京都	73.03	7	75.02	39			
27	大阪	71.34	44	74.37	46			
28	兵庫	71.99	29	75.33	34			
29	奈良	72.26	23	75.80	21			
30	和歌山	71.49	42	75.09	37			
31	鳥取	71.65	36	75.30	35			
32	島根	72.32	18	76.65	6			
33	岡山	71.84	32	76.15	13			
34	広島	72.13	25	74.89	41			
35	山口	71.86	31	75.64	24			
36	徳島	71.62	38	74.36	47			
37	香川	72.28	22	75.09	37			
38	愛媛	71.00	47	75.48	28			
39	高知	71.32	45	74.80	43			
40	福岡	71.49	42	75.26	36			
41	佐賀	71.83	33	75.99	16			
42	長崎	72.04	28	75.42	31			
43	熊本	71.56	_	74.82	42			
44	大分	71.56	39	75.88	19			
45	宮崎	72.42	17	76.77	5			
46	鹿児島	73.01	8	76.22	12			
47	沖縄	72.32	18	78.04	1			

出典:「健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究」厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)分担研究報告書 研究分担者:橋本修二(藤田保健衛生大学医学部衛生学講座・教授)

基礎資料として、健康情報は介護保険関係の統計情報を、死亡情報は人口動態統計を用いた。

平成29年 介護サービス利用者数

都道府県	訪問看護 系	人口千人 当たり 利用者数	順位	リハビリ系	人口千人 当たり 利用者数	順位	合計	人口千人 当たり 利用者数	順位	H29.10.1 65歳以上人 口(千人)
全国	658,448	18.73		540,265	15.37		1,198,713	34.10		35,151
北海道	28,303	17.33	16	21,484	13.16	37	49,787	30.49	34	1,633
青森県	6,347	15.56	23	8,417	20.63	13	14,764	36.19	16	408
岩手県	5,429	13.57	34	8,125	20.31	14	13,554	33.89	23	400
宮城県	9,898	15.71	22	8,863	14.07	34	18,761	29.78	36	630
秋田県	3,044	8.57	47	2,942	8.29	47	5,986	16.86	47	355
山形県	4,632	13.01	38	6,934	19.48	15	11,566	32.49	27	356
福島県	8,611	15.13	28	10,287	18.08	16	18,898	33.21	26	569
茨城県	9,127	11.14	45	11,988	14.64	30	21,115	25.78	44	819
栃木県	6,221	11.61	42	6,991	13.04	38	13,212	24.65	46	536
群馬県	9,396	16.57	19	8,362	14.75	29	17,758	31.32	30	567
埼玉県	26,794	14.09	30	25,302	13.31	36	52,096	27.40	39	1,901
千葉県	22,769	13.46	36	20,724	12.25	42	43,493	25.71	45	1,692
東京都	82,723	26.17	3	28,282	8.95	45	111,005	35.12	19	3,161
神奈川県	51,620	22.70	6	19,482	8.57	46	71,102	31.27	31	2,274
新潟県	9,858	13.88	32	8,978	12.65	41	18,836	26.53	42	710
富山県	3,738	11.19	44	5,569	16.67	22	9,307	27.87	38	334
石川県	5,387	16.27	21	4,948	14.95	28	10,335	31.22	32	331
福井県	5,122	21.98	8	4,036	17.32	18	9,158	39.30	11	233
山梨県	3,568	14.56	29	3,103	12.67	40	6,671	27.23	41	245
長野県	12,253	18.91	12	10,005	15.44	26	22,258	34.35	21	648
岐阜県	10,598	17.96	14	7,077	11.99	43	17,675	29.96	35	590
静岡県	14,259	13.35	37	13,767	12.89	39	28,026	26.24	43	1,068
愛知県	35,004	18.90	13	30,145	16.28	23	65,149	35.18	18	1,852
三重県	7,949	15.26	25	7,032	13.50	35	14,981	28.75	37	521
滋賀県	7,477	20.89	9	4,008	11.20	44	11,485	32.08	28	358
京都府	18,106	24.40	5	10,563	14.24	32	28,669	38.64	12	742
大阪府	72,732	30.33	1	33,775	14.08	33	106,507	44.41	3	2,398
兵庫県	42,041	26.98	2	23,952	15.37	27	65,993	42.36	7	1,558
奈良県	8,173	20.03	10	6,565	16.09	24	14,738	36.12	17	408
和歌山県	7,579	24.85	4	5,088	16.68	21	12,667	41.53	8	305
鳥取県	2,707	15.38	24	4,068	23.11	8	6,775	38.49	13	176
島根県	4,424	19.23	11	3,346	14.55	31	7,770	33.78	24	230
岡山県	9,236	16.29	20	12,104	21.35	11	21,340	37.64	15	567
広島県	18,140	22.42	7	17,521	21.66	9	35,661	44.08	4	809
山口県	6,411	13.88	33	7,992	17.30	19	14,403	31.18	33	462
徳島県	3,658	15.18	27	6,057	25.13	6	9,715	40.31	9	241
香川県	2,706	8.96	46	7,451	24.67	7	10,157	33.63	25	302
愛媛県	7,569	17.28	17	7,489	17.10	20	15,058	34.38	20	438
高知県	2,827	11.54	43	3,880	15.84	25	6,707	27.38	40	245
福岡県	23,844	17.23	18	28,948	20.92	12	52,792	38.14	14	1,384
佐賀県	2,803	11.63	41	6,688	27.75	4	9,491	39.38	10	241
長崎県	5,700	13.48	35	13,289	31.42	1	18,989	44.89	2	423
熊本県	9,222	17.37	15	16,675	31.40	2	25,897	48.77	1	531
大分県	5,587	15.22	26	10,123	27.58	5	15,710	42.81	6	367
宮崎県	4,696	13.89	31	6,100	18.05	17	10,796	31.94	29	338
鹿児島県	6,339	12.65	39	15,176	30.29	3	21,515	42.94	5	501
沖縄県	3,821	12.57	40	6,564	21.59	10	10,385	34.16	22	304

出典:厚生労働省「平成29年介護サービス施設・事業所調査」

基礎となる学部との関係

看護学部看護学科

看護の統合と実践 看護提供システム論

看護学専門科目 小児看護学 母性看護学

公衆衛生看護学専門科目 公衆衛生看護学 I ~Ⅲ

保健科学部 リハビリテーション学科

【理学療法学専攻】

理学療法倫理管理 理学療法倫理・管理学

理学療法評価学

理学理学療法評価学 I ~VI

理学療法治療学

運動療法学 I · Ⅱ

物理療法学Ⅰ・Ⅱ

理学療法義肢装具学

理学療法治療学 I ~VI

地域理学療法学 地域理学療法学Ⅰ・Ⅱ 生活環境学

【作業療法学専攻】

作業療法倫理管理 作業療法管理学

作業療法評価学

身体系・精神系・発達系・ 作業療法評価学

作業療法治療学

身体系・発達系・精神系作業療法学、高齢期作業療法学 Ⅰ・Ⅱ、日常生活活動学Ⅰ・ Ⅲ、身体系・精神系・発達系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ、高次 脳機能系作業療法学Ⅰ・Ⅱ、 作業療法系義肢装具学Ⅰ・Ⅱ、 職業前評価治療学

作業療法治療学I~VI

地域作業療法学 地域作業療法学 I • Ⅱ

保健学研究科 保健学専攻

専門科目

[看護・リハビリテーション領域] 保健学総論

【ケア提供システム分野】

ケア提供システム特論 ケア提供システム演習 I ケア提供システム演習 II

【人間発達ケア分野】 人間発達ケア特論 (理学療法学)

人間発達ケア演習Ⅰ(理学療法学) 人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)

(作業療法学)

人間発達ケア演習 I (作業療法学) 人間発達ケア演習 II (作業療法学)

(母子看護学)

人間発達ケア演習 I (母子看護学) 人間発達ケア演習 II (母子看護学)

【健康コミュニティ分野】

健康コミュニティー特論 健康コミュニティー演習 I 健康コミュニティー演習 I

保健学特別研究

基礎となる学部との関係

看護学部看護学科

保健ボランティア 人間発達学 保健医療福祉行政論 総合医療論 看護教育論 看護研究法 公衆衛生看護学

保健科学部 リハビリテーション学科

ほか

理学療法学専攻

IPE関連科目

リハビリテーション医学 生命倫理 病態運動学 理学療法治療学 日常生活活動学 地域理学療法学 IPE関連科目 ほか

作業療法学専攻

作業療法管理学 身体系作業療法学 発達系作業療法治療学 日常生活活動学 地域作業療法学 IPE関連科目 ほか

保健学研究科 保健学専攻

共通科目

医療倫理学

多職種協働・地域連携論 医療コミュニケーション論 保健医療マネジメント論 教育方法論Ⅰ・Ⅱ 研究方法論Ⅰ・Ⅱ

専門科目

[看護・リハビリテーション分野] 保健学総論

ケア提供システム特論 ケア提供システム演習 I ケア提供システム演習 I

人間発達ケア特論

人間発達ケア演習 I (理学療法学) 人間発達ケア演習 II (理学療法学)

人間発達ケア演習 I (作業療法学) 人間発達ケア演習 II (作業療法学)

人間発達ケア演習 I (母子看護学) 人間発達ケア演習 II (母子看護学)

健康コミュニティ特論 健康コミュニティ演習 I 健康コミュニティ演習 I

保健学特別研究

(用紙 日 別紙6 新

		教育	課	5	程		等		の		概		要	į	
(保健学研究科保健学専攻)				単位数 授業形態			専任教員等の配置								
æl					半仏奴		1:	又未//27	実		寺正和	X 具 守 v	7111世		
科区		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
		医療倫理学	1 前	2			0								兼1
		多職種連携論	1 前	2			0			2	2				兼1 オムニハ゛ス・ 一部共同
		医療コミュニケーション論	1 前		2		0			4					兼1 オムニバス
		保健医療マネジメント論	1 前		2		0			2	1				オムニハ゛ス
非道	t fi	応用統計学	1 前		2		0			1					兼3 オムニハ゛ス
利目	4	医療英語研究	1 前	2			0			3					兼2 オムニハ゛ス・ 一部共同
		保健医療教育論	1 前	2			0			4					兼1 一部共同
		保健医療教育実践論	1 前		2		0			4					兼1 一部共同
		保健医療研究法	1 前	2			0			3	1				兼2 オムニバス
		小計 (9科目)	-	10	8			_		10	3				兼9
		保健学総論	1 前	2			0			10	1				兼3 オムニハ゛ス・ 一部共同
		ケア提供システム特論	1 前		2		0			2	1				オムニハ゛ス・
		ケア提供システム演習 I	1後		2			0		2	1				一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	1後		2			0		2	1				一部共同
	£	人間発達ケア特論	1 前		2		0			7	1				兼1 オムニバス
	看 護 •	人間発達ケア演習 I (理学療法学)	1後		2			0		3					
	リハ	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)	1後		2			0		3					
専門科	ビリテ	人間発達ケア演習 I (作業療法学)	1後		2			0		1	1				
目	シ	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)	1後		2			0		1	1				
	ョン海	人間発達ケア演習 I (母子看護学)	1後		2			0		3					オムニバンス
	領域	人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)	1後		2			0		3					オムニハ゛ス
		健康コミュニティ特論	1前		2		0			2	2				オムニハ゛ス・
		健康コミュニティ演習 I	1後		2			0		2					一部共同ないできます。
		健康コミュニティ演習Ⅱ	1後		2			0		2					一部共同ない。ス・
		小計 (14科目)	_	2	26		<u> </u>	_		12	4		<u> </u>		一部共同
		保健学特別研究	1後~2通	10				0		11	1				
特別究系		小計 (1科目)	-	10				_		11	1				
	合計 (24科目) —		22	34		<u> </u>			13	4		<u> </u>	<u> </u>	兼12	
	224					ルンドナ	I		保健衛			リハ	<u> </u> ごリテ	<u> </u> ーショ	^{※12} : ン関係)
	子	位又は称号修士(保健学)		-	升 [][[] []	/よ子や	中の分野	il.	保健復	新生学	関係(看護	学関係)	

修了要件及び履修方法	授業期	期間等
共通科目から12単位以上(必修10単位、選択2単位以上)、専門科目から8単位 (必修2単位、選択必修6単位)、特別研究10単位(必修)の合計30単位以上を取 得し、かつ修士論文の審査に合格すること。	1 学年の学期区分	2期
※1 選択必修科目は「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の3分野のうちから希望する研究課題に最も相応しい分野	1 学期の授業期間	15週
を選択すること。	1 時限の授業時間	90分
※2 上記の選択必修科目は、それぞれの選択した分野に応じて「ケア提供システム特論」、「人間発達ケア特論」、「健康コミュニティ特論」の3科目のうちから1科目(2単位)を選択し、それぞれの特論に繋がる演習 I (2単位)及び演習 II (2単位)を履修し合計6単位を取得すること。		
※3 「人間発達ケア特論」 (2単位) を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学のうちから人間発達ケア演習 I (2単位) 及び人間発達ケア演習 II (2単位) を選択履修し合計6単位を取得すること。		

別紙6 旧

		教育	課		程		等		の		概		要	=======================================	
(假	₹健:	学研究科保健学専攻) T	1	I	W 11. W		1 ,	-5 M/4 T/ 4	ale.	東 ケ					ı
æ					単位数	<u> </u>	1	受業形態	実	専任教員等の配置				1	
科区	分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験 • -	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
		医療倫理学	1 前	2			0								兼1
		多職種連携論	1 前	2			0			3	1				兼1 オムニハ゛ス・ 一部共同
		医療コミュニケーション論	1 前	2			0			5					兼1 オムニバス
		保健医療マネジメント論	1 前		2		0			2	1				オムニハ゛ス
j j	共	応用統計学	1 前		2		0			1					兼3 オムニバス
禾	斗 目	英語文献講読	1 前		2		0								兼2 オムニハ・ス
		保健医療教育論	1 前		2		0			4					兼1 一部共同
		保健医療教育実践論	1 前		2		0			4					兼1 一部共同
		保健医療研究法	1 前	2			0			3	1				兼2 オムニハ゛ス
		小計 (9科目)	_	8	10			_	•	11	2				兼9
		保健学総論	1前	2			0			10	1				兼3 オムニハ゛ス・ 一部共同
		ケア提供システム特論	1 前		2		0			2	1				オムニバス・ 一部共同
		ケア提供システム演習 I	1後		2			0		2	1				一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	1後		2			0		2	1				一部共同
	= €	人間発達ケア特論	1 前		2		0			9					兼1 オムニバス
	看 護 ・	人間発達ケア演習 I (理学療法学)	1後		2			0		4					
	リハ	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)	1後		2			0		4					
専門科	ビリテ	人間発達ケア演習 I (作業療法学)	1後		2			0		2					
目	シ	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)	1後		2			0		2					
	ョン	人間発達ケア演習 I (母子看護学)	1後		2			0		3					オムニバス
	領域	人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)	1後		2			0		3					オムニバス
		健康コミュニティ特論	1前		2					2	2				オムニハ゛ス・
		健康コミュニティ演習 I	1後		2			0		2					一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅱ	1後		2			0		2					一部共同
		小計 (14科目)	-	2	26			_		13	3				一部共同 兼4
		保健学特別研究	2通	10				0		13	1			\vdash	ZIIN ±
	別研 斗目	小計 (1科目)	2,tm —	10				_		13	1				
			<u> </u> 		26		<u> </u>	_		13	3		<u> </u>	<u> </u>	兼12
									保健組			リハド	ブリテ	ーショ	^{ボ12} : ン関係)
合計(24科目) - 20 36 学位又は称号 修士(保健学) 学位又は							中の分野	野	保健復 保健復	制 新生学 新生学	関係(関係(リハ l (看護)	_ ごリテ ⁻ 学関係)	ーショ)	ン関係

修了要件及び履修方法	授業基	期間等
共通科目から12単位以上(必修8単位、選択4単位以上)、専門科目から8単位 (必修2単位、選択必修6単位)、特別研究10単位(必修)の合計30単位以上を取 得し、かつ修士論文の審査に合格すること。	1 学年の学期区分	2期
※1 選択必修科目は「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の3分野のうちから希望する研究課題に最も相応しい分野		15週
を選択すること。	1 時限の授業時間	90分
※2 上記の選択必修科目は、それぞれの選択した分野に応じて「ケア提供システム特論」、「人間発達ケア特論」、「健康コミュニティ特論」の3科目のうちから1科目(2単位)を選択し、それぞれの特論に繋がる演習 I (2単位)及び演習 II (2単位)を履修し合計6単位を取得すること。		
※3 「人間発達ケア特論」 (2単位) を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学のうちから人間発達ケア演習 I (2単位) 及び人間発達ケア演習 II (2単位) を選択履修し合計6単位を取得すること。		

別表1 教育課程

	到日豆八	拉 华 幻 口 友	単	i位	配当
	科目区分	授業科目名	必修	選択	年次
		医療倫理学	2		1前
	共通科目	多職種連携論	2		1前
		医療コミュニケーション論		2	1前
		保健医療マネジメント論		2	1前
		応用統計学		2	1前
		医療英語研究	2		1前
		保健医療教育論	2		1前
		保健医療教育実践論		2	1前
		保健医療研究法	2		1前
		小計	10	8	
		保健学総論	2		1前
		ケア提供システム特論		2	1前
		ケア提供システム演習 I		2	1後
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後
		人間発達ケア特論		2	1前
		人間発達ケア演習 I (理学療法学)		2	1後
専	五 类 11 、10	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)		2	1後
門 科	看護・リハビ リテーション 領域	人間発達ケア演習 I (作業療法学)		2	1後
目	贝坝	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)		2	1後
		人間発達ケア演習 I (母子看護学)		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)		2	1後
		健康コミュニティ特論		2	1前
		健康コミュニティ演習 I		2	1後
		健康コミュニティ演習Ⅱ		2	1後
		小計	2	26	
	特別研究	保健学特別研究		10	1後~2通

別表1 教育課程

	웨티로 //	₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩	単	.位	配当
	科目区分	授業科目名	必修	選択	年次
		医療倫理学	2		1前
		多職種連携論	2		1前
		医療コミュニケーション論	2		1前
	共通科目	保健医療マネジメント論		2	1前
		応用統計学		2	1前
		英語文献講読		2	1前
		保健医療教育論		2	1前
		保健医療教育実践論		2	1前
		保健医療研究法	2		1前
		小計	8	10	
		保健学総論	2		1前
		ケア提供システム特論		2	1前
		ケア提供システム演習 I		2	1後
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後
		人間発達ケア特論		2	1前
		人間発達ケア演習 I (理学療法学)		2	1後
専	五 类 11 . 13	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)		2	1後
門 科	看護・リハビ リテーション 分野	人間発達ケア演習 I (作業療法学)		2	1後
目) JE	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)		2	1後
		人間発達ケア演習 I (母子看護学)		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)		2	1後
		健康コミュニティ特論		2	1前
		健康コミュニティ演習 I		2	1後
		健康コミュニティ演習Ⅱ		2	1後
		小計	2	26	
	特別研究	保健学特別研究		10	2通

履修モデル

						ケア提供				健康	Fr	1	研究系	Ŕ	林	hr	į	教育系	Ŕ	- Att
科目	区分	授業科目名	単	位	配	システム 分野	人間	見発達ケア ク	分野	コミュニ ティ分野		人間	発達 分野		健康コミュ	グア提供シ	人間	発達 分野		健康コミュ
	科目区分	22,111.1	必修	選択	当	管理者 志望者	理学 療法士等	作業 療法士等	看護師等	保健師等	ンステム分野	理学	作業	看護	ニティ分野	ンステム分野	理学	作業	看護	ニティ分野
		医療倫理学	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		多職種連携論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		医療コミュニケーション論		2	1前	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	<
		保健医療マネジメント論		2	1前	\Diamond														
共通	科目	応用統計学		2	1前		\Diamond	\Diamond	\Diamond		\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond					
		医療英語研究	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		保健医療教育論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		保健医療教育実践論		2	1前					\qquad						\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	<
		保健医療研究方法論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		保健学総論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
		ケア提供システム特論		2	1前	0					0					0				
		ケア提供システム演習 I		2	1後	0					0					0				
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後	0					0					0				
	看護	人間発達ケア特論		2	1前		0	0	0			0	0	0			0	0	0	
	У	人間発達ケア演習 I (理学療法学)		2	1後		0					0					0			
専	ハビリ	人間発達ケア演習Ⅱ (理学療法学)		2	1後		0					0					0			
門 科	テーシ	人間発達ケア演習 I (作業療法学)		2	1後			0					0					0		
目	ョン	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)		2	1後			0					0					0		
	領域	人間発達ケア演習 I (母子看護学)		2	1後				0					0					0	
		人間発達ケア演習Ⅱ (母子看護学)		2	1後				0					0					0	
		健康コミュニティー特論		2	1 前					0				! !	0					(
		健康コミュニティー演習 I		2	1後					0					0					(
		健康コミュニティー演習Ⅱ		2	1後					0				:	0					
	特別 研究	保健学特別研究	10		1後~ 2通	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		•	•	•
	修了。	· 公要単位:30単位以上	22	34		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	3

(注) ●:必修 ○:選択必修 ◇:選択

(注) 研究教育系の専門科目は、特論・演習Ⅰ・Ⅱを同系統で選択

共通科目:12単位以上(必修10単位、選択2単位以上) 専門科目:18単位以上(必修12単位、選択必修6単位)

修了必要単位:30単位以上(必修22単位、選択2単位以上、選択必修6単位)

履修モデル

						ケア提供				健康	- /-	i	研究系	Ŕ	job.	1-	į	教育系	Ę	Inde
科日	区分	授業科目名	単	位	配	システム 分野	人間	『発達ケア 』	分野	コミュニ ティ分野	ケア提供シ	人間	発達 分野		健康コミュ	ケア提供シ	人間	発達 分野		健康コミュ
科目区分	1又来行日-石	必修	選択	当	管理者 志望者	理学 療法士等	作業 療法士等	看護師等	保健師等	システム分野	理学	作業	看 護	ユニティ分野	システム分野	理学	作業	看護	ユニティ分野	
		医療倫理学	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		多職種連携論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		医療コミュニケーション論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		保健医療マネジメント論		2	1前	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond										
共通	i科目	応用統計学		2	1前		\Diamond	\Diamond	\Diamond		\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond				:	
		英語文献講読		2	1前						\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond				:	
		保健医療教育論		2	1前											\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond
		保健医療教育実践論		2	1前	\Diamond				\langle						\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond	\Diamond
		保健医療研究方法論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		保健学総論	2		1前	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
		ケア提供システム特論		2	1前	0					0					0				
		ケア提供システム演習 I		2	1後	0					0			1		0				
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後	0					0					0				
	看護	人間発達ケア特論		2	1前		0	0	0			0	0	0			0	0	0	
	У	人間発達ケア演習 I (理学療法学)		2	1後		0					0					0			
専	ハビリ	人間発達ケア演習 II (理学療法学)		2	1後		0					0					0			
門科	テーシ	人間発達ケア演習 I (作業療法学)		2	1後			0					0					0		
目	ョン	人間発達ケア演習 II (作業療法学)		2	1後			0					0	1				0	, ,	
	分野	人間発達ケア演習 I (母子看護学)		2	1後				0					0					0	
		人間発達ケア演習 II (母子看護学)		2	1後				0					0					0	
		健康コミュニティー特論		2	1前					0					0					С
		健康コミュニティー演習I		2	1後					0					0					С
		健康コミュニティー演習Ⅱ		2	1後					0					0					С
	特別研究	保健学特別研究	10		2通	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		•	•	•
	修了证	必要単位:30単位以上	20	36		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		30	30	30

(注) ●:必修 ○:選択必修 ◇:選択

(注) 研究教育系の専門科目は、特論・演習Ⅰ・Ⅱを同系統で選択

共通科目:12単位以上(必修8単位、選択4単位以上) 専門科目:18単位以上(必修12単位、選択必修6単位)

修了必要単位:30単位以上(必修20単位、選択4単位以上、選択必修6単位)

別紙9 新

		業	—————————————————————————————————————		<u></u> の	概	(用紙 上,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
(保健学研	究科保健学専攻)	~	17	ı	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	.115/0	×	
科目区分	授業科目の名称			a 本 本	義等の内容			備考
共通科目	多職種連携論		表で、	# (3 医安定)	道化や (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	想近では を は で は で は に に に に に に に に に に に に に	- EAJ Z と間解 せい 要を 要を 子 J とに成的偽践 キーン 要を 響、オ遺題深 論いて非題 を これでいと 重 、 ぶ で	

共通科目	医療コミュニケーション論	本講義の目的は、医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために(I)コミュニケーションの基本理論(2)コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの部価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。(オムニバス方式全15回) (① 井部俊子/4回)個人の病態を本人や家族に伝える臨床コミュニケーションについて学修する。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。さらにグループ担織におけるコミュニケーションについて学が。 (③ 中島ハ十ー/7回)疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成や論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎を修得する。 (④ 外里冨佐江/2回)個人の行動変容を促すコミュニケーションおよび患者・市民の啓発について学ぶ。 (④ 別略千恵/1回) 集団の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。 (⑥ 奥村信彦/1回)	オムニバス方式
	保健医療マネジメント論	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。 (オムニバス方式全15回) (① 井部俊子/4回) 医療の質保証と医療安全、人材開発と経験学修、リーダーシップとマネジメント、組織開発の手法について概説する。 (③ 中島八十一/9回) 人口減少時代における社会保障、保健医療制度・政策保健医療福祉に関連した法規について理解する。 (⑤ 水嵜知子/2回) 保健医療福祉における倫理について理解する。	オムニバス方式

応用統計学	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うた。オムニバス方式
	めに、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健 医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを
	目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の 手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計
	解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。
	(オムニバス方式全15回)
	(⑦ 熊本圭吾/9回)
	記述統計、推測統計、心理統計を学び、統計手法の適用について理解する。
	(21 林邦彦/2回)
	医学研究における統計学について概説し、観察研究の研究計画における統計学について理解する。
	(22 井手野由季/2回)
	観察研究のデータ解析における統計学とメタアナリシスについて学ぶ。
	(23 長井万恵/2回) 介入研究の研究計画における統計学とデータ解析における統計学について
	学ぶ。
共	
通 医療英語研究	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医オムニバス方式
目	療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。 一部共同 特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半は英語の文
	献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。
	(オムニバス方式全15回)
	(地) 伊泉均/6回)
	(⑯ 伊原巧/6回) 細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋 骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋 骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理 解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素を
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋 骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回)
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋 骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理 解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素を つなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単 語の意味について理解する。
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (⑰ 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (⑰ 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (⑰ 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回) (共同) 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでの
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (⑰ 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (⑰ 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回〉(共同) 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (⑰ 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (⑰ 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回) (共同) 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (⑰ 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回) (共同) 看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレ
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (⑪ 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (⑪ 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回〉(共同) 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (⑪ 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同) 看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (① 奥村信彦、④ 外里富佐江/2回〉(共同)作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同)看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑩ 福谷保/2回〉(共同)理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでの
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (① 奥村信彦、④ 外里富佐江/2回〉(共同)作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同)看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑥ 福谷保/2回〉(共同)
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (① 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回〉(共同)作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同)看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑩ 福谷保/2回〉(共同)理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (① 奥村信彦、④ 外里富佐江/2回〉(共同)作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同)看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑩ 福谷保/2回〉(共同)理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでの
	細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (① 奥村信彦/3回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 (① 奥村信彦、④ 外里冨佐江/2回〉(共同)作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑤ 坂口けさみ/2回〉(共同)看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 (① 奥村信彦、⑩ 福谷保/2回〉(共同)理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでの

	保健医療教育論	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生	一部共同
		思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究 し、教育技法、教材などについて理解を深める。	HIS VI V
		(24 土井進/12回) 教育者、学習者、保健医療の基礎知識について学び、日本及び西洋の養生 思想についての現代的意義について考察する。	
		(24 土井進、④ 外里冨佐江/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を 深める。	
		(24 土井進、® 樋貝繁香、⑫ 林かおり/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深め る。	
		(24 土井進、⑩ 福谷保/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を 深める。	
共			
共 通 科 目			
	保健医療教育実践論	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに 保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当た る教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付 ける。	一部共同
		(24 土井進/10回) シラバス作成の意義、指導計画の作成、教育者の要件、学習形態、学習評価などの理論について学ぶ。	
		(24 土井進、④ 外里冨佐江、⑧ 樋貝繁香、⑩ 福谷保、⑫ 林かおり /5回) (共同) 保健医療専門科目における単元の指導計画、指導案の作成、板書計画、評	
		価方法について具体的に学ぶ。	

保健医療研究法	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要とオムニバス方式
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	なる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、 保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について 紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程に ついて、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究
	の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。 (オムニバス方式全15回)
	(⑦ 熊本圭吾/5回) 責任ある研究活動を行うために、研究倫理と行動規範を学ぶとともに、調査研究、研究計画書を作成するに当たっての注意点、研究テーマを決定する ために必要な事項について学ぶ。
	(⑨ 川崎千恵/1回) 研究の目的、実践との関連について理解し、研究のプロセス、研究テーマ、研究デザインの基本的な知識を修得する。
	(⑫ 林かおり/1回) 研究の方法として、実験研究について学ぶ。
	(⑤ 水嵜知子/2回) 論文作成に必要な文献検討について、その位置づけ、文献検索方法、論文 の種類と構成について修得したうえで、文献検討に必要な文献クリティーク の方法について学ぶ。
	(21 林邦彦/2回) 研究の方法として、疫学研究について学ぶ。
	(25 麻原きよみ/4回) 研究の方法として、質的研究について学ぶ。
共	
通 科 目	
F	

		保健学総論	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ。	オムニバス方式、 一部共同
			(オムニバス方式全15回)	
			(① 井部俊子/1回) 看護学の現在について概説する。	
			(② 金物壽久/1回) EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止 (ヒューマンエラー) について学ぶ。	
			(③ 中島八十一/3回) 看護学、リハビリテーション科学の現代的な位置付けを歴史学、社会学等 多面的な視点で考察し、その上で直近解決せねばならない課題とその解決に ついて学ぶ。	
			(⑤ 坂口けさみ/1回) women's health、reproductive healthについて概説する。	
			(⑧ 樋貝繁香/1回) 小児・学童の健康:母子、児童、学校保健の現状と課題について概説する。	
			(⑨ 川崎千恵/2回) 加齢と高齢者の心身機能特性を踏まえて高齢者の健康について概説する。 また、家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動を通 じた地域社会の健康について学ぶ。	
			(16 宮越幸代/1回) 災害がおよぼす人々の暮らしや健康について考え、防災・減災から復興に 至る一連の災害サイクルにおける保健上の課題について考察する。	
	看護・リ		(20 星文彦/1回) 多職種連携のための、チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメントについて学ぶ。	
専門	ハビリ		(26 中村秀一/1回) 保健医療福祉制度の現在と課題ならびに政策の動向について概説する。	
科目	テーショ		(27 野見山哲生/1回) 働き世代の健康として、産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改 革、両立支援について学ぶ。	
	ン領域		(③ 中島八十一、④ 外里冨佐江、⑩ 福谷保/1回) (共同) リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学について概説する。	
			(⑥ 高嶋孝倫、⑦ 熊本圭吾/1回) (共同) 支援工学、ケースワーク、臨床心理について学ぶ。	

		D == 18 /// > == = = = = = = = = = = = = = = =		1) 2 . 1 . 5
		ケア提供システム特論 ケア提供システム演習 I	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (① 井部俊子、⑤ 水嵜知子/12回) (共同)ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学び、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制の構築、リーダーシップを発揮した効率的なマネジメント手法について学ぶ。 (③ 中島八十一/3回)わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、関連した法規についての理解を深める。 医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究的文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。	一部共同
	看		本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (① 井部俊子、⑮ 水嵜知子) (共同)	
	護・リ		医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
専門科	ハビリテ		(③ 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
目	ーション領域	ケア担併シフテム淀羽Π	医療北点ビフェックミジャット 宇宙ボース正体部時にの1) デ 原体状針を拡	'
		ケア提供システム演習 II	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施 策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	一部共同
			(① 井部俊子、⑮ 水嵜知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習	
			を行う。 (③ 中島八十一)	
			後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	

看護・リハビリ	発達とは、分化 (Specialization) と統合 (Integration) が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。 (オムニバス方式/全15回) (④ 外里富佐江/4回) 吾々をとりまく環境と人間発達について概括的に解説する。生涯発達の概要と各時期における発達課題について、特に「健康づくり」および「学校生活と心身の変化」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 (⑤ 坂口けさみ/1回) リブロダクティブへルス・ライツの主要概念を理解するとともに、諸外国及び我が国における情勢を含めた臨床的課題について、ジェ関係が及予生物学的観点をふまえ理解するとともに、臨床的課題について探求する。 (⑥ 高嶋孝倫/1回) 肢体不自由を中心とした発達過程における障害の工学的理解を深める。 (⑥ 福母保/1回) 東ケイ回)乳幼児期における課題について、健全な発達を支えることや障がいをもちながら生活することを多角的に理解する。 (⑥ 福谷保/1回) 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 (⑥ 本谷保/1回) 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 (⑥ 本谷保/1回) 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。	
門科目 リテーション領域	(③ 飛松好子/1回) 発達過程に対するさまざまな疾病あるいは外傷によって障害を負うことがある。幼児期から高齢期にいたるどの時点でも起こりうることである器がの発達を基礎とした肢体不自由(上肢、下肢、体幹)に関する医学的理解を深める。 (④ 宮脇利幸/2回) 加齢・老化に伴う高齢期の心身の特徴および生じやすい症候を踏まえ、ライフステージの最終段階である高齢期の社会生活のあり方について学修・理解する。 (28 福田恵美子/2回) 発達障害児支援の地域の取り組みについて理解を深める。	

専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習 I 法学) 人間発達ケア演習 I 法学)		発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑥ 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑥ 飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑥ 研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能能力、として演習を行う。 (⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究書法に結び付ける演習を行う。 (⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (⑥ 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
門科	護・リハビリテーション領		(理学療	策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (⑥ 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (⑩ 福谷保)	

		人間発達ケア演習 I (作業療法学)	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (④ 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑭ 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
專門科目	看護・リハビリテーション領	人間発達ケア演習 II (作業療 法学)	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (④ 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (⑭ 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
	原域	人間発達ケア演習 I (母子看護学)	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析である高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (⑤ 坂口けさみ、⑫ 林かおり/オムニバス方式全30回)発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (⑥ 坂口けさみ/25回)リサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー、文献クリティーク、先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議 (⑫ 林かおり/5回)発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する有用なエビデンスの検討 (⑧ 極貝繁香)乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。	オムニバス方式

		人間発達ケア演習Ⅱ(母子看	■ 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題につ	オムーバフセゴ
		人間発達ケア演習Ⅱ (は十有 護学)	発達適程における母子・家族を中心とした有護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	A ムーハヘカ式
			(⑤ 坂口けさみ、⑫ 林かおり/オムニバス方式全30回) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程で の感染症の実態と予防 (HIV含む) に関連する研究課題に取り組もうとす る者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
			(⑤ 坂口けさみ/20回) リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉 ・教育の動向と現状の理解、実践・教育・研究の現状と課題の探求、 支援方法と課題の探求、現状と課題発表および討議	
			(② 林かおり/10回) リプロダクティブヘルス(性感染症)の動向の理解	
			(⑧ 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究 手法に結び付ける演習を行う。	
	看護・リハ	健康コミュニティ特論	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な (inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々 (特定集団) の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な (inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。	
専門科	ビリテ		(オムニバス方式/全15回)	
目	ーション領は		(⑦ 熊本圭吾/2回) 主に、コミュニティにおける包摂的な支援とは(Social Inclusionや Community-Based Rehabilitation等の主要概念)、協働による包摂的支援 (3)/コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコ ミュニティオーガニゼーションなどの講義・演習を担当する。	
	域		(⑨ 川崎千恵/5回) 主に、コミュニティの人々の健康と社会的要因、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援(コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等)、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援(事業化・施策化/施策提言)などの講義・事例検討・演習を担当する。	
			(15 春原るみ/1回) 主に、在宅療養患者の包摂的支援に関する講義・事例検討、演習を担当する。	
			(16 宮越幸代/4回) 主に、コミュニティと人々の特性(多様性と多文化共生社会)、協働による包摂的支援(1)(2)/パートナーシップの形成、チームビルディングなどの講義・事例検討・演習を担当する。	
			(⑦ 熊本圭吾、⑨ 川崎千恵、15 春原るみ、16 宮越幸代/3回) (共同) 学生のプレゼンテーション演習への助言・指導を担当する。	
			,	

	[6th H	Legiple and the control of the contr	1 2 2 1 2 2
看護・リハ		本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な(inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々(特定集団)の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団について理解を深め、コミュニティにおける包摂的な(inclusive)支援の実践と抜働のあり方などを探求する。 (オムニバス方式全30回) (⑦ 熊本圭吾/10回) 文献クリティークについて学修し、そのプレゼンテーションをする。 (⑨ 川崎千恵/10回) 関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビューとプレゼンテーション、有用なエビデンスの検討について学修する。 (⑨ 川崎千恵、⑦ 熊本圭吾/10回)(共同)関心のあるリサーチクエスチョンにおける有用なエビデンスについてプレゼンテーションにより理解を深め、先行研究のレビューレポートを作成し、発表・討議する。	オムニバス方式一部共同
専ビ			
門科目リテーション領域		本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。 (オムニバス方式全30回) (⑦ 熊本圭吾/13回) 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の探求についてプレゼンテーション・ディスカッションする。 (③ 川崎千恵/15回) 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法の探求、支援策と必要とされる研究の探求について担当する。 (④ 川崎千恵、⑦ 熊本圭吾/2回) (共同)演習のオリエンテーション及びまとめ	オムニバス方式 一部共同

保健学特別研究 研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、 連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集 大成を図る。 (① 井部俊子) 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題につ いて、論文作成のための研究指導を行う。 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題 について、論文作成するための研究指導を行う。 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題につ いて、論文作成のための研究指導を行う。 (④ 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、 超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによ る多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作 成のための研究指導を行う。 リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予 防(HIV含む)に関連する研究課題について、論文作成するための研究指 導を行う。 (⑧ 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究 指導を行う。 (⑨ 川崎千恵)

特別研究

(⑩ 福谷保)

理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文

(⑪ 大町かおり)

作成のための研究指導を行う。

理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

(⑫ 林かおり)

リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防 (HIV含む) に関連する研究課題の研究過程において、調査・実験、データ収集、データ入力についての研究を補助する。

(13) 飛松好子)

肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

(⑮ 水嵜知子)

医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した 研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(保健学研	究科保健学専攻) 		<u> </u>					
科目 区分	授業科目の名称			誹事	慶等の内容			備考
共通科目	多職種連携論		Total Para	歴の問首丘も用 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ロンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥンドゥン	理・の仏学少こ 理・の仏学少こ 理での仏学少こ 理での仏学少こ 理での表にとに対的	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医療コミュニケーション論	本講義の目的は、医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために(1)コミュニケーションの基本理論(2)コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。(オムニバス方式全15回)	オムニバス方式
		(1 井部俊子/3回) 個人の病態を本人や家族に伝える臨床コミュニケーション、患者や家族に向けた支援のための文書作成について学ぶ。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。	
		(3 中島八十一/7回) 疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民 に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成の実務 を修得する。	
		(4 外里冨佐江/2回) 個人の行動変容を促すコミュニケーションおよび患者・市民の啓発について学ぶ。	
		(10 川崎千恵/1回) 集団の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。	
		(12 大町かおり/1回) 他職種との連携に際してのコミュニケーションについて学ぶ。 (18 奥村信彦/1回)	
		(16 英代信/ 1回) 外国人患者とのコミュニケーションについて学ぶ。	
共 通 科 目			
	保健医療マネジメント論	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として 必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療 制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務 会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医 療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉におけ る質を考察する。	オムニバス方式
		(オムニバス方式全15回)	
		(1 井部俊子/4回) 医療の質保証と医療安全、人材開発と経験学修、リーダーシップとマネジメント、組織開発の手法について概説する。	
		(3 中島八十一/9回) 人口減少時代における社会保障、保健医療制度・政策保健医療福祉に関連 した法規について理解する。	
		(14 水嵜知子/2回) 保健医療福祉における倫理について理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	応用統計学	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。 (オムニバス方式全15回) (8 熊本圭吾/9回) 記述統計、推測統計、心理統計を学び、統計手法の適用について理解する。 (21 林邦彦/2回) 医学研究における統計学について概説し、観察研究の研究計画における統計学について理解する。 (22 井手野由季/2回) 観察研究のデータ解析における統計学とメタアナリシスについて学ぶ。 (23 長井万恵/2回) 介入研究の研究計画における統計学とデータ解析における統計学について学ぶ。	オムニバス方式
共通科目	英語文献講読	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半はリハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。 (オムニバス方式全15回) (17 伊原巧/6回) 細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 (18 奥村信彦/9回) ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。	オムニバス方式

授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健医療教育論	思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。 (24 土井進/12回) 教育者、学習者、保健医療の基礎知識について学び、日本及び西洋の養生	一部共同
	思想についての現代的意義について考察する。 (24 土井進、4 外里冨佐江/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を 深める。	
	(24 土井進、9 樋貝繁香、13 林かおり/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進 11 福谷保/1回) (共同)	
	教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。	
保健医療教育実践論	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに	一部共同
	保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。	
	(24 土井進/10回) シラバス作成の意義、指導計画の作成、教育者の要件、学習形態、学習評価などの理論について学ぶ。 (24 土井進、4 外里冨佐江、9 桶貝繁香、11 福谷保、13 林かおり/	
	5回) (共同) 保健医療専門科目における単元の指導計画、指導案の作成、板書計画、評価方法について具体的に学ぶ。	
		保健医療教育論 教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。 (24 土井進、4 外里冨佐江/1回) (共同) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進、9 樋貝繁香、13 林かおり/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進、11 福谷保/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進、11 福谷保/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進、11 福谷保/1回) (共同) 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。 (24 土井進/10回) (共同) (共同) (共同) (共同) (共同) (共同) (共同) (共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健医療研究法	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。	オムニバス方式
		(オムニバス方式全15回)	
		(6 高嶋孝倫/1回) 研究の方法として、実験研究について学ぶ。	
		(8 熊本圭吾/5回) 責任ある研究活動を行うために、研究倫理と行動規範を学ぶとともに、調査研究、研究計画書を作成するに当たっての注意点、研究テーマを決定するために必要な事項について学ぶ。	
		(10 川崎千恵/1回) 研究の目的、実践との関連について理解し、研究のプロセス、研究テーマ、研究デザインの基本的な知識を修得する。	
		(14 水嵜知子/2回) 論文作成に必要な文献検討について、その位置づけ、文献検索方法、論文 の種類と構成について修得したうえで、文献検討に必要な文献クリティーク の方法について学ぶ。	
		(21 林邦彦/2回) 研究の方法として、疫学研究について学ぶ。	
		(25 麻原きよみ/4回) 研究の方法として、質的研究について学ぶ。	
共通			
科目			

	·目 :分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		ケア提供システム特論	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (1 井部俊子、14 水嵜知子/12回) (共同)ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学び、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制の構築、リーダーシップを発揮した効率的なマネジメント手法について学ぶ。 (3 中島八十一/3回)わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、関連した法規についての理解を深める。	一部共同
専門科目	看護・リハビリテーション分野	ケア提供システム演習 I	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (1 井部俊子、14 水嵜知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (3 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (1 井部俊子、14 水嵜知子) (共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (3 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	一部共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	授業科目の名称	議義等の内容 発達とは、分化 (Specialization) と統合 (Integration) が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。 (オムニバス方式/全15回) (2 金物壽久/1回) 発達過程におけるさまざまな疾病あるいは外傷によって障害を負うことがある。幼児期から高齢期にいたるどの時点でも起こりうることであるが、その対応、ケア、予後予測は発生時期により違ってくる。ここでは運動器の発達を基礎とした肢体不自由(上肢、下肢、体幹)に関する医学的理解を深める。 (4 外里冨佐江/3回) 吾々をとりまく環境と人間発達について概括的に解説する。生涯発達の概要と各時期における発達課題について概頼する。 (5 坂口けさみ/1回) リブロダクティブへルス・ライツの主要概念を理解するとともに、諸外国及び我が国における情勢を含めた臨床的課題について、ジェレター機を並び父子関係形成過程に関する話理論や研究的庚付けていて、心理学的、分子生物学的観点をふまえ理解するとともに、臨床的課題について探求する。 (6 高嶋孝倫/1回) 肢体不自由を中心とした発達過程における障害の工学的理解を深める。 (7 宮脇利幸/2回) 加齢・老化に伴う高齢期の心身の特徴および生じやすい症候を踏まえ、ライフステージの最終段階である高齢期の社会生活のあり方について学修・理解する。 (9 樋貝繁香/2回) 乳幼児期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 (12 大町かお成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解す	
事/		青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 (12 大町かおり/1回) 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および	

科目区分		講義等の内容	備考
	人間発達ケア演習 I (理学療法学)	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 (2 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (6 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (11 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (12 大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
専門科目	人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (2 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (6 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (11 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (12 大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	

	·目 ·分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		人間発達ケア演習 I (作業療法学)	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 (4 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (7 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
専門科目	看護・リハビリテーション分	人間発達ケア演習Ⅱ (作業療 法学)	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (4 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (7 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
	野	人間発達ケア演習 I (母子看護学)	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 (5 坂口けさみ、13 林かおり/オムニバス方式全30回)発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (5 坂口けさみ/22回)課題の明確化、関連文献レビュー、枠組みの明確化を通して研究デザイン、研究計画の策定に向けて学修する。 (13 林かおり/8回)臨床フィールドワーク、データ分析の予備的検討について学ぶ。 (9 種貝繁香)乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。	オムニバス方式

科区	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	授業科目の名称 人間発達ケア演習 II (母子看) 護学) 健康コミュニティ特論	講義等の内容 飛達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (5 坂口けさみ、13 林かおり/オムニバス方式会30回) 発達過程におけるリプロダクティブへルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HI V 含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 (5 坂口けさみ/22回) 研究デザインの選択、プロトコルの作成を経て、研究倫理を踏まえた、研究計画書を作成する過程を学ぶ。 (13 林かおり/8回) 量的研究のデータ解析手法を習得する。 (9 極貝繁香) 乳幼児界・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行ううえで必要な理論と力法論を学修の支援と、それらに関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行ううえで必要な理論と力法論を学修の支援と、それらに関連する研究に関連する社会的要因を考慮した、関心観めの研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についの理解を扱め、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した方法のの理解を扱い、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した。大きに、コミュニティにおける包摂的な支援とは(Social Inclusionやでの理解を表しているとを探求する。 (オムニバス方式/全15回) 書に、コミュニティの人々の健康と社会的要因、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援(コミュニティオーガニゼーションなどの講義・演習を担当する。 (10 川崎千恵、FI)によって実施といる講覧を担当する。 (15 春原るみ/1回) 主に、コミュニティの使康課題に基づく包摂的支援(事業化・施策化/施策等)、コミュニティと人々の特性(多様性と多文化共生社会)、協働による包摂的支援(1)(2)/バートナーシップの形成、チームビルディングなどの講義・事例検討、演習を担当する。 (8 熊本圭吾、10 川崎千恵、15 春原るみ、16 宮越幸代/3回)(共同学生のブレゼンテーション演習への助言・指導を担当する。	オムニバス方式・一

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護・リハビリテーション分野	健康コミュニティ演習Ⅱ	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、研究枠組みの明確に、既念定数はよび吸取の明確化、研究デザインの選先、プロトコルの作成までを学修する。本演習では、公衆衛生学の視点からの研究および社会調査や評価指標の開発などの手法を用いた研究を対象とするため、開講前に学生の研究課題もしくは関心ある。 (オムニバス方式全30回) (8 熊本圭吾/8回)人々の健康を支援するための社会調査に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして設習を行う。 (10 川崎千恵/15回)公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題でいて、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (10 川崎千恵、8 熊本圭吾/7回)(共同)演習導入のオリエンテーション及び研究デザイン・研究プロトコルの最終報告を行う。 (10 川崎千恵、8 熊本圭吾/7回)の大学がデザイン・研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学っ視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習1・可トコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学っを演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題について、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。 (10 川崎千恵/13回)人々の健康への支援に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 (10 川崎千恵、8 熊本圭吾/2回)(共同)演習導入のオリエンテーション及び研究計画の発表を行う。 (10 川崎千恵、8 熊本圭吾/2回)(共同)演習導入のオリエンテーション及び研究計画の発表を行う。	一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健学特別研究	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。	
		(1 井部俊子) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。	
		(2 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題 について、論文作成するための研究指導を行う。	
		(3 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。	
		(4 外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、 超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによ る多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作 成のための研究指導を行う。	
		(5 坂口けさみ) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。	
		(6 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課 題について、論文作成のための研究指導を行う。	
特別研究		(7 宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学,応 用健康科学に関連する研究課題ついて、論文作成するための研究指導を行 う。	
		(8 熊本圭吾) 人々の健康への支援のための社会調査に関連する研究課題について、論文 作成のための研究指導を行う。	
		(9 樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究 指導を行う。	
		(10 川崎千恵) 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文 作成のための研究指導を行う。	
		(11 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。	
		(12 大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。	
		(13 林かおり) リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。	
		(14 水嵜知子) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。	

別紙10 資料17 新

	大学院1年目:2021(令和3年)年度 大学院 時間割表(前期)														
		1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		7 時限	
区	分	9:00~10:		10:40~12:10		13:00~14:		14:40~16		16:20~17		18:00~19:		19:40~21:10	
		科目	教室	科 目	教室	科目	教室	科目	教室	科 目	教室	科目	教室	科目	教室
	月														
	火											【選択必修】 人間発達ケア特 論	S303	【選択】 健医療マネジメント論	S304
1年	水											【必修】保健学総論	S304	【選択必修】 健康コミュニ ティ特論	S303
17	木											【選択必修】 ケア提供システ ム特論	S304	【選択】 医療コミュニ ケーション論	S303
	金											【必修】 保健医療教育論	S304	【選択】 保健医療教育実 践論	S304
	土	【必修】保健医療研究法	S304	【選択】 応用統計学	S303	【必修】 医療倫理	S304	【必修】 多職種連携論	S303	【必修】 医療英語研究	S302				

大学院1年目:2021 (令和3年)年度 大学院 時間割表(後期)

		1 時限		2時限 3時限			4 時限	. 1 121	5時限	· \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	6 時限		7 時限		
区	分	9:00~10:	30	10:40~12:	:10	13:00~14:30		14:40~16:	10	16:20~17:	50	18:00~19:	30	19:40~21:10	
	/•	科目	教室		* 教室		教室		教室	科目	教室		教室		教室
	月	人間発達ケア演習 I (母子看護学)		人間発達ケア演習 I (母子看護学)		人間発達ケア演 習 II (母子看護 学)		人間発達ケア演 習Ⅱ (母子看護 学)							
	火				: : : :			人間発達ケア演 習 I (作業療法 学)	S303	人間発達ケア演習 I (作業療法学)	S303	人間発達ケア演 習Ⅱ(作業療法 学)	S303	人間発達ケア演 習Ⅱ(作業療法 学)	
	水				1							人間発達ケア演習 I (理学療法学)	S304	人間発達ケア演習 I (理学療法学)	S304
	//\											健康コミュニ ティ演習 I	S301	健康コミュニ ティ演習 I	S301
					1 1 1 1 1 1			ケア提供システ ム演習 I	S302	ケア提供システ ム演習 I	S302	ケア提供システ ム演習 Ⅱ	S302	ケア提供システ ム演習 I I	S302
1年	木				! ! ! !							人間発達ケア演習Ⅱ(理学療法学)	S304	人間達ケア演習 Ⅱ(理学療法 学)	S304
					: : : : :							健康コミュニ ティ演習Ⅱ	S301	健康コミュニ ティ演習Ⅱ	S301
	金														
		保健学特別研究 (ケア提供システ ム分野)	S304	保健学特別研究 (ケア提供システ ム分野)	S304										
		保健学特別研究 (人間発達ケア分 野理学療法学)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア分 野理学療法学)	S303										
	土	保健学特別研究 (人間発達ケア分 野作業療法学)	S302	保健学特別研究 (人間発達ケア分 野作業療法学)	S302										
		保健学特別研究 (人間発達ケア分 野母子看護学)	第2看護 実習室	保健学特別研究 (人間発達ケア分 野母子看護学)	第2看護 実習室										
		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)	S301	保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)	S301										

大学院2年目:2022(令和4年)年度 大学院 時間割表(前期)

	1 時限								71/	C 11-170		7 時限			
_	•			2時限		3 時限		* 1 * *		* 11 .		6 時限			
X	分	9:00~10:		10:40~12:10		13:00~14:		14:40~16:		16:20~17:		18:00~19:		19:40~21:	
		科 目	教室	科 目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
	月	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)					
	火					保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)	
	水					保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)	S301	保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)	
2年						保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	
	木					保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)	S304	保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)	
	金														
	土														

大学院2年目:2022(令和4年)年度 大学院 時間割表(後期)

		- 24.77			C 1 1502		14 .1 14 .1	十八十尺 八一	1 120	时间的衣(仮)	. 717	0.7477		- r470	
_	*	1 時限		2時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		7 時限	
X	分	9:00~10:		10:40~12:		13:00~14:		14:40~16:		16:20~17:		18:00~19:		19:40~21:	
		科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
	月	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)	2000	保健学特別研究 (人間発達ケア (母子看護学) 分野)					
	火		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)	COAO	保健学特別研究 (人間発達ケア (作業療法学) 分野)	
	水					保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)		保健学特別研究 (健康コミュニ ティ分野)	
2年	+					保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	S303	保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)		保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	6202	保健学特別研究 (人間発達ケア (理学療法学) 分野)	S303
	木					保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)	S304	保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)		保健学特別研究 (ケア提供シス テム分野)	
	金														
	土		1 1 1 1 1 1 1 1 1												

科目別授業時間等 新

科目	区分		授業科目名	配当	曜日	時限	教室	担当教員
		医療倫理学		1前	土	3	S304	茂木
		多職種連携	論	1前	土	4	S303	宮脇/樋貝/大町/宮越/星
		医療コミュ	ニケーション論	1前	木	7	S303	井部/中島/外里/川崎/奥村
	ı.	保健医療マ	ネジメント論	1前	火	7	S304	井部/中島/水嵜
	· · ·	応用統計学	:	1前	土	2	S303	熊本/林く/井手野/長井
E		医療英語研	 究	1前	土	5	S302	伊原/奥村/外里/坂口/福谷
		保健医療教	育論	1前	金	6	S304	 外里/樋貝/福谷/林か/土井
		保健医療教	育実践論	1前	金	7	S304	外里/樋貝/福谷/林か/土井
		保健医療研		1前	土	1	S304	
		保健学総論		1前	水	6	S304	井部/金物/中島/外里/坂口/高嶋/熊本/樋貝 /川崎/福谷/宮越/星/中村/野見山
		ケア提供シ	ア提供システム特論		木	6	S304	/川崎/ 備谷/ 呂越/ 星/ 甲州/ 野見山 井部・水嵜/ 中島
		ケア提供シ	アア提供システム演習 I		木	4 • 5	S302	井部・水嵜/中島
		ケア提供シ	ステム演習Ⅱ	1後	木	6 • 7		井部/中島/水嵜
	看護	人間発達ケア特論		1前	火	6	S303	外里/坂口/高嶋/宮脇/樋貝/福谷/林か/飛松
	丧 ・ リ		人間発達ケア演習 I	1後	水	6 • 7	S304	/ 福田 高嶋 / 福谷 / 飛松
	ソハビリ	理学療法学	人間発達ケア演習Ⅱ	1後	木	6 • 7		高嶋/福谷/飛松
	リテー		人間発達ケア演習 I	1後	火	4 • 5		
	ショ	作業療法学	人間発達ケア演習Ⅱ	1後		6 • 7		<u> </u>
	シー領		人間発達ケア演習I	1後				坂口・林か/樋貝
専門	域	母子看護学	人間発達ケア演習Ⅱ	1後	月	3 • 4		坂口・林か/樋貝
 科 目		健康コミュ	ニティ特論	1前	水	7		熊本/川崎/春原/宮越
			ー / 1 N IIII	1 形	水水	6 • 7		熊本/川崎
			ー/ィ領目 I 	1後	木	6 • 7		能本/川崎
		(連尿コ、ユ	一人有便自由	1後	土	1~2	S304	飛伞/ 川岬
			ケア提供システム分野	2通	木	3~7	S304	井部/水嵜/中島
		/p	人間発達ケア(理学療法学)公野	1後	土	1~2	S303	金物/福谷/大町/飛松
	特	保 健 学	法学)分野	2通 木 3~7 S303				
	別研究	特別	人間発達ケア (作業療法学) 分野	1後 2通	土火	1~2 3~7	 外里	
		研究	人間発達ケア(母子看	1後	土	1~2	2看護	坂口・林か/樋貝
			護学)分野	2通	月	1~5	S303	200
			健康コミュニティ分野	1後	土	1~2	S301	-川崎
				2通	水	3 ∼ 7	S301	

)	マ学院1	年目:2021(令和34	年)年度 大学	学院	時間割表(前	期)				
		1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		7 時限	
×	分	9:00~10:		10:40~12		13:00~14:		14:40~16		16:20~17		18:00~19:		19:40~21:	
	1	科目	教室	科 目	教室	科目	教室	科 目	教室	科目	教室	科目	教室	科 目	教室
	月														
	火				1 1 1 1 1 1 1 1						 	【選択必修】 人間発達ケア 特論	S303	保健医療マネジメント論	S304
1年	水										1	【必修】保健学総論	S304	【選択必修】 健康コミュニ ティ特論	S303
14	木				1 1 1 1 1 1 1 1							【選択必修】 ケア提供シス テム特論	S304	【必修】 医療コミュニ ケーション論	S303
	金											保健医療教育論	S304	保健医療教育実践論	S304
	土	【必修】 保健医療研究 法	S304	応用統計学	S303	【必修】 医療倫理	S304	【必修】 多職種連携論	S303	英語文献購読	S302				

大学院1年目:2021 (令和3年)年度 大学院 時間割表(後期)

					十九	十日 . 4041	(TJ (TF)	3年)年度 人	. 于阮	時间刮衣(包	文州/			_ ~!.	
l _		1時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		7 時限	
X	分	9:00~10:		10:40~12		13:00~14		14:40~16		16:20~17		18:00~19		19:40~21	
		科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
	月	人間発達ケア 演習 I (母子 看護学)	S302	人間発達ケア 演習 I (母子 看護学)	S302	人間発達ケア 演習Ⅱ (母子 看護学)	S302	人間発達ケア 演習Ⅱ (母子 看護学)	S302		1 1 1 1 1 1 1 1 1				
	火							人間発達ケア 演習 I (作業 療法学)	S303	人間発達ケア 演習 I (作業 療法学)	S303	人間発達ケア 演習Ⅱ (作業 療法学)	S303	人間発達ケア 演習Ⅱ (作業 療法学)	S303
	水										1	人間発達ケア 演習 I (理学 療法学)	S304	人間発達ケア 演習 I (理学 療法学)	S304
1年	\(\chi\)										1 1 1 1 1 1 1 1	健康コミュニ ティ演習 I	S301	健康コミュニ ティ演習 I	S301
1+								ケア提供シス テム演習 I	S302	ケア提供シス テム演習 I	S302	ケア提供シス テム演習Ⅱ	S302	ケア提供シス テム演習Ⅱ	S302
	木											人間発達ケア 演習Ⅱ(理学 療法学)	S304	人間達ケア演習 II (理学療法学)	S304
												健康コミュニ ティ演習Ⅱ	S301	健康コミュニ ティ演習Ⅱ	S301
	金		1 1 1 1 1				1 1 1 1 1				1 1 1 1 1				
	土		1 1 1 1 1				1 1 1 1 1				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				1

大学院2年目:2022(令和4年)年度 大学院 時間割表(前期)

		1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		5 時限		6 時限		7 時限	
×	分	9:00~10:	30	10:40~12:	:10	13:00~14:	:30	14:40~16	10	16:20~17	50	18:00~19:	:30	19:40~21	:10
		科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室	科目	教室
	月	保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	S303				
	火					保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 大学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 大学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303
	水					保健学特別研究(健康コミュニティ分野)	S301								
2年						保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303								
	木					保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供 システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供 システム分野)	S304
	金		1												
	土														

大学院2年目:2022(令和4年)年度 大学院 時間割表(後期)

		4 F±FF			一十 例 2	年日:2022(11 J.H.Z.		子 元	时间剖衣(俊)	791/	C #± 17B		7 11+ 171	
		1 時限	0.0	2 時限	10	3 時限	0.0	4 時限	1.0	5 時限		6 時限	. 0.0	7 時限	
	分	9:00~10:		10:40~12:		13:00~14:		14:40~16:		16:20~17:		18:00~19		19:40~21	
	月	科 目 保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看護学)分野)	教室 S303	科 目 保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看 護学)分野)	教室 S303	科 目 保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看 護学)分野)	教室 S303	科 目 保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看 護学)分野)	2202	科 目 保健学特別研究(人間発達 ケア(母子看 護学)分野)	教室 S303	科目	教室	科目	教室
	火		1			保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(作業療 大学)分野)	S303
	水		 			保健学特別研究(健康コ ミュニティ分 野)	S301	保健学特別研究(健康コ ミュニティ分 野)	S301	保健学特別研究(健康コミュニティ分野)	S301	保健学特別研究(健康コ ミュニティ分 野)	S301	保健学特別研究(健康コミュニティ分野)	S301
2年	木					保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303	保健学特別研究(人間発達 ケア(理学療 法学)分野)	S303
	N					保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304	保健学特別研究(ケア提供システム分野)	S304
	金														
	土														1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

科目別授業時間等 旧

科目	区分	:	授業科目名	配当	曜日	時限	教室	担当教員
		医療倫理学		1前	土	3	S304	茂木
		多職種連携	論	1前	土	4	S303	宮脇/樋貝/大町/宮越/星
		医療コミュ	ニケーション論	1前	木	7	S303	井部/中島/外里/川崎/大町/奥村
į.	±	保健医療マネジメント論		1前	火	7	S304	井部/中島/水嵜
近禾	重 斗	応用統計学		1前	土	2	S303	熊本/林く/井手野/長井
		英語文献講読		1前	土	5	S302	伊原/奥村
		保健医療教	育論	1前	金	6	S304	外里/樋貝/福谷/林か/土井
		保健医療教	育実践論	1前	金	7	S304	外里/樋貝/福谷/林か/土井
		保健医療研究法		1前	土	1	S304	高嶋/熊本/川崎/水嵜/林く/麻原
		保健学総論		1前	水	6	S304	井部/金物/中島/外里/坂口/高嶋/熊本/樋貝/ 川崎/福谷/宮越/星/中村/野見山
		ケア提供システム特論		1前	木	6	S304	井部・水嵜/中島
		ケア提供シ	ステム演習 I	1後	木	4 · 5	S302	井部・水嵜/中島
		ケア提供シ	ステム演習Ⅱ	1後	木	6 • 7	S302	井部/中島/水嵜
	看護	ケア提供システム演習 II 人間発達ケア特論		1前	火	6	S303	金物/外里/坂口/高嶋/宮脇/樋貝/福谷/大町/ 林か/福田
	・リハ	理学療法学	人間発達ケア演習I	1後	水	6 · 7	S304	金物/高嶋/福谷/大町
	ビリ	生 于原仏于	人間発達ケア演習Ⅱ	1後	木	6 · 7	S304	金物/高嶋/福谷/大町
	テーン	作業療法学	人間発達ケア演習I	1後	火	4 · 5	S303	外里/宮脇
専	ション	11-未然仏子	人間発達ケア演習Ⅱ	1後	火	6 · 7	S303	外里/宮脇
門科	分野	母子看護学	人間発達ケア演習I	1後	月	1 • 2	S302	坂口・林か/樋貝
目		以 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	人間発達ケア演習Ⅱ	1後	月	3 · 4	S302	坂口・林か/樋貝
		健康コミュ	ニティ特論	1前	水	7	S303	熊本/川崎/春原/宮越
		健康コミュニティ演習 I		1後	水	6 · 7	S301	熊本/川崎
		健康コミュニティ演習Ⅱ		1後	木	6 · 7	S301	熊本/川崎
		ケア提供システム領域		2通	木	3~7	S304	井部・水嵜/中島
	特	保 人間発達ケア(理学療 健 法学領域) 学	2通	木	3~7	S303	金物/高嶋/福谷/大町	
	別研究	特別	人間発達ケア(作業療 法学領域)	2通	火	3~7	S303	外里/宮脇
	究	研究	人間発達ケア (母子看 護学領域)	2通	月	1~5	S303	坂口・林か/樋貝
			健康コミュニティ領域	2通	水	3~7	S301	熊本/川崎

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目		医療倫理学			共通・専門科目の	引 共通
担当教員	ì	茂木秀淳				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修		1年次	前期	15回	2 単位	講義
授業の 到達目標	2. 保健 ² 3. 保健 ² 規範を 4. 倫理 きる。	学の研究に必要とな 学研究、保健・医療 どのように当てはめ 問題に関係する他者	る倫理原則、行動 ・福祉の実践活動 るかについて論議 の立場、価値観る	助規範を理解し、説明 動において生じた倫理 述できる。	型問題について整理し 関係者と話し合い合意	、倫理原則、行動
シー(DP)との 関連 (評価の観点)						
授業科目 の概要	く神道、 想を概i ント、	、(2) 外来思想とし 説し、その理解に基 安楽死・尊厳死、脳 歴史的経過と現代の	ンて日本に影響を づいて、医療にな 死と臓器移植、と	与えた仏教と儒教、 おける現代的な諸問題 出生前診断と遺伝病、	(1) 日本固有の思想 (3) 日本の近代化を (3) 日本の近代化を (3) すなわち、インフ (遺伝子技術と認知症 (よるディスカッショ	促した西洋近代思 オームド・コンセ 治療、伝染病・感
	口			内容		担当
	1	日本固有の思想(1) 日本神話概観	」、神話的思惟の特質、	世界解釈の方法	茂木
	2	日本固有の思想(2) グループディン	スカッション及び小テス	,	茂木
	3	仏教思想(1) 釈 質	加の説いたこと、日	本における仏教受容の)諸相、仏教的思惟の特	茂木
	4		の東洋思想(儒教・	道教)、グループディス	〈カッション及び小テスト	茂木
	5	近世・近代の思想 け入れ	(1) 朱子学と国学	と、 町人思想の諸相と	職業観、西洋思想の受	茂木
	6		(2) グループディ	スカッション及び小テス	< }	茂木
1 NI - 1	7	現代医学の諸問題	夏(1) インフォーム	ムド・コンセント、安楽死	•尊厳死	茂木
授業計画	8	現代医学の諸問題	夏(1) グループデ	ィスカッション及び小テ	スト	茂木
	9	現代医学の諸問題	夏(2) 脳死と臓器	移植		茂木
	10	現代医学の諸問題	夏(2) グループデ	ィスカッション及び小テ	スト	茂木
	11	現代医学の諸問題	夏(3) 出生前診断	と遺伝病		茂木
	12	現代医学の諸問題	夏(3) グループデ	ィスカッション及び小テ	スト	茂木
	13	現代医学の諸問題 現代の問題	夏(4) 遺伝子技術	と認知症治療、伝染病	・感染症の歴史的経過	さ 茂木
	14	2-11 11	夏(4) グループデ	ィスカッション及び小テ	スト	茂木
	15	まとめと討論				茂木
テキスト・ 参考図書	『日本』	人の宗教意識』、		舌学入門』、 中村元 のすすめ』、 新渡戸 入門』、 その他随時	記『ブッダのことば 稲造『武士道』、 F紹介する。	』、 湯浅泰雄 宮川俊行『安楽死
成績評価基準	試験 (50%) 、レポート(2	0%)、小テスト	(30%) により総合評	価する。	
授業時間外	事前学	習配布資料に目を通	通しておく			
の学習情報	事後学	習新たに得た知識を	を整理しておく			
その他(履修上の留意点)	特記事	質なし。				
キーワード	倫理学、	、保健学、科学技術	倫理、生命倫理、	東洋思想		

保健学研究科保健学専攻 シラバス

	多職	種連携論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	星文	彦 宮脇利幸 樋貝	繁香 大町かおり) 宮越幸代	I	
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	 授業の方法
		1 年次	前期	15回	2 単位	講義
授業の 到達目標	2. IPWで 3. グル 4. 自ら 5. 地域	の発展過程の概要を シープワークにおいて の業務や社会的課題 で包括ケアにおける	説明できる。 て、チーム形成や 夏をIPWの視点から 多職種連携の意義	議論に主体的に参加 の分析考察し、問題点 を説明できる。		ができる。
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP⑤ ⅓	地域の医療・行政・	保健福祉組織のマ	マネジメントに参画・		
授業科目 の概要	域包括。 なチー、 IPWの視	・ ケアにおける多職種 ム形成スキルやコミ	連携の役割につい ュニケーションス その課題解決の	いて議論する。さらに ベキルを習得し、自ら ために他職種と協働	なと理論、発展の歴史を こグループワークを通し の業務上の課題や社会 し検討する力を養う。	て、実践に必要的課題についてさらに、事例検討
	回	1, ,,		内容	Lorenza arra francia.	担当
	1			担当教員と受講生と	の相互理解を図る	星
	3		なるヒューマンケ		野や支援者・被支援者 者中心主義について考	<u>星</u> 星
	4	保健医療における		について;保健医療 ピテンシーについて	においてIPWが求めら 考える。	星
	5	I PWの仕組みり 考える。	こついて; IPWの持	持つ二重構造や協働、	チーム形成について	星
	6	れるファシリテー	-ターの役割とス	キルについて考える		大町
授業計画	7			ョンの意義;チーム ンの重要性について	形成及び問題解決に向 考える。	宮越
	8	多職種連携につい	いて;地域包括ケ	アに求められるIPWに	こついて考える。	宮脇、樋貝
	9		: 相互理解〜他者 用いた問題解決法		也者理解と説明スキル	星
	10	る		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	て多職種連携を検討す	星、大町、宮越
	11	グループワーク3 る	:事例検討~院生	Eの業務事例を通して	て多職種連携を検討す	星、大町、宮越
	12	グループワーク4	: I PW研究論文	工考察		星、宮脇、樋貝
	13		: I PW研究論文	- 0 / 11		星、宮脇、樋貝
	14		: リフレクション 動や社会活動を振		こって自己の受講活動	星
	15	まとめ				星
テキスト・ 参考図書				建医療福祉連携(中央 nsforming the Clin	·法規出版社) ical Method(CRC Press	3)
成績評価基準	グルー: る。				なびレポート内容(60%	
授業時間外	事前学	習 I PWに関する	事項を、職場や生	活環境の中で検索情	報収集すること。	
の学習情報		習新たに得た知識を		-	るな	
	むこと。				力な議論ができるように	
キーワード	I PW,	、保健医療福祉、地	域連携、多職種協	ß働、地域包括ケア、	リハビリテーション、	利用者中心主義

保健学研究科保健学専攻 シラバス

授業科目	医療	コミュニケーション	論		共通・専門科目の別	共通					
担当教員	中島	八十一、井部 俊	子、外里冨佐江、	川崎千恵、奥村信彦	· ·						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法					
選択		1年次	前期	15回	2 単位	講義					
授業の 到達目標	2. 多	来事を他人が理解で くの人に分かりやす 人の考えていること	く日本語で話する	ことができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)				を持ち、他の専門職とマネジメントに参画・	議論を通じて考えを共参加できる能力	有できる能力					
授業科目 の概要	習コくな方と	ことにより、医療・ ニケーションを可能 しく情報収集するこ ュニケーションのた	保健領域においたけることにあるとに役立てることとのと (1) コミュニケーションの評	て患者、市民といったる。その結果として医 とにある。本講義では ニケーションの基本: 価と分析方法等を対:	ーション)の理論と実 さまざまな個人・集団 原・保健情報を正しく 、医療、公衆衛生分野 理論(2)コミュニケー 象とする。受講により軍	に向けて適切な 伝えるだけでな における効果的 ションの具体的					
	口			内容		担当					
	1	医療コミュニケー	ーション概論			中島					
	2	科学技術コミュニ	ニケーション-最新	新科学を一般の人に伝	まえる 。	中島					
	3	臨床コミュニケー	-ション ①-疾病	を患者・家族に理解	させる。	中島					
	4	臨床コミュニケー	-ション②-個人の	の病態を本人・家族に	伝える。	井部					
	5	ヘルスライティン	/グ①-患者・家b	英に向けた支援文書作	三成	井部					
	6	ヘルスライティン	/グ②-保健医療	文書の作成		中島					
153 4K = 1 11.	7	ヘルスライティン	/グ③-発表会・約	総合討論		中島					
授業計画	8	ヘルスコミュニク	アーション①-個/	人の行動変容を促すコ	コミュニケーション	外里					
	9	ヘルスコミュニケ	アーション②-集[団の行動変容を促すニ	1ミュニケーション	川崎					
	10	ヘルスコミュニク	アーション③-他耳	戦種連携コミュニケー	-ション	井部					
	11	ヘルスコミュニク	アーション④-外[国人患者とのコミュニ	ニケーション	奥村					
	12	論文発表のための	D英語によるプレ	ゼンテーションの基	礎	中島					
	13	グループ組織のこ	コミュニケーショ	ン		井部					
	14	患者・市民の啓列	Ě			外里					
	15	まとめとグループ	プ討論			中島					
テキスト・ 参考図書	Athena	th ed. 2016									
成績評価基準	 討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分: レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%										
授業時間外	報 事後学習 専門職としての自らの職分にあって得た知識をどのように活用するか考えること。										
授耒时间外 の学習情報											
その他(履修 上の留意点)	適切な	コミュニケーション	のために自らがし	日本語で話すこと、書	替くことに細心の注意を	払うこと。					
キーワード	コミュ	ニケーション、会話	、文書作成、会詞	議、日本語							

保健学研究科保健学専攻 シラバス案

授業科目	保健图	医療マネジメント論	i		共通・専門科目の別	共通
担当教員	井部	俊子 中島 八	十一 水嵜 5	印子		
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択		1年次	前期	15回	2 単位	講義
授業の 到達目標	2. 人口海		健医療福祉制度	解し、説明できる。 ・政策を説明できる。 倫について論述できる。		
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP⑤ #	地域の医療・行政・	保健福祉組織のつ	マネジメントに参画		
授業科目 の概要	を体系的を学ぶ。	りに学ぶ。まず、わ さらに、財務会計	が国における保修・管理会計と診療	建医療制度・政策を理 療報酬制度・介護報酬	長践者として必要なマネ 里解し、保健医療に関連 州制度を概観する。そし 此における質を考察する。	した法規と倫理 て、保健医療福
	□			内容		担当
	1	人口減少時代に	おける社会保障			中島
	2	医療制度・政策の	の基礎となる法令			中島
	3	福祉制度・政策の	の基礎となる法令			中島
	4	保健医療における	る看護師の役割と	機能		中島
	5	保健医療におけ	中島			
	6	保健医療福祉に	水嵜			
授業計画	7	保健医療福祉に	水嵜			
技 未計四	8	医療機関の収入の	の仕組みと経営管	理 I(診療報酬)		中島
	9	医療機関の収入の	の仕組みと経営管	理 Ⅱ(財務分析、約	圣営管理)	中島
	10	福祉施設の収入の	の仕組みと経営管	理 I (介護報酬)		中島
	11	福祉施設の収入の	の仕組みと経営管	理 Ⅱ(財務分析、約	圣営管理)	中島
	12	医療の質保証と[医療安全			井部
	13	人材開発と経験学	学習			井部
	14	リーダーシップ。	ヒマネジメント			井部
	15	組織開発の手法				井部
テキスト・参考図書	参考図書	書:リハビリテーシ	ョン看護(改訂第		年 の可能性とともに歩む, ごリテーション看護と法	
 支 績評価基準	評価配分	分:レポート100%				
授業時間外	事前学	習授業内容に関する	る文献を検索し、	読んでおくこと。		
の学習情報	事後学習	習 新たに得た知識	を整理しておくこ	と。		
その他(履修 上の留意点)	時事問是	- 題に関心を持ち、授	業で発言すること	- 0		
キーワード	保健医療	寮制度、保健医療政	策、マネジメン			

授業科目	応用流	 統計学			共通・専門科目の	引 共通				
担当教員	熊本	圭吾 林 邦彦	井手野 由名	季 長井 万恵	•	•				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択		1年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	 医学 心理 表計 	 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。 医学統計(疫学統計、生物統計)の概念と解析結果を理解し、説明できる。 心理統計(多変量解析、尺度構成)の概念と解析結果を理解し、説明できる。 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。 P② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力								
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ 7	高度専門職業人に必	要な広範な知識を	∵持ち、他の専門職と						
授業科目 の概要	必要と7 えるよう につい	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に 必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行 えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法 こついて学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方 こついても学ぶ。								
	口			内容		担当				
	1	オリエンテーショ	ョン データ処理	と機器類の準備		熊本				
	2	記述統計、尺度を	火 準			熊本				
	3	推測統計、検定の	り基礎			熊本				
	4	医学統計・医学研	研究における統計	学概説		林				
	5	医学統計・観察研	医学統計・観察研究の研究計画における統計学							
	6	医学統計・観察研	肝究のデータ解析	における統計学		井手野				
授業計画	7	医学統計・介入る	研究の研究計画に	おける統計学		長井				
技术前四	8	医学統計・介入る	肝究のデータ解析	における統計学		長井				
	9	医学統計・メタン	アナリシス			井手野				
	10	心理統計・テス	ト理論 信頼性			熊本				
	11	心理統計・テス	ト理論 妥当性	項目の分析		熊本				
	12	心理統計・尺度権				熊本				
	13	心理統計・質問約	低調査 テキスト	マイニング		熊本				
	14	心理統計・構造	方程式モデリング			熊本				
	15	まとめ 統計手法	去の適用 ニュー			熊本				
テキスト・ 参考図書	参考図書	 書:「メタアナリシ	ス入門 エビデン	/スの統合を目指す統	計手法」丹後俊郎(朝倉書店)				
	授業に	おいて提示する課題	の理解度と達成原	まを総合評価する。						
授業時間外	事前学	習授業で指定する意	テキスト類を読了	する。自身で使用可能	 能なデータを授業用に					
の学習情報	事後学	習授業で課された記	果題を行う。							
その他(履修上の留意点)	PCの基準	本的な操作はできる	こと。							
キーワード	介入研究	究、観察研究、メタ	アナリシス、尺周)						

	医療	英語研究			共通・専門科目の別	リ 共通				
担当教員	伊原	び 奥村信彦 福 ・		エ 坂口けさみ	I					
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	 授業の方法				
		1 年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	に関し 2. 簡潔 3. 英語 の観点	て理解し、説明できな英語で書かれた人で書かれた医療分野 も踏まえ、構成と論	る。 体の構造、機能、 の文献をESP(En 理に注目しながり	疾病について読むこ glish for Specific ら的確に理解し表現で	Purposes:特定の目的できる。	内のための英語)				
ディプロマポリシー DP) との関連(評 価の観点)		高度専門職業人に必	要な広範な知識を	を持ち、他の専門職と	: 議論を通じて考えを	共有できる能力				
授業科目 の概要	門的知 み、後	識およびその英語特 半は英語の文献検討	有の規則等も学力を養うため、	ぶ。特に前半は基礎的	さもに、医療・医学に関 かな内容の英語を規則等 とと看護学に関する英語	等にも注目して読				
	口			内容		担当				
	1	医学用語の構成要		上解し、Cell, Organ, a	nd Systemを読む。	伊原				
	2	を読む。			L. Circulatory System	伊原				
	3	Respiratory Syste る。	emを読み、呼吸器系	※に関する語根、接頭辞	、接尾辞、単語を理解す	伊原				
	4	Digestive System? る。	Digestive Systemを読み、消化器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解す 伊原							
	5	Urinary Systemを	読み、泌尿器系に関	する語根、接頭辞、接	尾辞、単語を理解する。	伊原				
	6		Nervous SystemとMusculoskeletal Systemを読み、神経系と筋骨格系に関する語根、 接頭辞、接尾辞、単語を理解する。							
155 246 = 1	7	プロセスを理解する	英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれる プロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語彙、表現についても 学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。							
授業計画	8	保健学分野の基本的	的な英語文献1編を	読み、前回の内容を具体	本的に確認、理解する。	奥村				
	9		ついて授業担当者 <i>の</i> てディスカッション		聴き、理解を深めるとと	奥村				
	10		理学療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察 のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。							
	11	前回扱った論文にる。	ついてグループによ	るプレゼンテーション	を行い、相互に評価す	奥村・福谷				
	12			、その研究論文の目的 「クリティカルに読み、	、研究計画、結果、考察 内容を理解する。	奥村・外里				
	13	前回扱った論文にる。	ついてグループによ	こるプレゼンテーション	を行い、相互に評価す	奥村・外里				
	14			この研究論文の目的、研 ティカルに読み、内容	究計画、結果、考察のま を理解する。	奥村・坂口				
	15	前回扱った論文にる。	ついてグループによ	こるプレゼンテーション	を行い、相互に評価す	奥村・坂口				
テキスト・ 参考図書	参考図	書:「APAに学ぶ 看	ては適切かつ可能	とな限り新しいものを レール」前田樹海・∑	全選択し、初回に配布で 工藤裕之著:医学書院	ナる。				
 成績評価基準					見点別に評価し、総合原	点を60%とする。				
授業時間外		習初回に配布される	る論文を事前に読	んでおくこと。(奥	村)					
の学習情報				を提出すること。(伊原)					
その他(履修 上の留意点)		構造と機能・疾病に 配布される論文を事								
キーワード	Medica	l English								

授業科目	保健	医療教育論			共通・専門科目の別	共通		
担当教員	土井	進、外里 冨佐江		貝 繁香、林 かおり	I	1		
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修		1年次	前期	15回	2 単位	講義		
授業の 到達目標	理論と	実践についての知識	を体系的・系統的	りに理解し、説明でき	の歴史的変遷、並びに る。 今日的課題について説			
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)		高度専門職業人に必 研究・教育活動によ			議論を通じて考えを共	有できる能力		
授業科目 の概要					にみる養生思想の現代 教材などについて理解			
	回			内容		担当		
	1	保健医療教育に	おける「目的・目	標論」と「内容・方法	去論」	土井		
	2	保健医療教育に 的知識	おける「教授の三	角形」、教育者・学	習者・保健医療の基礎	土井		
	3	保健医療教育に	おける看護の実践	と理論		土井、樋貝、林		
	4	保健医療教育に	おける理学療法の	実践と理論		土井、福谷		
	5	保健医療教育に	おける作業療法の	実践と理論		土井、外里		
	6	生涯学習社会に	おける保健医療教	育の役割		土井		
授業計画	7	貝原益軒の道徳	貝原益軒の道徳教育論と養生思想の現代的意義					
按未訂凹	8	西洋における養生	上思想『サレルノ	養生訓』の現代的意	美	土井		
	9	仏教的人間像に	見る「知の教師」	・「情の教師」・「清	意の教師」	土井		
	10	いじめ問題への打	旨導力を高める『	塵劫記』の「三容器の	の協力関係」の問題	土井		
	11	内村鑑三が代表的	内日本人として評	価した二宮尊徳の保修	建医療の実学思想	土井		
	12	「田定規」の問題 を掴む	夏を通して課題の	把握、解法の発見、原	芯用の問題解決の流れ	土井		
	13	物心一如"もの" 教育	と"こころ"の	相即の妙を"もの"る	を通して洞察する実物	土井		
	14	学生が主体的・対	対話的で深い学び	を実現するアクティン	ブ・ラーニングの開発	土井		
	15	大学と地域社会を	が連携した保健医	療教育の実践による	大学院生の力量形成	土井		
テキスト・ 参考図書	から学	ぶ総合的な学習の時 書:貝原益軒『養生	間の指導と授業へ訓・和俗童子訓』	うくり』(2019)ジダ 2001、岩波書店、	ダイ社、土井進・塩原 イ社 の原点』2017、星雲社			
成績評価基準	毎授業	時の事前事後学習20	0字原稿30枚の考	察(50%)、800字小	論文(50%)で総合評	<u></u> 価する。		
授業時間外	事前学	習毎回、テキストの	の1章づつを読み、	心に残った箇所を引	用し、200字原稿に考え	祭を書く。		
の学習情報	事後学	習本日の授業による	る「まなび」を20 	0字原稿に記述する。				
その他(履修 上の留意点)	毎回、 る。	事前学習と事後学習	 の200字原稿をグ	ループで読み合わせ、	小コメントを相互に材	闌外に書き署名す		
キーワード	保健医	療教育論、教職倫理	観、実践と理論					

保健学研究科保健学専攻 シラバス案 3次案

授業科目	保健图	医療教育実践論			共通・専門科目の別	共通					
担当教員	土井	進、外里 冨佐	工、福谷 保、村	通貝 繁香、林 カ	おり						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法					
選択		1年次	前期	15回	2 単位	講義					
授業の	践事例に 2. 実践事 できる。	こおける教育方法の 事例における保健E	の特色を理解し、 医療の専門知識と	活用できる。 : 科学的な根拠を、	けるために、保健医療 保健医療教育実践の教	材として再構成					
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	力	カ DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力									
授業科目 の概要	実践にご 本講義	ついて、実践例をi をでは、保健医療の	通して学ぶ。 の専門職養成機関]変遷、ならびに保健医]職の養成に当たる教育)。						
	回			内容		担当					
	1	シラバス(授業計 連等	画) 作成の意義、	受業の到達目標、デ	ィプロマポリシーとの関	土井					
	2	総合的な学習のの作成	手法、大学院教育	の目標を踏まえた保	健医療教育の指導計画	土井					
	3		目における単元の	指導計画、本時の指	指導過程	土井、外里、 福谷、樋貝、林					
	4	11				土井、外里、福谷、樋貝、林					
	5	保健医療専門科 方法	目における本時の	指導案の作成、教材	才構成、板書計画、評価	土井、外里、福谷、樋貝、林					
	6	"				土井、外里、福谷、樋貝、林					
1-2 -110 - 2 1	7	教育者の要件、温	显故知新、声・腰・	脚、ソクラテスの青年	との問答法	土井					
授業計画	8	保健医療教育実る。	践におけるアクテ	ィブ・ラーニングの構	想をグループで練り上げ	土井					
	9			·相互学習形態·一孝	5学習形態	土井					
	10	学習評価の三段	階、診断的評価・	形成的評価·総括的	評価、到達度評価	土井					
	11	ルーブリック評価	、パフォーマンス記	平価、省察による実践	浅と理論の往還作業	土井					
	12	高度専門職を養原	成する教育者の力	量、教材の本質・学	生の内面がみえる慧眼	土井					
	13	保健医療を担う「	高度専門職」を育	成する上で欠かせな	い学生との「事上錬磨」	土井					
	14	直観の原理、自多	を性の原理、内発	的動機づけの理論、	練習(ドリル)の原理	土井					
	15	自ら開発した各種	道教材を活用した	莫擬授業を1人15分割	実践する。	土井、外里、 福谷、樋貝、林					
	践から学 参考図書	さぶ総合的な学習の 書:貝原益軒『養生	の時間の指導と抗 生訓・和俗童子詞	勿館の研究』2020、 受業づくり』2019、 川』2001、岩波書店 ラテスー医療の原点	ī.						
成績評価基準	毎授業時	寺の事前事後学習2	00字原稿30枚の	考察(50%)、800)字小論文(50%)で総	合評価する。					
授業時間外	事前学習	毎回、テキスト	の1章づつを読み	、心に残った箇所	を引用し、200字原稿に	二考察を書く。					
の学習情報			_	200字原稿に記述す							
	毎回、事 名する。	耳前学習と事後学	習の200字原稿を	グループで読み合え	わせ、小コメントを相2	瓦に欄外に書き署					
	保健医療	家教育実践論、シ	ラバス(授業計画	画)、教育者の力量	<u></u>						

授業科目	保健	医療研究	究法							共通	ⅰ専門科	目の5	别	共通
担当教員	熊本	圭吾	川崎	千恵	林	かおり	水嵜	知子	林	邦彦	麻原	きし	にみ	
必修•選択等	の別	配	当年次		配	当学期	年間	授業回数	女	単	单位数		ŧ	受業の方法
必修]	L 年次		Ī	前期		15回		2	2 単位			講義
到達目標	 研究 研究 研究 研究 研究 	記に必要 記におけ 記方法の 記倫理に	となる。 る文献 相違点 ついて	過程を の意義 を理解 理解し	理解し、研究の	研究との関 し述べるこ 解し、検索 研究目的に 充計画書作	とができ (、入手 (合わせ) (成におり	きる。 し批判的 た適用に ける留意	に吟味 [、] ついて	するこ 述べる	.とがで ,ことが	きる。 できる		0
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)														
授業科目 の概要	手順を多様な	修得する 研究法に 究テーマ	ることを こついて	と目的と に紹介し	:する 、そ	。そのた。 の基礎と	めに、保 铸徴を学	健医療分	分野にお こ、保健	ける 医療	研究を身 分野にお	ミ践す さける	る上 [*] 研究(知識、態度、 で活用される の過程につい の一連の流れ
	口						内容							担当
	1	授業	の概要	: 研究	の目的	的、実践と	の関連							熊本
	2	エビ	エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM)								林 邦彦			
	3	責任	責任ある研究活動:研究倫理と行動規範							熊本				
	4	文献	文献検討の方法:文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成								水嵜			
	5	研究	研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン							川崎				
	6	研究	方法論	1:実懸	负研究	の方法								林 かおり
₩-1 	7	研究	方法論	2:調査	企研究	の方法								熊本
授業計画	8	研究	方法論	3:疫学	全研究	の方法								林 邦彦
	9	研究	方法論	4:質的	的研究	1(定義と	種類、	プロセス	、デー	タ収集	美方法、	評価基	支道	麻原
	10	研究	方法論	5:質的	的研究	2 (インタ	·ビュー	去)						麻原
	11	研究	方法論	6:質的	的研究	3(参加額	[察法]							麻原
	12	研究	方法論	7:質的	的研究	4(データ	の分析	ヒ解釈)						麻原
	13	文献	カリテ	ィーク	の方法	去								水嵜
	14	研究	計画書	: 作成	上の注	主意								熊本
	15	まと	め研	究の計	画に「	句けて								熊本
テキスト・ 参考図書	ターナ	ショナル	レ. 2012	、ウヴ	ェフ!						3P. メデ	イカル	ンサイ	エンスイン
成績評価基準	プレゼ	ンテーシ	ンョン	(40%)	及び	ドレポート	(60%)	により総	· 哈合評個	iする。				
授業時間外	事前学	習参考	図書の	関連箇	所を記	売んでくる	0 0							
の学習情報	事後学	習新た	な知識	を整理	する。									
その他(履修 上の留意点)	特にな	L												
	研究方	法、文献	 狀検討、	研究力	法、	研究デザ	イン、研	究計画書	ŧ					

授業科目	保健学	総論			共通・専門科目の別	 専門				
担当教員				冨佐江、坂口けさみ、 中村秀一、野見山哲	高嶋孝倫、福谷保、熊	本圭吾、				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
必修		1年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	2.看護3.各発4.障害5.地域6.多職	看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。 各発達段階における健康課題を理解し、説明できる。 障害者の健康について説明できる。 地域社会の健康課題について説明できる。								
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP② 科: DP③ 高	学的な根拠に基づ 度専門職業人に必	き専門技能を発揮 要な広範な知識を	軍できる能力 ≥持ち、他の専門職と	議論を通じて考えを共	有できる能力				
授業科目 の概要	「誰一」を学ぶ	人として取り残さ	ない地域社会」0)構築を志向する保健	医療福祉関連職に必要	となる基礎知識				
	口			内容		担当				
	1	今日の医学:生物	物医学の進歩とそ	の臨床応用 現状と	果題	中島				
	2	今日の医療・FRM 生命医療倫理 串老中心医療 医療事故防止(ヒューマ								
	3	保健医療福祉制度	中村							
	4	看護学の現在				井部				
	5	リハビリテーショ 作業療法学	ョン科学の現在1	; リハビリテーション	ン医学、理学療法学、	中島、福谷、外里				
	6	リハビリテーショ	高嶋、熊本							
	7	女性の健康:wom	en's health, r	eproductive health		坂口				
授業計画	8	小児・学童の健康	庚:母子、児童、	学校保健の現状と課題	·····································					
	9	働き世代の健康 支援	:産業医学・衛生	、健診事業、労働安全	全、働き方改革、両立	野見山				
	10	入版 高齢者の健康: 力	旧齢と高齢者の心	身機能特性		川崎				
	11	障害者の健康: № ション	章害種別と障害特	性、医学的、社会的、	職業リハビリテー	中島				
	12	地域社会の健康	家族、住まい、	住民の健康状態、自治	冶体などによる健康増	 川崎				
	13	進活動 災害と健康				宮越				
	14	介護:介護保険制				中島				
	15				ム管理、マネジメント	星				
テキスト・ 参考図書	テキスト	:「健康科学」本	間日臣、古谷博、	丸井英二編集(医学	書院)					
成績評価基準	レポート	80%、グループワ	ークの内容20%に	こより総合評価する。						
授業時間外	事前学習	参考図書の関連領	衝所を読んでくる	0						
の学習情報	事後学習	新たな知識を整理	里する。							
その他(履修 上の留意点)	特になし									
キーワード	保健学	障害科学 看護学	理学療法学(F業療法学						

授業科目	ケア	提供システム特論			共通・専門科目の別	専門				
担当教員	井部	俊子 中島	八十一 水嵜	知子	•	•				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修	*	1年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	1. わが 2. ケア	国における保健医療 提供システムを構	療福祉の制度・『 築し、機能させる	政策を説明できる。 るためのサービスマ	ネジメントを論述でき	る。				
シー(DP)との 関連	DP③ 力P④ DP⑤ 〈ケ A1 A2 A3 も お も お も お も お り り り り り り り り り り り り	DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力DP④ 研究・教育活動による後進を育成する能力DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (ケア提供システム分野) A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力 わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづい								
の概要					マネジメント手法を学					
	回			内容		担当				
	1	人口減少時代の	社会保障			中島				
	2	保健医療福祉制	度と政策			中島				
	3	保健医療福祉に	関連した法規			中島				
	4	サービスマネジ	メント論			井部・水嵜				
	5	組織論と組織管	組織論と組織管理に関する基礎理論							
	6	組織論と組織管	理についての現	組織への適用と考察		井部・水嵜				
授業計画	7	人材育成とマネ	ジメントに関す	る基礎理論		井部・水嵜				
	8	人材育成とマネ	ジメント論の現	組織への適用と考察		井部・水嵜				
	9	経営資源(人、	物、金、情報)	の管理と効率化に関	する基礎的理論	井部・水嵜				
	10	経営資源管理と	効率化に関する	現組織への適用と考	·察 ————————————————————————————————————	井部・水嵜				
	11	提供するサービ	スの質の保証に	関する基礎理論		井部・水嵜				
	12	提供するサービ	スの質の改善			井部・水嵜				
	13	地域包括ケアシ	ステムの理念			井部・水嵜				
	14	多職種協働論				井部・水嵜				
	15	まとめ				井部・水嵜				
テキスト・ 参考図書	テキス	ト:日本の医療 特	制度と政策〔増初	浦改訂版〕,島崎謙浩	高,東京大学出版会,202	20				
成績評価基準		況、プレゼンテー: 分:レポート80%、		の総合評価 ヨンの内容等 20%						
授業時間外	事前学	習 組織管理につい	て情報を検索し	、資料等を読んでお	くこと					
の学習情報	事後学	習新たな知識を整	理しておくこと							
		理に関連した記事、 るよう心掛けるこ。		最新の社会的知見に	触れ、積極的にディス	カッションに参				
キーワード	保健医	療制度、保健医療		組織管理						
	-									

授業科目	ケア打	提供システム演習	I		共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部	俊子 水嵜	知子			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習
授業の 到達目標	説 明 で は の は の は の は の は の に は の に に の に る に る に る に る に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に る に 。 に る に る に る に る に 。 に 。 に る に 。 に	きる。 々な研究手法と特 究を進める上で必 サーチクエスチョ 車する文献のクリ	数を理解し、説明要な倫理的配慮に 要な倫理的配慮に ンに関連する先行 ティークによって	月できる。 こついて理解し、説 テ研究のレビューが て、医療サービスマ	できる。 ネジメントに有用なエ	
シー(DP)との 関連	DP③ 高力 力 DP④ 研 DP⑤ 対 A1 高門 能力 専門 能力 専門	高度専門職業人に 研究・教育活動に 地域の医療・行政 と供システム分野 い倫理観を専り、 門教育やケア提供 門教育や医療現場	必要な広範な知識より後進を育成で・保健福祉組織の育や医療現場によシステム分野によ	戦を持ち、他の専門に ける能力 ロマネジメントに参う おける複雑な倫理的に おいて自らが組織に 変革に対応したケア	として取り組む能力 職と議論を通じて考え 画・参加できる能力 課題に取り組む能力 参画し、リーダーシッ 提供システムを考察で	プを発揮できる
授業科目 の概要	ビューに る。本 本 (井 医療 野	こより情報収集能 たリサーチクエス・ 習は研究課題に基 変子、水嵜知子) 現場において組織	カと分析力を高& チョンに関連する づき、担当する者 (共同) を動かすこと及び	り、内外の最新知見 る先行研究のレビュ [、] 数員の指導により進	ョンに沿った研究論文 を入手し有用なエビデ ーレポートを作成し、 める。 倫理・コミュニケーシ	ンスを検討す 発表する。
	口			内容		担当
	1~10	医療サービスマ レビュー	ネジメントのリ	サーチクエスチョン	に沿った系統的文献	井部、水嵜
授業計画	11~20				ザイン、研究手法の、ディスカッション	井部、水嵜
	21~25	5 医療サービスマ	ネジメントにお	ける有用なエビデン	スの検討	井部、水嵜
	26~30) 先行研究のレビ	ューレポートの	作成と発表、討議		井部、水嵜
テキスト・ 参考図書	各種文献		 から、各自文献を	・選ぶ。必要な文献	等はその都度紹介する	
成績評価基準	プレゼン	ンテーション及び	討議の内容を総合	合評価する。		
授業時間外	事前学習	習 関連文献を事前	に概観したうえ゛	で授業に臨む。		
の学習情報	事後学習		を感じたり、自: 復讐するよう取		と感じた事柄に関して	は、テキストや
その他(履修 上の留意点)	自主的に	こ関連資料を収集	し、課題解決のな	とめの自己学習に積	極的に取り組む。	
キーワード	看護管理	理学、看護政策・	行政、看護倫理学			

授業科目	ケア提供	供システム演習 I			共通・専門科目の別	専門				
担当教員	中島	(+-				•				
必修・選択等の別	別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
できる。 2. 授業の 3. 到達目標 4. 5.	1. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。									
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点) A2 A3	③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力									
だ。 サラ 授業科目 の概要 (F	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。									
	口			内容		担当				
1	1~10	医療サービスマジ ビュー	ネジメントのリサ	ーチクエスチョンに	沿った系統的文献レ	中島				
担業計画	1~20	文献クリティーク 性と妥当性、倫理	7 (リサーチクエ 里的配慮、分析手	スチョン、研究デザ 法、まとめ方、ディ	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	中島				
2.	1~25	医療サービスマネ	ネジメントにおけ	る有用なエビデンス	の検討	中島				
20	6~30	先行研究のレビ <u>:</u> 	ューレポートの作	成と発表、討議		中島				
=+71.				成と発表、討議 選ぶ。必要な文献等に	よその都度紹介する。	中島				
テキスト・	種文献ラ	データベース等か	ら、各自文献を遺	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	中島				
テキスト・参考図書 各種 が	種文献ラレゼンラ前学習	データベース等か テーション及び討 関連文献を事前に 授業の中で疑問を	ら、各自文献を選 議の内容を総合記 こ概観したうえで	選ぶ。必要な文献等に 呼価する。 授業に臨む。 の智識が足りないと	tその都度紹介する。 感じた事柄に関しては、					
テキスト・参考図書 各利 成績評価基準 プリ 要	種文献ラレゼンラ前学習後学習	データベース等か テーション及び討 関連文献を事前に 授業の中で疑問を 等を通して復讐で	ら、各自文献を選議の内容を総合記 で概観したうえで と感じたり、自身 よう取り組む	選ぶ。必要な文献等に 呼価する。 授業に臨む。 の智識が足りないと	感じた事柄に関しては、					

授業科目	ケア提	供システム演習 Ⅱ	[共通・専門科目の別	専門			
担当教員	井部	俊子 水嵜 知	1子		•	•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修	*	1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	きる。 2. 医療サ 3. 医療サ 4. 医療サ	ービスマネジメン ービスマネジメン ービスマネジメン	トに関わる関係法 トに関わる実践・ トに関わる支援力	E規や様々な施策、取 教育・研究の課題を 所法について理解する	とともに、課題につい	、説明できる。			
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ 高 DP④ 研 DP⑤ 地 〈ケア提 A1 高い A2 専門	③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 ケア提供システム分野〉 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力							
授業科目 の概要	とと 本 に 第 で 井部 俊 東現	、必要な支援方法 は、研究課題に基 子、 水嵜知子)	と課題について理 づき、担当する (共同) 動かすことに及び	理解する。 対員の指導により進め ボケア提供における倫	は一般では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は				
	口			内容		担当			
	1~4	医療サービスマン	ネジメントに関わ	る保健・医療・福祉	の動向と現状の理解	井部、水嵜			
	5~8	医療サービスマン	ネジメントに関す	る学問の動向の理解		井部、水嵜			
授業計画	5~8 9~16			る学問の動向の理解 る実践・教育・研究	の現状と課題の探求	井部、水嵜井部、水嵜			
授業計画		医療サービスマン	ネジメントに関わ						
授業計画	9~16	医療サービスマン	ネジメントに関わ	る実践・教育・研究る支援方法と課題の		井部、水嵜井部、水嵜			
授業計画 テキスト・参考図書	9~16 17~24 25~30	医療サービスマン医療サービスマン	ネジメントに関わ ネジメントに関わ ネジメントに関わ	る実践・教育・研究る支援方法と課題の	探求 ・支援方法の課題発表	井部、水嵜井部、水嵜			
テキスト・ 参 考 図書	9~16 17~24 25~30 各種文献	医療サービスマン医療サービスマン	ネジメントに関わ ネジメントに関わ ネジメントに関わ いら、各自文献を過	る実践・教育・研究 る支援方法と課題の る実践・教育・研究 はぶ。必要な文献等に	探求 ・支援方法の課題発表	井部、水嵜井部、水嵜			
テキスト・ 参 考 図書	9~16 17~24 25~30 各種文献 プレゼン	医療サービスマン 医療サービスマン 医療サービスマン および討議 データベース等か	ネジメントに関わ ネジメントに関わ ネジメントに関わ いら、各自文献を選 議の内容を総合評	る実践・教育・研究 る支援方法と課題の る実践・教育・研究 はぶ。必要な文献等に で価する。	探求 ・支援方法の課題発表	井部、水嵜井部、水嵜			
テキスト・参考図書 成績評価基準	9~16 17~24 25~30 各種文献 プレゼン	医療サービスマン 医療サービスマン 医療サービスマン および討議 データベース等か テーション及び討 関連文献を事前り 授業の中で疑問:	ネジメントに関わ ネジメントに関わ ネジメントに関わ ら、各自文献を選 議の内容を総合記 こ概観したうえで	る実践・教育・研究 る支援方法と課題の る実践・教育・研究 といる。必要な文献等に を必要な文献等に を必要な文献等に を変える。必要な文献等に を変える。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をで	探求 ・支援方法の課題発表	井部、水嵜井部、水嵜			
テキスト・ 参考図書 成績評価基準 授業時間外	9~16 17~24 25~30 各種文献 プレゼン 事前学習 事後学習	医療サービスマン 医療サービスマン 医療サービスマン および討議 データベース等か テーション及び討 関連文献を事前に 授業の中で疑問 等を通して復讐	ネジメントに関わ ネジメントに関わ ネジメントに関わ いら、各自文献を選 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	る実践・教育・研究 る支援方法と課題の る実践・教育・研究 といる。必要な文献等に を必要な文献等に を必要な文献等に を変える。必要な文献等に を変える。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をでる。 をで	探求 ・支援方法の課題発表 はその都度紹介する。 感じた事柄に関しては	井部、水嵜井部、水嵜			

授業科目	ケア	提供システム演習Ⅱ	·		共通・専門科目の	引 専門					
担当教員	中島	八十一			•	•					
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法					
選択必修	*	1年次	後期	30回	2 単位	演習					
授業の 到達目標	きる。 2. 医療 [、] 3. 医療 [、]	. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 . 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 . 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。									
シー(DP)との 関連	DP③ DP④ DP⑤ 〈ケア: A1 高 A2 専	③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 ケア提供システム分野〉 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力									
授業科目 の概要	ととも 本演 (中島) 後遺	に、必要な支援方法 習は、研究課題に基 八十一)	と課題について現 づき、担当する都	里解する。 枚員の指導により進♂	R健統計や施策を含め うる。 T究課題について、実						
	回			内容		担当					
	1~4	医療サービスマン	ネジメントに関わ	る保健・医療・福祉	の動向と現状の理解	中島					
	5~8	医療サービスマン	ネジメントに関す	る学問の動向の理解		中島					
授業計画	9~16	6 医療サービスマン	ネジメントに関わ	る実践・教育・研究	の現状と課題の探求	中島					
	17~2	4 医療サービスマン	ネジメントに関わ	る支援方法と課題の	探求	中島					
	25~3	の 医療サービスマン および討議	ネジメントに関わ	る実践・教育・研究	支援方法の課題発表	で 中島					
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を追	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。						
成績評価基準	プレゼ	 ンテーション及び討	議の内容を総合詞	 平価する。							
授業時間外	事前学	習関連文献を事前に	こ概観したうえで	授業に臨む。							
授業時間外 の学習情報	事前学事後学	 図 授業の中で疑問を		の智識が足りないと	感じた事柄に関してに	は、テキストや文献					
	事後学	習 授業の中で疑問 等を通して復讐	を感じたり、自身 するよう取り組む	の智識が足りないと		は、テキストや文献					

授業科目	人間	 発達ケア特論			共通・専門科目の別	専門
担当教員		冨佐江、飛松好子、 保、林かおり、福田		ナさみ、樋貝繁香、宮	宮脇利幸、	
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	\$	1年次	前期	15回	2 単位	講義
授業の 到達目標	2. リコ 3. 乳約 4. 生液	効児期の発達におい 厓発達の視点から青	ス・ライツに関す て重視すべき課題 年期、成人期の多	トる主要概念と臨床的 夏について多様な側面	つ課題について述べることができる。 おから述べることができる。 はな側面から述べることが ことができる。	3.
ディプロマポリシー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ 帮DP⑤ 均 C人間多 B1 專門能力 B2 專門	高度専門職業人に必 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題	要な広範な知識を保健福祉組織のでに必要な課題を打解決のために適ち	マネジメントに参画・	:議論を通じて考えを共存を加できる能力 学の知見を探求し、論理的 ご活かせる能力	
授業科目 の概要	特定の元本理・社本講覧	方向に向かう変化で 社会的任務を遂行し 義は、妊娠・出産期	ある。人間の発達ながら、未来に向 ながら、未来に向 における家族、日 社会環境を含めて	権とは、生物として♯ 前けて生涯成長してレ 計性、乳幼児期、青年 ご医学、看護、リハヒ	繰り返されて進展し、相 地球上に存在し、社会のかくことである。 三期、成人期、高齢期それ ブリテーションの側面かり	生活者として、 れぞれの時期に
	口			内容		担当
	1	オリエンテーショ	ョン 環境と人間	発達		外里
	2	生涯発達の概要と	青年期、成人期	及における発達課題		外里
	3	肢体不自由を中心	いとした発達過程	における障害の医学	的理解	飛松
	4	肢体不自由を中心	いとした発達過程	における障害の支援	機器論的理解	高嶋
	5	リプロダクティフ	ブヘルス・ライツ	における臨床的課題		坂口
	6			全な発達を支えるこ	*	樋貝
	7			がいをもって生活す	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	樋貝
授業計画	8	心身の変化) 青年期、成人期に			発達課題(学校生活と 発達課題(産業保健的	外里 ————————————————————————————————————
		視点から)	- 10 Lb - T 10 AB W	- /T A ©		
	10	発達障害児支援の	_ ,			福田
	11	発達障害児支援の	- /,		ての時字について	福田
	12			機能、身体機能の低期の社会生活のあり		宮脇 宮脇 宮脇
	13	高野期における9 発達過程における			Л	
	14	先生過程における	が対けいる際条件			
テキスト・ 参考図書	テキス		人間発達学第5	版 中外医学社		77至
成績評価基準	討議状犯	兄、プレゼンテーシ 分:レポート80%、こ	ョンの内容等の約	※合評価		
授業時間外	事前学	習生涯人間発達につ	 >いて情報を検索	し、資料等に眼を通	すこと。	
皮栗時间外 の学習情報	事後学	習新たな知識を整理	里すること。			
その他(履修 上の留意点)	新聞記事	事、ニュースなど最	新の社会的な知り	見に触れ、積極的に 諱	歳論できるように授業に	塩むこと。
キーワード	生涯人間	間発達 ウィメンズ	ヘルス 障害科学	学 リハビリテーショ	ン 保健活動 環境	

授業科目	人間	発達ケア演習 I (理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	飛松	好子			<u> </u>			
	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	明できる 2. 様 3. 研 4. リ	る。 々な研究手法と特徴 究を進める上で必要 サーチクエスチョン	を理解し、説明でな倫理的配慮になに関連する先行	ごきる。 ついて理解し、説明で 肝究のレビューができ				
関連	DP③	⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 人間発達ケア分野〉 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる 力						
授業科目 の概要	により サーチョ 本演 (飛松が 肢体)	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモィブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~10	発達過程におけるビュー	5理学療法学のリ	サーチクエスチョン	に沿った系統的文献レ	飛松		
授業計画	11~20				イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	飛松		
	21~25	5 発達過程における	る理学療法学にお	ける有用なエビデン	スの検討	飛松		
	26~30	0 先行研究のレビ <u>:</u>	ューレポートの作	成と発表、討議		飛松		
テキスト・ 参考図書	各種文	 献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等は	 tその都度紹介する。			
成績評価基準	プレゼ、	ンテーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。				
授業時間外	事前学	講義は、学生と 保する。	対員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報	事後学		ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	整形外积	科学、スポーツ科学	、医療社会学、用	支体不自由 支体不自由				

授業科目	人間	発達ケア演習 I (理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	福谷伯	呆				•		
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	明できる 2. 様々 3. 研究 4. リヤ	る。 マな研究手法と特徴 究を進める上で必要 ナーチクエスチョン	を理解し、説明でな倫理的配慮になに関連する先行	ごきる。 ついて理解し、説明で 肝究のレビューができ				
関連	DP③ 高 DP⑤ 均 〈人間多 B1 専門 能力 B2 専門							
授業科目 の概要	により [†] サーチ演 本 (福谷) 理学	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 福谷保)理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活して演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~10	発達過程におけるビュー	5理学療法学のリ	サーチクエスチョン	に沿った系統的文献レ	福谷		
授業計画	11~20				イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	福谷		
	21~25	5 発達過程における	5理学療法学にお	ける有用なエビデン	スの検討	福谷		
	26~30) 先行研究のレビ <u>-</u>	ューレポートの作	成と発表、討議		福谷		
テキスト・ 参考図書	各種文献	 状データベース等か	ら、各自文献を選	麗ぶ。必要な文献等に	 tその都度紹介する。			
成績評価基準	プレゼン	/テーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。				
授業時間外	事前学	講義は、学生と教 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報	事後学	<u> </u>	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、村	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	理学療法	去学の運動療法学、	組織学、骨格筋生	上理学				

授業科目	人間発	人間発達ケア演習 I (理学療法学) 共通・				専門		
担当教員	高嶋孝	倫			•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	る。 2. 様々 3. 研究 4. リサ	な研究手法と特徴 を進める上で必要 ーチクエスチョン	を理解できる。 な倫理的配慮につ に関連する先行	Dいて理解できる。 ff究のレビューができ	ンを明確にするステッ る。 ビデンスを検討できる。			
関連	DP③ 高 DP⑤ 地 〈人間発 B1 専門 能力 B2 専門	⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 人間発達ケア分野〉 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる 力						
授業科目 の概要	により情 サーチ演習 (高嶋郡 人間の	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経を活かして演習を行う。						
	回			内容		担当		
	1~10	発達過程における ビュー	る理学療法学のリ	サーチクエスチョン	こ沿った系統的文献レ	高嶋		
授業計画	11~20			スチョン、研究デザク法、まとめ方、ディン	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	高嶋		
	21~25	発達過程における	る理学療法学にお	ける有用なエビデン	スの検討	高嶋		
	26~30	先行研究のレビュ	ューレポートの作	成と発表、討議		高嶋		
				成と発表、討議 選ぶ。必要な文献等は	その都度紹介する。	高嶋		
参考図書	各種文献		ら、各自文献を過	選ぶ。必要な文献等は	その都度紹介する。	高嶋		
参考図書	各種文献プレゼン事前学習	データベース等か テーション及び討 講義は、学生と 保する。	ら、各自文献を選 議の内容を総合記 数員とでのディス	選ぶ。必要な文献等は 平価する。 カッションにより進む	その都度紹介する。 めるので、学生が予習に し、さらに必要となる知	- 必要な時間を確		
参考図書 成績評価基準 授業時間外	各種文献 プレゼン 事前学習 事後学習	データベース等か テーション及び討 講義は、学生と 保する。 プレゼンテーショ	ら、各自文献を追 議の内容を総合記 数員とでのディス ョンやディスカッ	選ぶ。必要な文献等は 平価する。 カッションにより進む	めるので、学生が予習に	- 必要な時間を確		

授業科目	人間		学療法学)		共通・専門科目の別	専門	
担当教員	飛松	好子					
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法	
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習	
授業の 到達目標	できる。 2. 理学 3. 理学 4. 理学	療法学に関わる関係 療法学に関わる実践 療法学に関わる支援	法規や様々な施り ・教育・研究の記 方法について理角	€、取り組みについて 果題を探求できる。 解するとともに、課題	対音の動向と現状について理解し、説明できる。 質について探求できる。	で理解し、説明	
関連	DP③ in DP⑤ in JP⑤ in JP⑤ in JP⑤ in JP in	高度専門職業人に必 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題	要な広範な知識を保健福祉組織のない。 に必要な課題を対解決のために適切	マネジメントに参画・	:議論を通じて考えを共参加できる能力 季の知見を探求し、論理 ご活かせる能力		
授業科目 の概要	とともに 本演	こ、必要な支援方法 習は、研究課題に基 好子) 不自由を中心とした	と課題についてま づき、担当する素 人間の発達過程/	里解する。 枚員の指導により進め こおける動作解析、追	R健統計や施策を含めて うる。 運動機能評価、運動機能 関動機能評価、運動機能 は的研究手法に結び付け	維持、ロコモ	
	口			内容		担当	
	1~4	理学療法学に関す	つる保健・医療・	福祉の動向と現状の	理解	飛松	
	5~8	理学療法学の動同	理学療法学の動向の理解				
授業計画	9~16	理学療法学に関わ	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求				
	17~24	4 理学療法学に関す	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求				
	25~30	0 理学療法学に関わ	つる実践・教育・	研究・支援方法と課	題発表および討議	飛松	
テキスト・ 参考図書	各種文庫	獣データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	-	
成績評価基準	プレゼ	ンテーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。			
授業時間外	事前学	選講義は、学生と教 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確	
の学習情報	事後学	習プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	印識を学修する。	
その他(履修上の留意点)	質問、相	相談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。			

授業科目	人間	発達ケア演習Ⅱ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	福谷	保			<u> </u>			
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	できる。 2. 理学 3. 理学 4. 理学	療法学に関わる関係 療法学に関わる実践 療法学に関わる支援	法規や様々な施り ・教育・研究の記 方法について理解	€、取り組みについて 果題を探求できる。 解するとともに、課題	対音の動向と現状につい 「理解し、説明できる。 質について探求できる。	て理解し、説明		
関連	DP③ in DP⑤ in Ample	高度専門職業人に必 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題	要な広範な知識を保健福祉組織のでに必要な課題を打解決のために適ち	マネジメントに参画・	:議論を通じて考えを共参加できる能力 季加できる能力 Fの知見を探求し、論理 -活かせる能力			
授業科目 の概要	ととも 本演 (福谷 理学)	こ、必要な支援方法 習は、研究課題に基 呆)	と課題について現 づき、担当する都	里解する。 枚員の指導により進战	R健統計や施策を含めて うる。 开究課題について、実践			
	口			内容		担当		
	1~4	理学療法学に関す	つる保健・医療・	福祉の動向と現状の	理解	福谷		
	5~8	理学療法学の動同	理学療法学の動向の理解					
授業計画	9~16	理学療法学に関わ	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求					
	17~24	4 理学療法学に関わ	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求					
	25~30	3 理学療法学に関す	つる実践・教育・	研究・支援方法と課	題発表および討議	福谷		
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を過	選ぶ。必要な文献等に	よその都度紹介する。			
成績評価基準	プレゼ	ンテーション及び討	議の内容を総合記	 平価する。				
授業時間外の党羽情報	事前学	講義は、学生と 保する。	対 員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	こ必要な時間を確		
の学習情報	事後学	習プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修 上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。				
キーワード	理学療剂	去学の運動療法学、	組織学、骨格筋質	上理学				

授業科目	人間発				共通・専門科目の別	専門			
担当教員	高嶋孝	倫							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	3. 理学療	きる。 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。							
関連	DP③ 高, DP⑤ 地 〈人間発 B1 専門 能力 B2 専門	高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 、間発達ケア分野〉 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	とともに 本演習 (高嶋孝 人間の	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するともに、必要な支援方法と課題について理解する。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手に結び付ける演習を行う。							
	口			内容		担当			
	1~4	理学療法学に関わ	つる保健・医療・	福祉の動向と現状の	理解	高嶋			
	5~8	理学療法学の動同	高嶋						
授業計画	9~16	理学療法学に関	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求						
	17~24	理学療法学に関す	つる支援方法と課	題の探求		高嶋			
	25~30	理学療法学に関	つる実践・教育・	研究・支援方法と課題	題発表および討議	高嶋			
テキスト・ 参考図書	各種文献	 データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等は	その都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼン	テーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。					
授業時間外	事前学習	講義は、学生と 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確			
		前学習 講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。							
の学習情報	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となるタ	印識を学修する。			
				ションの内容を整理ごも随時受け付ける。	し、さらに必要となるタ	田識を学修する。			

授業科目	人間発	達ケア演習I(作	業療法学)		共通・専門科目の別	専門			
担当教員	外里冨	佐江							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	明できる 2. 様々 3. 研究 4. リサ	 . 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 . 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 . リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 . 関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。 							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ 高DP⑤ 地 《人間· B1 專門 能力 專門 B2 專門 B3 專門	① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる (力) 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力							
授業科目 の概要	により 本 り 手演習 (外 作 楽 が 上 楽 が 上 楽 大 原 を が 上 楽 に 関 を か か ま で ま か ま で か か か か か か か か か か か か	報収集能力と分析 エスチョンに関連 は研究課題に基づ 佐江) 法の介入と効果の	力を高め、内外のする先行研究のような、担当する教員のでは、 担当する教員の でのでは、 脳機能で、 カルスタップ	つ最新知見を入手し者 レビューレポートを作 員の指導により進める とと作業療法に関する アによる多職種連携の		する。またリ			
	回			内容		担当			
	1~10	発達過程における ビュー	5作業療法学のリ	サーチクエスチョン	に沿った系統的文献レ	外里			
授業計画	11~20	文献クリティーク 性と妥当性、倫理	外里						
	21~25	発達過程における	外里						
	26~30	先行研究のレビュ	ューレポートの作	成と発表、討議		外里			
テキスト・ 参考図書	各種文献	データベース等か	ら、各自文献を過	選ぶ。必要な文献等は	はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼン	テーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。					
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と教 保する。	対員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確			
₩ 計劃	事後学習	プレゼンテーショ	コンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	田識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。					
キーワード		の介入と効果、脳 連携の効果	機能と作業療法、	超高齢化社会におけ	ける社会参加、メディカ	ルスタッフによ			

授業科目	人間発達ケア演習 I (作業療法学)				共通・専門科目の別	専門		
担当教員	宮脇和	刊幸			<u> </u>	•		
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	明できる 2. 様々 3. 研究 4. リサ	. 発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説 引できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。						
ディプロマポリ シー(DP)との 関連	DP③	2 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力						
授業科目 の概要	により情 サーチク 本 (宮脇和 人間の	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリナーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究 果題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~10	発達過程におけるビュー	る作業療法学のリ		に沿った系統的文献レ	1		
授業計画		ビュー 文献クリティーク	ウ (リサーチクエ	サーチクエスチョン スチョン、研究デザ	に沿った系統的文献レ イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	宮脇		
授業計画	1~10	ビュー 文献クリティーク 性と妥当性、倫理	フ(リサーチクエ 里的配慮、分析手	サーチクエスチョン スチョン、研究デザ	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	宮脇		
授業計画	1~10 11~20	ビュー 文献クリティータ性と妥当性、倫理 発達過程における	フ(リサーチクエ 理的配慮、分析手 る作業療法学にお	サーチクエスチョン スチョン、研究デザ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	宮脇宮脇		
授業計画テキスト・参考図書	$1\sim10$ $11\sim20$ $21\sim25$ $26\sim30$	ビュー 文献クリティータ性と妥当性、倫理 発達過程における 先行研究のレビュ	フ(リサーチクエ 理的配慮、分析手 る作業療法学にお ューレポートの作	サーチクエスチョン スチョン、研究デザ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む) スの検討	宮脇宮脇		
テキスト・参考図書	1~10 11~20 21~25 26~30 各種文南	ビュー 文献クリティータ性と妥当性、倫理 発達過程における 先行研究のレビュ	7 (リサーチクエ 型的配慮、分析手 る作業療法学にお ューレポートの作 ら、各自文献を違	サーチクエスチョン スチョン、研究デザ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン 成と発表、計議	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む) スの検討	宮脇宮脇		
テキスト・参考図書	1~10 11~20 21~25 26~30 各種文南 プレゼン 事前学習	ビュー 文献クリティーが性と妥当性、倫理 発達過程における 先行研究のレビョ 大データベース等か アテーション及び討 講義は、学生と表	7 (リサーチクエ 型的配慮、分析手 3 作業療法学にお ューレポートの作 ら、各自文献を過 議の内容を総合記 数員とでのディス	サーチクエスチョン スチョン、研究デザイ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン 成と発表、計議 選ぶ。必要な文献等に 単価する。 カッションにより進	イン、研究手法の信頼スカッションを含む)スの検討 スの検討 よその都度紹介する。 めるので、学生が予習	宮脇宮脇宮脇		
テキスト・ 参考図書 成績評価基準 授業時間外 の学習情報	1~10 11~20 21~25 26~30 各種文南 プレゼン 事前学習	ビュー 文献クリティーが性と妥当性、倫理 発達過程における 先行研究のレビョ 大データベース等か アテーション及び討 講義は、学生と表	7 (リサーチクエ 型的配慮、分析手 3 作業療法学にお ューレポートの作 ら、各自文献を過 議の内容を総合記 数員とでのディス	サーチクエスチョン スチョン、研究デザイ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン 成と発表、計議 選ぶ。必要な文献等に 単価する。 カッションにより進	イン、研究手法の信頼 スカッションを含む) スの検討 なその都度紹介する。	宮脇宮脇宮脇		
テキスト・ 参考図書 成績評価基準 授業時間外	1~10 11~20 21~25 26~30 各種文南 プレゼン 事前学習	ビュー 文献クリティーが性と妥当性、倫理 発達過程における 先行研究のレビニ 状データベース等か ノテーション及び討 講義は、学生と教保する。 プレゼンテーショ	7 (リサーチクエ 型的配慮、分析手 3 作業療法学にお ューレポートの作 ら、各自文献を込 議の内容を総合記 数員とでのディス コンやディスカッ	サーチクエスチョン スチョン、研究デザイ 法、まとめ方、ディ ける有用なエビデン 成と発表、計議 選ぶ。必要な文献等に 単価する。 カッションにより進	イン、研究手法の信頼スカッションを含む)スの検討 スの検討 よその都度紹介する。 めるので、学生が予習	宮脇宮脇宮脇		

授業科目	人間	発達ケア演習Ⅱ(作	業療法学)	共通・専門科目の別	共通・専門科目の別専門			
担当教員	外里'	富 佐江						
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
	できる。 2. 作業別 3. 作業別 4. 作業別	療法学に関わる関係 療法学に関わる実践 療法学に関わる支援	法規や様々な施策・教育・研究の記 方法について理角	き、取り組みについて 果題を探求できる。 解するとともに、課題	対育の動向と現状について理解し、説明できる。 「理解し、説明できる。 「ないて探求できる。	、 で理解し、説明		
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ in DP⑤ d d d d d d d d d d d d d d d d d d d	③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 人間発達ケア分野〉 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる 力 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力						
授業科目 の概要	ととも 本演 (外里) 作業別 参加に	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するともに、必要な支援方法と課題について理解する。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会・加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究・関について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~4	作業療法学に関す	つる保健・医療・	福祉の動向と現状の	理解	外里		
	5~8	作業療法学の動同	作業療法学の動向の理解					
授業計画	9~16	作業療法学に関え	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求					
	17~24	4 作業療法学に関わ	作業療法学に関わる支援方法と課題の探求					
	25~30	0 作業療法学に関わ	作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議					
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	-		
成績評価基準	プレゼ	ンテーション及び討	議の内容を総合言	平価する。				
授業時間外	事前学	講義は、学生と 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報	事後学	習プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード		生の介入と効果、脳 種連携の効果	機能と作業療法、	超高齢化社会におり	ける社会参加、メディカ	1ルスタッフによ		

授業科目	人間多	発達ケア演習Ⅱ (作業療法学)			共通・専門科目の別	専門		
担当教員	宮脇和	·····································						
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1 年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	できる。 2. 作業療 3. 作業療 4. 作業療	療法学に関わる関係 療法学に関わる実践 療法学に関わる支援	法規や様々な施録・教育・研究の記 方法について理解	€、取り組みについて 果題を探求できる。 解するとともに、課題	教育の動向と現状について理解し、説明できる。 国について探求できる。			
関連	DP③ 再 DP⑤ 均 《人間努 B1 専門能力 B2 専門 B3 専門	高度専門職業人に必 地域の医療・行政・ き達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題 門分野の知見収集の	要な広範な知識を保健福祉組織のでに必要な課題を打解決のために適切成果を教育及び呼	マネジメントに参画・ 由出し、関連する既存 のな方法を実施計画に 職業実践に結びつける	:議論を通じて考えをま 参加できる能力 Fの知見を探求し、論 に活かせる能力 が能力	里的に整理できる		
授業科目 の概要	とともに 本演習 (宮脇和 人間の	こ、必要な支援方法 習は、研究課題に基 川幸)	と課題についてま づき、担当する 高齢期のリハビ	里解する。 枚員の指導により進々 リテーション科学・袖	R健統計や施策を含め うる。 話祉工学,応用健康科学			
	回			内容		担当		
	1~4	作業療法学に関	つる保健・医療・	福祉の動向と現状の	理解	宮脇		
	5~8	作業療法学の動同	作業療法学の動向の理解					
授業計画	9~16	作業療法学に関え	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求					
	17~24	作業療法学に関え	作業療法学に関わる支援方法と課題の探求					
	25~30	作業療法学に関え	つる実践・教育・	研究・支援方法と課	題発表および討議	宮脇		
テキスト・ 参考図書	各種文献	状データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	•		
成績評価基準	プレゼン	/テーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。				
授業時間外	事前学	選 講義は、学生と教 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報	事後学習	習 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修 上の留意点)	質問、村	目談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。				
キーワード	リハビリ	Jテーション科学・	福祉工学,応用例	建康科学				

授業科目	人間多	養達ケア演習 I (母	:子看護学)		共通・専門科目の別専門			
担当教員	坂口に	けさみ、林かおり						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	テップを 2. 様々 3. 研究 4. リサ	. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするスープップを理解し、説明できる。 . 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 . 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 . リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 . 関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。						
関連	DP③ 高 DP⑤ 地 〈人間舜 B1 専門 能力 B2 専門	① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 ③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 人間発達ケア分野〉 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる 力 専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力						
授業科目 の概要	の系統的 検討する 本 坂 軍 の系統的 本 次 選	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文 ②系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを 設計する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HI で含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。						
	□			内容		担当		
	1~10	発達過程における 沿った系統的文献		心とした看護学のリ	サーチクエスチョンに	坂口		
授業計画	11~20	11~20 文献クリティーク(リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)						
	21~25 発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンス の検討					坂口		
	21~25				スカッションを含む)	- 坂口		
	21~25 26~30	の検討	5母子・家族を中	心とした看護学にお	スカッションを含む)	坂口		
テキスト・ 参考図書	26~30	の検討 先行研究のレビ <u>-</u>	3日子・家族を中 ューレポートの作	心とした看護学にお	スカッションを含む)	林		
参考図書	26~30	の検討 先行研究のレビ <u>-</u>	3 母子・家族を中 ューレポートの作 ら、各自文献を選	心とした看護学にお 成と発表、計議 感ぶ。必要な文献等に	スカッションを含む)	林		
参考図書 成績評価基準 授業時間外	26~30	の検討 先行研究のレビュ 大データベース等か イテーション及び討	3 母子・家族を中 ューレポートの作 ら、各自文献を選 議の内容を総合記	心とした看護学にお成と発表、計議 成と発表、計議 遅ぶ。必要な文献等に	スカッションを含む)	林坂口		
参考図書 成績評価基準	26~30 各種文献 プレゼン 事前学習	の検討 先行研究のレビュ ボデータベース等か /テーション及び討 講義は、学生と 保する。	る母子・家族を中 ューレポートの作 ら、各自文献を選 議の内容を総合言 数員とでのディス	心とした看護学にお成と発表、討議 成と発表、討議 選ぶ。必要な文献等に 運価する。 カッションにより進	スカッションを含む) ける有用なエビデンス こその都度紹介する。	大 林 坂口		
参考図書 成績評価基準 授業時間外	26~30 各種文南 プレゼン 事前学習 事後学習	の検討 先行研究のレビュ ボデータベース等か ・テーション及び討 講義は、学生と 保する。 プレゼンテーショ	3 母子・家族を中 ューレポートの作 ら、各自文献を遺 議の内容を総合記 数員とでのディス	心とした看護学にお成と発表、討議 成と発表、討議 選ぶ。必要な文献等に 運価する。 カッションにより進	スカッションを含む) ける有用なエビデンス はその都度紹介する。	大 林 坂口		

授業科目	人間発達ケア演習 I (母子看護学) 共通・専					専門		
担当教員	樋貝第	荃香						
必修・選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	テップを 2. 様々 3. 研究 4. リサ	. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするスーツプを理解し、説明できる。 . 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 . 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 . リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 . 関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。						
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ 高 DP⑤ 地 〈人間発 B1 専門 能力 B2 専門	② 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (人間発達ケア分野) 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる 力						
授業科目 の概要	の系統的 検討する 本演習 (樋貝繁	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文 の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを 検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行						
	口			内容		担当		
	1~10	発達過程における 沿った系統的文献		心とした看護学のリ	サーチクエスチョンに	樋貝		
授業計画	11~20				イン、研究手法の信頼 スカッションを含む)	樋貝		
	21~25	発達過程におけるの検討	る母子・家族を中	心とした看護学にお	ける有用なエビデンス	樋貝		
	26~30	先行研究のレビュ	ューレポートの作	成と発表、討議		樋貝		
テキスト・ 参考図書	各種文献	 ゚゚゚゚゙データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等は				
	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。							
成績評価基準	プレゼン	講義は 学生と 数昌とでのディスカッションに とり進めるので 学生が予翌に必要か時間を確						
成績評価基準 授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と 保する。	数員とでのディス	カッションにより進				
授業時間外	事前学習事後学習	講義は、学生と 保する。 プレゼンテーショ	数員とでのディス ョンやディスカッ	カッションにより進				

授業科目	人間	発達ケア演習Ⅱ (母	:子看護学)	共通・専門科目の別	事門				
担当教員	坂口	けさみ、林かおり			·	·			
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
	2. 母子 [*] 3. リプ 4. リプ きる。	. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。 きる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP③ DP⑤ 〈人間 B1 専 能力 B2 専 B3 専	P③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 P⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	て幅広 本 (坂口 発達)	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。							
	口			内容		担当			
	回 1~4	リプロダクティン 状の理解	ブヘルス・ライツ		医療・福祉の動向と現				
		状の理解			医療・福祉の動向と現	1			
授業計画	1~4	状の理解 リプロダクティン	ブヘルス(性感染	に関わる母子保健・ 症) の動向の理解	医療・福祉の動向と明 ・研究の現状と課題の	坂口 林			
授業計画	1~4	状の理解 リプロダクティン リプロダクティン 探求	ブヘルス(性感染 ブヘルス・ライツ	に関わる母子保健・ 症) の動向の理解	・研究の現状と課題の	坂口林			
授業計画	1~4 5~8 9~16	状の理解 リプロダクティン アプロダクティン 探求 リプロダクティン	ブヘルス(性感染 ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ	に関わる母子保健・ 症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と	・研究の現状と課題の	坂口 林 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口			
授業計画テキスト・参考図書	1~4 5~8 9~16 17~2 25~3	状の理解 リプロダクティン ソプロダクティン 探求 4 リプロダクティン 0 関発表および討言	ブヘルス(性感染 ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ ズヘルス・ライツ	に関わる母子保健・ 症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と	・研究の現状と課題の課題の探求・研究・支援方法の課	坂口 林 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口			
テキスト・参考図書	1~4 5~8 9~16 17~2 25~3	状の理解 リプロダクティン ソプロダクティン 探求 4 リプロダクティン 0 関発表および討言	ブヘルス(性感染 ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ ズヘルス・ライツ 義	に関わる母子保健・ 症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と に関わる実践・教育	・研究の現状と課題の課題の探求・研究・支援方法の課	坂口 林 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口 坂口			
テキスト・参考図書 成績評価基準 授業時間外	1~4 5~8 9~16 17~2 25~3	状の理解 リプロダクティン リプロダクティン 探求 4 リプロダクティン 関発表および討論 献データベース等か ンテーション及び討	ブヘルス(性感染ブヘルス・ライツブヘルス・ライツズ・ライツズ・ライツ 議。	に関わる母子保健・ 症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と に関わる実践・教育	・研究の現状と課題の課題の探求・研究・支援方法の課	世 坂口 林 坂口 坂口 坂口			
テキスト・参考図書 成績評価基準	1~4 5~8 9~16 17~2 25~3 各種文 プレゼ	状の理解 リプロダクティン リプロダクティン 探求 4 リプロダクティン の 関発表および計 献データベース等か ンテーション及び計 は、学生とす 保する。	ブヘルス (性感染 ブヘルス・ライツ ブヘルス・ライツ 煮 ら、各自文献を遺 議の内容を総合記 数員とでのディス	に関わる母子保健・症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と に関わる実践・教育 選ぶ。必要な文献等に 理価する。 カッションにより進	・研究の現状と課題の課 課題の探求 ・研究・支援方法の講 まその都度紹介する。	坂口 林 坂口 坂口 坂口			
テキスト・参考図書 成績評価基準 授業時間外	1~4 5~8 9~16 17~2 25~3 各種文 プレゼ 事前学	状の理解 リプロダクティン リプロダクティン 探求 4 リプロダクティン 探求 4 リプロダクティン 関発表および計 試データベース等か ンテーション及び計 構集はる。 習 プレゼンテーショ	ブヘルス (性感染ブヘルス・ライツブヘルス・ライツズヘルス・ライツ番 あら、各自文献を登る) ひ員とでのディスカッ	に関わる母子保健・症)の動向の理解 に関わる実践・教育 に関わる支援方法と に関わる実践・教育 選ぶ。必要な文献等に 理価する。 カッションにより進	・研究の現状と課題の課題の探求 ・研究・支援方法の課 はその都度紹介する。 めるので、学生が予習	坂口 林 坂口 坂口 坂口			

29 29

授業科目	人間系	巻達ケア演習Ⅱ(母	:子看護学)		共通・専門科目の別	専門			
担当教員	樋貝匔	荃香			<u> </u>				
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	2. 母子伢 3. リプロ 4. リプロ きる。	. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。 きる。							
関連	DP③ 高 DP⑤ 医 〈人間発 B1 専門 能力 B2 専門	② 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ② 医療機関、行政機関、保健福祉施設、地域などにおいてマネジメンできる能力 〈人間発達ケア分野〉 1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	て幅広く 本演習 (樋貝繁	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。							
	口			内容		担当			
	1~4	乳幼児期・小児タ	乳幼児期・小児期に関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解						
	5~8	小児看護学の動同	小児看護学の動向の理解						
授業計画	9~16	乳幼児期・小児類	乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求						
	17~24	乳幼児期・小児類	乳幼児期・小児期に関わる支援方法と課題の探求						
	25~30	乳幼児期・小児 議	期に関わる実践・	教育・研究・支援方	法の課題発表および討	樋貝			
テキスト・ 参考図書	各種文献	ゲータベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼン	ケーション及び討		<u></u> 平価する。					
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と 保する。	 数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確			
の子百肎報	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。			
その他(履修 上の留意点)	質問、相	間談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。					
		質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。							

授業科目	健康	コミュニティ特論			共通・専門科目の別	専門		
担当教員		・ 千恵、熊本 圭吾	宮越 幸代 刻		77.22 (11 11 12 733)	711		
必修・選択等		配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	 授業の方法		
					,			
選択必修		1年次	前期 気摂的な (inclu	15回 civo)支採のありする	2 単位	講義		
授業の 到達目標	2. コ ができ 3. コ 4. コ	ミュニティにおける る ミュニティ・人々が ミュニティの健康課	包摂的な(inclu もつ特性を述べる 題と関連要因を返	sive)支援を展開する ることができる <u>k</u> べることができる	5上で必要な理論、方法請			
シー(DP)との 関連	DP④ DP⑤ 〈健康 C1 地 C2 地	P③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力P④ 研究・教育活動による後進を育成する能力P⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力〈健康コミュニティ分野〉 1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 3 地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力						
授業科目 の概要	コミュ 理論 プィに ティに	ニティに暮らす人々 方法論を学修し、関 ゼンテーション演習	(特定集団)の低心領域の研究にで を通して、特定のclusive)支援の気	≢康への支援と、それ つなげる。 ○コミュニティ・対身 匡践と協働のあり方、	Mによる包摂的な(inclu いらに関連する研究を行う 集団についての理解を終 コミュニティの人々の例	ううえで必要な		
	口			内容		担当川崎		
	1		オリエンテーション					
	2		コミュニティにおける包摂的な支援とは コミュニティと人々の特性 -多様性と多文化共生社会-					
	3				_	宮越川崎		
	4		コミュニティの人々の健康と社会的要因 コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援					
	5	-コミュニティ	-コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等- コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援					
	6		-事業化・施策化/施策提言-					
授業計画	7	協働による包摂的	協働による包摂的支援(1)-パートナーシップの形成-					
IXXII II	8		協働による包摂的支援(2)-チーム・ビルディング-					
	9		協働による包摂的支援(3)-コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーション-					
	10	講義・事例検討	講義・事例検討 -在宅療養者・生活上困難を抱えた住民への包摂的な支援-					
	11	講義・事例検討	講義・事例検討 -関係機関や住民との協働による包摂的な支援-					
	12	講義・事例検討	-災害時における	る協働と住民支援(応	ふ急対策期・復興復旧期)	宮越		
	13	プレゼンテーショ	ョンのオリエンテ	ーション		川崎、熊本、 宮越、春原		
	14	演習(プレゼンラ	テーション準備)			"		
	15	プレゼンテーショ	ョン、ディスカッ	ション、まとめ		"		
テキスト・参考図書	を「つれる 公事時におい	なぐ」技法 日本経済と ジメントの知識とスキル の公衆衛生-私たちにで ける連携・協働 事例集	出版社. 2007、福原st レ. 医学書院. 2011、 きること 南山堂. -対人援助の臨床が	宏幸. 社会的排除・包摂 真山達志他. 政策実施の 2012、京極真, 信念対立 ら学ぶIP 協同医書出	. 2014、堀公俊他. チームビ と社会政策. 法律文化社. 20 D理論と実像. ミネルヴァ書 立解明アプローチ. 中央法規 版社. 2018、河野眞編. 地域 ロン学―国境を越えるPT・0	07、篠田道子.チー 房.2016、國井修. 2012、吉浦輪.地 包括リハビリテー		
成績評価基準	グループ				レポートの内容(60%)を			
授業時間外	事前学	習 講義内容に関する知 習課題に気づくこ		ること。プレゼンテー	ションの準備を通して知識	を広げ、自己の学		
の学習情報	事後学	翌 事前学習と授業で記			ること。プレゼンテーショ	ン、ディスカッ		
その他(履修 上の留意点)				でも随時受け付ける。				
キーワード		ニティ、包摂的支援 、社会福祉学	(Inclusive sup	port)、コミュニティ	・アセスメント、協働、	臨床科学、統		

授業科目	健康	コミュニティ演習 I			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	川崎	千恵 熊本 圭	:吾		•				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	を理解様 3. 4. 5 5. ス 5. ス	1. コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップ 主理解し、説明できる。 2. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 3. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 4. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 5. 関連する文献のクリティークによって、コミュニティとそこに暮らす人々への支援に有用なエビデ ンスを検討できる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP④ DP⑤ C1 地: C2 地:	P④ 研究・教育活動による後進を育成する能力 P⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力							
授業科目 の概要	コミったがなし、プイにティに	ニティに暮らす人々 研究論文の系統的な デンスを検討する。 表する。 ゼンテーション演習	(特定集団)の低レビューにより情またリサーチクコを通して、特定のclusive)支援の写	車康への支援と、それ 青報収集能力と分析力 □スチョンに関連する □コミュニティ・対象 E践と協働のあり方、	動による包摂的な(inclusに関連するリサーチ れらに関連するリサーチ 力を高め、内外の最新知 5先行研究のレビューレ 集団についての理解を コミュニティの人々の	クエスチョンに 見を入手し有用 ポートを作成 深め、コミュニ			
	口		内容						
	1	オリエンテーショ	オリエンテーション						
	2~6	関心のあるリサー	関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー						
	7~10) "	" プレゼンテーション						
授業計画	11~1		文献クリティーク (リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)						
	17~2	0 "	n プレゼンテーション						
	21	関心のあるリサー	ーチクエスチョン	における有用なエビ	デンスの検討	川崎			
	22~2	5 "	プレゼンテーシ	ョン		川崎、熊本			
	26~2	9 先行研究のレビ	ューレポートの作	成と発表、討議		川崎、熊本			
	30	まとめ				川崎、熊本			
テキスト・ 参考図書	各種文	 献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	せその都度紹介する。				
成績評価基準	プレゼ	ンテーション及び討	議の内容を総合詞	平価する。					
授業時間外	事前学	習講義は、学生のご	プレゼンテーショ	ンを主体として進め	る。				
の学習情報	事後学	事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修すとで、目標到達を目指す。							
その他(履修 上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。					
キーワード		生看護学、保健師現 理学、統計科学、社		2.摂、健康の社会的決					

授業科目	健康	コミュニティ演習 Ⅱ	 [共通・専門科目の	別 専門		
担当教員	川崎	千恵 熊本 圭	吾					
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修	\$	1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	の動健組 3. 撰 4. つ 2. 1 3. 探健 4. つ	. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 . 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 . 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題を深求できる。 . 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題をで求求できる。						
シー(DP)との 関連	DP④ 在DP⑤ : 〈健康 C1 地 C2 地 C3 地	研究・教育活動によ 地域の医療・行政・ コミュニティ分野) 或住民の健康増進、 或のニーズを的確に 或課題解決に向けて	る後進を育成する 保健福祉組織ので 疾病予防、福祉の 疾病予防、福祉の 把握し、理論と系 、根拠に基づき必	3能力 マネジメントに参画・ り向上のために、地域 充合して根拠に基づく 公要な施策を衛生行政	成の現状を分析できる 実践を展開できる能 なに反映できる能力	能力 力		
授業科目 の概要	(inclus 援内容	sive)な支援策の開発・支援方法を含めて	発や、効果的な支 幅広く理解する。	援方法に関連する研 そのうえで、学生自	、々の、コミュニティ 究課題について、既存 日身の研究・実務経験 力果的な支援方法を、	アの施策や実際の支 を活かして、学生		
	□			内容		担当		
	1	オリエンテーショ	ン			川崎、熊本		
	2~3	健康上の問題を抱 解	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の理 解					
	4~5	<i>リ</i> プレ	" プレゼンテーション・ディスカッション					
	6~10	健康上の問題を抱 現状と課題の理解	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関する 現状と課題の理解					
	11~1	5 ル プレ	n プレゼンテーション・ディスカッション					
授業計画	16~1		健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容と効果的な支援方法 に関する研究の現状と課題の探求					
	19~2		リ プレゼンテーション・ディスカッション					
	21~2	2 健康上の問題を抱 援方法の探求	える人々あるいは障	賃害を持つ人々への必要	な支援内容と効果的なえ	川崎		
	23~2		ゼンテーション・	ディスカッション		熊本		
	25~2	7 健康上の問題を抱 る研究の探求	える人々あるいは障	賃害を持つ人々に求めら	れる支援策、必要とされ	1 川崎		
	28~2		ゼンテーション・	ディスカッション		熊本		
	30	まとめ				川崎、熊本		
テキスト・ 参考図書	各種文	・ 献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	•		
成績評価基準	プレゼ	ンテーション及び討						
授業時間外	事前学			ッション、学生のプ 必要な時間を確保す	レゼンテーション、こ る。	フィールドでの演習		
の学習情報	事後学	習 プレゼンテーシ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	る知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)				でも随時受け付ける。	. I a most free			
キーワード		生看護学、保健師現 理学、統計科学、社		型摂、健康の社会的決	·定要因、			

授業科目	保健学	学特別研究		共通・専門科目の別	専門				
担当教員	井部俊	安子							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	 授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。								
シー(DP)との 関連	DP② 彩 DP③ 高 DP④ 研 DP⑤ 地 〈ケア携 A1 高い A2 専門 A3 専門	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力							
授業科目	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (井部俊子) 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。								
の概要			成及び組織を動	かすことに関連した	研究課題について、論文	作成のための研			
			成及び組織を動	かすことに関連した	研究課題について、論文	作成のための研担当			
	究指導を	注行 う。				1			
	究指導を回1~30	注行 う。	文:研究課題の決	内容 t定、研究計画書の作		担当			
	究指導を回1~3031~78	研究計画書の作品	文:研究課題の決	内容 t定、研究計画書の作		担当井部			
の概要	究指導を回1~3031~7879~94	研究計画書の作品 研究の実施:調3	戈:研究課題の決 査・実験、データ	内容 t定、研究計画書の作		担当 井部 "			
の概要	究指導を回1~3031~7879~9495~110	研究計画書の作品 研究の実施:調査 データ入力	戈:研究課題の決 査・実験、データ	内容 t定、研究計画書の作		担当 井部 "			
の概要	究指導を回1~3031~7879~9495~110111~14	研究計画書の作品 研究の実施:調3 データ入力 データ解析と考3	戊:研究課題の決 査・実験、データ 茶	内容 *定、研究計画書の作 / 収集		担当 井部 " "			
の概要	売指導を回1~3031~7879~9495~110111~14143~15	研究計画書の作品 研究の実施:調3 データ入力 データ解析と考3 2 論文作成 0 修士論文の提出	文:研究課題の決 査・実験、データ ※ : プレゼンテーシ	内容 公定、研究計画書の作 公収集 (コン等発表準備		担当 井部 " "			
授業計画	 究指導を 回 1~30 31~78 79~94 95~110 111~14 143~15 各種文献 上にたい り上にたい 	 研究計画書の作品 研究の実施:調査 データ入力 ブータ解析と考例 2 論文作成 0 修士論文の提出 ボデータベース等かせる は、 できらに 	支 : 研究課題の決 査 ・実験、データ 査 ・実験、データ 支 : プレゼンテーシ ら 、各自文献を対 いれば「水準に 分析結果を論理	内容 全定、研究計画書の作り収集 ション等発表準備 選ぶ。必要な文献等に ある(可)、加えてご 的に考察し、説得力	F成、倫理審査申請	担当 井部 " "" ""			
での概要 授業計画 ト・書 成績評価基準 授業時間外	 究指導を 回 1~30 31~78 79~94 95~110 111~14 143~15 各種文研究をあたり(秀)」 	 で行う。 研究計画書の作品 研究の実施:調査 データ入力 データ解析と考え 2 論文作成 0 修士論文の提出 ボデータ できらさい は、 は、 により このを実による 		内容 な定、研究計画書の作り収集 を対象を表準備 とは、必要な文献等には、が、のでは、が、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	正確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ	担当 井部 " "" ""			
の概要 授業計画 下参 評価 野門情報 関ック で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	 究指導を 回 1~30 31~78 79~94 95~110 111~14 143~15 各種 文 研究をあり、 上にした。 (秀) 」 事前学習 	研究計画書の作品 研究の実施:調査 データ入力 データ解析と考え 2 論文作成 0 修士論文の提出 大データを実ってさ、 には、1 (優価する、とと評価をといる) とと評価できるとといるといるといるといる。といるといる。といるといる。といるには、1 (最近のできない。)		内容 な定、研究計画書の作り収集 を対象を表準備 とは、必要な文献等には、が、のでは、が、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	に成、倫理審査申請 はその都度紹介する。 正確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 論文を執筆できていれば	担当 井部 " "" ""			
の概要 授業計画 大・考 ス図書 成績評価基準 授業時間外	 完指導を 回 1~30 31~78 79~94 95~110 111~14 143~15 各種文研究を 上に大り (秀) 上に、 事前学習事後学習事後学習 	研究計画書の作品 研究の実施:調査 データ入力 データ解析と考え 2 論文作成 0 修士論文の提出 大データを実ってさ、 には、1 (優価する、とと評価をといる) とと評価できるとといるといるといるといる。といるといる。といるといる。といるには、1 (最近のできない。)	及:研究課題の法 査・実験、データ 会 : プレゼンテーシ ら、れば早、 いれが がが がが に構成、 に構成、 に 関を事前に に 関を に 関を に に 大の内容と	内容 会定、研究計画書の作 の収集 を対し、必要な文献等の ある(可)、加えて ある(可)、が説得力に がいた考察して かいに考察で 適正な研究に これでで にないで	に成、倫理審査申請 はその都度紹介する。 正確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 論文を執筆できていれば	担当 井部 " "" ""			

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	金物	壽久			l	1			
	の別	配当年次	—————————————————————————————————————	 年間授業回数	単位数	 授業の方法			
必修	37,1,1	1年次~2年次	後期(1年次)	——————————————————————————————————————	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー	1年次~2年次 通期 (2年次) 一 10単位 換音 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP②	科学的な根拠に基づ高度専門職業人に必 高度専門職業人に必 研究・教育活動によ 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題 門分野の知見収集の	き専門技能を発達要な広範をではかける。というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	を持ち、他の専門職 る る能力 マネジメントに参画 由出し、関連する既存 かな方法を実施計画に 職業実践に結びつける	と議論を通じて考えをま ・参加できる能力 字の知見を探求し、論理 こ活かせる能力 る能力	世的に整理できる			
授業科目 の概要	る。論 (金物 肢体	文作成過程を通じて 尋久)	、高度な知識・技	支術の集大成を図る。	実施し、一連の成果を				
	回		内容						
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~11	10 データ解析と考察	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成	論文作成						
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		"			
テキスト・ 参考図書	各種文	・ 献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	1			
成績評価基準	上にあり上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	内に考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれた	ていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	課題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修 上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	整形外	科学、スポーツ科学	、医療社会学、胴	支体不自由					

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	中島	中島 八十一							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 収集 3. 収集 5. デー 6. デー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP② DP③ DP④ DP⑤ 〈ケア A1 高 A2 専 A3 専	P① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力							
授業科目 の概要	る。論 (中島 後遺	文作成過程を通じて 八十一)	、高度な知識・技	支術の集大成を図る。	実施し、一連の成果を 研究課題について、論文				
	回		内容						
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~11	10 データ解析と考え	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成	論文作成						
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		"			
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	1			
成績評価基準	上にあ り上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれば	ていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	― <u>―</u> 照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	リハビ	リテーション科学・	福祉工学、脳計測	則科学、神経生理学、	神経内科学、精神神経	科学、			

授業科目	保健*	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	外里 富佐江								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。								
シー(DP)との 関連	DP②	科学的な根拠に基づ 高度専門職業人に必 研究・教育活動によ 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題 門分野の知見収集の	き専門技能を発抗要な広範な知識を り後進を育成する 保健福祉組織の に必要な課題を抗 解決のために適切 成果を教育及び駆	を持ち、他の専門職の る能力 マネジメントに参画 由出し、関連する既存 加な方法を実施計画に 職業実践に結びつける	と議論を通じて考えをま・参加できる能力 字の知見を探求し、論理 こ活かせる能力 る能力	単的に整理できる			
授業科目 の概要	る。論 (外里 作業 参加に	文作成過程を通じて 冨佐江) 療法の介入と効果の	、高度な知識・技研究領域、脳機能 ディカルスタップ	技術の集大成を図る。 能と作業療法に関する による多職種連携の	実施し、一連の成果を る研究領域、超高齢化を の効果に関する研究領域	会における社会			
	口			内容		担当			
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~78	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集 "						
授業計画	79~94	4 データ入力	データ入力						
	95~11	0 データ解析と考	データ解析と考察						
	111~14	42 論文作成	論文作成						
	143~15	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		11			
テキスト・ 参考図書	その他、	、随時紹介する。		第2版. 医学書院. 201					
成績評価基準	上にある	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれた	ていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修 上の留意点)	日程につ	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード		生の介入と効果、脳 種連携の効果	機能と作業療法、	超高齢化社会におり	する社会参加、メディス	1ルスタッフによ			

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	坂口けさみ 林かおり								
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	-	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー 6. テー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
シー(DP)との 関連	DP②	科学的な根拠に基づ高度専門職業人に必 高度専門職業人に必 研究・教育活動によ 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題 門分野の知見収集の	き専門技能を発達要な広範な知識を育成する後進を育成する保健福祉組織の に必要な課題を持解決のために適時成果を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解決を教育及び解した。	を持ち、他の専門職を る能力 マネジメントに参画・ 由出し、関連する既存 別な方法を実施計画に 職業実践に結びつける	議論を通じて考えを共・参加できる能力字の知見を探求し、論理ご活かせる能力る能力	的に整理できる			
授業科目 の概要	る。論: (坂口) の研究: (林か: リプ	文作成過程を通じて けさみ) ロダクティブヘルス 課題題について、論 おり) ロダクティブヘルス	、高度な知識・打 ・ライツ、および 文作成するための ・ライツ、および	支術の集大成を図る。 『発達過程での感染症 D研究指導を行う。 『発達過程での感染症	実施し、一連の成果を 臣の実態と予防(HIV 臣の実態と予防(HIV ひいての研究を補助する	含む) に関連す			
	回			内容		担当			
	1~30	研究計画書の作品	戊:研究課題の決	定、研究計画書の作	成、倫理審査申請	坂口			
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力				林			
	95~11	10 データ解析と考察	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成	2 論文作成						
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		坂口			
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。				
成績評価基準	上にあっ り上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ ともった口頭発表ができ 合文を執筆できていれは	ていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した調	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修 上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	リプロ	ダクティブヘルス・	ライツ、母性・タ	女性看護学、助産学、	感染症予防				

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員									
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)		10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研集 4. 整デテ 6. テ	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP② DP③ DP④ DP⑤ 〈人間 B1 専 能力 B2 専 B3 専	科学的な根拠に基づ 高度専門職業人に必 研究・教育活動によ 地域の医療・行政・ 発達ケア分野〉 門分野の発展のため 門分野における課題 門分野の知見収集の	き専門技能を発達要な広範をではな知識を り後進を育成する 保健福祉組織の に必要な課題を打 解決のために適時 成果を教育及び駅	を持ち、他の専門職 る能力 マネジメントに参画 由出し、関連する既存 切な方法を実施計画は 戦業実践に結びつける	と議論を通じて考えをま ・参加できる能力 字の知見を探求し、論理 こ活かせる能力 る能力	世的に整理できる			
授業科目 の概要	る。論(樋貝	文作成過程を通じて 繁香)	、高度な知識・技	支術の集大成を図る。	実施し、一連の成果を				
	口		内容						
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~1	10 データ解析と考え	奈			"			
	111~1	42 論文作成				"			
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		"			
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。				
成績評価基準	上にあ り上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれた	ていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	 課題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解					
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	小児看	護学、家族看護学							

授業科目	保健				 共通・専門科目の別				
+0 1/ 2/- 0	111.1:4-	工 击							
担当教員	川崎	千恵							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修	1 TT 752	1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	田晒ナ・四かり、マニ	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー 6. テー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP② : DP③ : DP③ : DP⑤ : C钟 : C1 地: C2 地: C3 地:	DP① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力DP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力DP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力DP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力DP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力(健康コミュニティ分野)C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力							
授業科目 の概要	る。論:	文作成過程を通じて 千恵)	、高度な知識・技	支術の集大成を図る。	実施し、一連の成果を				
	回		内容						
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~11	10 データ解析と考え	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成				II.			
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		II.			
テキスト・ 参考図書		カ心理学会.APA論文 、随時紹介する。	作成マニュアル	第2版. 医学書院. 201	1	•			
成績評価基準	上にあり上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	内に考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ ともった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれた	きていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	課題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習 最新の論文を参	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	コミュ	ニティ、包摂的支援	(Inclusive sup	port)、コミュニティ	ィ・アセスメント、協信	<u></u>			

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	福谷	保							
必修・選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー 6. テー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
ディプロマポリ シー(DP)との 関連 (評価の観点)	DP②	P① 高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 PP② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 PP③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 PP④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 PP⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 31 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。								
	回		内容						
	1~30	研究計画書の作品	究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~7	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~11	10 データ解析と考察	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成	論文作成						
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		11			
テキスト・ 参考図書	各種文	献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。				
成績評価基準	上にあり上に	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれば	でいれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	―――― 照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	理学療	法学の運動療法学、	組織学、骨格筋生	上理学					

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	刂 専門			
担当教員	大町	かおり							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー 6. テー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
	DP②	P2 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 P3 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 P4 研究・教育活動により後進を育成する能力 P5 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 は1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成過程におけるデータ分析、文献検討などの研究指導を行う。								
	旦			担当					
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~78	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~9	4 データ入力	データ入力						
	95~11	.0 データ解析と考察	データ解析と考察						
	111~1	42 論文作成	論文作成						
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		"			
テキスト・ 参考図書	各種文庫	献データベース等か	ら、各自文献を遺	選ぶ。必要な文献等1	はその都度紹介する。	•			
成績評価基準	上にあり上にあ	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	りに考察し、説得力を	E確なデータ分析ができ をもった口頭発表ができ 倫文を執筆できていれん	きていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修 上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	理学療法	法学の動作解析、運	動機能評価、運動	助機能維持、ロコモデ	ティブシンドローム				

授業科目	保健生	学特別研究			共通・専門科目の	別専門			
担当教員	飛松	好子				·			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	理審査 2. 研究 3. 収集 4. 整理 5. テー 6. テー	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。							
	DP②	P② 科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 P③ 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 P④ 研究・教育活動により後進を育成する能力 P⑤ 地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる							
授業科目 の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (飛松好子) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。								
	口				担当				
	1~30	研究計画書の作品	战:研究課題の決	成、倫理審査申請	飛松				
	31~78	8 研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~94	4 データ入力			"				
	95~11	0 データ解析と考察	奈		11				
	111~1	42 論文作成			"				
	143~1	50 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	ョン等発表準備		11			
テキスト・ 参考図書	各種文章	・ 献データベース等か	ら、各自文献を選	選ぶ。必要な文献等に	はその都度紹介する。	•			
成績評価基準	上にある	る(良)」、さらに	分析結果を論理的	内に考察し、説得力を	E確なデータ分析がで をもった口頭発表がで 倫文を執筆できていれ	きていれば「かな			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	整形外积	科学、スポーツ科学	、医療社会学、周	支体 不自由					

授業科目	保健学	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	水嵜知子								
 必修∙選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次~2年次	後期(1年次) 通期(2年次)	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。								
シー(DP)との 関連	DP② 和DP③ 高DP④ が DP④ が DP⑤ が A1 高い A2 専門 A3 専門	料学的な根拠に基づ 所度専門職業人に必 所究・教育活動によい 地域の医療・ム分野と 地域の医療・ム分野教 に 神理観を専門提供シ 計教育や医療現場に 引教育や医療現場に	き専門技能を発 要な広範な知識 り後進を育成す 保健福祉組織の や医療現場におい やテム分野におい おいて社会の変す	を持ち、他の専門職の る能力 マネジメントに参画 ける複雑な倫理的課題 いて自らが組織に参議 下に対応したケア提信	と議論を通じて考えをま・参加できる能力 ・参加できる能力 題に取り組む能力 画し、リーダーシップを 共システムを考察できる	・発揮できる能力 能力			
授業科目 の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (水寄知子) 医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。								
	回			内容		担当			
	1~30	研究計画書の作品	研究計画書の作成:研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請						
	31~78	研究の実施:調査	研究の実施:調査・実験、データ収集						
授業計画	79~94	データ入力	データ入力						
	95~110) データ解析と考察	データ解析と考察						
	111~14	2 論文作成	論文作成						
	143~15	0 修士論文の提出	: プレゼンテーシ	/ョン等発表準備		"			
テキスト・ 参考図書					はその都度紹介する。				
成績評価基準	上にある り上にあ	ら(良)」、さらに っる(優)」、さら	り上にめる(慢)」、さらに構成、記述が論理的で適正な研先論又を執事できていれば「早越している						
(秀)」と評価する。 事前学習 自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。									
授業時間外	事前学習	自身が設定した	果題を事前に把握			ていれば「かな			
授業時間外 の学習情報	-		·		な深める。	ていれば「かな			
	事後学習		照し、学修内容と	して授業に臨む。	そを深める。	ていれば「かな			

授業科目			医療倫理学		共通・専門科目の別	共通				
担当教員	į	茂木秀淳								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
必修		1年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	2. 学	1. 講義を聞いて理解したことを自分の言葉で表現できる。2. 学んだことを課題解決に反映できる。3. 学んだことを知りたい人に適切に伝えることができる。								
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		保健学研究科ディプロマポリシーの高い倫理観をもって取り組む能力の修得に関連する。								
授業科目 の概要	捉える フォエ基 西洋近	日本人がこれまでにどんなことを考えてきたかを概観し、我々の考え方を作っている思想を歴史的にえることを第一の目的とする。その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インォームド・コンセント、尊厳死などの問題を考察する。内容的には、(1)日本固有の思想として神に基づく神道、(2)外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3)日本の近代化を促した洋近代思想、をとりあげる。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められ。少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行うこともある。								
	口			内容		担当				
	1	日本固有の思想	思(1) 日本神話概	組		茂木				
	2	日本固有の思想	茂木							
	3	日本固有の思想	茂木							
	4	仏教思想(1)	釈迦の説いたこと			茂木				
	5	仏教思想(2)	日本における初期	の仏教受容の様相		茂木				
	6	仏教思想(3)	仏教思想(3) 仏教的思惟の特質 輪廻転生の世界観							
₩-l- -	7	仏教思想(4)	仏教思想(4) 仏教的思惟の特質 四苦八苦の人生観							
授業計画	8	仏教思想(5)	仏教思想(5) 四苦(生老病死)の現代的様相							
	9	仏教思想(6)	仏教思想(6) 四苦(生老病死)の現代的様相(2)							
	10	儒教思想(1)	儒教思想(1) 朱子学概観							
	11	儒教思想(2)	儒教思想(2) 武士と町人の世界観							
	12	儒教思想(3)	儒教への反発と国	学の死生観		茂木				
	13	西洋の近代思想	思(1) 明治維新の	世界観		茂木				
	14	西洋の近代思想	思(2) 福沢諭吉の	人間観		茂木				
	15	まとめと討論				茂木				
テキスト・ 参考図書	随時紹	介する。								
成績評価基準	成績評	価は、試験、レポー	ト、小テストに基	基づいて総合的に行う						
授業時間外		習配布資料に目を通								
の学習情報	事後学	習新たに得た知識を	を整理しておく							
その他(履修上の留意点)	特記事	項なし。								
キーワード	神話的	思惟、仏教的世界観	、儒教的世界観、	西洋近代思想						

授業科目	多職	種連携論			共通・専門科目の5				
担当教員	星文	彦 宮脇利幸 樋貝	繁香 大町かお	り 宮越幸代					
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1 年次	前期	15回	2 単位	講義			
授業の 到達目標	2. IPW 3. グル 4. 自り 5. 地切	. Interprofessional Work; IPW(専門職連携実践)について、概念と理論を説明できる。 . IPWの発展過程の概要を説明できる。 . グループワークにおいて、チーム形成や議論に主体的に参加し、役割をは果たすことが . 自らの業務や社会的課題をIPWの視点から分析考察し、問題点を説明できる。 . 地域包括ケアにおける多職種連携の意義を説明できる。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。							
授業科目 の概要	域包括 なチー IPWの礼	nterprofessional Work; IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地 包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要 チーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題について の視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討 通して多職種連携における実践力を養う。							
	回			内容		担当			
	1	オリエンテーショ	ョン、科目ついて	担当教員と受講生と	の相互理解を図る	星			
	2	IPWの概要と			mma a) . m 	星			
	3				野や支援者・被支援者 者中心主義について考				
	4	れる背景や多職和	保健医療におけるIPWの必要性について;保健医療においてIPWが求められる背景や多職種連携の持つコンピテンシーについて考える。						
	5	考える。							
	6	れるファシリテ-	IPWにおけるファシリテーションスキル;チーム形成や問題解決に求められるファシリテーターの役割とスキルについて考える。						
授業計画	7	けた過程での葛麻	I PWにおける葛藤とリフレクションの意義;チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。						
	8	多職種連携につい	多職種連携について;地域包括ケアに求められるIPWについて考える。						
	9	を学ぶ。KJ法をF	グループワーク1:相互理解〜他者紹介などを通して他者理解と説明スキルを学ぶ。KJ法を用いた問題解決法について学ぶ。						
	10	る	グループワーク2:事例検討〜院生の業務事例を通して多職種連携を検討する						
	11	グループワーク3 る	:事例検討~院生	生の業務事例を通して	て多職種連携を検討す	星、大町、宮越			
	12	グループワーク4				星、宮脇、樋貝			
	13	グループワーク5			とって自己の受講活動	星、宮脇、樋貝			
	14	と自己の業務活動			この(目己の攵誦店期	星			
	15	まとめ				星			
テキスト・ 参考図書				建医療福祉連携(中央 Insforming the Clin	·法規出版社) ical Method(CRC Pres	(s)			
成績評価基準	グルー	プワーク参加状況、	プレゼンテーショ	ョンやレポート内容等	等の総合評価				
授業時間外	事前学	習 I PWに関する	事項を、職場や生	活環境の中で検索情	報収集すること。				
の学習情報	事後学	習新たに得た知識を	を整理しておくこ	٤.					
その他(履修上の留意点)	俯瞰的 むこと		生活行動や社会や	青報を考察し、積極的	りな議論ができるようし	こ準備し授業に臨			
キーワード	ΙPW	、保健医療福祉、地	域連携、多職種制	協働、地域包括ケア、	リハビリテーション、	利用者中心主義			

授業科目	医療二	コミュニケーション	論		共通・専門科目の)別 共通		
担当教員	中島	八十一、井部 俊	子、外里冨佐江、	川崎千恵、大町かね	おり、奥村信彦			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修	1 年次 前期 1 5 回 2 単位				講義			
授業の 到達目標	2. 多く	1. 出来事を即座に日本語で書き、他人に理解させることができるようになる。2. 多くの人を対象に等しく同じような理解に至るように日本語で話すことができるようになる。3. 他人の考えていることを適切に引き出し、記録することができるようになる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学研	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。						
授業科目 の概要	習コくな方とコミンス	本講義の目的は、医療コミュニケーション(ヘルスコミュニケーション)の理論と実践を体系的に学することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切ない。ションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでない。正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的ショミュニケーションのために(1)コミュニケーションの基本理論(2)コミュニケーションの具体的ではとスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコニュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。						
	口			内容		担当		
	1	医療コミュニケー	ーション概論			中島		
	2	科学技術コミュニ	中島					
	3	臨床コミュニケー	中島					
	4	臨床コミュニケー	-ション②-個人の	の病態を本人・家族に	に伝える。	井部		
	5	ヘルスライティン	ノグ①-患者・家族	埃に向けた支援文書作	 F成	井部		
	6	ヘルスライティン	ヘルスライティング②-保健医療文書の作成					
授業計画	7	ヘルスライティン	ノグ③-発表会・約	総合討論		中島		
技术計画	8	ヘルスコミュニケ	アーション①-個ノ	人の行動変容を促する	コミュニケーション	外里		
	9	ヘルスコミュニケ	アーション②-集団	団の行動変容を促する	コミュニケーション	川崎		
	10	ヘルスコミュニケ	大町					
	11	ヘルスコミュニケ	奥村					
	12	ヘルスコミュニケ	rーション⑤-ま l	とめと発表会		中島		
	13	グループ組織のコ	コミュニケーショ	ン		井部		
	14	患者・市民の啓発	Ě			外里		
	15	まとめとグループ	プ討論			中島		
テキスト・ 参考図書	Athena o	du Pre. Communica	ting about heal	th - Current Issue	s and Perspectives,	, 5th ed. 2016		
成績評価基準		₹、プレゼンテーシ ↑:レポート80%、コ						
授業時間外	事前学習	習 医療コミュニケー	ーションについて	情報を検索し、基本	的な用語の意味を知	っておくこと。		
の学習情報	事後学習	事後学習 専門職としての自らの職分にあって得た知識をどのように活用するか考えるこ						
その他(履修上の留意点)	適切なニ	1ミュニケーション	 のために自らが F	日本語で話すこと、書	書くことに細心の注意	を払うこと。		
キーワード	コミュニ	-ケーション、会話	、文書作成、会談	養、日本語				

授業科目	保健医	療マネジメント論	H		共通・専門科目の別	共通			
担当教員	井部	俊子 中島 ハ	十一 水嵜	知子	-	•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択		1年次	前期	15回	2 単位	講義			
授業の 到達目標	2. 人口減	 わが国における社会保障制度の特性を理解する。 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を理解する。 高度実践家にもとめられるマネジメント論を学習する。 							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		研究科ディプロマ できる能力に関連		度専門職業人に必要な	よ広範な知識を持ち、質	の高い専門職業			
授業科目 の概要	を体系的 を学ぶ。	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識 体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理 学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福 サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。							
	口			内容		担当			
	1	人口減少時代に	おける社会保障			中島			
	2	保健医療福祉制力	隻・政策 I			中島			
	3	保健医療福祉制力	中島						
	4	保健医療福祉に	関連した法規 I			中島			
	5	保健医療福祉に	関連した法規 Ⅱ			中島			
	6	保健医療福祉に	おける倫理 I			水嵜			
120 W = 1 TT	7	保健医療福祉に	水嵜						
授業計画	8	診療報酬制度と	中島						
	9	診療報酬制度と見	中島						
	10	介護報酬制度と見	中島						
	11	介護報酬制度と	中島						
	12	医療の質保証と	井部						
	13	人材開発と経験を	学習			井部			
	14	リーダーシップ	とマネジメント			井部			
	15	組織開発の手法				井部			
テキスト・ 参考図書	随時、提	示する。							
成績評価基準	評価配分	: レポート100%							
授業時間外	事前学習	授業内容に関する	る文献を検索し、	読んでおくこと。					
の学習情報	事後学習	新たに得た知識	を整理しておくこ	と。					
その他(履修 上の留意点)	時事問題	に関心を持ち、授	業で発言すること	<u>۲</u> 。					
キーワード	保健医療	制度、保健医療政	策、マネジメン	F					

授業科目	応用約	売計学			共通・専門科目の別	共通		
担当教員	熊本	圭吾 林 邦彦	井手野 由	季 長井 万恵	•	I		
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択		1 年次	前期	15回	2 単位	講義		
授業の 到達目標	 医学 心理 表計 	統計学の基礎的な事項が理解できる。医学統計(疫学統計、生物統計)の概念と解析結果が理解できる。心理統計(多変量解析、尺度構成)の概念と解析結果が理解できる。表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	ディプロ 識と質の	プロマポリシー1,2に関連(科学的な根拠に基づき実践する能力、高度専門職業人に必要な広範な知質の高い専門職業務を実践できる能力)						
授業科目 の概要	必要とな えるよう について	講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行 ようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法 いて学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方 いても学ぶ。						
	回			内容		担当		
	1	オリエンテーショ	」ン データ処理	星と機器類の準備		熊本		
	2	記述統計、尺度才	く準			熊本		
	3	推測統計、検定の	熊本					
	4	医学統計・医学研	T究における統計	学概説		林		
	5	医学統計・観察研	肝究の研究計画に	おける統計学		林		
	6	医学統計・観察研	井手野					
122 444 21 77	7	医学統計・介入研	長井					
授業計画	8	医学統計・介入研	医学統計・介入研究のデータ解析における統計学					
	9	医学統計・メタフ	井手野					
	10	心理統計・テスト	熊本					
	11	心理統計・テスト	心理統計・テスト理論 妥当性 項目の分析					
	12	心理統計・尺度構	靠成			熊本		
	13	心理統計・質問約	氏調査 テキスト	・マイニング		熊本		
	14	心理統計・構造力	7程式モデリンク	>		熊本		
	15	まとめ 統計手法	長の適用			熊本		
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	うする。 ・						
成績評価基準	授業にお	おける課題の理解度	と達成度で評価	する				
授業時間外	事前学	習授業で指定するう	キスト類を読了	でする。自身で使用可能	能なデータを授業用に	準備する。 		
の学習情報	事後学習授業で課された課題を行う。							
その他(履修上の留意点)	PCの基z	本的な操作はできる	こと。					
キーワード	介入研究	で、観察研究、メタ	アナリシス、尺点	变、信頼性、妥当性				

1-2				· 丁寸久 / /		P			
授業科目	英語	文献講読			共通・専門科目の	別 共通			
担当教員	伊原	、巧、奥村信彦							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択		1 年次 前期 1 5 回 2 単位							
授業の 到達目標	に関し 英語で まえ、	大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようにな英語で書かれた医療分野の文献をESP (English for Specific Purposes:専門分野別英語)まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	務を実	保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業 客を実践できる能力に関連する。							
授業科目 の概要	門的知 み、後	識およびその英語特	有の規則等も学え ョン学と看護学!	ぶ。特に前半は基礎的	さもに、医療・医学に 方な内容の英語を規則 プレゼンテーションを	等にも注目して読			
	回			内容		担当			
	1	む。			gan, and Systemを読	伊原			
	2	ラテン語または。 Circulatory Sys		する複数形の作り方	を理解し、	伊原			
	3	Respiratory Sys を理解する。	Respiratory Systemを読み、呼吸器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。						
	4	Digestive Syste 理解する。							
	5	Urinary Systemを解する。							
	6		Nervous SystemとMusculoskeletal Systemを読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。						
授業計画	7	導かれるプロセン	英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が 導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語 彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。						
	8	解する。							
	9	めるとともに、P	前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。						
	10	作業療法学分野の 容を理解する。	作業療法学分野の英語文献1編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内 容を理解する。						
	11	前回扱った論文ル 評価する。	こついてグループ	゚によるプレゼンテー	ションを行い、相互に	変材 奥村			
	12	容を理解する。			E目しながら読み、内	契			
	13	評価する。			ションを行い、相互に	契			
	14	理解する。			んながら読み、内容を	奥 利			
	15	評価する。			ションを行い、相互に	奥村			
テキスト・ 参考図書	参考図	書:「APAに学ぶ 看	ては適切かつ可能	tな限り新しいものを レール」前田樹海・江	・選択し、初回に配布 に藤裕之著:医学書院				
成績評価基準					見点別に評価し、総合	·点を60%とする。			
授業時間外	事前学	習 初回に配布される			* * *				
の学習情報		習毎週の復習として		を提出すること。(フ用語を見えること。	伊原)				
その他(履修上の留意点)	和文・ こと。	英文を問わず、関心			「ストラクトを含め論	文の構成に慣れる			
キーワード	Medica	l English							

授業科目	保健區	医療教育論			共通・専門科目の別	井通		
担当教員	土井	進、外里 冨佐江		貝 繁香、林 かおり				
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択	1 年次 前期 1 5 回 2 単位				講義			
授業の 到達目標	理論と写 探究し、	学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の 理論と実践についての基礎的知識を修得する。この理論と実践の学びを通して、保健医療教育の原理を 保究し、人間理解を深める。						
	識と科学 い人格調	保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎的知 哉と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関における、高度専門職としての教育者にふさわし 、人格識見を涵養する。						
授業科目 の概要				命と実践の検証、古典 と探究し、教育技法、i				
	口			内容		担当		
	1	保健医療教育には	おける「目的・目	標論」と「内容・方法	論」	土井		
	2	保健医療教育にお 的知識	おける「教授の三	角形」、教育者・学習	者・保健医療の基礎	土井		
	3	保健医療教育には	おける看護の実践	と理論		土井、樋貝、林		
	4	保健医療教育にお	おける理学療法の	実践と理論		土井、福谷		
	5	保健医療教育にお	おける作業療法の	実践と理論		土井、外里		
	6	生涯学習社会にお	おける保健医療教	育の役割		土井		
122 44 = 1 -7-	7	貝原益軒の道徳教	教育論と養生思想	の現代的意義		土井		
授業計画	8	西洋における養生	上思想『サレルノ	養生訓』の現代的意義	ekka T	土井		
	9	仏教的人間像に見	見る「知の教師」	・「情の教師」・「意	の教師」	土井		
	10	いじめ問題への打	旨導力を高める『	塵劫記』の「三容器の	協力関係」の問題	土井		
	11	内村鑑三が代表的	内村鑑三が代表的日本人として評価した二宮尊徳の保健医療の実学思想					
	12	「田定規」の問題 を掴む	「田定規」の問題を通して課題の把握、解法の発見、応用の問題解決の流れ を掴む					
	13	物心一如"もの" 教育	と"こころ"の	相即の妙を"もの"を	:通して洞察する実物	土井		
	14	学生が主体的・対	対話的で深い学び	を実現するアクティフ	・ラーニングの開発	土井		
	15	大学と地域社会な	が連携した保健医	療教育の実践による大	学院生の力量形成	土井		
テキスト・参考図書	から学る	ぶ総合的な学習の時 書:貝原益軒『養生	間の指導と授業へ訓・和俗童子訓』	官の研究』(2020)ジ づくり』(2019)ジダ 2001、岩波書店、 こヒポクラテスー医療	イ社			
成績評価基準	毎授業師	寺の事前事後学習20	 0字原稿30枚の考	察(50点)、800字小	論文(50点)、合計1	00点(担当土井)		
授業時間外 の学習情報	事前学	留毎回、テキストの	か1章づつを読み、	心に残った箇所を引	用し、200字原稿に考	察を書く。		
ツナ日 月刊	事後学習	習 本日の授業による	る「まなび」を20	0字原稿に記述する。				
その他(履修上の留意点)	毎回、事 る。	事前学習と事後学習	の200字原稿をグ	ループで読み合わせ、	小コメントを相互に	欄外に書き署名す		
キーワード	保健医療	寮教育論、教職倫理	観、実践と理論					

保健学研究科保健学専攻 シラバス案 3次案

授業科目	保健	医療教育実践論			共通・専門科目の別	共通	
担当教員	土井	進、外里 冨佐河	工、福谷 保、村	通貝 繁香、林 か	おり	1	
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法	
選択	1年次 前期 15回 2単位					講義	
授業の 到達目標	育の様々おける個	マな実践事例におり 保健医療の専門知言	ける教育方法の特 戦を理解し、教持	持色を理解し、活用 受できる指導力を修		た、実践事例に	
1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	的知識。	保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎 り知識と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関において、高度専門職を養成する教育者 こふさわしい人格識見を涵養する。					
授業科目 の概要	実践に~ 本講郭	ついて、実践例をi 義では、保健医療の	通して学ぶ。 の専門職養成機関		変遷、ならびに保健医 職の養成に当たる教育 。		
	口			内容		担当	
	1	シラバス(授業計) 連等	画) 作成の意義、	受業の到達目標、ディ	プロマポリシーとの関	土井	
	2	総合的な学習のこの作成	手法、大学院教育	の目標を踏まえた保付	建医療教育の指導計画	土井	
	3	保健医療専門科	目における単元の	指導計画、本時の指	導過程	土井、外里、 福谷、樋貝、林	
	4	11				土井、外里、 福谷、樋貝、林	
	5	保健医療専門科 方法	目における本時の	指導案の作成、教材	構成、板書計画、評価	土井、外里、 福谷、樋貝、林	
	6	II .				土井、外里、 福谷、樋貝、林	
授業計画	7			脚、ソクラテスの青年		土井	
12210111	8	保健医療教育実	践におけるアクテ	イブ・フーニングの構た	見をグループで練り上げ	土井	
	9	3種類の学習形態	《、個別学習形態·	相互学習形態•一斉	学習形態	土井	
	10			形成的評価·総括的語 ————————————————————————————————————		土井	
	11			平価、省察による実践		土井	
	12	高度専門職を養原	成する教育者の力 	量、教材の本質・学生	上の内面がみえる慧眼	土井	
	13	保健医療を担う「	高度専門職」を育	成する上で欠かせない	ハ学生との「事上錬磨」	土井	
	14	直観の原理、自発	性の原理、内発	的動機づけの理論、総	東習(ドリル)の原理	土井	
	15			莫擬授業を1人15分実		土井、外里、 福谷、樋貝、林	
テキスト・参考図書	践から	学ぶ総合的な学習の 書:貝原益軒『養生	の時間の指導と抗 生訓・和俗童子詞	受業づくり』2019、 川』2001、岩波書店			
成績評価基準	毎授業® 井)	寺の事前事後学習2	200字原稿30枚の	考察(50点)、800年	字小論文(50点)、合	計100点(担当土	
授業時間外		日 毎回、テキスト	の1章づつを読み	、心に残った箇所を	を引用し、200字原稿に	こ考察を書く。	
の学習情報				200字原稿に記述する			
	毎回、 名する。		習の200字原稿を	グループで読み合わ	oせ、小コメントを相!	互に欄外に書き署	
キーワード	保健医療	療教育実践論、シラ	ラバス(授業計画	画)、教育者の力量			

授業科目	保健图	医療研究法							共通	•専門科目	の別	共通
担当教員	熊本	圭吾 川崎	千恵	高嶋	孝倫	水嵜	知子	林	邦彦	麻原	きよる	ب
必修•選択等	の別	配当年次		配当学	期	年間打	受業回数		単	位数		授業の方法
必修		1年次		前期		1	5回		2	単位		講義
授業の 到達目標	2. 研究 3. 研究 4. 研究 5. 研究	医療分野におにおいておけるはまない。 大法の相違に かんしゅう にんしゅう はんしゅう はんしゃ はんしゅう はんしゃ はんしゃ はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゅん はんしゃ はんしゃ はんしゅん はんしん はんし	過程を の意義 を理解 理解し	:理解し述 を理解し なし、研究 、研究計	べるこ 、検索 目的に 画書作	とができ 、入手し 合わせた 成におけ	る。 批判的に 適用につ る留意点	吟味で いて〕 を述べ	するこ 述べるこ	とができ _っ ことがで	る。 きる。	る。
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		コマポリシー0										
授業科目 の概要	手順を修 多様な研	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、 手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される 多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程につい て、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れ を学ぶ。										
	回					内容						担当
	1	授業の概要	: 研究	この目的、	実践と	の関連						熊本
	2	2 エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM)								林		
	3	責任ある研	責任ある研究活動:研究倫理と行動規範								熊本	
	4	文献検討の	方法:	文献の位	置づけ	、文献検	索、論文	の種類	領と構	成		水嵜
	5	研究のプロ	研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン								川崎	
	6	研究方法論	研究方法論1:実験研究								高嶋	
極業計画	7	研究方法論	研究方法論2:調査研究							熊本		
授業計画	8	研究方法論3:疫学研究							林			
	9	研究方法論	研究方法論4:質的研究1						麻原			
	10	研究方法論	研究方法論5:質的研究2							麻原		
	11	研究方法論	6:質	的研究3								麻原
	12	研究方法論	7:質	的研究4								麻原
	13	文献クリテ	ィーク	の方法								水嵜
	14	研究計画書	:作成	え上の注意								熊本
	15	まとめ 研	究の計	画に向け	て							熊本
テキスト・ 参考図書	テキスト 参考図書	: 適宜紹介で: よくわかる	ける。 る質的	研究の進る	り方・ま	ミとめ方	第2版、	医歯乳	薬出版 ^注	株式会社		
成績評価基準	グルーフ	プワークの参加	1状況	、プレゼン	ノテーシ	/ョンや1	ンポート内	內容等	を総合	か評価する	0 0	
授業時間外	事前学習	図 参考図書の	関連筐	衝所を読ん	でくる	0						
の学習情報 	事後学習	習 新たな知識	を整理	単する。								
その他(履修上の留意点)	特になし	_										
キーワード	研究方法	去、文献検討、	研究:	方法、研9	モデザイ	(ン、研タ	2011年					

	ı					Г			
授業科目	保健	学総論			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	中島種貝	八十一、金物壽久、 繁香、川崎千恵、宮	井部俊子、外里? 越幸代、星文彦、	冨佐江、坂口けさみ、 中村秀一、野見山吉	高嶋孝倫、福谷保、熊 5生	本圭吾、			
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		1年次	前期	15回	2 単位	講義			
授業の 到達目標	2. 看 3. 各 4. 障 5. 地 6. 多	医学、医療の動向を説明できる。 看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。 各発達段階における健康課題を理解する。 障害者の健康について説明できる。 地域社会の健康課題について説明できる。 多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。							
	題解決 保健	地域社会が抱える課題を適切に把握し、医療福祉に係る制度を理解した上で高度専門職業人として課解決の道筋を立てる能力を身に付ける。 保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業 を実践できる能力に関連する。							
授業科目 の概要	「誰· を学ぶ	一人として取り残さ	ない地域社会」の	の構築を志向する保候	書医療福祉関連職に必要	となる基礎知識			
	回	回 内容 :							
	1	今日の医学:生物	カ医学の進歩とそ	の臨床応用 現状と	課題	中島			
	2	今日の医療: EBM ンエラー)	今日の医療:EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止(ヒューマンエラー)						
	3		保健医療福祉制度と政策:制度の現在と課題ならびに政策の動向						
	4	看護学の現在				井部			
	5	リハビリテーショ 作業療法学	ョン科学の現在1	; リハビリテーショ	ン医学、理学療法学、	中島、福谷、 外里			
	6		コン科学の現在 2	: 支援工学、ケース	ワーク、臨床心理	高嶋、熊本			
授業計画	7	女性の健康:wom	女性の健康:women's health、reproductive health						
授 表計画	8	小児・学童の健康	小児・学童の健康:母子、児童、学校保健の現状と課題						
	9	働き世代の健康支援	働き世代の健康:産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立 支援						
	10		高齢者の健康:加齢と高齢者の心身機能特性						
	11	障害者の健康: トラション	障害者の健康:障害種別と障害特性、医学的、社会的、職業リハビリテー ション						
	12		: 家族、住まい、	住民の健康状態、自	治体などによる健康増	川崎			
	13	災害と健康				宮越			
	14	介護:介護保険制		介護保険外施設、利	用者の現状と課題	中島			
	15	多職種協働:チー	ームの構成、活動	目標設定、プログラ	ム管理、マネジメント	星			
テキスト・ 参考図書	適宜紹定	介する。							
成績評価基準	レポー	ト80%、グループワ	ークの内容20%に	こより総合評価する。					
授業時間外	事前学	習参考図書の関連領	がある 動所を読んでくる	0					
の学習情報	事後学	習新たな知識を整理	<u></u> 里する。						
その他(履修上の留意点)	特にな	L							
キーワード	研究方	法、文献検討、研究	方法、研究デザク	イン、研究計画書					

授業科目	ケア携	是供システム特	論		共通・専門科目の別	専門			
担当教員	井部	俊子 中島	八十一 水嵜	知子		<u> </u>			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修	\$	1年次	前期	15回	2 単位	講義			
授業の 到達目標	2. ケア拐	是供システムを		るためのサービスマ	ネジメントを理解する				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	門職業務による後	らを実践できる 後進育成、職場	能力、及び3.地域 でのマネジメント[社会が抱える問題を 句上を通じて地域に	こ必要な広範な知識を ご適切に把握し、臨床 貢献できる能力に関連	・研究・教育活動でする。			
授業科目 の概要	スマネシ	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。							
	回			内容		担当			
	1	人口減少時代	の社会保障			中島			
	2	保健医療福祉	上制度と政策			中島			
	3	保健医療福祉	上に関連した法規			中島			
	4	サービスマネ	ジメント論			井部・水嵜			
	5	組織論と組織	大管理 I			井部・水嵜			
	6	組織論と組織	よ 発理 Ⅱ		井部・水嵜				
授業計画	7	人材育成とマ	人材育成とマネジメント I						
1文未訂四	8	人材育成とマ	井部・水嵜						
	9	資源管理と効	b率化 I			井部・水嵜			
	10	資源管理と郊	物率化 Ⅱ			井部・水嵜			
	11	質の保証 I				井部・水嵜			
	12	質の保証 Ⅱ				井部・水嵜			
	13	地域包括ケア	'システムの理念			井部・水嵜			
	14	多職種協働論	Ĥ			井部・水嵜			
	15	まとめ				井部・水嵜			
テキスト・ 参考図書	適宜紹介) する。							
成績評価基準			ーションの内容等(%、プレゼンテーシ	の総合評価 /ョンの内容等 20%					
授業時間外 の学習情報	事前学習	組織管理につ	かいて情報を検索し	、資料等を読んでお	3くこと				
の子日間報	事後学習	新たな知識を	:整理しておくこと						
		型に関連した記 よう心掛ける		最新の社会的知見に	触れ、積極的にディク	カッションに参			
キーワード	保健医療	· ・ ・ ・ に に に に に に に に に に に に に	療政策、人材育成、	組織管理					

授業科目	ケア	提供システム演習	I		共通・専門科目の	別専門			
担当教員	井部	俊子 水嵜	印子			•			
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	2.ポ3解4義5	己の研究課題に関連を作成できる。 と作成できる。 己の研究課題の研究 フィールドと調整で 己の研究課題の枠 説を明確にできる。 究デザインを選択し	車する文献を収録 窓フィールドの娘 けることができる 且みを明確にし、 し、プロトコルの	集し、レビューレポ 必要要件、除外要件 る。 概念的定義・仮説 の作成のプロセスを	研究課題を明確にで ートの書き方を理解 を明確化し、フィー を明確にする方法を 理解し、プロトコル	し、レビューレルド調整方法を理理解し、概念的定を作成できる。			
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	職業務をよる後述	保健学研究科ディプロマポリシーの2.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門業務を実践できる能力、及び3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動にる後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。							
授業科目 の概要	見を入る 検討し、 本演 (井部保 医療野	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 井部俊子、水嵜知子)(共同) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。							
	口			内容		担当			
	1~4	課題の明確化と	課題の明確化とその範囲の特定						
	5~10	関心のある領域	井部、水嵜						
授業計画	11~16	6 研究テーマに適	研究テーマに適した研究方法の検討						
	17~22	2 枠組みの明確化	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化						
	23~30) 研究デザインを	元にプロトコル	の作成		井部、水嵜			
テキスト・ 参考図書	適宜紹久	介する。							
成績評価基準	課題のご	プレゼンテーション	ノとディスカッシ	ションの内容に基づ	き、総括的に評価す	る。			
授業時間外		習関連文献を事前							
の学習情報	事後学	授業の中で疑問 文献等を通して	を感じたり、自 復讐するよう取	身の智識が足りない り組む。 	と感じた事柄に関し	ては、テキストや			
その他(履修上の留意点)	自主的に	こ関連資料を収集し	、課題解決の7	ための自己学習に積	極的に取り組む。				
キーワード	看護管理	理学、看護政策・彳	_{丁政、看護倫理}	学					

授業科目	ケア	提供システム演習 I			共通・専門科目の	別専門			
担当教員	中島	八十一							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	2. 作3. し4. 仮5. は1. は1. は1. は1. は1. は1. は1. は1. は1. は1	己の研究課題に関連できる。 己の研究課題の研究 イールドと調整する イールドと調整する 己の研究課題の枠組 明確にできる。 究デザインを選択し	する文献を収集し フィールドの必動 ことができる。 みを明確にし、制 、プロトコルの作	ン、レビューレポート 要要件、除外要件を明 既念的定義・仮説を明 作成のプロセスを理角	E課題を明確にできる、の書き方を理解し、 引確化し、フィールト 引確にする方法を理解 な、プロトコルを作	レビューレポート 調整方法を理解 は、概念的定義・ はできる。			
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	務を実 育成、	保健学研究科ディプロマポリシーの2.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業を実践できる能力、及び3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。							
授業科目 の概要	入研本 中後 は 後	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を 手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、 究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活 して演習を行う。							
	□		内容						
	1~4	課題の明確化とる	課題の明確化とその範囲の特定						
	5~10	関心のある領域の	関心のある領域の系統的文献レビュー						
授業計画	11~1	6 研究テーマに適し	研究テーマに適した研究方法の検討						
	17~2	2 枠組みの明確化と	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化						
	23~3	0 研究デザインをう	こにプロトコルの	作成		中島			
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。							
成績評価基準	課題の	プレゼンテーション	とディスカッショ	ョンの内容に基づき、	総括的に評価する。				
授業時間外	事前学	習関連文献を事前に	こ概観したうえで	授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習 授業の中で疑問を 等を通して復讐で			感じた事柄に関してい	は、テキストや文献			
その他(履修上の留意点)	自主的	に関連資料を収集し	、課題解決のため	めの自己学習に積極的	 りに取り組む。				
キーワード	リハビ	 リテーション科学・	福祉工学、脳計測	 則科学、神経生理学、	神経内科学、精神神	————— ¹ 経科学、			

授業科目	ケア提	供システム演習Ⅱ			共通・専門科目の	別 専門			
担当教員	井部	俊子 水嵜 知	子						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	画につい 2. 研究 3. 研究 4. 人権 る。 5. 研究 書と研究	。 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画 と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	務を実践 育成、職	保健学研究科ディプロマポリシーの2.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業を実践できる能力、及び3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。							
授業科目 の概要	本演習 (井部俊- 医療現:	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (井部俊子、 水嵜知子) (共同) 医療現場において組織を動かすことに及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研 品課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。							
	口			内容		担当			
	1~4	研究デザインの資	選択と介入のため	のプロトコル作成		井部、水嵜			
	5~8	研究対象となる日	井部、水嵜						
授業計画	9~18	研究する変数の液	測定法の特定 質	的研究の場合は、面	接・観察法の訓練	井部、水嵜			
	19~24	研究倫理について	井部、水嵜						
	25~30	研究計画書の作品	艾			井部、水嵜			
テキスト・ 参考図書	随時、提	ー 示する。							
成績評価基準		書の完成度。 レゼンテーション	とディスカッショ	ョンの内容に基づき、	総括的に評価する。				
授業時間外	事前学習	関連文献を事前は	こ概観したうえで	授業に臨む。					
の学習情報	事後学習	授業の中で疑問を等を通して復讐で			感じた事柄に関して/	は、テキストや文献			
その他(履修上の留意点)	自主的に	関連資料を収集し	、課題解決のため	めの自己学習に積極的	」に取り組む。				
キーワード	看護管理:	学、看護政策・行	政、看護倫理学						

授業科目	ケア	提供システム演習Ⅱ			共通・専門科目の	別専門				
担当教員	中島	八十一								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
授業の 到達目標	2. 研究 3. 研究 4. 人 る。 5. 研究 書と研究	研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画 と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。								
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	務を実践 育成、『	保健学研究科ディプロマポリシーの2.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業 を実践できる能力、及び3.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進 成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。								
授業科目 の概要	本演 ¹ (中島 <i>)</i> 後遺 ¹	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結 が付ける演習を行う。								
	口			内容		担当				
	1~4	研究デザインの過	研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成							
	5~8	研究対象となる日	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化							
授業計画	9~18	研究する変数の海	研究する変数の測定法の特定 質的研究の場合は、面接・観察法の訓練							
	19~24	4 研究倫理について	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成							
	25~30) 研究計画書の作品	Ž			中島				
テキスト・ 参考図書	随時、拉	是示する。								
成績評価基準	研究計画課題のご	画書の完成度。 プレゼンテーション	とディスカッショ	ョンの内容に基づき、	総括的に評価する。					
授業時間外	事前学	習関連文献を事前に	二概観 したうえで	授業に臨む。						
の学習情報	事後学	授業の中で疑問を 等を通して復讐で	と感じたり、自身 トるよう取り組む	の智識が足りないと	感じた事柄に関してん	は、テキストや文献				
その他(履修 上の留意点)	自主的に	こ関連資料を収集し	、課題解決のため	めの自己学習に積極的	りに取り組む。					
キーワード	リハビ	リテーション科学・	福祉工学、脳計測	則科学、神経生理学、	神経内科学、精神神	経科学、				

授業科目	人間発	達ケア特論			共通・専門科目の別	専門				
担当教員	外里冨 福谷保	佐江、金物壽久、 、大町かおり、林	高嶋孝倫、坂口にかおり、福田恵意	ナさみ、樋貝繁香、宮 美子	脇利幸、					
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修	*	1年次	前期	15回	2 単位	講義				
授業の 到達目標	2. リプ 3. 乳幼 4. 生涯 5. 高齢	児期の発達におい 発達の視点から青 期における発達課	ス・ライツに関っ て重視すべき課題 年期、成人期の 題と社会とのかた	夏について多様な側面 巻達課題について多様 いわりについて述べる		る。				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)				り知識と技能の習得に						
授業科目 の概要	特定の方 心理・社 本講義 より迎え	発達とは、分化(Specialization)と統合(Integration)が繰り返されて進展し、相互作用をもって定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期にり迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学根拠に基づく研究につなげる。(オムニバス方式/全15回)								
	回			内容		担当				
	1	オリエンテーショ	外里							
	2	生涯発達の概要	と青年期、成人期	及における発達課題		外里				
	3	肢体不自由を中心	いとした発達過程	における障害の医学的	 内理解	金物				
	4	肢体不自由を中心	いとした発達過程	における障害の支援	幾器論的理解	高嶋				
	5	リプロダクティン	坂口							
	6	乳幼児期における	樋貝							
	7	乳幼児期における	樋貝							
授業計画	8	青年期、成人期ル 心身の変化) 青年期、成人期ル	大町							
	9	視点から)	福谷							
	10	発達障害児支援の	福田							
	11	発達障害児支援の	り地域の取り組み	の紹介②		福田				
	12	高齢期における。	心理機能、身体機	能の低下や障害につい	17	宮脇				
	13	高齢期における記	果題:高齢期の社	会生活のあり方		宮脇				
	14	発達過程における	る特徴的な感染症	とその予防		林				
	15	まとめ				外里				
テキスト・ 参考図書		: 適宜紹介する : 福田恵美子監修	人間発達学第5	版 中外医学社						
成績評価基準		、プレゼンテーシ : レポート80%、こ								
授業時間外	事前学習	生涯人間発達につ	 Oいて情報を検索	し、資料等に眼を通っ	たこと。					
の学習情報	事後学習	新たな知識を整理	里すること。							
その他(履修上の留意点)	新聞記事	、ニュースなど最	新の社会的な知り	 記に触れ、積極的に議	論できるように授業に					
キーワード	生涯人間	発達 ウィメンズ	ヘルス 障害科学	学 リハビリテーショ	ン 保健活動 環境					

授業科目	人間系	・ 巻達ケア演習Ⅰ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門				
担当教員	金物壽	季久								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
授業の 到達目標	2. を 3. し、 4. 説 の 5. で 7. で 7. で 7. で 7. で 7. で 7. で 7. で 7	の研究課題に関連 きる。 この研究課題の研究 ールと調整するこ この研究課題の枠組 はにできる。 こデザインを選択し	する文献を収集し フィールドの必動 とができる。 みを明確にし、相 、プロトコルの何	ン、レビューレポート 要要件、除外要件を明 既念的定義・仮説を明 作成のプロセスを理角	思課題を明確にできる。 、の書き方を理解し、レ 同確化し、フィールド調整 可確にする方法を理解し、 なし、プロトコルを作成	整方法を理解概念的定期・				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。								
授業科目 の概要	ドワーク でを学修 本演習 (金物書 肢体不	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィール ワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成ま を学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、研究・実務経験 活かして演習を行う。								
	口			内容		担当				
	1~4	課題の明確化とる	金物							
	5~10	関連文献のレビュ	金物							
	11~16	臨床フィールドワ	金物							
授業計画	17~22	枠組みの明確化と	金物							
	23~26	研究デザインと研	金物							
	27~28	デザインの選択	デザインの選択							
	29~30	介入のためのプロ	コトコル作成			金物				
テキスト・ 参考図書	随時紹介	`する。各学生の研	究テーマに関連す	する理論を用いる。						
成績評価基準	学生の研	 F究計画立案に当た	って、倫理性、	妥当性、新規性の観点	気から評価する。					
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と教保する。		カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確				
の子白用報	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	□識を学修する。				
その他(履修上の留意点)	質問、相	間談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。						
キーワード	整形外科	学、スポーツ科学	、医療社会学、周	支体不自由						

授業科目	人間多	・ 発達ケア演習 I (理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門				
担当教員	高嶋ョ	孝倫								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
授業の 到達目標	2.作3 作成自 で1 で1 で1 で2 で2 で2 で3 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4 で4	この研究課題に関連 できる。 この研究課題の研究 ロールと調整するこ この研究課題の枠組 開確にできる。 ビデザインを選択し	する文献を収集し フィールドの必動 とができる。 みを明確にし、相 、プロトコルの何	ン、レビューレポート 要要件、除外要件を明 既念的定義・仮説を明 作成のプロセスを理解	E課題を明確にできる。 の書き方を理解し、レ 開確化し、フィールド調整 開確にする方法を理解し、 ない、プロトコルを作成	整方法を理解概念的定期・				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)				り知識と技能の習得に 1000円間によります。						
授業科目 の概要	ドワーク でを 本 (高 間の 人間の	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成まを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経を活かして演習を行う。								
	口			内容		担当				
	1~4	課題の明確化とる	課題の明確化とその範囲の限定							
	5~10	関連文献のレビュ	ı. —			高嶋				
	11~16	臨床フィールドワ	ワークの着手			高嶋				
授業計画	17~22	枠組みの明確化と	高嶋							
	23~26	研究デザインと研	研究デザインと研究計画							
	27~28	デザインの選択	デザインの選択							
	29~30	介入のためのプロ	コトコル作成			高嶋				
テキスト・ 参考図書	随時紹介)する。各学生の研	究テーマに関連す	する理論を用いる。						
成績評価基準	学生の研	 研究計画立案に当た	って、倫理性、	妥当性、新規性の観点	気から評価する。					
授業時間外の党羽情報	事前学	選 講義は、学生と教保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確				
の学習情報	事後学習	習 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	1識を学修する。				
その他(履修 上の留意点)	質問、柞	目談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。						
キーワード	生活支持	爰技術、義肢装具、	運動解析、福祉原	用具・支援機器						

授業科目	人間多	・ 巻達ケア演習Ⅰ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門				
担当教員	福谷伊	₹								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
授業の 到達目標	2. を3 し4. 脱 の 1. は の 1. で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	この研究課題に関連できる。この研究課題の研究課題の研究にはいることであることの研究課題の枠組団をはいてきる。これできる。これでは、これできる。これでは、これできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	する文献を収集し フィールドの必引 とができる。 みを明確にし、相 、プロトコルの作	ン、レビューレポート 要要件、除外要件を明 既念的定義・仮説を明 作成のプロセスを理角	記課題を明確にできる。 、の書き方を理解し、レ 同確化し、フィールド調整 同確にする方法を理解し、 なし、プロトコルを作成	整方法を理解概念的定期・				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)				竹知識と技能の習得 に						
授業科目 の概要	ドワーク でを 本演 ² (福谷係 理学療	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィール ワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成ま を学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活 して演習を行う。								
	回			内容		担当				
	1~4	課題の明確化とる	福谷							
	5~10	関連文献のレビュ	福谷							
	11~16	臨床フィールドワ	福谷							
授業計画	17~22	枠組みの明確化と	福谷							
	23~26	研究デザインと研	研究デザインと研究計画							
	27~28	デザインの選択	デザインの選択							
	29~30	介入のためのプロ	コトコル作成			福谷				
テキスト・ 参考図書	随時紹介	`する。各学生の研	究テーマに関連す	する理論を用いる。						
成績評価基準	学生の研	 开究計画立案に当た	って、倫理性、著	妥当性、新規性の観点						
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と教保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確				
の子首情報	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	1識を学修する。				
その他(履修上の留意点)	質問、相	目談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。						
キーワード	理学療法	ミ学の運動療法学、	組織学、骨格筋質	上理学						

授業科目	人間多		学療法学)		共通・専門科目の別	専門				
担当教員	大町	かおり								
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法				
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習				
授業の 到達目標	2. を3. し4. 脱研 1. は1. では 1. では 2. では 2. では 3. しま 3. では 5. でも 5. で	その研究課題に関連できる。 その研究課題の研究 でールと調整するこれの研究課題の枠組 できる。 でデザインを選択し	する文献を収集し フィールドの必要 とができる。 みを明確にし、相 、プロトコルの作	ン、レビューレポート 要要件、除外要件を明 既念的定義・仮説を明 作成のプロセスを理解	E課題を明確にできる。 、の書き方を理解し、レー 同確化し、フィールド調整 同確にする方法を理解し、 異し、プロトコルを作成	整方法を理解概念的定期・				
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。								
授業科目 の概要	ドワークでを演習で本本で大野で大野で大野で大野で大野で大野で	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成まを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課について、研究・実務経験を活かして演習を行う。								
	口			内容		担当				
	1~4	課題の明確化とる	課題の明確化とその範囲の限定							
	5~10	関連文献のレビュ	<u>.</u> —			大町				
	11~16	臨床フィールドワ	ワークの着手			大町				
授業計画	17~22	枠組みの明確化と	大町							
	23~26	研究デザインと研	大町							
	27~28	デザインの選択	デザインの選択							
	29~30	介入のためのプロ	コトコル作成			大町				
テキスト・ 参考図書	随時紹介) する。各学生の研	究テーマに関連で	する理論を用いる。						
成績評価基準	学生の研	所究計画立案に当た	って、倫理性、著	妥当性、新規性の観点	気から評価する。					
授業時間外の党羽情報	事前学	選 講義は、学生と教保する。	対 員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確				
の学習情報	事後学習	図 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	識を学修する。				
その他(履修 上の留意点)	質問、柞	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。						
キーワード	理学療法	と学の動作解析、運	動機能評価、運動	動機能維持、ロコモラ	ニィブシンドローム					

授業科目	人間発	達ケア演習Ⅱ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	金物壽	久			•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30日	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について対 2.研究究権 4.人。 5.研究完権 5.研究倫	自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 。 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書 研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリシーとの関連	保健学	研究科ティブロマ	ボリシーの専門的	知識と技能の習得に	関連する。			
(評価の観点) 授業科目 の概要	研究計画 本演習 (金物壽 肢体不	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、 究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 金物壽久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、実践的研究手法 結び付ける演習を行う。						
	П			内容		担当		
	1~4	1~4 研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成						
	5~8	研究対象となる日	3集団の特定、選	考基準と除外基準の関	月確化	金物		
授業計画	9~18	研究する変数の複	測定法の特定 質	的研究の場合は、面積	妾・観察法の訓練	金物		
	19~24	研究倫理について	金物					
	25~30	研究計画書の作品	Ž			金物		
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	 する。						
成績評価基準	学生の研	究計画立案に当た	って、論理性、多	学当性、新規性の観点	から評価する。			
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と教 保する。	女員とでのディス	 カッションにより進&	めるので、学生が予習に	こ必要な時間を確		
	事後学習	プレゼンテーショ	 ョンやディスカッ	 ションの内容を整理 [し、さらに必要となる知	 口識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールて	でも随時受け付ける。				
キーワード	整形外科	学、スポーツ科学	、医療社会学、問					

授業科目	人間発	達ケア演習Ⅱ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	高嶋孝	· 倫						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について 2. 研究対 3. 研究対 4. 人権 る。 5. 研究倫 と研究倫	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 . 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 . 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書 と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリシーとの関連	保健学	研 究科ディブロマ	ホリシーの専門的	的知識と技能の習得に	関連する。			
(評価の観点) 授業科目 の概要	研究計画 本演習 (高嶋孝 人間の	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、 F究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手 に結び付ける演習を行う。						
	回			内容		担当		
	1~4	1~4 研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成						
	5~8	~8 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化						
授業計画	9~18	研究する変数の測	高嶋					
	19~24	研究倫理について	高嶋					
	25~30	研究計画書の作品	高嶋					
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	する。						
成績評価基準	学生の研	究計画立案に当た	って、論理性、妥	。 全当性、新規性の観点	から評価する。			
授業時間外 の学習情報	事前学習	講義は、学生と 保する。	女員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確		
	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となるタ	田識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	生活支援	技術、義肢装具、	運動解析、福祉用	月具・支援機器				

授業科目	人間発	達ケア演習Ⅱ(理	学療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	福谷保	:			·			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について 2. 研究究 3. 研究完 4. 人権 る。 5. 研究倫 と研究倫	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 . 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 . 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 人権所護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書 と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリシーとの関連	保健学 	研究科ディブロマ	ボリシーの専門的	力知識と技能の習得に	関連する。			
(評価の観点) 授業科目 の概要	研究計画 本演習 (福谷保 理学療	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、 研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (福谷保) 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	回			内容		担当		
	1~4	1~4 研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成						
	5~8	5~8 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化						
授業計画	9~18	研究する変数の複	福谷					
	19~24	研究倫理について	福谷					
	25~30	研究計画書の作品	福谷					
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	する。						
成績評価基準	学生の研	究計画立案に当た	って、論理性、努	子当性、新規性の観点	いら評価する。			
授業時間外 の学習情報	事前学習	, 講義は、学生と教 保する。	 牧員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確		
	事後学習	プレゼンテーショ	 ョンやディスカッ		し、さらに必要となる知	田識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールて	も随時受け付ける。				
キーワード	理学療法	学の運動療法学、	組織学、骨格筋生	三理学				

授業科目	人間	発達ケア演習Ⅱ (理	学療法学)		共通・専門科目の	別専門	
担当教員	大町	かおり					
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法	
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習	
授業の 到達目標	についっ 2. 研究す 3. 研究す 4. 人権 る。研究 5. 研究値 と研究値	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 . 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 . 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。					
ディプロマポリシーとの関連	保健学	学研究科ディプロマ	ポリシーの専門的	り知識と技能の習得に	三関連する。		
(評価の観点) 授業科目 の概要	研究計画本演员 大町 地理学 棚	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、 研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (大町かおり) 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。					
	口			内容		担当	
	1~4	研究デザインの資	選択と介入のため	のプロコル作成		大町	
	5~8	研究対象となる日	母集団の特定、選	考基準と除外基準の	明確化	大町	
授業計画	9~18	研究する変数の液	大町				
	19~24	4 研究倫理について	大町				
	25~30	研究計画書の作品	大町				
テキスト・ 参考図書	適宜紹久	 介する。					
成績評価基準	学生の研	研究計画立案に当た	って、論理性、多	妥当性、新規性の観点	いら評価する。		
授業時間外 の学習情報	事前学	講義は、学生と 保する。	 数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予 [・]	習に必要な時間を確	
	事後学	習 プレゼンテーショ	 ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要とな	る知識を学修する。	
その他(履修上の留意点)	質問、村	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。			
キーワード	理学療法	去学の動作解析、運	動機能評価、運動	助機能維持、ロコモラ			

授業科目	人間	 発達ケア演習 I (作	業療法学)		共通・専門科目の	期 専門		
担当教員	外里	外里富佐江						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	2を3し4仮5. 作. 、. 説	1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・ 反説を明確にできる。 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。						
ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)	保健	学研究科ディブロマ	ボリシーの専門的	り知識と技能の習得に	関連する。			
授業科目 の概要	ドで ワを本 外作加 参加 の の の の の の の の の の の の の	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 (外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会が加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究限題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。						
	口		内容			担当		
	1~4	課題の明確化とる	外里					
	5~1	0 関連文献のレビュ	関連文献のレビュー					
	11~1	6 臨床フィールドワ	臨床フィールドワークの着手					
授業計画	17~2	22 枠組みの明確化と	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化					
	23~2	24 研究デザインと研	研究デザインと研究計画					
	25~2	26 デザインの選択	デザインの選択					
	27~3	30 介入のためのプロ	コトコル作成			外里		
テキスト・ 参考図書	随時紹	介する。各学生の研	究テーマに関連す	する理論を用いる。				
成績評価基準	学生の	研究計画立案に当た	って、倫理性、多	妥当性、新規性の観点	から評価する。			
授業時間外	事前学	潜 講義は、学生と教 保する。	対員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報 	事後学	習 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。				
キーワード		法の介入と効果、脳 種連携の効果	機能と作業療法、	超高齢化社会におけ	る社会参加、メディ	カルスタッフによ		

授業科目	人間発	達ケア演習 I (作	業療法学)		共通・専門科目の別	専門			
担当教員	宮脇利	幸							
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	2.作3. (4. (4. (4. (4. (4. (4. (4. (4. (4. (4	. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 . 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポート : 作成できる。 . 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解 .、フィールと調整することができる。 . 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・ . 説を明確にできる。 . 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学 	研究科ディブロマ	ボリシーの専門的	的知識と技能の習得に	[関連する。				
授業科目 の概要	ドワーク でを 学修 本演習 (宮脇利 人間の	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。							
	□			内容		担当			
	1~4	課題の明確化とる		宮脇					
	5~10	関連文献のレビュ	<u>.</u> —			宮脇			
155 MK = 1	11~16	臨床フィールドリ	フークの着手			宮脇			
授業計画	17~22	枠組みの明確化る	宮脇						
	23~24	研究デザインと研究		宮脇					
	25~26	デザインの選択		宮脇					
	27~30	介入のためのプロ		宮脇					
テキスト・ 参考図書	随時紹介	する。各学生の研	究テーマに関連す	- る理論を用いる。					
成績評価基準	学生の研	 究計画立案に当た	って、倫理性、妥	会当性、新規性の観点	(から評価する。				
授業時間外	事前学習	講義は、学生と 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確			
の学習情報 	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	1識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。					
キーワード	リハビリ	テーション科学・	福祉工学,応用領	建康科学					

授業科目	人間多		業療法学)		共通・専門科目の	別専門		
担当教員	外里智	富佐江						
必修•選択等	の別	の別 配当年次 配当学期 年間授業回数 単位数						
選択必修		1 年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について 2. 研究対 3. 研究対 4. 人権 る。 5. 研究計	で学び、自己の課題 対象となる母集団を する変数の測定法の 権護・倫理的配慮を	に係る計画を作成 特定する過程を学び 特定の過程を学び 検討する過程を学 査委員会への提出	さび、自己の課題に係る が、自己の課題に係る をび、自己の課題に係る 出資料を完成する過程	る母集団を特定でき 変数の測定法を特定 る人権擁護と倫理的	る。 できる。 配慮を検討でき		
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学	₽研究科ディプロマ	ポリシーの専門的	的知識と技能の習得に[関連する。			
授業科目 の概要	研究計画 本演習 (外里電 作業弱 参加に関	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (外里冨佐江) 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会学加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	回			内容		担当		
	1~4	研究デザインの遺	外里					
₩-1 	5~8	研究対象となる日	外里					
授業計画	9~18	研究する変数の液	外里					
	19~24	研究倫理について	外里					
	25~30	研究計画書の作品	<u></u>			外里		
テキスト・ 参考図書	適宜紹介							
成績評価基準	学生の研		って、論理性、多	妥当性、新規性の観点を	から評価する。			
	事前学習	事前学習 講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。						
授業時間外 の学習情報	事後学習	事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。						
その他(履修上の留意点)	質問、村	・ 目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード		ちょう と効果、脳 重連携の効果	機能と作業療法、	超高齢化社会における	る社会参加、メディ	カルスタッフによ		

授業科目	人間発	達ケア演習Ⅱ(作	業療法学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	宮脇利	 幸						
必修・選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について 2. 研究対 3. 研究す 4. 人権 5. 研究計 と研究倫 5. 研究倫	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書 と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学	研究科ディプロマ	ポリシーの専門的	り知識と技能の習得 に	関連する。			
授業科目 の概要	研究計画 本演習 (宮脇利 人間の	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学,応用健康科学に関連する研究 果題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~4	研究デザインのi	選択と介入のため	のプロトコル作成		宮脇		
	5~8	研究対象となるも	宮脇					
授業計画	9~18	研究する変数の	宮脇					
	19~24	研究倫理について	宮脇					
	25~30	研究計画書の作品	宮脇					
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	 する。						
成績評価基準	学生の研究	究計画立案に当た	って、論理性、努	多当性、新規性の観点	いら評価する。			
₩吐服易	事前学習	講義は、学生と表保する。	数員とでのディス	カッションにより進ん	めるので、学生が予習に	工必要な時間を確		
授業時間外 の学習情報	事後学習	事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。						
その他(履修上の留意点)	質問、相談	談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	リハビリ	テーション科学・	福祉工学,応用領	建康科学				

授業科目	人間発	達ケア演習I(母	子看護学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	坂口け	さみ、林かおり						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	2.作. (1) (1) (2) (2) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	1. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・反説を明確にできる。 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学	研究科ディプロマ	ポリシーの専門的	的知識と技能の習得に	ご関連する。			
授業科目の概要	ビュー、 定、 本演習 (坂口 発達過	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~4	課題の明確化とそ		坂口				
	5~10	関連文献のレビュ		坂口				
	11~16	臨床フィールドワ		林				
授業計画	17~22	枠組みの明確化と		坂口				
	23~26	研究デザインと研		坂口				
	27~28	データ分析の予備		林				
	29~30	介入のためのプロ		坂口				
テキスト・ 参考図書	随時紹介	する。各学生の研	究テーマに関連す	「る理論を用いる。				
成績評価基準	学生の研	究計画立案に当た	って、倫理性、多	3当性、新規性の観点	いら評価する。			
授業時間外	事前学習	講義は、学生と 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	必要な時間を確		
の学習情報	事後学習	プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	1識を学修する。		
その他(履修 上の留意点)	質問、相	談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	リプロダ	クティブヘルス・	ライツ、母性看護	養学、助産学、感染 症	三予防			

授業科目	人間多	・ 発達ケア演習 I (母	子看護学)		共通・専門科目の別	専門			
担当教員	樋貝匔	終香							
必修・選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習			
授業の 到達目標	2. 作。 1. 作。 2. 作。 3. し。 4. に説。 5. に、 5. に、 5. に、 5. に、 5. に、 5. に、 6. に、 6. に、 7. に 7. に	. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 2. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポート と作成できる。 3. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解 、フィールと調整することができる。 4. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・ 反説を明確にできる。 5. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学	≧研究科ディプロマ	ボリシーの専門的	内知識と技能の習得に	関連する。				
授業科目 の概要	ビュー、定、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、一、大海では、大海では、大海では、大海では、大海では、大海では、大海では、大海では	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレニュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 (樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。							
	回			内容		担当			
	1~4	課題の明確化とる	課題の明確化とその範囲の限定						
	5~10	関連文献のレビュ	樋貝						
	11~16	臨床フィールドワ	樋貝						
授業計画	17~22	枠組みの明確化と	樋貝						
	23~26	研究デザインと研	樋貝						
	27~28	デザインの選択	デザインの選択						
	29~30	介入のためのプロ	コトコル作成			樋貝			
テキスト・ 参考図書	随時紹介	・ トする。各学生の研	究テーマに関連で	する理論を用いる。					
成績評価基準	学生の研	一一一一 肝究計画立案に当た	って、倫理性、発	妥当性、新規性の観点	 〔から評価する。				
授業時間外	事前学習	習 講義は、学生と教 保する。	対員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習に	一必要な時間を確			
の学習情報	事後学習	習 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる知	口識を学修する。			
その他(履修上の留意点)	質問、村	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。					
キーワード	小児看護	養学、家族看護学							

授業科目	人間		:子看護学)		共通・専門科目の別	専門		
担当教員	坂口	けさみ、林かおり						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30日	2 単位	演習		
授業の 到達目標	につい 2. 研究 3. 研究 4. 人。 5. 研究 と研究	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 . 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る要数の測定法を特定できる。 . 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)				的知識と技能の習得に				
授業科目 の概要	研究課 本演 (坂口 発達)	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (坂口けさみ、林かおり) 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防(HIV)含む)に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	回			内容		担当		
	1~4	研究デザインの資	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成					
	5~8	研究する変数の液	研究する変数の測定法の特定 量的研究の場合のデータ解析手法の修得					
授業計画	9~18	研究する変数の液析方法の修得	研究する変数の測定法の特定 質的研究の場合の面接・観察手法及び内容分析方法の修得					
	19~2	4 研究倫理についる	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成					
	25~3	0 研究計画書の作品	艾			坂口		
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。						
成績評価基準	学生の	研究計画立案に当た	って、論理性、	妥当性、新規性の観点	 気から評価する。			
授業時間外	事前学	習 講義は、学生と教 保する。	数員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習	に必要な時間を確		
の学習情報	事後学	習 プレゼンテーショ	ョンやディスカッ	ションの内容を整理	し、さらに必要となる	知識を学修する。		
その他(履修上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メール	でも随時受け付ける。				
キーワード	リプロ	ダクティブヘルス・	ライツ、母性看記	嬳学、助産学、感染 症	三 予防			

授業科目	人間発達ケア演習 II (母子看護学) 共通・専門科目の別					別専門		
担当教員	樋貝繁香							
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	について 2. 研究対 3. 研究対 4. 人。 研究 5. 研究 6. 研究 6. 研究 6. と	. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画 こついて学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 . 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 . 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 . 人権擁護・倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。 . 研究計画書を研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
シーとの関連(評価の観点)					•			
授業科目 の概要	研究課題 本演習 (樋貝繁	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 (樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。						
	口			内容		担当		
	1~4	研究デザインの資	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成					
107 W = 1 122	5~8	研究対象となる日	樋貝					
授業計画	9~18	研究する変数の液	樋貝					
	19~24	研究倫理について	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成					
	25~30	30 研究計画書の作成				樋貝		
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	する。						
成績評価基準	学生の研			妥当性、新規性の観点				
授業時間外 の学習情報	事前学習事後学習	事前学習 講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。 事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。						
その他(履修上の留意点)	質問、相	<u> </u> 談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
	小児看護	· 学、家族看護学						

授業科目	健康	コミュニティ特論			共通・専門科目の別	 専門		
担当教員	川崎	千恵、熊本 圭吾	、宮越幸代、	 季原 るみ				
————————————————————————————————————	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	 授業の方法		
選択必修	<u> </u>	1 年次	前期	15回	2 単位	講義		
授業の 到達目標	2. コ ができ 3. コ 4. コ	ミュニティにおける る ミュニティ・人々が ミュニティの健康課	包摂的な(inclu もつ特性を述べる 題と関連要因を返	sive)支援を展開する ることができる <u>k</u> べることができる	と述べることができる 5上で必要な理論、方法論	を述べること		
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)		健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する						
授業科目 の概要	コミュ 理論 プィに ティに	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な(inclusive)支援や、ミュニティに暮らす人々(特定集団)の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニィにおける包摂的な(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。						
	回			内容		担当		
	1	オリエンテーショ	ョン			川崎		
	2	コミュニティには	おける包摂的な支	援とは		熊本		
	3	コミュニティと	コミュニティと人々の特性 -多様性と多文化共生社会-					
	4	コミュニティのノ	人々の健康と社会	的要因		川崎		
	5		・アセスメントの	の理論、モデル、方法	上論等-	川崎		
	6		コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -事業化・施策化/施策提言-					
授業計画	7	協働による包摂的	協働による包摂的支援(1)-パートナーシップの形成-					
	8		協働による包摂的支援(2)-チーム・ビルディング-					
	9		協働による包摂的支援(3)-コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーション-					
	10	講義・事例検討	講義・事例検討 -在宅療養者・生活上困難を抱えた住民への包摂的な支援-					
	11	講義・事例検討	-関係機関や住身	民との協働による包括	長的な支援-	川崎		
	12	講義・事例検討	-災害時における	る協働と住民支援(応	ふ急対策期・復興復旧期)	宮越		
	13	プレゼンテーショ	プレゼンテーションのオリエンテーション					
	14	演習(プレゼンラ	テーション準備)			"		
	15	プレゼンテーショ	ョン、ディスカッ	ション、まとめ		"		
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。				*		
成績評価基準	出席状	況、授業における課	題レポート、プロ	レゼンテーションの 内	內容			
授業時間外	事前学	健康支援に関するすること	る情報を検索整理	し、プレゼンテーシ	ョン、ディスカッション [~]	で積極的に発言		
の学習情報	事後学	事後学習 新たな知識を整理すること						
その他(履修上の留意点)	質問、	相談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード	コミュ計科学	ニティ、包摂的支援 、社会福祉学	(Inclusive sup	port)、コミュニティ	・アセスメント、協働、	臨床科学、統		

授業科目	健康	コミュニティ演習 I			共通・専門科目の別	専門		
担当教員	川崎	千恵 熊本 圭	吾		<u> </u>			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必修		1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	2. 自己 3. 自己 できる。 4. 研究 5. 研究	. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 . 自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。 . 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することが きる。 . 研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。 . 研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学研	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。						
授業科目 の概要	援プログ研究枠線 修本演習 を対象と	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、究枠組みの明確化、概念定義および仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学する。本演習では、公衆衛生学の視点からの研究および社会調査や評価指標の開発などの手法を用いた研究対象とするため、開講前に学生の研究課題もしくは関心のある課題についてヒアリングし、該当する題を研究する教員を中心に進める。						
	回			内容		担当		
	1	オリエンテーショ	ョン			川崎、熊本		
	2	課題の明確化と	その範囲の限定			川崎		
	3	JJ				熊本		
	4~6	関連文献のレビュ				川崎		
1-5 AHL = 1-7-	7~10	11				熊本		
授業計画	11~14	フィールドワーク	ク(プレ調査、フ	ィールドの選定と確	保)	川崎		
	15~17	7 11				熊本		
	18~20	研究枠組みの明確	催化と概念的定義	仮説の明確化		川崎		
	21~24	<u> </u>	最終報告			川崎、熊本		
	25~28	研究デザインの選	選定と研究プロト	コルの作成		川崎		
	29~30) //	最終報告			川崎、熊本		
テキスト・ 参考図書	随時紹介	・ トする。各学生の研	究テーマに関連す	けるテキストを用いる	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	•		
成績評価基準	学生の研	研究計画立案に当た	って、倫理性、多	妥当性、新規性の観点	気から評価する。			
授業時間外の党羽情報	事前学	保する。			めるので、学生が予習し			
の学習情報	事後学習	事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知とで、目標到達を目指す。						
その他(履修上の留意点)	質問、柞	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード		上看護学、保健師現 里学、統計科学、社		型摂、健康の社会的を	· 定要因、			

授業科目	健康二	ュミュニティ演習Ⅱ			共通・専門科目の別	専門		
担当教員	川崎	千恵 熊本 圭	吾		•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
選択必何	参	1年次	後期	30回	2 単位	演習		
授業の 到達目標	2. 人権 る。 3. 研究 書と研究	1. 自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 3. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	保健学研	F究科ディプロマポ	リシーの専門的知	田識と技能の習得に関	見連する。			
授業科目 の概要	(inclust 題につい ルを検討	ive) な支援プログラ) て、公衆衛生学の †した研究の研究計	ラムの開発や実践 視点や社会調査や 画を仕上げ、研究	に関連する研究課題 や評価指標の開発など 完倫理審査までの過程	、々の、コミュニティにの中から、学生が選択しずの手法を用い、演習 I を学修する。本演習は と活かして演習を行う。	ンた自己の研究課 で研究プロトコ		
	口		内容					
	1	オリエンテーショ	オリエンテーション					
	2~3	研究目的、研究対	対象者(選考基準	、除外基準) の特定		川崎		
	4	II .				熊本		
	5~6	研究デザインの特	研究デザインの特定と研究プロトコルの作成					
	7~8	11				熊本		
授業計画	9~14	研究方法の具体化	川崎					
	15~20	II .	熊本					
	21~22	研究倫理について	研究倫理について:依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成					
	23~24	II .				熊本		
	25~27	研究計画書の作品				川崎		
	28~29	II .				熊本		
	30	研究計画書の発え	Ž			川崎、熊本		
テキスト・ 参考図書	適宜紹介	する。						
成績評価基準	学生の研	 开究計画立案に当た	って、論理性、多	妥当性、新規性の観点				
授業時間外	事前学習	演習は、学生と 保する。	対員とでのディス	カッションにより進	めるので、学生が予習し	こ必要な時間を確		
の学習情報	事後学習	事後学習 プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。						
その他(履修上の留意点)	質問、相	目談は、授業時だけ	でなく、メールで	でも随時受け付ける。				
キーワード		三看護学、保健師現 里学、統計科学、社		型摂、健康の社会的液				

授業科目	保健等	学特別研究			共通・専門科目の別	明 専門			
担当教員	井部包	俊子 水嵜知子				•			
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		2年次	通期	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	2. 対象者	研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理解	R健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践するこ この理解							
授業科目 の概要	直し識(課)の選が、共の関係を表現が、対している。 は、共の関係を表現が、対している。 は、対している。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による E接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施 、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知 は・技術の集大成を図る。 (井部俊子) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究 問題について、論文作成のための研究指導を行う。 (水嵜知子) 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究 問題の研究過程において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究 問題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助す							
	口			内容		担当			
		研究計画書に基づ	井部						
		データの収集、ラ	水嵜						
授業計画		データ結果の取り	水嵜						
		論文作成	井部						
		プレゼンテーショ	井部						
		修士論文の提出				井部			
テキスト・ 参考図書	適宜紹介								
成績評価基準	る (良)	↑画を実行できれば 」、結果に基づき ごきれば「卓越して	研究結果を口頭	発表できれば「かなり	確なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記	れば「やや上にあ 倫理的な研究論文			
授業時間外	事前学習	習 自身が設定した認		して授業に臨む。					
の学習情報	事後学習	習 最新の論文を参照	買し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程につ	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	看護管理	里学、看護政策・行	政、看護倫理学						

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	刂 専門		
担当教員	金物	壽久						
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修		2年次	通期	-	10単位	演習		
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理り	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解						
授業科目 の概要	直接指記し、成記・技術 (金物・技体)	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (金物尋久) 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。						
	口		内容					
		研究計画書に基っ	研究計画書に基づく研究の実施					
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析					
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ					
		論文作成	論文作成					
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備					
		修士論文の提出	修士論文の提出					
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。						
成績評価基準	る (良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができ) 上にある(優)」、[
授業時間外	事前学	習自身が設定した説	果題を事前に把握	屋して授業に臨む。				
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	: 照らし合わせて理解	を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。					
キーワード	整形外	科学、スポーツ科学	、医療社会学、	肢体不自由				

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	刂 専門			
担当教員	中島	八十一							
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		2年次	通期	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理り	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解							
授業科目 の概要	直接指えている。 は、成・技・技・でも、 (中島) 後遺	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (中島八十一) 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。							
	口		内容						
		研究計画書に基へ	研究計画書に基づく研究の実施						
		データの収集、デ	データの収集、データの入力及びデータの解析						
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ						
		論文作成	論文作成						
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備						
		修士論文の提出	修士論文の提出						
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。							
成績評価基準	る (良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記				
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	是して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	事後学習 最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。							
その他(履修上の留意点)	日程に	' ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	リハビ	リテーション科学・	福祉工学、脳計		神経内科学、精神神綿	圣科学、			

授業科目	保健	 学特別研究			共通・専門科目の	期 専門			
担当教員	外里	外里 富佐江							
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		2年次	通期	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理論	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解							
授業科目 の概要	直接は、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (外里冨佐江) 作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。							
	口		内容						
		研究計画書に基っ	研究計画書に基づく研究の実施						
		データの収集、デ	データの収集、データの入力及びデータの解析						
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ						
		論文作成	論文作成						
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備						
		修士論文の提出	修士論文の提出						
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。							
成績評価基準	る (良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができ;) 上にある(優)」、				
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	量して授業に臨む。					
の学習情報	事後学習 最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。								
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード		法の介入と効果、脳 種連携の効果	機能と作業療法	、超高齢化社会におり	する社会参加、メディ	カルスタッフによ			

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	刂 専門		
担当教員	坂口	けさみ 林かおり						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修		2年次	通期	_	10単位	演習		
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解						
授業科目	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員に直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究をし、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な識・技術の集大成を図る。 (坂口けさみ)							
の概要	る研究 (林か リプ	課題題について、論 おり) ロダクティブヘルス 課題の研究過程にお	文作成するため ・ライツ、およ	の研究指導を行う。 び発達過程での感染症	定の実態と予防(HIV 定の実態と予防(HIV 又集したデータの分析に	/含む)に関連す		
	旦		内容					
		研究計画書に基へ	研究計画書に基づく研究の実施					
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析					
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ					
		論文作成	論文作成					
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備					
		修士論文の提出	修士論文の提出					
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。						
成績評価基準	る(良		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記			
授業時間外	事前学	習自身が設定した認	果題を事前に把握	量して授業に臨む。				
の学習情報	事後学							
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。					
キーワード	リプロ	ダクティブヘルス・	ライツ、母性・	女性看護学、助産学、	感染症予防			

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	高嶋	孝倫							
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		2年次	通期	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解							
授業科目 の概要	直接 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (高嶋孝倫) 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。							
	回		内容						
		研究計画書に基へ	研究計画書に基づく研究の実施						
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析						
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ						
		論文作成	論文作成						
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備						
		修士論文の提出	修士論文の提出						
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。							
成績評価基準	る(良		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	雀なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記				
授業時間外	事前学	習自身が設定した認	果題を事前に把握	として授業に臨む。					
の学習情報	事後学	事後学習 最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。							
その他(履修 上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	生活支	援技術、義肢装具、	運動解析、福祉	用具・支援機器					

授業科目	保健*	学特別研究			共通・専門科目の別	専門			
担当教員	宮脇	利幸				•			
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法			
必修		2年次	通期	_	10単位	演習			
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。							
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理解	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解							
授業科目 の概要	直接指述 し、技 で は で は に を は に に に に に に の に の に の に の に の に の に の	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (宮脇利幸) 人間の発達過程、特に、、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学,応用健康科学に関連する研究課題ついて、論文作成するための研究指導を行う。							
	П		内容						
		研究計画書に基っ	研究計画書に基づく研究の実施						
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析						
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ						
		論文作成	論文作成						
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備						
		修士論文の提出	修士論文の提出						
テキスト・ 参考図書	適宜紹久	<u> </u>							
成績評価基準	る (良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができ) 上にある(優)」、[
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	量して授業に臨む。					
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	:照らし合わせて理解	を深める。				
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。						
キーワード	リハビ	リテーション科学・	福祉工学,応用位	建康科学					

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門		
担当教員	熊本	圭吾						
必修·選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修		2年次	通期	_	10単位	演習		
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解						
授業科目 の概要	直接指し、技・技・技・熊本	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (熊本圭吾) 人々の健康への支援のための社会調査に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。						
	口		内容					
		研究計画書に基っ	研究計画書に基づく研究の実施					
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析					
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ					
		論文作成	論文作成					
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備					
		修士論文の提出				n		
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。						
成績評価基準	る(良		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	雀なデータ分析ができる) 上にある(優)」、記			
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	遣して授業に臨む。				
の学習情報	事後学	事後学習 最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。						
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。					
キーワード	臨床科	学、統計科学、社会	福祉学					

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	刂 専門		
担当教員	樋貝	繁香						
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法		
必修		2年次	通期	_	10単位	演習		
授業の 到達目標	2. 対象	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。						
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解						
授業科目 の概要	直接指し、技・技・人様具	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 (樋貝繁香) 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。						
	口		内容					
		研究計画書に基へ	研究計画書に基づく研究の実施					
		データの収集、ラ	データの収集、データの入力及びデータの解析					
授業計画		データ結果の取り	データ結果の取りまとめ					
		論文作成	論文作成					
		プレゼンテーショ	プレゼンテーションの準備					
		修士論文の提出	修士論文の提出					
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。						
成績評価基準	る(良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができ) 上にある(優)」、記			
授業時間外	事前学	習自身が設定した認	果題を事前に把握	量して授業に臨む。				
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	:照らし合わせて理解	を深める。			
その他(履修上の留意点)	日程に	' ついては、個別相談	の上調整する。					
キーワード	小児看	護学、家族看護学						

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	リ 専門
担当教員	川崎	千恵			·	
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修		2年次	通期	-	10単位	演習
授業の 到達目標	2. 対象	計画書に基づき、研 者への倫理的配慮の 論文の作成とプレゼ	方法を修得する。			
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	解			」ち科学的な根拠に基 ^々	
授業科目 の概要	直接指し、 識・技 (川崎	導のもとに、専門科 果を論文としてまと 術の集大成を図る。 千恵)	目の演習におい め、論文審査を	て作成し倫理審査を経 受けて論文発表を行う	ご学識と技能を用いて、 をた研究プロトコルに対し、論文作成過程を通り のいて、論文作成のため	沿って研究を実施 ごて、高度な知
	回			担当		
		研究計画書に基っ		川崎		
		データの収集、	データの入力及び	、データの解析		II
授業計画		データ結果の取り)まとめ			n.
		論文作成				n.
		プレゼンテーショ	ョンの準備			IJ
		修士論文の提出				II
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。				
成績評価基準	る(良		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	能なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記	
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	として授業に臨む。		
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	:照らし合わせて理解	を深める。	
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。			
キーワード	コミュ	ニティ、包摂的支援	(Inclusive sup	pport)、コミュニティ	・・アセスメント、協信	 動

授業科目	保健:	学特別研究			共通・専門科目の別	専門								
担当教員	福谷	保												
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法								
必修		2年次	通期	_	10単位	演習								
授業の 到達目標	2. 対象 3. 研究	計画書に基づき、研 者への倫理的配慮の 論文の作成とプレゼ	方法を修得する。 ンテーションの)	方法を修得する。										
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理角	解			ち科学的な根拠に基っ									
授業科目 の概要	直接指述し、成立 識・技行 (福谷付	算のもとに、専門科 果を論文としてまと 術の集大成を図る。 呆) 療法学の運動療法学	目の演習においめ、論文審査を	て作成し倫理審査を紀 受けて論文発表を行・	ご学識と技能を用いて、 圣た研究プロトコルに別 う。論文作成過程を通し 研究課題について、論文	らって研究を実施 こて、高度な知								
	口			内容		担当								
		回 内容 研究計画書に基づく研究の実施												
		データの収集、デ	データの入力及び	、データの解析		IJ								
授業計画		データ結果の取り)まとめ			II.								
		論文作成				II.								
		プレゼンテーショ	ョンの準備			II.								
		修士論文の提出				II.								
テキスト・ 参考図書	適宜紹久	介する。												
成績評価基準	る (良)		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができれ) 上にある(優)」、記									
授業時間外	事前学	習自身が設定した記	果題を事前に把握	遣して授業に臨む。										
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	照し、学修内容と	: 照らし合わせて理解	を深める。									
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。											
キーワード	理学療剂	法学の運動療法学、	組織学、骨格筋質	生理学										

授業科目	保健	学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	大町	かおり				
必修•選択等	の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修		2年次	通期	_	10単位	演習
授業の 到達目標	2. 対象	計画書に基づき、研 者への倫理的配慮の 論文の作成とプレゼ	方法を修得する。			
ディプロマポリ シーとの関連 (評価の観点)	との理	解			ち科学的な根拠に基づ	
授業科目 の概要	直接は 大理 で 世学	導のもとに、専門科 果を論文としてまと 術の集大成を図る。 かおり)	目の演習においめ、論文審査を登ります。 運動機能評価、記	て作成し倫理審査を終受けて論文発表を行っ 受けて論文発表を行っ 軍動機能維持、ロコニ	ご学識と技能を用いて、 蚤た研究プロトコルに沿 う。論文作成過程を通し モティブシンドロームに	らって研究を実施 じて、高度な知
	口			内容		担当
		研究計画書に基づ	づく研究の実施			大町
		データの収集、ラ	データの入力及び	データの解析		II.
授業計画		データ結果の取り)まとめ			II.
		論文作成				II.
		プレゼンテーショ	コンの準備			II.
		修士論文の提出				II.
テキスト・ 参考図書	適宜紹	介する。				
成績評価基準	る(良		研究結果を口頭	発表できれば「かなり	在なデータ分析ができれ)上にある(優)」、記	
授業時間外	事前学	習自身が設定した認	果題を事前に把握	として授業に臨む。		
の学習情報	事後学	習最新の論文を参照	買し、学修内容と	照らし合わせて理解	を深める。	
その他(履修上の留意点)	日程に	ついては、個別相談	の上調整する。			
キーワード	理学療	法学の動作解析、運	動機能評価、運動	動機能維持、ロコモラ	ティブシンドローム	

			専	任教員の年	F齢構成・2	学位保有状	況			
職位	学 位	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	合計	備考
	博士	人	人	人	5 人	1 人	1 人	6 人	13 人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
教授	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	1 人	1 人	人	人	2 人	
	修士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
准教授	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
講師	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	6 人	2 人	1 人	6 人	15 人	
	修士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
合 計	学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

			専	任教員の年	F齢構成・	学位保有状	:況			
職位	学 位	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	合計	備考
	博士	人	人	人	5 人	2 人	1 人	5 人	13 人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
教授	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
准教授	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
講師	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修士	人	人	人	人	人	人	人	人	
助教	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
	博士	人	人	人	6 人	2 人	1 人	5 人	14 人	
	修士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
合 計	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別紙13 新

()[2.健和学生	教育	課		程	₫		等		の		相	π		要
(17	下链针子 。	部りハビリナーション子科) 			単位数	:	ŧ	受業形態	E.		専任都	数員等(の配置		
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
		大学基礎セミナー	1前		1		0			3	1	4	2		i
	導	理学療法基礎セミナー	1後		1			0		4	1	2	1		共同
	入	作業療法基礎セミナー	1後		1			0		3	1	3	2		共同
	科目	アカデミックリテラシー	1前	1			0								兼1
		自然科学の基礎	1前	2			0			,					兼2 オムニバス
		情報リテラシー 心理学	1前 1前	2			0	0		1					兼1
	人	倫理学	1前	2	2		0								兼1
	文	文化人類学	1前		2		0								兼1
	科学	異文化理解	1前		2		0			1					
		信州学	1後		1		0								兼1
	社	社会福祉学	1前	2			0			1					i
	会 科	教育学	1後	2			0								兼1
ts.	科学	社会学	1前		2		0								兼1
教養科	,	日本国憲法・法学	2前		2		0			<u> </u>					兼1
科目	自	物理学	1後		2		0								兼1
П	然科	統計学	1後	2			0			1					36.
	学	生物学生化学	1後		2		0								兼1
	/40	体育実技	2前 1後	1	2		0		0						兼1 兼1
	学育	体育学	1後	1			0								兼1
		英語 I	1前	1			0			1					兼2 共同
		英語Ⅱ	1後	1			0			1					兼1 共同
		英語Ⅲ	3前		1		0			1					
	外	医学英語 I	2前	1			0			1					兼1 共同
	国語	医学英語Ⅱ 医学基語Ψ	2後	1			0			1					
		医学英語Ⅲ ハングル	3後 1後		1 2		0			1					兼1
		中国語	1後		2		0								兼1
		スペイン語	1後		2		0								兼2 オムニバス
	小言	十 (30科目)	-	19	28			_		9	2	5	3		兼22
		解剖学 I (総合)	1前	1			0								兼1
		解剖学Ⅱ (総合)	1後	1			0								兼1
		解剖学実習(人体解剖観察)	1後	1					0						兼3 共同
		解剖学演習 I (骨格系) 解剖学演習 II (筋・神経系)	1前 1後		2			0		1			1		į
		運動器系解剖学 I	1前		1		0			1			1		オムニバス
		運動器系解剖学Ⅱ	1後		1		0			1			1		オムニバス
事		体表解剖学演習	2前		1			0		1			1		共同
甲	基礎	リハビリテーションのための人体構造(運動器)	3前		1		0			1					
玉巻	医	リハビリテーションのための人体構造(神経系)	3前		1		0			1					34.
計	学	生理学 I 生理学 II	1前 1後	1			0								兼1
		生理学実習	2前	1 2				0		1	1	1	2		兼1 :
		理学療法基礎運動学I	1後		1		0			1	1	1			7014
		理学療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		0				1				
		作業療法基礎運動学I	1後		1		0			1					
		作業療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		0			1					
		運動学実習	2後		2			0		3	1	1	2		オムニバス・共同
		人間発達学 病理学	1後 2前	1	1		0			1					兼1 オムニバス 兼1
卓		医用画像解析学	3前	1			0			1					^{末1} 兼1 オムニバス
月吉	臨床	臨床薬理学	3前	1			0			1					兼1
绺	医	栄養管理学	3後	1			0								兼1
科目	学	救急救命医学	3後	1			0								兼1
		リハビリテーション医学	2後	1			0			3					兼5 オムニバス

					単位数		ž	受業形態	F.		専任教	数員等の	り配置		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
1	区分	校来村日の石林	配ヨ牛仏	必修	- 担	由由	義	習	・実	授	教授	師	教	手	1佣 芍
				113	1/\	Н	我	白	習	13.	13.	Ыh	叙	于	
		外科学	2後	1			0								兼1
		整形外科学 I 整形外科学 II	2前 2後	1			0			1					
		内科学・老年学I	2前	1			0			1					兼1
		内科学・老年学Ⅱ	2後	1			0								兼1
	床医	神経内科学	2後	1			0			1					
	,	脳神経外科学	2前	1			0								兼1
専		小児科学・小児神経科学 精神医学 I	2前	1			0								兼1
門 基		精神医学Ⅱ	2前 2後	1	1		0								兼1
礎		臨床心理学	3後	1	1		0								兼2 オムニバス
科 -	テ保 健	障害科学 I	1後	1			0			3					兼2 オムニバス
	シ医	障害科学Ⅱ	2前	1			0			1					兼6 オムニバス
	ヽヶ石	公衆衛生学	3後	1			0				1				兼3 オムニバス
	の祉理と	生命倫理人間関係論	2後 2後		1 1		0				1	1			兼1 共同
	A 11	言語聴覚療法概論	21g 4前		1		0				1	1			兼1
	ハビ	看護学概論	4前		1		0								兼1
	IJ	介護学概論	4前		1		0								兼1
$\vdash \vdash$		- (44科目) - (44科目)	-	27	20		_	_		9	2	3	2		兼38 ************************************
		理学療法概論 I (導入論) 理学療法概論 II (理学療法トピックス)	1前 4前		1 1		0			1					兼1 共同
		病態運動学 I	2後		1		0			1					
	基	病態運動学Ⅱ	3前		1		0			1					
	理学	理学療法総合演習I	2後		1			0		1					
	療	理学療法総合演習Ⅱ	3前		1			0		1					
	<u>>></u>	理学療法総合演習Ⅲ	4後		1			0		1					
		理学療法研究法 I 理学療法研究法 Ⅱ	3前 3後		1 1		0			1 4	1	2	1		共同
		理学療法研究法演習(卒業研究)	4通		2			0		4	1	2	1		共同
	倫理・管理 理学療法	理学療法倫理・管理学	3後		2		0			1					
		理学療法評価学総論 理学療法評価学 I (関節機能系検査)	1後 1後		1 1		0			1	1				
	学	理学療法評価学Ⅱ (筋機能系検査)	1仮 2前		1		0				1		1		i
専	法	理学療法評価学Ⅲ (各種検査と測定)	2前		2			0				1	_		
門科	評価	理学療法評価学IV(模擬症例)	2後		1			0		1					
目	学	理学療法評価学V (実症例)	3前		2		l .	0				1			
		理学療法評価学VI (高次脳機能検査) 運動療法学 I (関節機能系)	3前 2前		1		0			1			1		<u> </u>
		運動療法学Ⅱ (筋・神経機能系)	2削 2後		1		0						1		
		運動療法学演習	3後		1			0		1			_		
		物理療法学 I	2前		1		0					1			
		物理療法学演習	2後		2		_	0				1			
	学	物理療法学Ⅱ (マッサージ) 理学療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		0			1	1				
	療	理字療法系義肢装具字 I 理学療法系義肢装具学 II	3前 3後		1 1		0			1					
	治	日常生活活動学 I (概論)	2後		2		0			1					
	療学	日常生活活動学Ⅱ (各論)	3前		2			0		1					
		理学療法治療学 I (脳血管障害)	3前		1			0		1					
		理学療法治療学Ⅱ(運動器障害)	3前		2			0		1	1				オムニバス
		理学療法治療学Ⅲ(神経系障害) 理学療法治療学Ⅳ(内部障害)	3後 3前		1			0				1			
		理学療法治療学V(発達障害)	3削 3後		1 1			0				1			兼1
H		理学療法治療学VI(スポーツ障害)	3後		1		0	Ť			1	_			
		関節モビライゼーション	4前		1			0			1				
	学	認知理論に基づく運動療法	4前		1			0				1			364
専門	療法	固有受容性神経筋促通手技 スポーツマッサージ	4前		1			0			1				兼1
科目	治	呼吸理学療法	4前 4前		1 1			0			1	1			
	寮	発達学的視点に基づく運動療法	4前		1			0		1					
1 1		感覚統合療法	4前		1			0				1			
		予防理学療法	4前		1	l	1	0	1	1			l	l	į

					単位数		ł	受業形態	202		専任都	教員等の	の配置			
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分	技業性目の右称	配当牛伙	修	択	由	義	習	実	授	教授	師	教	手		加考
						H		П	習		10	hib	47	,		
	域	地域理学療法学 I (概論) 地域理学療法学 II (各論)	2後		1		0 0			1			,			b) - 37
	学		3前		1		0			2			1		:	*ムニバス
	法	地域理学療法学Ⅲ(演習)	3後		1		0	0		2			1		a a	ームニバス
	学	生活環境学	3後		1		0			1	,		,		- :	
		臨床見学実習	1前		1				0	4	1	2	1			
	附押	理学療法臨床評価実習I	2後		3				0	4	1	2	1			
	床学 実療	理学療法臨床評価実習Ⅱ	3前		4				0	4	1	2	1			
	習法	地域理学療法実習	4前		1				0	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習I	4前		8				0	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習Ⅱ	4後		8		_		0	4	1	2	1		:	
		作業療法概論	1前		1		0			1						
	基	基礎作業療法学	1前		1		0	_			1					
	礎 作	基礎作業学I(基本・技法)	1前		1			0		1		2			:	共同
	療	基礎作業学Ⅱ(作業分析)	3前		1			0		1	1	1			共	卡 同
	法学	作業療法研究法I	3前		1		0			1						
		作業療法研究法Ⅱ	3後		1		0			3	1	3	2		共	
		作業療法研究法演習(卒業研究)	4通		2			0		3	1	3	2		共	·同
	倫理·管理 作業療法	作業療法管理学	4前		2		0			1		3			オ	ームニバス
	16-	作業療法評価学総論	1後		1		0			1					兼2 オ	ムニバス
	作業療	身体系作業療法評価学	2前		1		0					1	2		共	卡 同
専門	療 法 評	精神系作業療法評価学	2前		1		0				1	1			共	
門科	価	発達系作業療法評価学	2前		1		0					1				
目	学	作業療法評価学演習(総合)	2後		2			0		1	1	3	2		共	
		身体系作業療法学	2後		1		0					1	2		共	
		身体系作業療法治療学 I	3前		2		0					1	2		共	
		身体系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0			1		1	2		オ	ムニバス
		精神系作業療法学	2後		1		0				1	1			共	
		精神系作業療法治療学 I	3前		2		0				1	1			兼1 オ	ムニバス
		精神系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0				1	1			兼1 オ	トムニバス
		発達系作業療法学	2後		1		0					1				
		発達系作業療法治療学 I	3前		2		0					1				
	作業	発達系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0					1				
	業療法	高次脳機能系作業療法学I	3前		2		0			1						
	評価	高次脳機能系作業療法学Ⅱ	3後		1		0			1						
	学	高齢期作業療法学 I	2後		1		0			1						
		高齢期作業療法学Ⅱ	3前		1		0			1						
		日常生活活動学 I	2後		1			0				1	1		共	卡 同
		日常生活活動学Ⅱ	3前		1			0				1				
		作業療法系義肢装具学 I	3前		1		0			1						
		作業療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		0			1						
		職業前評価・治療学	3後		1		0				1					
		作業療法治療学演習(総合)	4前		1			0		3	1	3	2		共	
	業地	地域作業療法学 I	3前		2		0	_		1	1	2				· 同
	学療域	地域作業療法学Ⅱ	3後		2		0			1	1	2			i i	
	10-11	= 0.111 Newmen 1 #	0100										1	<u> </u>	L !~	***

						単位数		ł	受業形態	202		専任都	数員等の	の配置			
	科目	授業科目	の名称	配当年次	必	選	自	描	演	実験	教	准	쵎	助	助		備考
	区分	IX.TT	*>> 11.	BL J T IX	修修	択	由	義	習	実	授	教授	師	教	手		
	1							424	П	習					,		
		臨床見学実習	2 J2 T	1前		1				0	3	1	3	2			
	臨作	作業療法臨床評価実		2後		2				0	3	1	3	2			! !
	床業実療	作業療法臨床評価実	(省Ⅱ	3前		3				0	3	1	3	2			: : :
	考 法 習 法	地域作業療法実習		4前		1				0	3	1	3	2			! !
専		作業療法臨床実習 I		4前		9				0	3	1	3	2			
門科		作業療法臨床実習Ⅱ	[4後		9				0	3	1	3	2			! !
目		ヒューマンケア論		1前	1			0			3					兼2	オムニバス
	関 I P E	IPW論		2前	1			0			1					兼1	共同
	科 E 目	IPW演習 I		3前	1				0		3		1			兼16	共同
		IPW演習Ⅱ		4前	1				0		3		1			兼16	共同
		小計(96科目))	_	4	150			-		12	2	5	3		兼22	
		合計 (170科目)		_	50	198			_		13	2	5	3		兼78	
	学位	て又は称号	学士(理学療 学士(作業療		ź	学位又	は学科	の分里	F		保付	建衛生	学関係	系(リ/	ハビリ	テーシ	(ヨン関係)
	卒	業 要 化	牛 及 び	履(多	方	法						ž	受業期	間等		
〈理:	学療法学	車攻>							1 学年	=の学	期区分					2	学期
业	修科目4	8単位、教養科目の セミナーを含む。)							1 学期	別の授	業期間					1	5週
習 I	(骨格)	系)、解剖学演習 I	I (筋・神経系)	、理学療	法基礎	運動学	έI、Đ	里学	1 時隙	見の授	業時間					9	00分
		動学Ⅱ、運動学実習 134単位以上修得		専門科目の	選択科	・目から	572単位	立以									
/ N=	类索法学	市かり															
业	作業療法学専攻〉 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上(大学基礎セミナ																
系 業 援	長法基礎セミナー含む。)、専門基礎科目の選択科目から8単位以上(運 経割学Ⅰ、運動器系解剖学Ⅱ、体表解剖学演習、作業療法基礎運動学Ⅰ、 逐法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。)、専門科目の選択科目から75년 -を修得し、138単位以上を修得すること。																
	10 10 1	·	12147 0 2 2 0														

別紙13 旧

															カリが以13 1口
/ / □ 17±1 ·	. عنم ۲۰۱	教育	課		科	Ē		等		の		相	Ŧ		要
(保健	科学	部リハビリテーション学科) 			単位数	:	ž	受業形態	ZOZ.		専任	教員等の	の配置		
科 E 区分		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	藩	演	実験	教	准	講	助	助	備考
	,			修	択	由	義	習	· 実 習	授	教授	師	教	手	
導	理学	大学基礎セミナー	1前		1		0					1	,		14.53
入科		理学療法基礎セミナー	1後		1			0		4	1	2	1	-	共同
目	作業	大学基礎セミナー	1前		1		0			3	1	3	2		共同
-		作業療法基礎セミナー アカデミックリテラシー	1後		1			0		3	1	3	2		共同
乖	導	自然科学の基礎	1前	1			0								兼1 ************************************
E	入	情報リテラシー	1前 1前	2			0	0		,					兼2 オムニバス
		心理学	1前	2			0			1					兼1
	į.	倫理学		2											1
	人 文 科	文化人類学	1前 1前		2 2		0								兼1
	科 学	又化人類子 異文化理解	1前		2 2		0			1					兼1
	7	信州学	1削 1後		1		0			1					兼1
-		社会福祉学	16	2	1	-	0			1	-			1	AK.1
	社	教育学	1制 1後	2			0			1					兼1
	会 科	社会学	16		2		0								兼1
	学	日本国憲法・法学	2前		2 2		0								兼1 :
:		物理学	1後		2		0				-		-	-	兼1
	自	統計学	1後	2	4		0			1					AK.1
	然 科	生物学	1後	4	2		0			1					兼1
	学	生化学	2前		2		0								兼1
\vdash	<i>I</i> +-	体育実技	1後	1			J		0						兼1
学	体育	体育学	1後	1			0								兼1
\vdash		英語 I	16	1			0			1				1	兼2 共同
		英語Ⅱ	1後	1			0			1					兼1 共同
		英語Ⅲ	3前	1	1		0			1					NY 1/1/19
	外	医学英語 I	2前	1	1		0			1					兼1 共同
	玉	医学英語Ⅱ	2後	1			0			1					
	語	医学英語Ⅲ	3後		1		0			1					:
		ハングル	1後		2		0								兼1
		中国語	1後		2		0								兼1
		スペイン語	1後		2		0								兼2 オムニバス
		計 (31科目)	_	19	29			_		9	2	5	3		兼22
		解剖学 I (総合)	1前	1			0								兼1
		解剖学Ⅱ (総合)	1後	1			0								兼1
	基礎	解剖学実習(人体解剖観察)	1後	1			_		0						兼3 共同
	医	生理学 I	1前	1			0								兼1
	学	生理学Ⅱ	1後	1			0								兼1
		生理学実習	2前	2				0		1	1	1	2		兼1 ましてバフ
-	1	人間発達学 解剖学演習 I (骨格系)	1後 1前	1	2	-	0	0		1	-		1	1	兼1 オムニバス
î.	理	解剖学演習Ⅱ (筋・神経系)	1後		1			0		1			ı .		:
1	学	理学療法基礎運動学I	1後		1		0	~		1		1			1
	療法	理学療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		0				1	1			:
		運動学実習	2後		2			0		2	1	1	1		オムニバス
基		運動器系解剖学 I	1前		1		0			1			1		オムニバス
礎医		運動器系解剖学Ⅱ	1後		1		0			1			1		オムニバス
学		体表解剖学演習	2前		1			0		1			1		共同
	業	リハビリテーションのための人体構造 (運動器)	3前		1		0			1					
	療法	リハビリテーションのための人体構造(神経系)	3前		1		0			1					:
	広	作業療法基礎運動学 I	1後		1		0			1					
		作業療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		0			1					
- 1	1	運動学実習	2後		2			0		1			1		共同

					単位数		ŧ	受業形態	16.		専任教	数員等の	の配置			
	科目	極拳到日本友幹	#1 W /r via	i)	.55.	台	继	冲	実験	#/*	\H-	继	B4s	H4		/#: #x.
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演		教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		病理学	2前	1			0								兼1	
		医用画像解析学	3前	1			0			1						オムニバス
		臨床薬理学 栄養管理学	3前 3後	1 1			0								兼1 兼1	
		救急救命医学	3後	1			0								兼1	! !
		リハビリテーション医学	2後	1			0			3						オムニバス
		外科学	2後	1			0								兼1	
	臨床	整形外科学I	2前	1			0			1						
	医	整形外科学 II 内科学・老年学 I	2後	1			0			1					**1	
	子	内科学・老年学Ⅱ	2前 2後	1 1			0								兼1 兼1	
専		神経内科学	2後	1			0			1					N/L1	
門 基		脳神経外科学	2前	1			0								兼1	! ! !
礎科		小児科学・小児神経科学	2前	1			0								兼1	! ! !
目		精神医学I	2前	1			0								兼1	
		精神医学Ⅱ 臨床心理学	2後 3後	1	1		0								兼1	オムニバス
	テ保	障害科学 I	1後	1			0			3						オムニバス
	健 シ医	障害科学Ⅱ	2前	1			0			1						オムニバス
	ョ療	公衆衛生学	3後	1			0				1				兼3	オムニバス
	ン福 の祉	生命倫理	2後		1		0								兼1	
	理と	人間関係論	2後		1		0				1	1				共同
	ハ	言語聴覚療法概論 看護学概論	4前 4前		1 1		0								兼1 兼1	
	ビ リ	介護学概論	4前		1		0								兼1	
	小計	十 (45科目)	_	27	22			_		9	2	3	2		兼38	
		理学療法概論 I (導入論)	1前		1		0			1					兼1	共同
		理学療法概論Ⅱ (理学療法トピックス)	4前		1		0			1						! ! !
	基	病態運動学 I 病態運動学 II	2後		1		0			1						! ! !
	礎 理	理学療法総合演習 I	3前 2後		1 1			0		1 1						! ! !
	学療	理学療法総合演習Ⅱ	3前		1			0		1						! ! !
	法	理学療法総合演習Ⅲ	4後		1			0		1						! ! !
	学	理学療法研究法I	3前		1		0			1						! ! !
		理学療法研究法Ⅱ	3後		1		0			4	1	2	1			共同
		理学療法研究法演習 (卒業研究)	4通		2			0		4	1	2	1			共同
	倫理・管理 理学療法	理学療法倫理・管理学	3後		2		0			1						
		理学療法評価学総論	1後		1		0			1						! !
	理学	理学療法評価学 I (関節機能系検査)	1後		1		0				1					
専	療	理学療法評価学Ⅱ (筋機能系検査)	2前		1		0						1			
門	法評	理学療法評価学Ⅲ(各種検査と測定) 理学療法評価学Ⅳ(模擬症例)	2前		2			0		1		1				
科目	価学	理学療法評価学V(実症例)	2後 3前		1 2			0		1		1				
		理学療法評価学VI(高次脳機能検査)	3前		1		0			1						! !
		運動療法学 I (関節機能系)	2前		1		0						1			I I
		運動療法学Ⅱ (筋・神経機能系)	2後		1		0						1			! !
		運動療法学演習	3後		1			0		1						1 1 1
		物理療法学Ⅰ	2前		1		0					1				! !
	理	物理療法学演習 物理療法学Ⅱ (マッサージ)	2後 3前		2		0	0			1	1				- 1 1
	学	理学療法系義肢装具学I	3前		1		0			1	1					! !
	療法	理学療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		0			1						! !
	治療	日常生活活動学 I (概論)	2後		2		0			1						! !
	学	目常生活活動学Ⅱ (各論)	3前		2			0		1						! !
		理学療法治療学 I (脳血管障害)	3前		1			0		1						i I
		理学療法治療学Ⅱ (運動器障害) 理学療法治療学Ⅲ (抽級系障害)	3前		2			0		1	1	1				オムニバス
		理学療法治療学Ⅲ(神経系障害) 理学療法治療学Ⅳ(内部障害)	3後 3前		1 1			0				1 1				! !
		理学療法治療学V (発達障害)	3後		1			0				1			兼1	- - -
	_	理学療法治療学VI(スポーツ障害)	3後		1		0				1					

					単位数		ł	受業形態	E.		専任	数員等の	の配置			
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分	1文末行日 07 石 47	此当平以	修	択	由	義	習	実	授	教授	師	教	手		re σ ml σ
-	理	関節モビライゼーション	4前		1			0	習		1					ì
	学	認知理論に基づく運動療法	4前		1			0			1	1				
	法	固有受容性神経筋促通手技	4前		1			0				1			兼1	!
	治療	スポーツマッサージ	4前		1			0			1				71112	
		呼吸理学療法	4前		1			0				1				i !
		発達学的視点に基づく運動療法	4前		1			0		1						
		感覚統合療法	4前		1			0				1				:
		予防理学療法	4前		1			0		1						
	地	地域理学療法学 I (概論)	2後		1		0			1						
	法 法 理	地域理学療法学Ⅱ (各論)	3前		1		0			2			1			オムニバス
	学学	地域理学療法学Ⅲ (演習)	3後		1			0		2			1			オムニバス
	療	生活環境学	3後		1		0			1						
		臨床見学実習	1前		1				0	4	1	2	1			
	臨理	理学療法臨床評価実習 I	2後		3				0	4	1	2	1			
	床学	理学療法臨床評価実習Ⅱ	3前		4				0	4	1	2	1			:
	実療 習法	地域理学療法実習	4前		1				0	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習I	4前		8				0	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習Ⅱ	4後		8				0	4	1	2	1			! !
	#	作業療法概論	1前		1		0			1						
	基礎	基礎作業療法学	1前		1		0				1	_				: '
	作	基礎作業学Ⅰ(基本・技法)	1前		1			0		1		2				共同
	療	基礎作業学Ⅱ(作業分析)	3前		1			0		1	1	1				共同
	法	作業療法研究法 I 作業療法研究法 II	3前		1		0			1	1					# E
	学	作業療法研究法演習(卒業研究)	3後 4通		1 2		0	0		3	1	3	2 2			共同 共同
専門	Æ	下未源仏明九仏侠目(十未明九)	4,111		2					J	1	J	4			大円
科目	倫理·管理 作業療法	作業療法管理学	4前		2		0			1		3				オムニバス
	作	作業療法評価学総論	160		,					-					}	l la basa si wa
	業	身体系作業療法評価学	1後 2前		1 1		0			1		1	2		₹2	オムニバス 共同
	療法	精神系作業療法評価学	2前		1		0				1	1	4			共同
	評	発達系作業療法評価学	2前		1		0				1	1				大同
	価学	作業療法評価学演習(総合)	2後		2			0		1	1	3	2			共同
	7	身体系作業療法学	2後		1		0				1	1	2			共同
		身体系作業療法治療学 I	3前		2		0					1	2			共同
		身体系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0			1		1	2			オムニバス
		精神系作業療法学	2後		1		0				1	1				共同
		精神系作業療法治療学 I	3前		2		0				1	1				オムニバス
		精神系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0				1	1			兼1	オムニバス
		発達系作業療法学	2後		1		0					1				
	作業	発達系作業療法治療学 I	3前		2		0					1				:
		発達系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		0					1				
	法	高次脳機能系作業療法学I	3前		2		0			1						:
	1曲	高次脳機能系作業療法学Ⅱ	3後		1		0			1						į
	学	高齢期作業療法学 I	2後		1		0			1						
		高齢期作業療法学Ⅱ	3前		1		0			1						:
		日常生活活動学I	2後		1			0				1	1			共同
		日常生活活動学Ⅱ	3前		1			0				1				:
		作業療法系義肢装具学I	3前		1		0			1						:
		作業療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		0			1						
		職業前評価・治療学	3後		1		0				1	_	_			
	yr	作業療法治療学演習(総合)	4前		1			0		3	1	3	2	-		共同
	業地 学療域	地域作業療法学 I	3前		2		0			1	1	2				共同
		地域作業療法学Ⅱ	3後		2		0			1	1	2				共同

科目区分				単位数		ŧ	授業形態		専任教員等の配置						
		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
		臨床見学実習	1前		1				0	3	1	3	2		i
	臨床業寮法	作業療法臨床評価実習 I	2後		2				0	3	1	3	2		
		作業療法臨床評価実習Ⅱ	3前		3				0	3	1	3	2		
		地域作業療法実習	4前		1				0	3	1	3	2		
専		作業療法臨床実習I	4前		9				0	3	1	3	2		
門科		作業療法臨床実習Ⅱ	4後		9				0	3	1	3	2		
目	閲	ヒューマンケア論	1前	1			0			3					兼2 オムニバス
	関 連 科 E	IPW論	2前	1			0			1					兼1 共同
		IPW演習 I	3前	1				0		3		1			兼16 共同
	Ħ	IPW演習Ⅱ	4前	1				0		3		1			兼16 共同
		小計(96科目)	_	4	150			_		12	2	5	3		兼22
合計 (172科目)			_	50	201			_		13	2	5	3		兼78
	学位又は称号 学士 (理学療法学) 学位又は学科の分野					野 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)									
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
〈班:	〈理学療法学専攻〉						1 学年の学期区分				2学期				
业	修科目4	8単位、教養科目の選択科目から						1 学期の授業期間				15週			
学療法基礎セミナーを含む。)、専門基礎科目の選択科目7単位以上(解剖学演・習Ⅰ(骨格系)、解剖学演習Ⅱ(筋・神経系)、理学療法基礎運動学Ⅰ、理学						1 時限の授業時間				90分					
療法基礎運動学II、運動学実習を含む。)、専門科目の選択科目から72単位以 上を修得し、134単位以上修得すること。															
《作業療法学専攻》 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上(大学基礎セミナー、作															
業療法基礎セミナー含む。)、専門基礎科目の選択科目から8単位以上(運動器 系解剖学Ⅰ、運動器系解剖学Ⅱ、体表解剖学演習、作業療法基礎運動学Ⅰ、作															
	業療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。)、専門科目の選択科目から75単位 以上を修得し、138単位以上を修得すること。														
W.T.	STEEDING TOO SENTER IN														

長野保健医療大学大学院研究科委員会規程(案)

別紙 14 新

(目的)

第1条 この規程は、長野保健医療大学大学院学則第23条第2項の規定に基づき、保健学研究科(以下「本研究科」という。)の重要事項を審議するため、研究科委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(構成)

- 第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 研究科長
 - (2) 研究指導教員
 - (3) 前各号に掲げる者のほか、研究科長が必要と認める者
- 2 前項(3)の委員の任期は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年とし、再任を妨 げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長をおき、研究科長をもってあてる。

(招集)

- 第4条 委員長は、委員会を招集してその議長となる。
- 2 議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

- 第5条 委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。
- 2 委員会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、修士論文及び最終試験の合否について議決するには、委員会構成員の3分の2以上の出席を必要とし出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 3 委員会は原則として月1回開催する。
- 4 議長が必要と認めるときは、臨時の委員会を招集することができる。
- 5 議長が必要と認めるときは、構成員以外を会議に参加させることができる。

(審議事項)

- 第6条 委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項
 - (2) 修士論文及び最終試験の合否に関する事項
 - (3) 教育課程の編成に関する事項
 - (4) 研究に関する事項
 - (5) 学生の身分に関する事項

- (6) 本研究科の運営に関する重要な事項
- (7) その他学長が委員会の意見を聴くことが必要と定める事項

(議事録)

第7条 委員会の議事については、議事録を作成し、議長及び出席した教員の中から議長が 指名した者2名が署名押印する。次回以降の委員会において、その内容を確認する。

(事務)

第8条 委員会の事務は事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の意見を 聴いて、学長が定める。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会の発議により、教授会の議を経て、運営会議の議決により行う。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

長野保健医療大学大学院研究科委員会規程(案)

別紙 14 旧

(目的)

第1条 この規程は、長野保健医療大学大学院学則第23条第2項の規定に基づき、保健学研究科(以下「本研究科」という。)の重要事項を審議するため、研究科委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(構成)

- 第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 研究科長
 - (2) 研究指導教員
 - (3) 前各号に掲げる者のほか、研究科長が必要と認める者
- 2 前項(3)の委員の任期は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年とし、再任を妨 げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長をおき、研究科長をもってあてる。

(招集)

- 第4条 委員長は、委員会を招集してその議長となる。
- 2 議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

- 第5条 委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。
- 2 委員会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、修士論文及び最終試験の合否について議決するには、委員会構成員の3分の2以上の出席を必要とし出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 3 委員会は原則として月1回開催する。
- 4 議長が必要と認めるときは、臨時の委員会を招集することができる。
- 5 議長が必要と認めるときは、構成員以外を会議に参加させることができる。

(審議事項)

- 第6条 委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項
 - (2) 修士論文及び最終試験の合否に関する事項
 - (3) 教育課程の編成に関する事項
 - (4) 研究に関する事項
 - (5) 学生の身分に関する事項

- (6) 本研究科の運営に関する重要な事項
- (7) その他学長が委員会の意見を聴くことが必要と定める事項

(議事録)

第7条 委員会の議事については、議事録を作成し、議長及び出席した教員の中から議長が 指名した者2名が署名押印する。次回以降の委員会において、その内容を確認する。

(事務)

第8条 委員会の事務は事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の意見を 聴いて、学長が定める。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会の発議により、教授会の議を経て、運営委員会の議決により行う。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

長野保健医療大学大学院履修規程(案)

(令和3年4月1日)

(趣旨)

第1条 この規程は、長野保健医療大学大学院(以下「本大学院」という。)学則第16条に基づき、授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2条 授業科目、配当年次、単位数、必修・選択の別、修了要件は、本大学院学則別紙1の とおりとする。

(指導教員)

第3条 授業科目の履修指導及び研究の指導を行うために、学生ごとに指導教員を定める。

(履修登録)

- 第4条 学生は、履修しようとする授業科目については、指導教員の承認を受け、各学期当初の所定の期日までに履修登録をしなければならない。
- 2 履修届を提出した後に履修科目の変更または取消をしようとする場合は、別に定める「授業科目履修変更届」を所定の期日までに、学長に提出しなければならない。
- 3 次に掲げる授業科目は履修することができない。
 - (1)既に単位を修得した授業科目
 - (2)授業時間が重複する授業科目
 - (3)複数開講されている同一の授業科目

(学部授業科目の聴講)

- 第5条 指導教員が本学学部授業科目の聴講をすることが必要と認めるときは、授業科目の 科目担当者の承諾の下に、学部正規課程の学生の教育に支障のない場合に限り、研究科委 員会の議を経て、学長が許可することができる。
- 2 聴講科目の単位は付与しない。

(欠席届)

- 第6条 病気その他やむを得ない理由により授業を受けることができなかった者は、欠席届 (履修様式第○号)を当該科目の担当教員に提出することができる。
- 2 前項により提出された欠席届による成績の評価への取扱いは、当該科目の担当教員の判断によるものとする。
- 3 忌引きによる欠席の場合は、欠席届の提出により、次の範囲内で欠席の扱いとしない。

- 一親等(父・母・子)及び配偶者 連続する7日間(休日を含む)
- 二親等(兄弟姉妹・祖父母)連続する 3日間(休日を含む)
- 三親等(叔(伯)父・叔(伯)母) 1日間(休日を含む)

(交通機関の不通等に伴う休講)

- 第7条 次の各号いずれかに該当する時、授業は原則として休講とする。
 - (1)事故、地震、積雪、ストライキ等により篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が不通の時

ただし、バス等による振替輸送がある場合は不通とみなさない。

- (2)県内に暴風、大雪、暴風雪、特別警報(以下「警報」という)発令時
- 2 前項により休講となった場合でも、篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が復旧 した場合、または警報が解除された場合は次のとおり授業を行う。

復旧(警報解除)時間	授業実施時限
7:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	1 時限から実施
11:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	3時限から実施

3 前項に定める場合のほか、学長は災害その他緊急と認める場合は、授業を休講とすること ができる。

(試験)

- 第8条 試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。
- 2 定期試験は、原則として当該授業が終了する学期末に期間を定めて行う。
- 3 前項のほか当該授業の学期中に担当教員の判断により期間を定めず、随時に試験を行うことができる。
- 4 定期試験に代えて、論文、報告書(レポート)、口述を課すことができる。

(受験資格)

- 第9条 次のいずれかに該当する者は、試験を受けること、試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができない。
 - (1)履修登録をしていない者
 - (2)原則として、試験科目の出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者。
 - (3)当該科目の試験時間の3分の1を超えて遅参した者
- 2 前項第2号にかかわらず、当該科目の担当教員が欠席の事情をやむを得ないと認めた場合 は試験を受けること、又は試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができる。

(成績評価の基準・成績評価)

- 第10条 成績はシラバスに定めた基準により判定する。
- 2 成績評価については、本大学院学則第22条に基づき、下表のとおりとする。

評価	評価 評点		単位の授与
		GP	
秀 (S)	90 点以上	4	
優 (A)	80 点以上~90 点未満	3	授与
良 (B)	70 点以上~80 点未満	2	
<u></u> 山 (C)	60 点以上~70 点未満	1	
不可 (D)	60 点未満	0	不授与
放棄 (O)	評価不能	0	評価対象外
辞退 (/)	評価不能	算定しない	不授与

- 3 秀、優、良及び可は合格、不可は不合格とする。
- 4 評点を付さない授業科目は、授与、不授与をもって表わし、GPには算定しない。
- 5 放棄の評価の登録単位数は、GPAの登録単位数に加算する。
- 6 履修登録を辞退した場合、その授業科目の登録単位数は GPA の登録単位数に加算しない。
- 7 再試験において単位を授与する場合の評価・評点は可(60点))とする。
- 8 単位を授与されなかった科目は、再履修することができる。

(追試験)

- 第11条 忌引、疾病、その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった 者は、当該授業科目について追試験を受けることができる。
- 2 前項の追試験を受けようとする者は、別に定める「追試験申請書(履修様式第〇号)」に疾病の場合は、医師の診断書、その他の場合は、証明書または理由書を添え、原則として当該科目の試験の日から所定の期日までに学長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 3 追試験の成績評価は、89点を限度とする。

(再試験)

- 第 12 条 定期試験及び追試験で成績が合格点に達しなかった場合は必要に応じて科目担当 教員等の判断により再試験を行うことができる。
- 2 再試験を許可された者は、「再試験願(履修様式第〇号)」に再試験料を添えて提出しなければならない。
- 3 再試験で合格した場合の成績は、「可」とする。

(再履修)

- 第 13 条 不合格または評価対象外とされた必修の授業科目は、再度履修(以下「再履修」という。)しなければならない。
- 2 再履修とされた科目は、原則として、授業を再度受講のうえ、試験を受けなければならな

*ل*١,

(修士論文または研究成果の提出)

- 第14条 学生は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに修士論文または研究の成果(以下、併せて「論文等」という。)を提出しなければならない。
- 2 論文等に関する具体的な事項については、長野保健医療大学大学院学位規程に定める。

(既修得単位の認定)

- 第15条 本大学院学則第19条、20条にある既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の書式に成績証明書及び当該授業科目のシラバスを添えて提出し、研究科委員会の審査に基づき、研究科委員会の議を経て、学長が認定するものとする。
- 2 認定された単位の成績表示は、「N」とする。
- 3 既修得単位の認定による修業年限の短縮は行わない。

(進級)

第16条 研究科で指定した授業科目の単位を修得しなければ、進級又は研究科で指定した科目の履修ができない場合がある。

(不正行為)

第17条 定期試験及びこれに準じる試験において、不正行為があったと認められた場合は、 当該科目を不合格とする。なお、本大学院学則第50条に定める懲戒の対象とすることがあ る。

(改廃)

第18条 この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て、運営会議の議 決により行う。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

長野保健医療大学大学院履修規程(案)

(令和3年4月1日)

(趣旨)

第1条 この規程は、長野保健医療大学大学院(以下「本大学院」という。)学則第16条に基づき、授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2条 授業科目、配当年次、単位数、必修・選択の別、修了要件は、本大学院学則別紙1の とおりとする。

(指導教員)

第3条 授業科目の履修指導及び研究の指導を行うために、学生ごとに指導教員を定める。

(履修登録)

- 第4条 学生は、履修しようとする授業科目については、指導教員の承認を受け、各学期当初の所定の期日までに履修登録をしなければならない。
- 2 履修届を提出した後に履修科目の変更または取消をしようとする場合は、別に定める「授業科目履修変更届」を所定の期日までに、学長に提出しなければならない。
- 3 次に掲げる授業科目は履修することができない。
 - (1)既に単位を修得した授業科目
 - (2)授業時間が重複する授業科目
 - (3)複数開講されている同一の授業科目

(学部授業科目の聴講)

- 第5条 指導教員が本学学部授業科目の聴講をすることが必要と認めるときは、授業科目の 科目担当者の承諾の下に、学部正規課程の学生の教育に支障のない場合に限り、研究科委 員会の議を経て、学長が許可することができる。
- 2 聴講科目の単位は付与しない。

(欠席届)

- 第6条 病気その他やむを得ない理由により授業を受けることができなかった者は、欠席届 (履修様式第○号)を当該科目の担当教員に提出することができる。
- 2 前項により提出された欠席届による成績の評価への取扱いは、当該科目の担当教員の判断によるものとする。
- 3 忌引きによる欠席の場合は、欠席届の提出により、次の範囲内で欠席の扱いとしない。

- 一親等(父・母・子)及び配偶者 連続する7日間(休日を含む)
- 二親等(兄弟姉妹・祖父母)連続する 3日間(休日を含む)
- 三親等(叔(伯)父・叔(伯)母) 1日間(休日を含む)

(交通機関の不通等に伴う休講)

- 第7条 次の各号いずれかに該当する時、授業は原則として休講とする。
 - (1)事故、地震、積雪、ストライキ等により篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が不通の時

ただし、バス等による振替輸送がある場合は不通とみなさない。

- (2)県内に暴風、大雪、暴風雪、特別警報(以下「警報」という)発令時
- 2 前項により休講となった場合でも、篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が復旧 した場合、または警報が解除された場合は次のとおり授業を行う。

復旧(警報解除)時間	授業実施時限
7:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	1 時限から実施
11:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	3時限から実施

3 前項に定める場合のほか、学長は災害その他緊急と認める場合は、授業を休講とすること ができる。

(試験)

- 第8条 試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。
- 2 定期試験は、原則として当該授業が終了する学期末に期間を定めて行う。
- 3 前項のほか当該授業の学期中に担当教員の判断により期間を定めず、随時に試験を行うことができる。
- 4 定期試験に代えて、論文、報告書(レポート)、口述を課すことができる。

(受験資格)

- 第9条 次のいずれかに該当する者は、試験を受けること、試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができない。
 - (1)履修登録をしていない者
 - (2)原則として、試験科目の出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者。
 - (3)当該科目の試験時間の3分の1を超えて遅参した者
- 2 前項第2号にかかわらず、当該科目の担当教員が欠席の事情をやむを得ないと認めた場合 は試験を受けること、又は試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができる。

(成績評価の基準・成績評価)

- 第10条 成績はシラバスに定めた基準により判定する。
- 2 成績評価については、本大学院学則第22条に基づき、下表のとおりとする。

評価	評価 評点		単位の授与
		GP	
秀 (S)	90 点以上	4	
優 (A)	80 点以上~90 点未満	3	授与
良 (B)	70 点以上~80 点未満	2	
<u></u> 山 (C)	60 点以上~70 点未満	1	
不可 (D)	60 点未満	0	不授与
放棄 (O)	評価不能	0	評価対象外
辞退 (/)	評価不能	算定しない	不授与

- 3 秀、優、良及び可は合格、不可は不合格とする。
- 4 評点を付さない授業科目は、授与、不授与をもって表わし、GPには算定しない。
- 5 放棄の評価の登録単位数は、GPAの登録単位数に加算する。
- 6 履修登録を辞退した場合、その授業科目の登録単位数は GPA の登録単位数に加算しない。
- 7 再試験において単位を授与する場合の評価・評点は可(60点))とする。
- 8 単位を授与されなかった科目は、再履修することができる。

(追試験)

- 第11条 忌引、疾病、その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった 者は、当該授業科目について追試験を受けることができる。
- 2 前項の追試験を受けようとする者は、別に定める「追試験申請書(履修様式第〇号)」に疾病の場合は、医師の診断書、その他の場合は、証明書または理由書を添え、原則として当該科目の試験の日から所定の期日までに学長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 3 追試験の成績評価は、89点を限度とする。

(再試験)

- 第 12 条 定期試験及び追試験で成績が合格点に達しなかった場合は必要に応じて科目担当 教員等の判断により再試験を行うことができる。
- 2 再試験を許可された者は、「再試験願(履修様式第〇号)」に再試験料を添えて提出しなければならない。
- 3 再試験で合格した場合の成績は、「可」とする。

(再履修)

- 第 13 条 不合格または評価対象外とされた必修の授業科目は、再度履修(以下「再履修」という。)しなければならない。
- 2 再履修とされた科目は、原則として、授業を再度受講のうえ、試験を受けなければならな

*ل*١,

(修士論文または研究成果の提出)

- 第14条 学生は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに修士論文または研究の成果(以下、併せて「論文等」という。)を提出しなければならない。
- 2 論文等に関する具体的な事項については、長野保健医療大学大学院学位規程に定める。

(既修得単位の認定)

- 第15条 本大学院学則第19条、20条にある既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の書式に成績証明書及び当該授業科目のシラバスを添えて提出し、研究科委員会の審査に基づき、研究科委員会の議を経て、学長が認定するものとする。
- 2 認定された単位の成績表示は、「N」とする。
- 3 既修得単位の認定による修業年限の短縮は行わない。

(進級)

第16条 研究科で指定した授業科目の単位を修得しなければ、進級又は研究科で指定した科目の履修ができない場合がある。

(不正行為)

第17条 定期試験及びこれに準じる試験において、不正行為があったと認められた場合は、 当該科目を不合格とする。なお、本大学院学則第50条に定める懲戒の対象とすることがあ る。

(改廃)

第18条 この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て、運営委員会の 議決により行う。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。